

---

令和4年度  
群馬県ヤングケアラー実態調査  
調査結果報告書

---

令和5年3月  
群馬県生活こども部  
児童福祉・青少年課



## 目次

I 調査概要	1
1. 調査の目的	2
2. 調査の設計	2
3. 集計・分析にあたって	3
II 調査結果	5
1. 小学生アンケート調査結果	6
(1) 基本情報	6
(2) ふだんの生活について	8
(3) 家庭や家族のことについて	14
2. 中高生アンケート調査結果	30
(1) 基本情報	30
(2) ふだんの生活について	34
(3) 家庭や家族のことについて	45
(4) ヤングケアラーについて	68
3. 国の調査との比較	72
(1) お世話している家族の有無	72
(2) お世話をしている人	73
(3) お世話を始めた年齢	75
(4) お世話の頻度	76
(5) 平日1日あたりにお世話に費やす時間	77
(6) お世話しているためにやりたいけどできないこと	78
(7) お世話することのきつさ	81
(8) お世話している家族のことや、お世話の悩みを相談した経験	83
(9) お世話についての相談相手	84
(10) 「ヤングケアラー」の自覚	87
(11) 「ヤングケアラー」という言葉の認知度	88
4. 調査結果とりまとめ	89
(1) 結果・傾向のサマリー	89
◆小学生アンケート調査結果	89
◆中高生アンケート調査結果	90
(2) 県内ヤングケアラーが抱える課題	92

5. 市町村要保護児童対策地域協議会アンケート調査結果 .....	93
(1) 調査票結果 .....	93
(2) 個人票結果 .....	97
6. 学校向けアンケート調査結果.....	105
(1) 調査票結果 .....	105
(2) 個人票結果 .....	107
7. 関係機関アンケート調査結果.....	114
(1) 調査票結果 .....	114
(2) 個人票結果 .....	118
8. 民生委員・児童委員アンケート調査結果 .....	124
(1) 調査票結果 .....	124
(2) 個人票結果 .....	128
調査票.....	135
小学生アンケート .....	136
中高生アンケート .....	147
市町村要保護児童対策地域協議会アンケート .....	154
県内の小学校・中学校・高校アンケート.....	158
その他関係機関アンケート .....	162
民生委員・児童委員アンケート .....	166

# I 調査概要

## 1. 調査の目的

ヤングケアラーとは、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている児童のことをいい、こども自身がやりたいことができないなど、子ども自身の権利が守られていないおそれがある。

本調査は、県内のヤングケアラーの実態を把握し、早期把握や支援のあり方などを検討することを目的として実施した。

## 2. 調査の設計

### (1) 調査対象：

- a. 令和4年11月現在の県内の小学校6年生（公立・私立）
- b. 令和4年11月現在の県内の中学校2年生（公立・私立）
- c. 令和4年11月現在の県内の高校2年生（公立・私立〈定時制・通信制含む〉）  
※高崎市立の学校は対象外
- d. 市町村要保護児童対策地域協議会
- e. 県内の小学校・中学校・高校
- f. その他関係機関
- g. 民生委員・児童委員

### (2) 調査方法：

郵送及びインターネット調査

### (3) 調査期間：

令和4年11月24日～12月15日

(4) 回収率：

	対象数 (配布数)	回収数	有効回答数	有効回答率
小学生	12,516	8,116	8,113	64.8%
中高生	30,337	12,877	12,858	42.4%
市町村要保護児童 対策地域協議会	35	20	20	57.1%
県内の小学校・ 中学校・高校	652	360	359	55.1%
その他関係機関	1,286	147	147	11.4%
民生委員・児童委員	4,178	1,692	1,684	40.3%

### 3. 集計・分析にあたって

- (1) 図表中の「n」とは回答者総数（または該当者質問での該当者数）のことで、100%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数である。
- (2) 結果は百分率（%）で表示し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した結果、個々の比率の合計が100%にならないことがある。
- (3) 本文及び図表中、意味をそこなわない範囲で簡略化した選択肢がある。



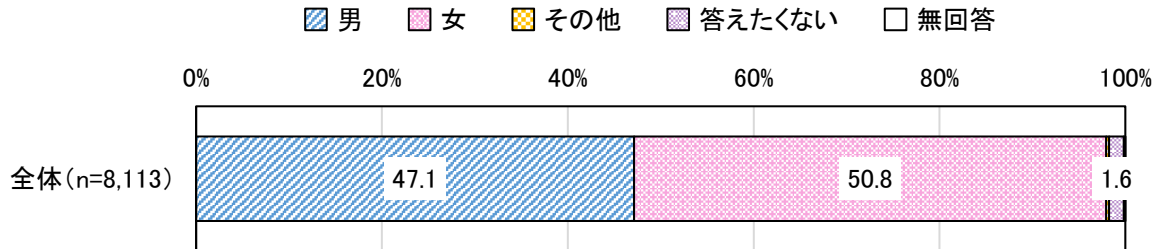


## II 調査結果

# 1. 小学生アンケート調査結果

## (1) 基本情報

### 問 1-1 性別



※1.0%未満はデータラベル非表示（以降同様）

回答者の性別は上記のとおりとなっている。

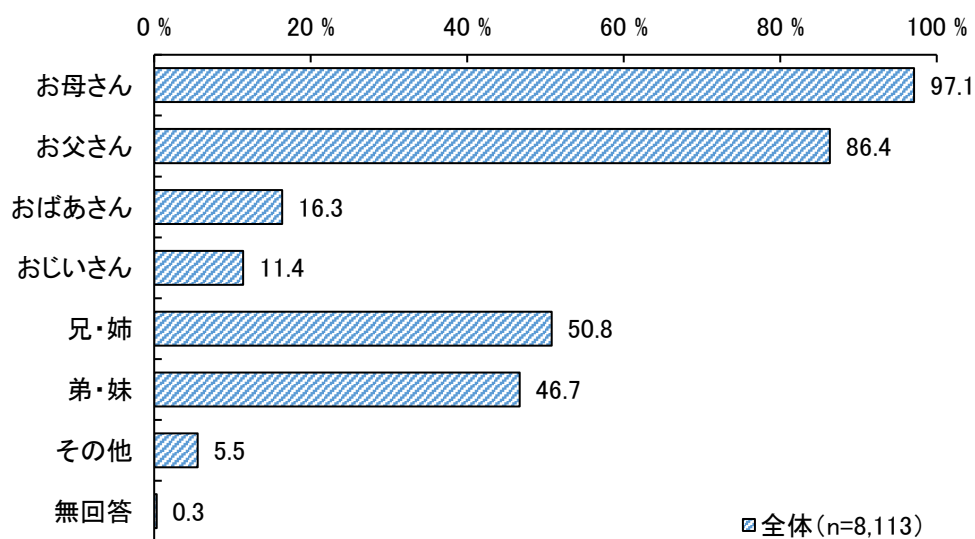
### 問 1-2 居住地

割合 (%)	前橋市	高崎市	桐生市	伊勢崎市	太田市	沼田市	館林市
全体 (n=8,113)	21.2	0.0	6.4	10.7	14.8	2.9	7.1
	渋川市	藤岡市	富岡市	安中市	みどり市	北群馬郡	多野郡
	4.1	4.9	3.7	3.1	2.6	3.5	0.2
	甘楽郡	吾妻郡	利根郡	佐波郡	邑楽郡	県外	無回答
	1.2	3.3	1.6	2.4	6.1	1.0	0.3

回答者の居住地は上記のとおりとなっている。

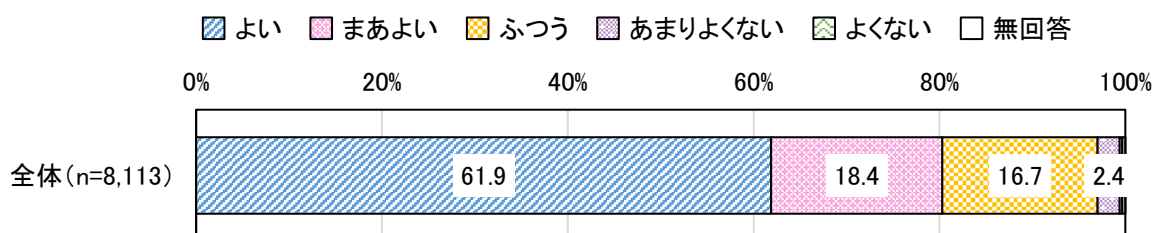
※高崎市立の学校は調査対象外。

## 問2 同居家族



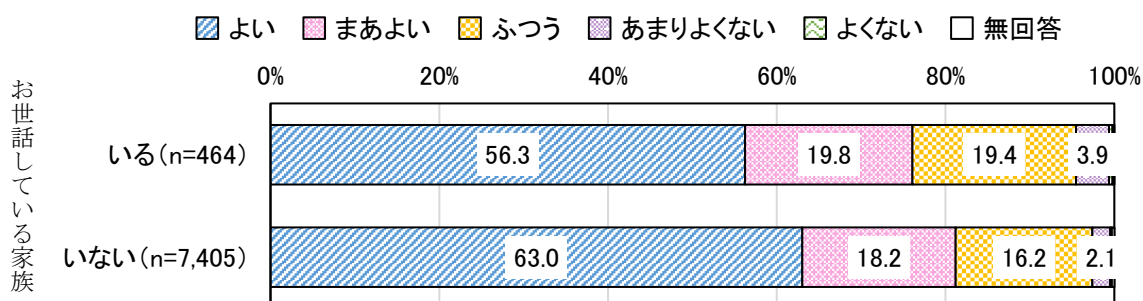
同居家族は「お母さん」が97.1%で最も高く、次いで「お父さん」(86.4%)、「兄・姉」(50.8%)、「弟・妹」(46.7%)となっている。

## 問3 健康状態



健康状態は「よい」が61.9%で最も高く、次いで「まあよい」(18.4%)、「ふつう」(16.7%)となっている。「あまりよくない」、「よくない」は3%未満となっている。

### 【お世話している家族の有無別】

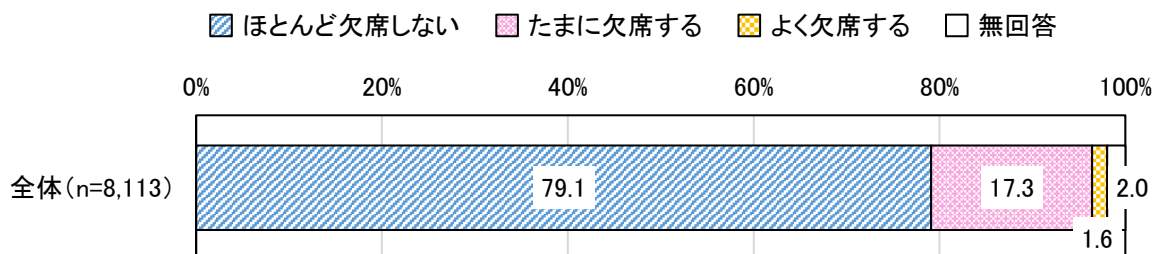


「よい」の割合は、お世話している家族がいる児童 (56.3%) よりお世話している家族がいない児童 (63.0%) の方が高い。

## (2) ふだんの生活について

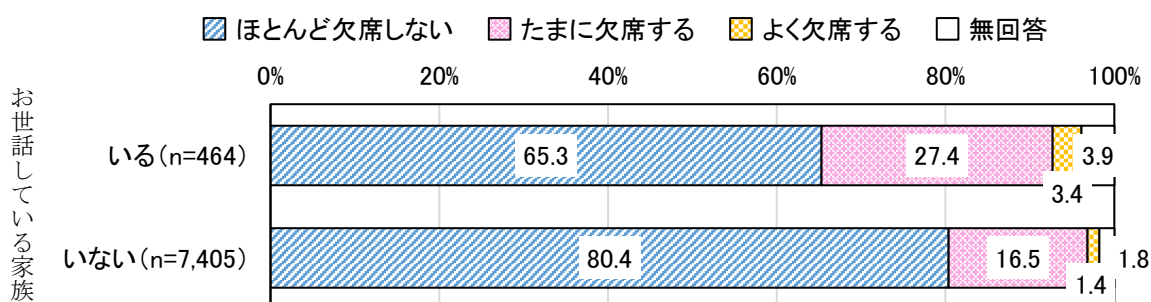
### 問4 学校への通学状況

#### ①出席状況



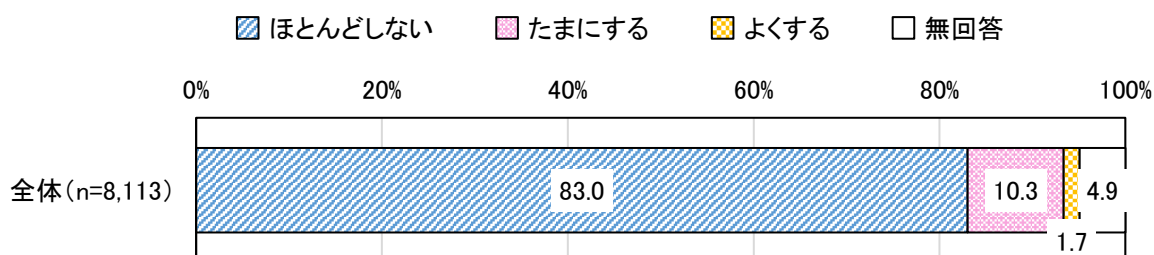
学校への出席状況は、「ほとんど欠席しない」が79.1%で最も高く、次いで「たまに欠席する」(17.3%)、「よく欠席する」(1.6%)となっている。

#### 【お世話している家族の有無別】



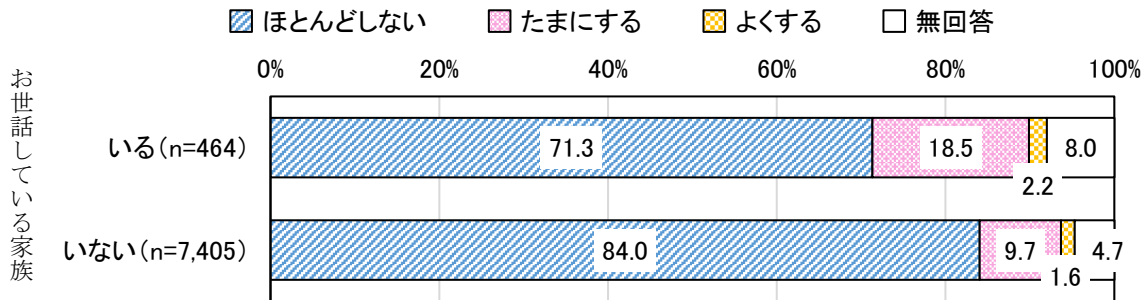
「ほとんど欠席しない」の割合は、お世話している家族がいる児童(65.3%)よりお世話している家族がいない児童(80.4%)の方が高く、お世話している家族がいる児童では、「たまに欠席する」(27.4%)と「よく欠席する」(3.4%)を合わせた割合(30.8%)が約3割となっている。

#### ②遅刻や早退の状況



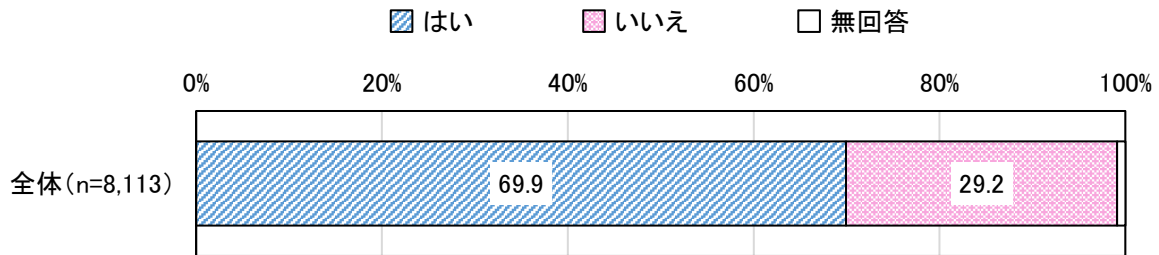
学校への遅刻や早退の状況は、「ほとんどしない」が83.0%で最も高く、次いで「たまにする」(10.3%)、「よくする」(1.7%)となっている。

【お世話している家族の有無別】



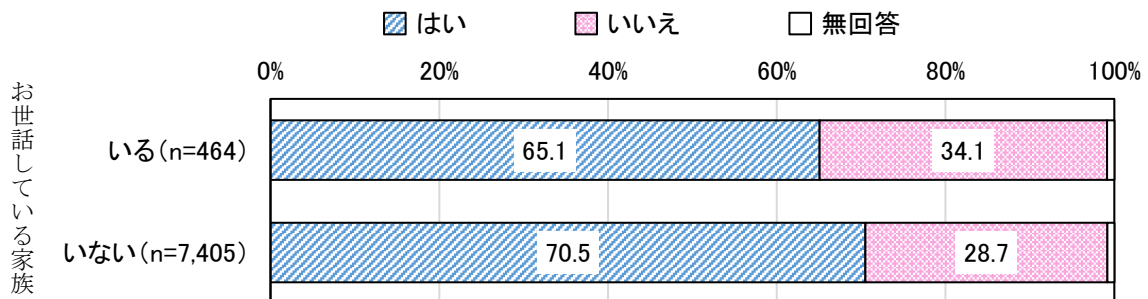
「ほとんどしない」の割合は、お世話している家族がいる児童（71.3%）よりお世話している家族がいない児童（84.0%）の方が高く、お世話している家族がいる児童では、「たまにする」（18.5%）と「よくする」（2.2%）を合わせた割合（20.7%）が約2割となっている。

問5 放課後の習い事の有無



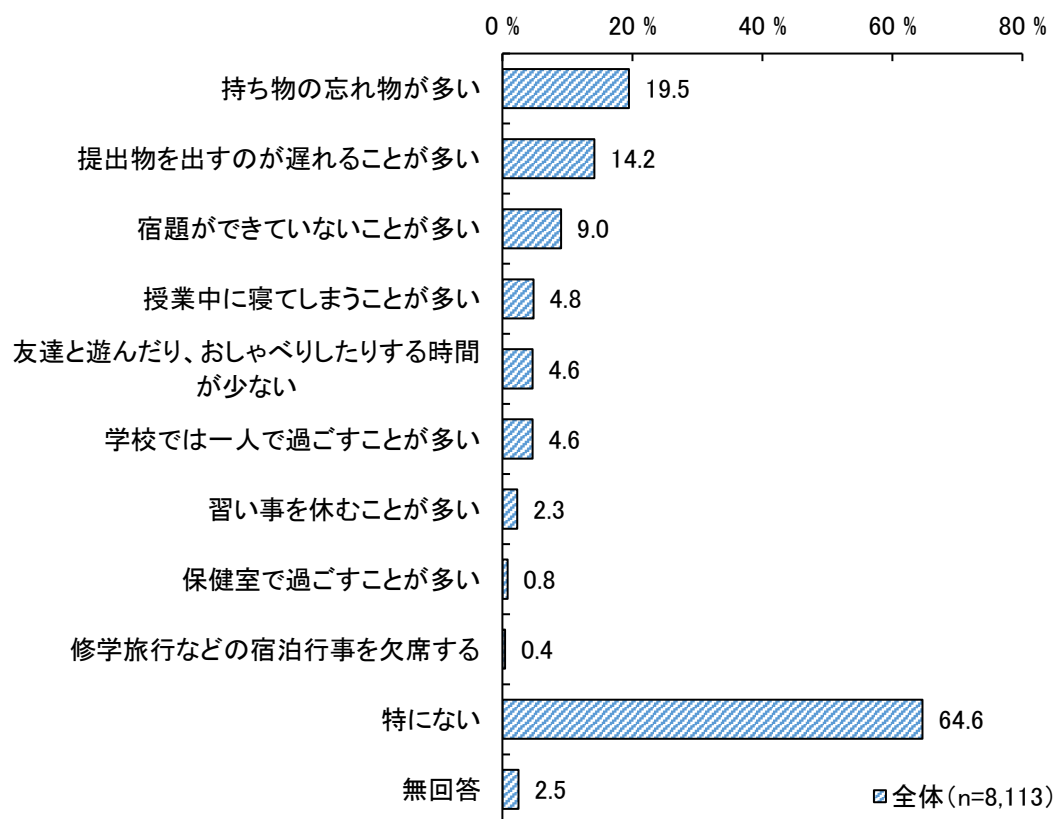
放課後の習い事の有無は、「はい」が69.9%、「いいえ」が29.2%となっており、約7割が習い事をしている。

【お世話している家族の有無別】



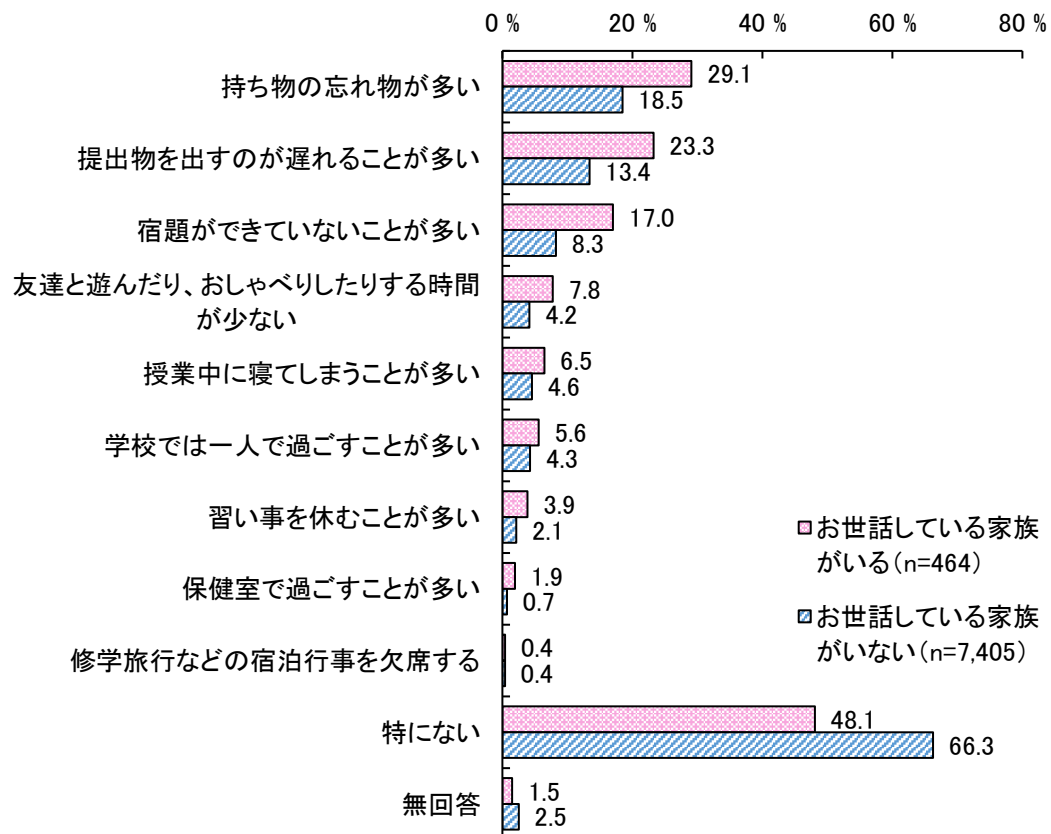
放課後の習い事をしている割合は、お世話している家族がいる児童（65.1%）よりお世話している家族がいない児童（70.5%）の方が高い。

問6 ふだんの学校生活などにおいてあてはまること



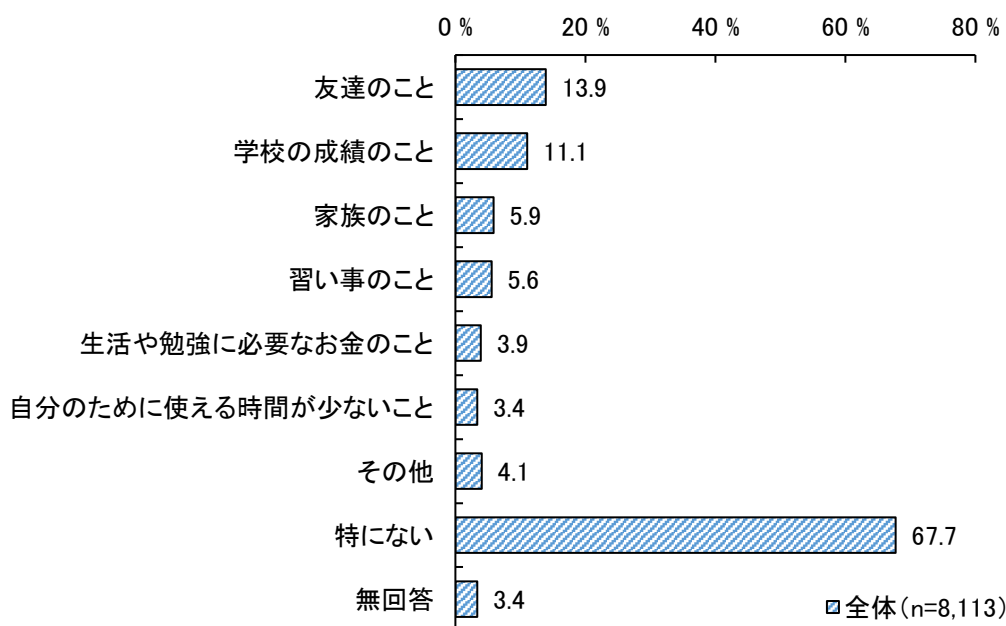
ふだんの学校生活などにおいてあてはまることは、「特にない」が64.6%を占めている。具体的な選択肢の中では、「持ち物の忘れ物が多い」が19.5%で最も高く、次いで「持ち物の忘れ物が多い」(14.2%)、「宿題ができていないことが多い」(9.0%)となっている。

【お世話している家族の有無別】



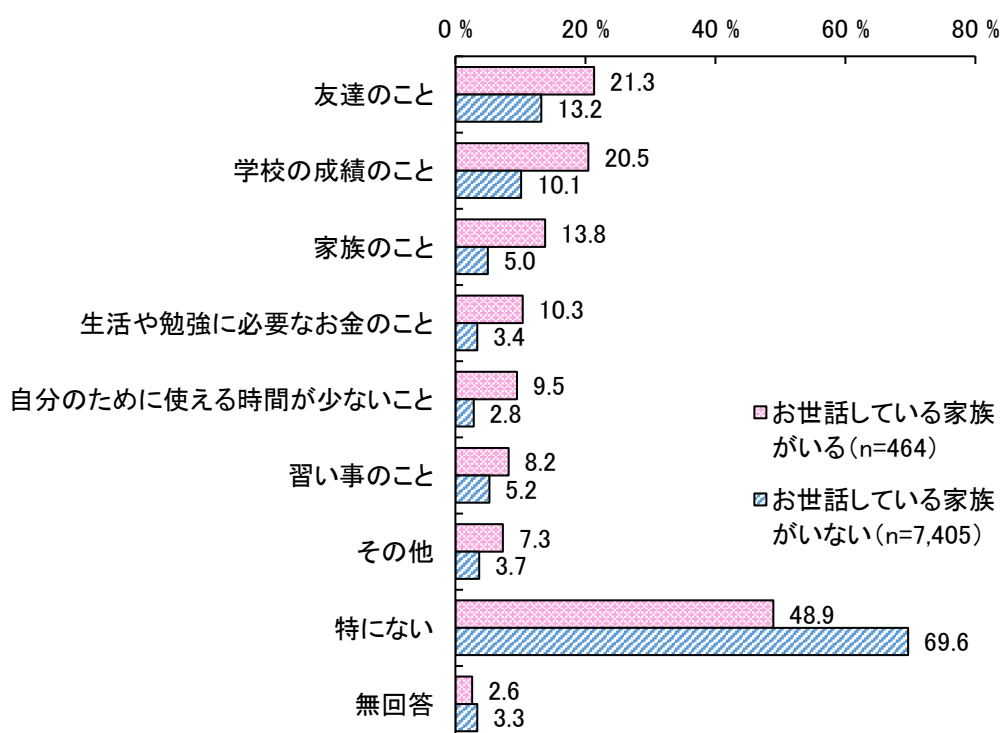
「特にない」の割合は、お世話している家族がいる児童（48.1%）よりお世話している家族がいない児童（66.3%）の方が高く、具体的な選択肢の中では、「修学旅行などの宿泊行事を欠席する」以外のすべての選択肢でお世話している家族がいる児童の方が、割合が高くなっている。

## 問7 悩んでいること



悩んでいることは、「特にない」が67.7%を占めている。具体的な選択肢の中では、「友達のこと」が13.9%で最も高く、次いで「学校の成績のこと」(11.1%)、「家族のこと」(5.9%)、「習い事のこと」(5.6%)となっている。

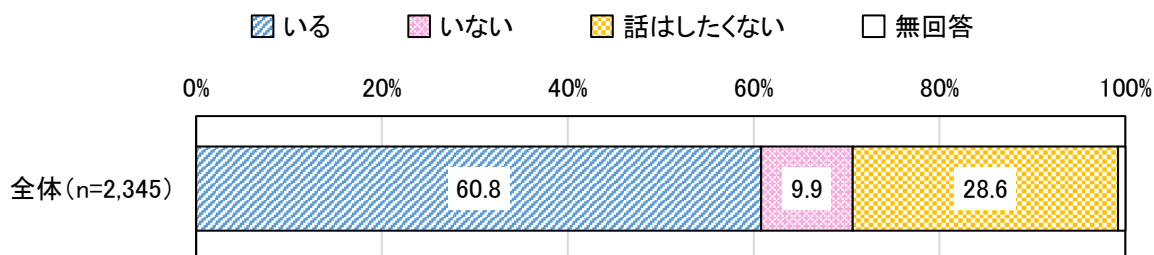
### 【お世話している家族の有無別】



「特にない」の割合は、お世話している家族がいる児童 (48.9%) よりお世話している家族がない児童 (69.6%) の方が高く、具体的な選択肢の中では、すべての選択肢でお世話している家族がいる児童の方が、割合が高くなっている。

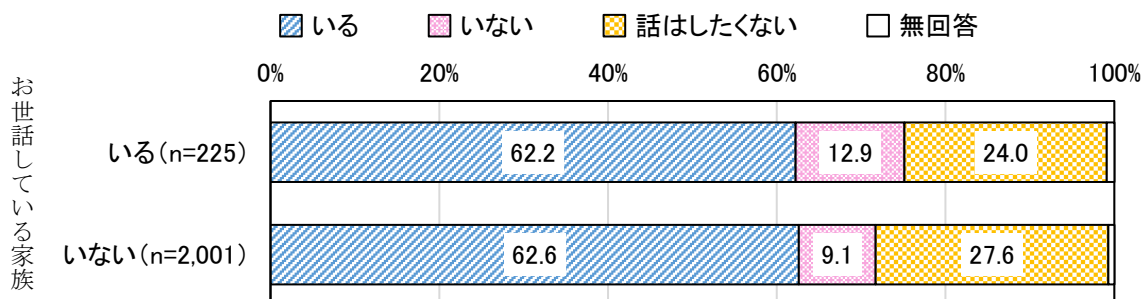


問 8 悩みの相談相手、話を聞いてくれる人の有無（問 7 で悩みがあると回答した人）



悩みの相談相手、話を聞いてくれる人の有無は、「いる」が 60.8%で最も高く、次いで「話したくない」(28.6%)、「いない」(9.9%)となっている。

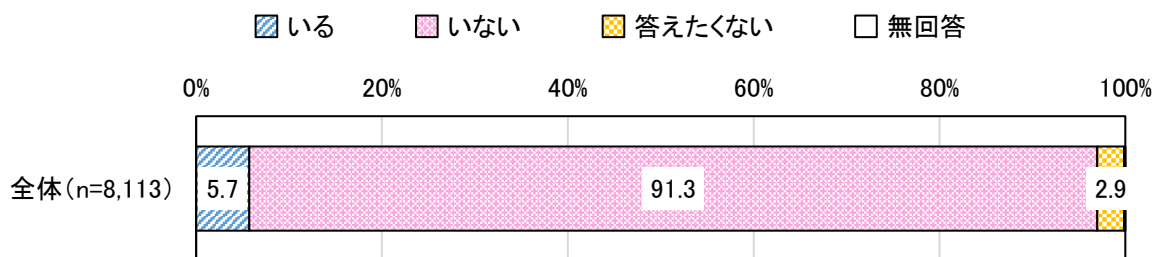
【お世話している家族の有無別】



悩みの相談相手、話を聞いてくれる人が「いる」割合は、お世話している家族がいる児童(62.2%)とお世話している家族がいない児童(62.6%)で差は見られないが、悩みの相談相手、話を聞いてくれる人が「いない」割合は、お世話している家族がいない児童(9.1%)よりお世話している家族がいる児童(12.9%)の方がやや高い。

### (3) 家庭や家族のことについて

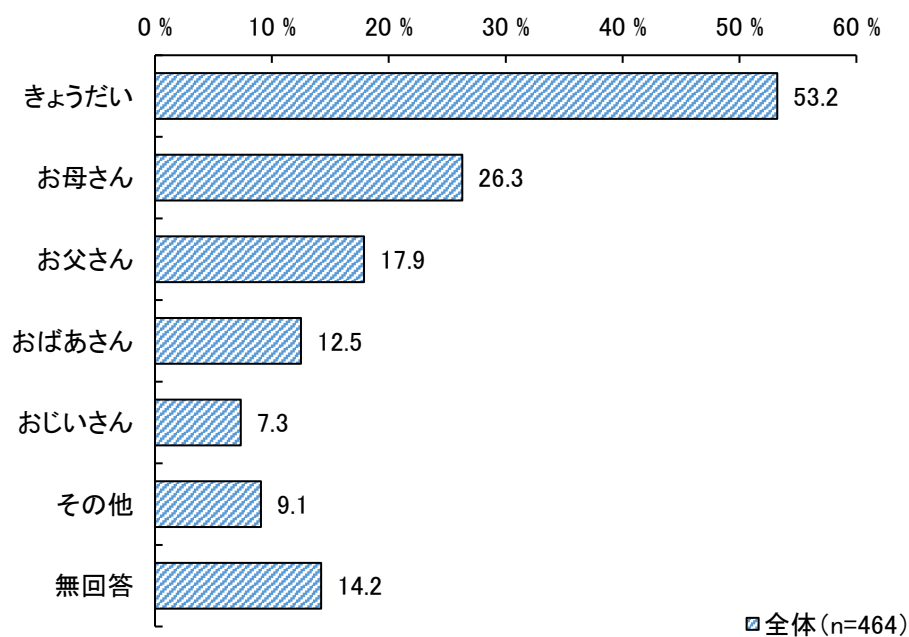
#### 問9 お世話している家族の有無



お世話している家族の有無は、「いる」が5.7%、「いない」が91.3%となっている。

#### 問10 お世話の状況（問9で「いる」と回答した人）

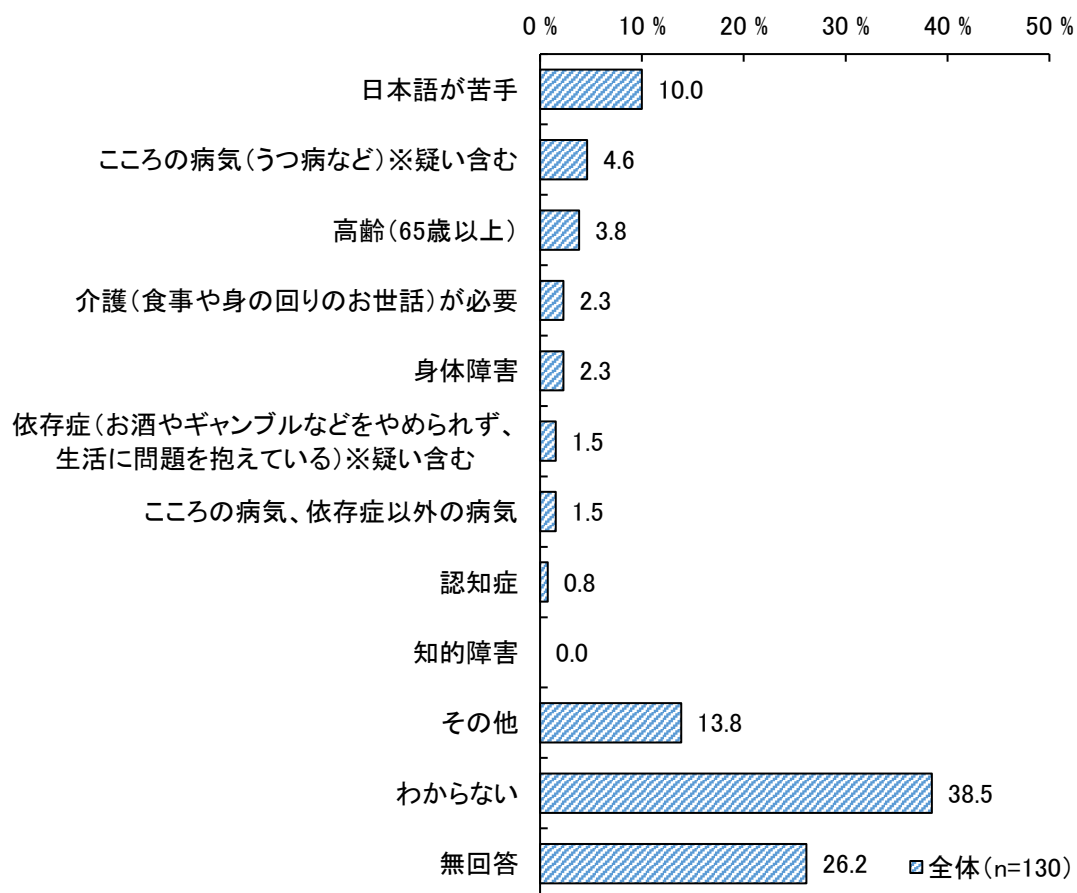
##### ①あなたがお世話をしている人



お世話をしている人は、「きょうだい」が53.2%で最も高く、次いで「お母さん」(26.3%)、「お父さん」(17.9%)、「おばあさん」(12.5%)、「おじいさん」(7.3%)となっている。

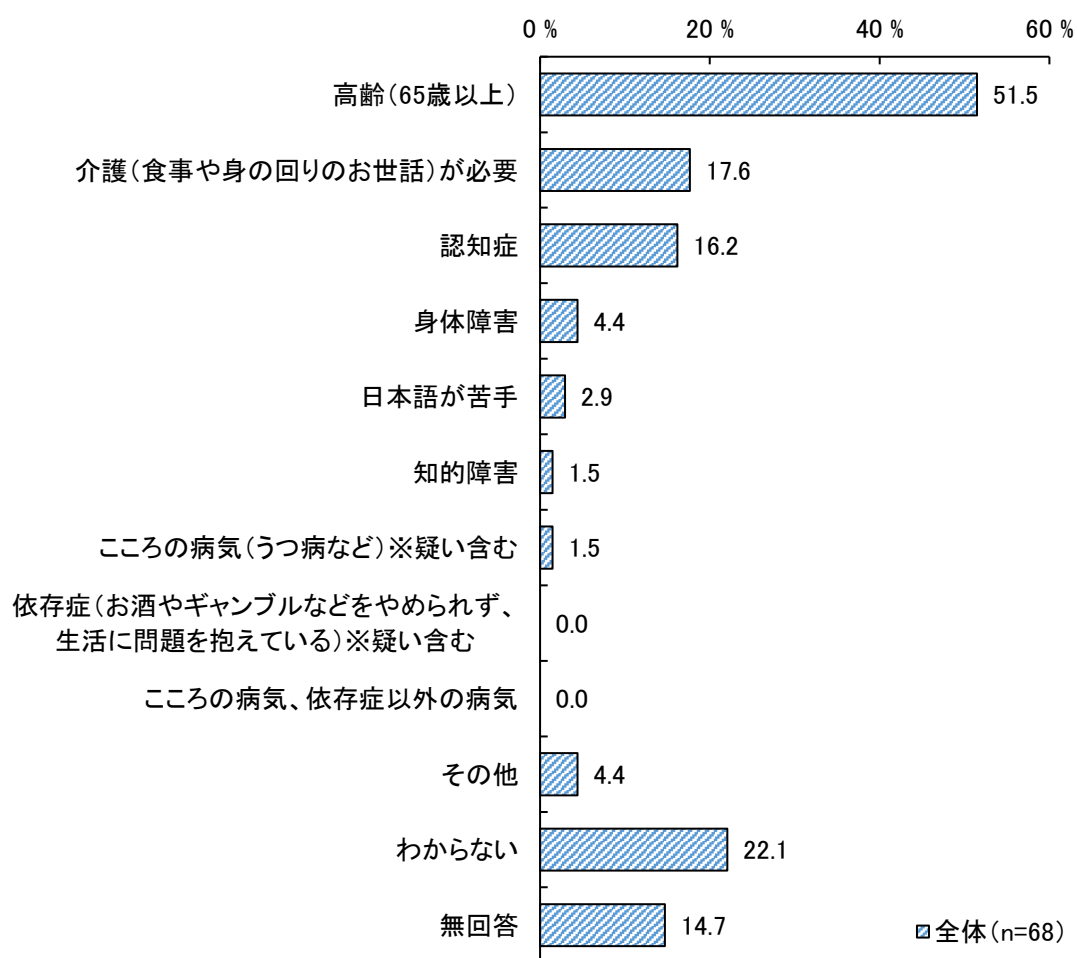
## ②お世話している人の状況

ア お母さん、あるいはお父さん



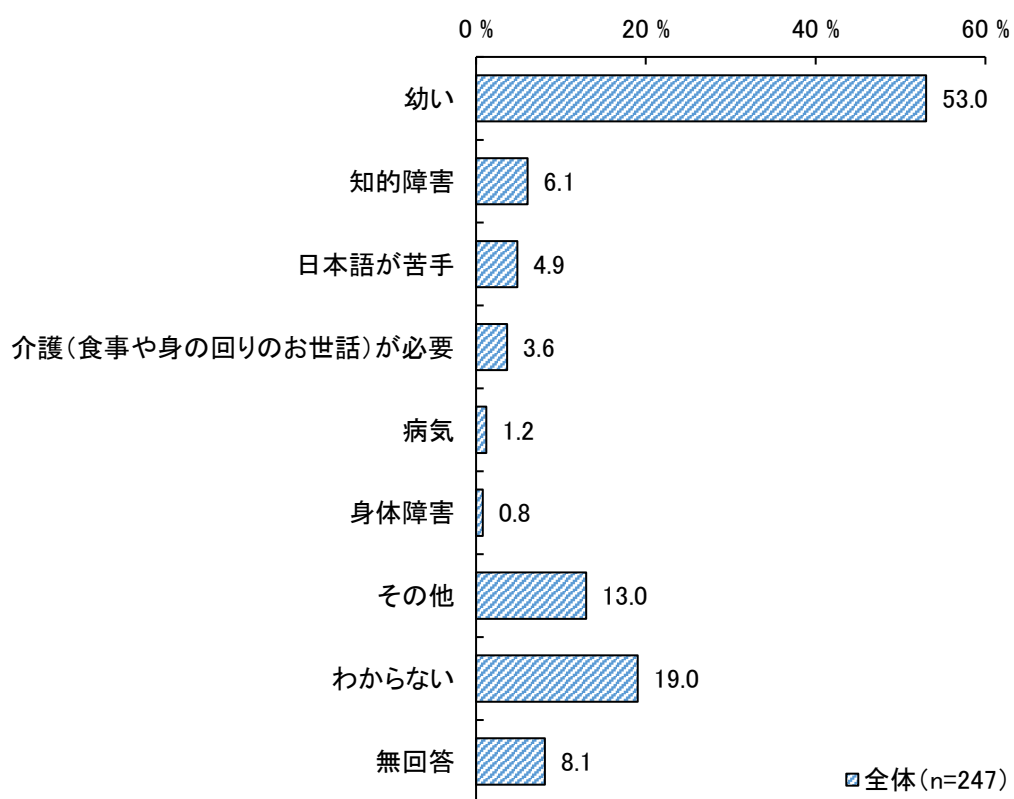
お世話している人の状況は、お母さん、あるいはお父さんでは「わからない」(38.5%)が約4割を占めている。具体的な選択肢の中では「日本語が苦手」が10.0%で最も高く、次いで「こころの病気(うつ病など)※疑い含む」(4.6%)が1割未満で続いている。

イ おばあさん、あるいはおじいさん



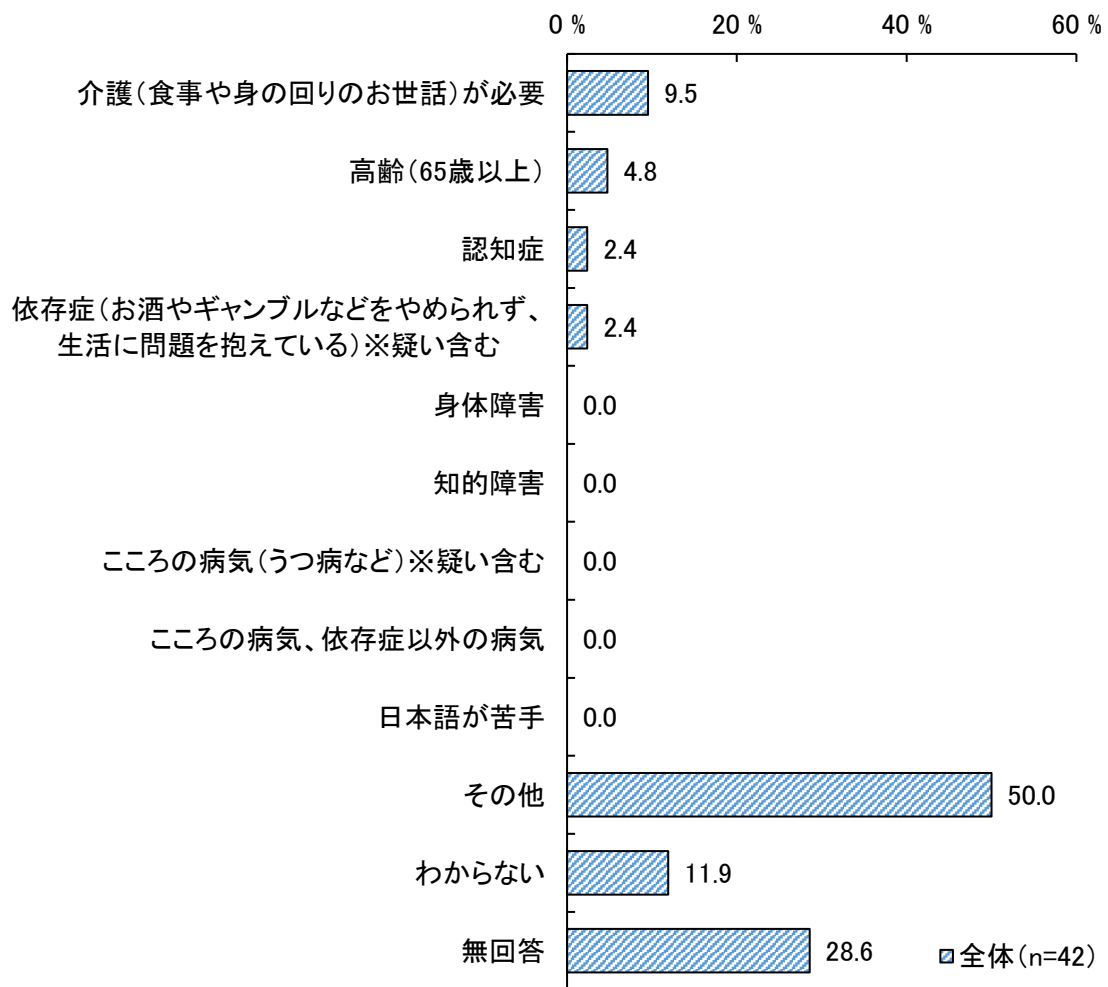
おばあさん、あるいはおじいさんでは「高齢(65歳以上)」が51.5%で最も高く、次いで「介護(食事や身の回りのお世話)が必要」(17.6%)、「認知症」(16.2%)となっている。

ウ きょうだい



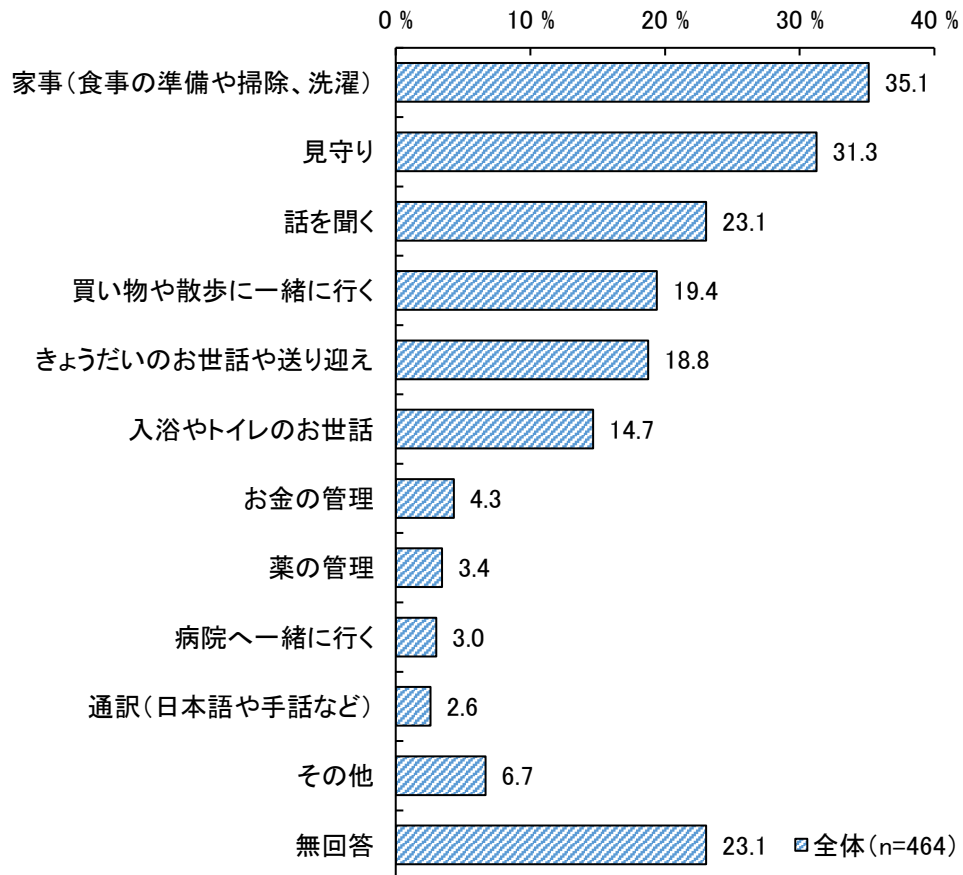
きょうだいでは「幼い」が53.0%で最も高く、次いで「知的障害」(6.1%)が1割未満で続いている。

エ 「その他」の人



「その他」の人では「その他」が50.0%で最も高く、具体的な内容としては「若い」、「肥満」、「ペットのため」等となっている。

### ③お世話している内容

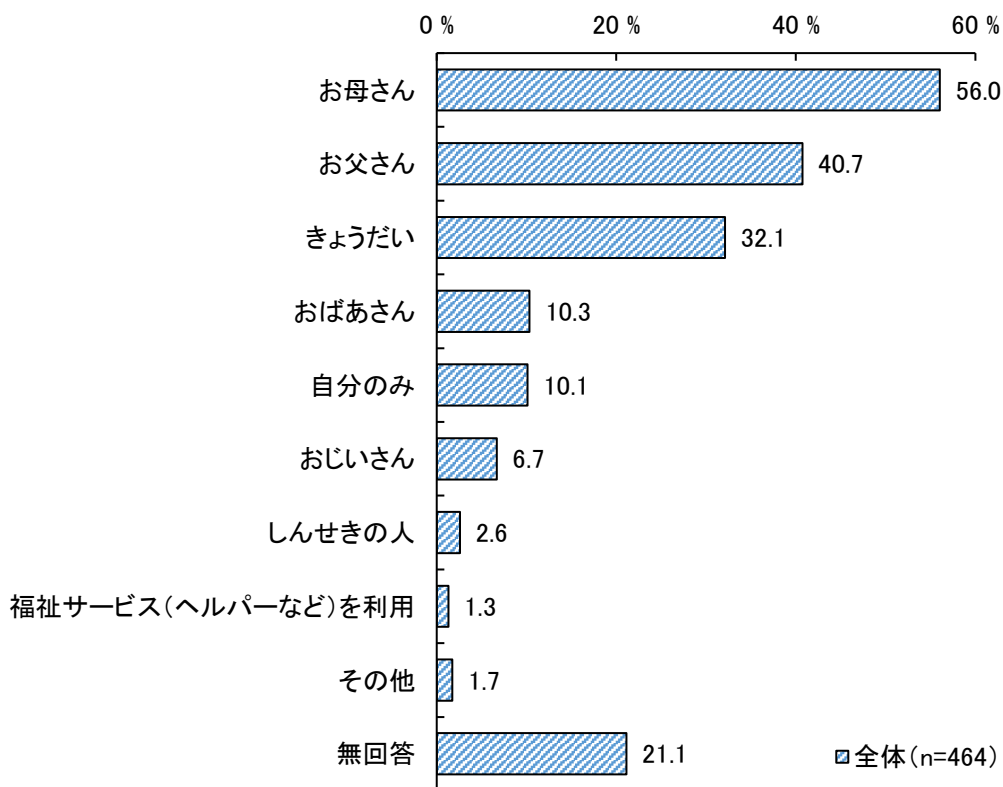


お世話している内容は、「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」が 35.1% で最も高く、次いで「見守り」（31.3%）、「話を聞く」（23.1%）、「買い物や散歩と一緒にいく」（19.4%）、「きょうだいのお世話や送り迎え」（18.8%）、「入浴やトイレのお世話」（14.7%）となっている。

### 参考結果：お世話対象別お世話の内容

上段：回答数 下段：割合 (%)	合計	家事(食 事の準備 や掃除、 洗濯)	きょうだ いのお世 話や送り 迎え	入浴やト イレのお 世話	買い物や 散歩に一 緒に行く	病院へ一 緒に行く	話を聞く	見守り	通訳(日 本語や手 話など)	お金の管 理	薬の管理	その他	無回答
		全体	464 100.0	163 35.1	87 18.8	68 14.7	90 19.4	14 3.0	107 23.1	145 31.3	12 2.6	20 4.3	16 3.4
問10 ① あなた がお世 話をし ている 人													
お母さん	122 100.0	62 50.8	15 12.3	15 12.3	34 27.9	10 8.2	37 30.3	28 23.0	7 5.7	11 9.0	6 4.9	6 4.9	26 21.3
お父さん	83 100.0	45 54.2	13 15.7	13 15.7	22 26.5	7 8.4	26 31.3	21 25.3	4 4.8	7 8.4	5 6.0	5 6.0	19 22.9
おばあさん	58 100.0	33 56.9	6 10.3	10 17.2	15 25.9	6 10.3	24 41.4	17 29.3	2 3.4	3 3.4	4 6.9	2 3.4	7 12.1
おじいさん	34 100.0	20 58.8	5 14.7	6 17.6	10 29.4	6 17.6	13 38.2	11 32.4	2 5.9	3 8.8	4 11.8	2 5.9	4 11.8
きょうだい	247 100.0	80 32.4	73 29.6	51 20.6	50 20.2	8 3.2	70 28.3	106 42.9	6 2.4	9 3.6	8 3.2	13 5.3	27 10.9
その他	42 100.0	11 26.2	2 4.8	6 14.3	9 21.4	3 7.1	6 14.3	13 31.0	1 2.4	1 2.4	3 7.1	11 26.2	11 26.2
無回答	66 100.0	7 10.6	1 1.5	1 1.5	4 6.1	0 0.0	2 3.0	4 6.1	1 1.5	1 1.5	0 0.0	2 3.0	51 77.3

#### ④お世話を一緒にしている人



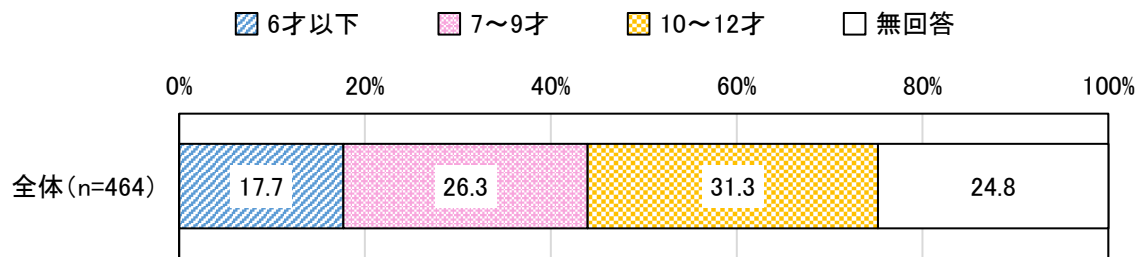
お世話を一緒にしている人は、「お母さん」が56.0%で最も高く、次いで「お父さん」(40.7%)、「きょうだい」(32.1%)となっている。また、「自分のみ」(10.1%)は、約1割となっている。

#### 参考結果：お世話対象別お世話を一緒にしている人

上段：回答数 下段：割合 (%)		合計	お母さん	お父さん	おばあさん	おじいさん	きょうだい	しんせきの人	自分のみ	福祉サービス(ヘルパーなど)を利用	その他	無回答
全体		464	260	189	48	31	149	12	47	6	8	98
		100.0	56.0	40.7	10.3	6.7	32.1	2.6	10.1	1.3	1.7	21.1
問10 ① あなたが お世話を している 人	お母さん	122	67	45	14	9	37	5	13	1	3	28
		100.0	54.9	36.9	11.5	7.4	30.3	4.1	10.7	0.8	2.5	23.0
	お父さん	83	48	41	6	4	29	4	7	1	2	19
		100.0	57.8	49.4	7.2	4.8	34.9	4.8	8.4	1.2	2.4	22.9
	おばあさん	58	36	23	12	11	23	2	5	2	2	7
		100.0	62.1	39.7	20.7	19.0	39.7	3.4	8.6	3.4	3.4	12.1
	おじいさん	34	23	16	10	8	13	3	4	1	2	3
		100.0	67.6	47.1	29.4	23.5	38.2	8.8	11.8	2.9	5.9	8.8
きょうだい	247	171	135	31	18	97	9	25	2	2	18	
	100.0	69.2	54.7	12.6	7.3	39.3	3.6	10.1	0.8	0.8	7.3	
その他	42	22	15	3	3	18	3	6	0	3	10	
	100.0	52.4	35.7	7.1	7.1	42.9	7.1	14.3	0.0	7.1	23.8	
無回答	66	8	6	2	0	5	0	4	0	1	50	
	100.0	12.1	9.1	3.0	0.0	7.6	0.0	6.1	0.0	1.5	75.8	



⑤お世話を始めた年齢

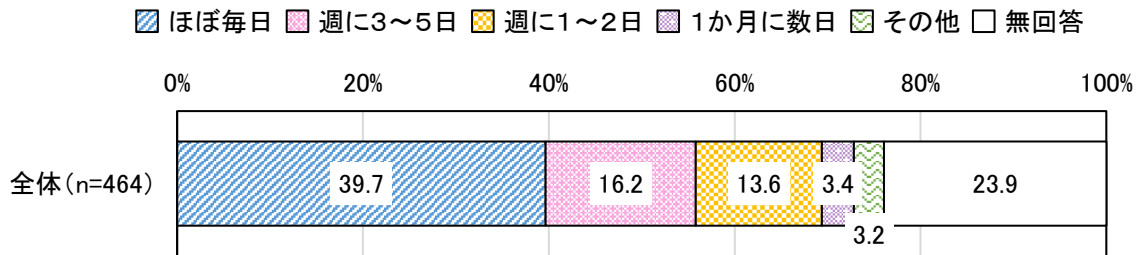


お世話を始めた年齢は、「10~12才」が31.3%で最も高く、小学生高学年から始めた児童が約3割となっている。次いで「7~9才」(26.3%)、「6歳以下」(17.7%)となっている。

参考結果：お世話対象別お世話を始めた年齢

上段：回答数 下段：割合 (%)		合計	6才以下	7~9才	10~12才	無回答
全体		464	82	122	145	115
		100.0	17.7	26.3	31.3	24.8
問10 ① あなたが お世話を している 人	お母さん	122	20	22	42	38
		100.0	16.4	18.0	34.4	31.1
	お父さん	83	11	17	29	26
		100.0	13.3	20.5	34.9	31.3
	おばあさん	58	9	12	26	11
		100.0	15.5	20.7	44.8	19.0
	おじいさん	34	9	6	13	6
	100.0	26.5	17.6	38.2	17.6	
きょうだい	247	59	83	78	27	
	100.0	23.9	33.6	31.6	10.9	
その他	42	7	9	14	12	
	100.0	16.7	21.4	33.3	28.6	
無回答	66	1	8	8	49	
	100.0	1.5	12.1	12.1	74.2	

## ⑥お世話の頻度

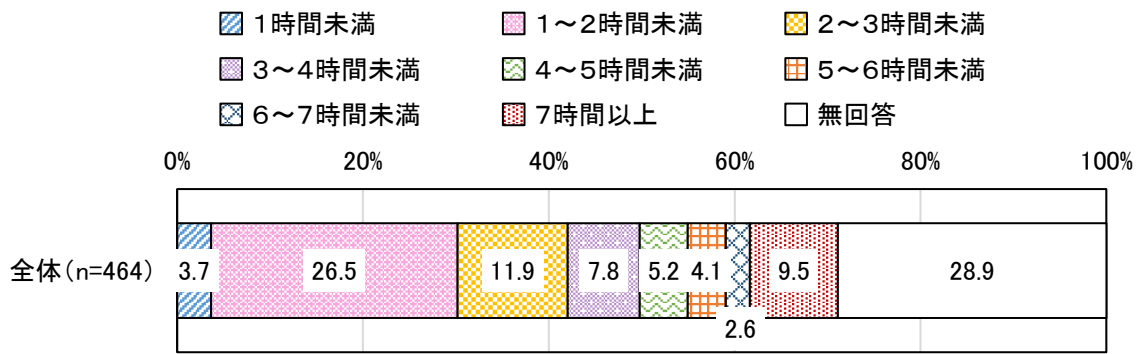


お世話の頻度は、「ほぼ毎日」が39.7%で最も高く、次いで「週に3～5日」(16.2%)、「週に1～2日」(13.6%)となっている。

### 参考結果：お世話対象別お世話の頻度

上段：回答数 下段：割合 (%)		合計	ほぼ毎日	週に3～5日	週に1～2日	1か月に数日	その他	無回答
全体		464	184	75	63	16	15	111
		100.0	39.7	16.2	13.6	3.4	3.2	23.9
問10 ① あなたが お世話を している 人	お母さん	122	41	19	15	7	6	34
		100.0	33.6	15.6	12.3	5.7	4.9	27.9
	お父さん	83	28	14	11	5	4	21
		100.0	33.7	16.9	13.3	6.0	4.8	25.3
	おばあさん	58	10	15	14	6	2	11
		100.0	17.2	25.9	24.1	10.3	3.4	19.0
	おじいさん	34	8	8	7	3	2	6
		100.0	23.5	23.5	20.6	8.8	5.9	17.6
きょうだい	247	129	44	35	6	6	27	
	100.0	52.2	17.8	14.2	2.4	2.4	10.9	
その他	42	17	8	4	1	2	10	
	100.0	40.5	19.0	9.5	2.4	4.8	23.8	
無回答	66	5	3	5	2	4	47	
	100.0	7.6	4.5	7.6	3.0	6.1	71.2	

⑦平日1日あたりにお世話に費やす時間

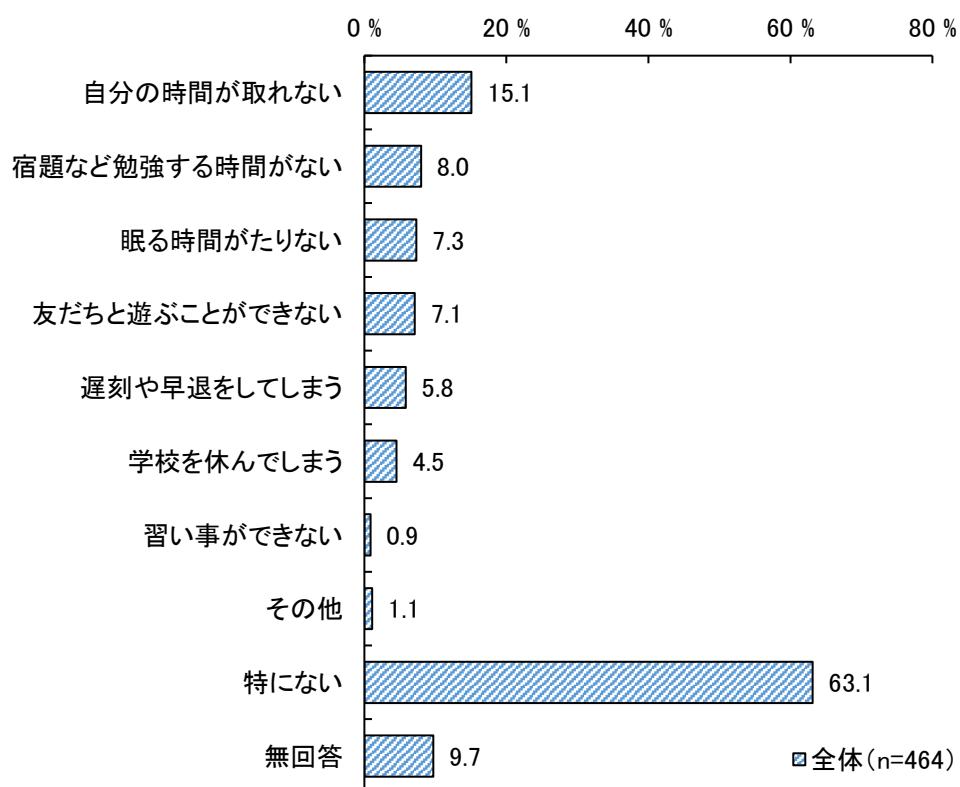


平日1日あたりにお世話に費やす時間は、「1~2時間未満」が26.5%で最も高く、次いで「2~3時間未満」(11.9%)、「7時間以上」(9.5%)、「3~4時間未満」(7.8%)となっている。

参考結果：お世話対象別平日1日あたりにお世話に費やす時間

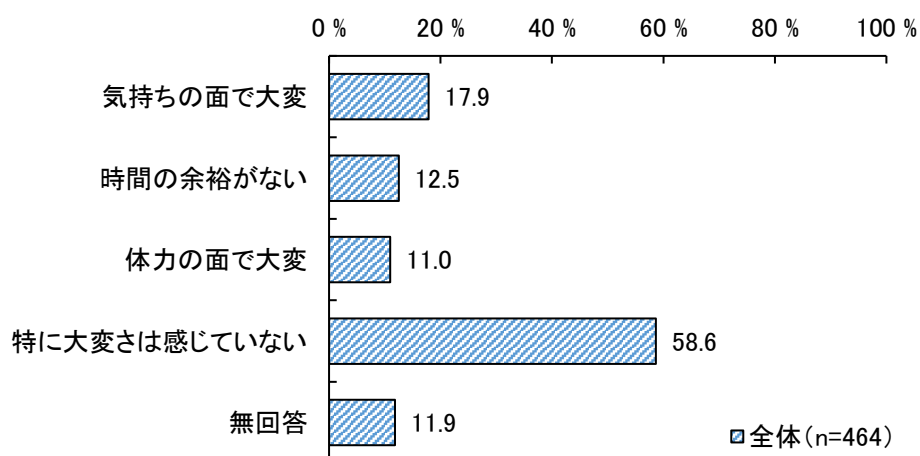
上段：回答数 下段：割合 (%)	合計	1時間未満	1~2時間未満	2~3時間未満	3~4時間未満	4~5時間未満	5~6時間未満	6~7時間未満	7時間以上	無回答	
全体	464 100.0	17 3.7	123 26.5	55 11.9	36 7.8	24 5.2	19 4.1	12 2.6	44 9.5	134 28.9	
問10 ①あなたがお世話をしている人	お母さん	122 100.0	5 4.1	28 23.0	16 13.1	5 4.1	3 2.5	5 4.1	3 2.5	15 12.3	42 34.4
	お父さん	83 100.0	3 3.6	20 24.1	12 14.5	5 6.0	1 1.2	3 3.6	4 4.8	8 9.6	27 32.5
	おばあさん	58 100.0	4 6.9	19 32.8	8 13.8	2 3.4	3 5.2	2 3.4	0 0.0	6 10.3	14 24.1
	おじいさん	34 100.0	0 0.0	11 32.4	3 8.8	1 2.9	3 8.8	1 2.9	1 2.9	7 20.6	7 20.6
	きょうだい	247 100.0	6 2.4	75 30.4	35 14.2	29 11.7	16 6.5	13 5.3	10 4.0	29 11.7	34 13.8
	その他	42 100.0	3 7.1	11 26.2	3 7.1	2 4.8	1 2.4	0 0.0	3 7.1	6 14.3	13 31.0
	無回答	66 100.0	1 1.5	6 9.1	3 4.5	1 1.5	0 0.0	1 1.5	0 0.0	1 1.5	53 80.3

### 問 11 お世話しているためにやりたいけどできないこと



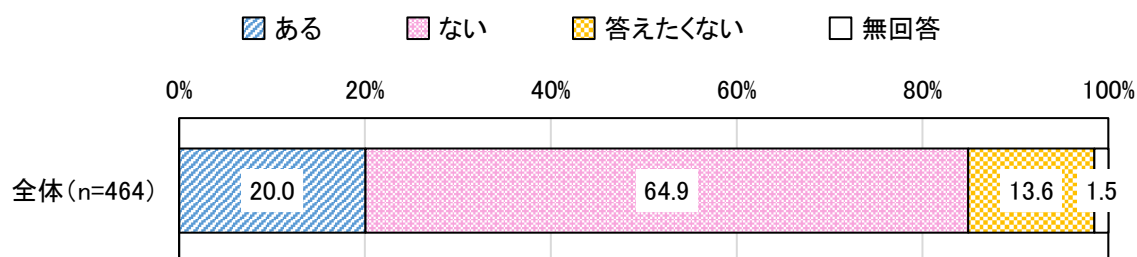
お世話しているために、やりたいけどできないことは、「特にない」が 63.1%を占めている。具体的な選択肢の中では、「自分の時間が取れない」が 15.1%で最も高く、「宿題など勉強する時間がない」(8.0%)、「眠る時間がたりない」(7.3%)、「友だちと遊ぶことができない」(7.1%)となっている。

### 問 12 お世話することの大変さ



お世話することの大変さは、「特に大変さは感じていない」が 58.6%を占めている。具体的な選択肢の中では、「気持ちの面で大変」が 17.9%で最も高く、次いで「時間の余裕がない」(12.5%)、「体力の面で大変」(11.0%)となっている。

問13 お世話している家族のことや、お世話の悩みを相談した経験

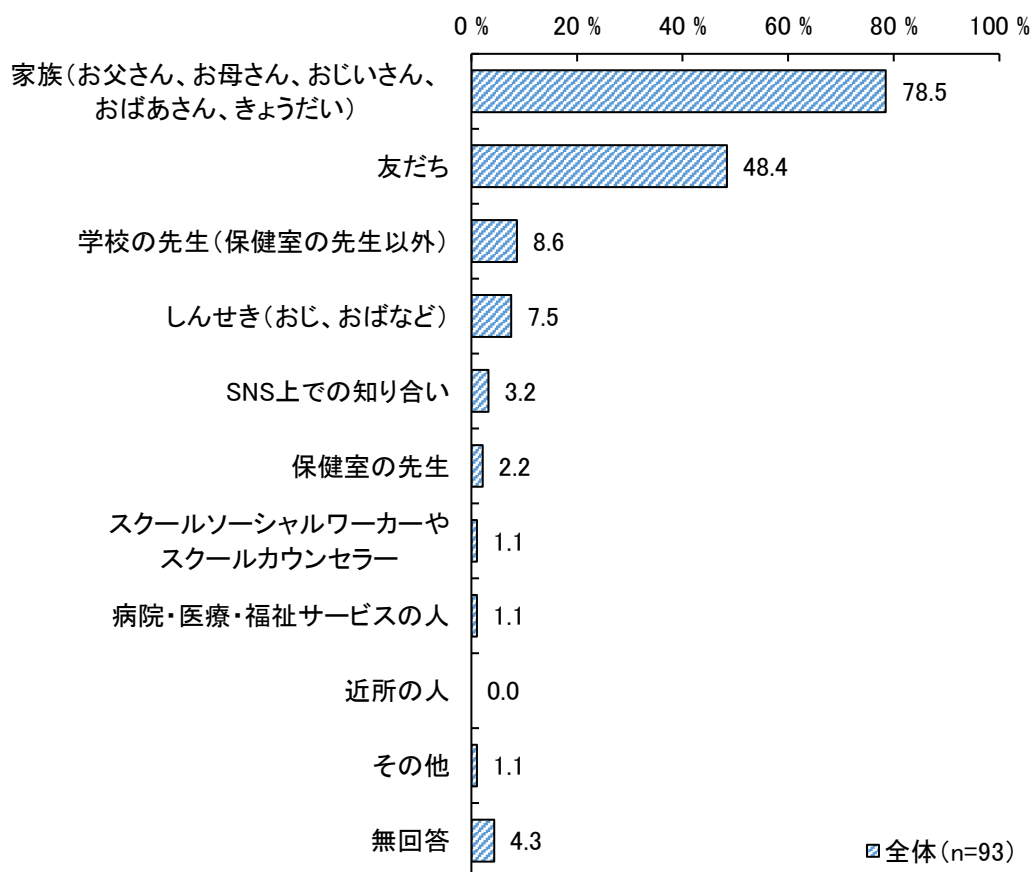


お世話している家族のことや、お世話の悩みを相談した経験は、「ある」が20.0%、「ない」が64.9%、「答えたくない」が13.6%となっている。

参考結果：悩みの相談相手の有無別のお世話の悩みを相談した経験

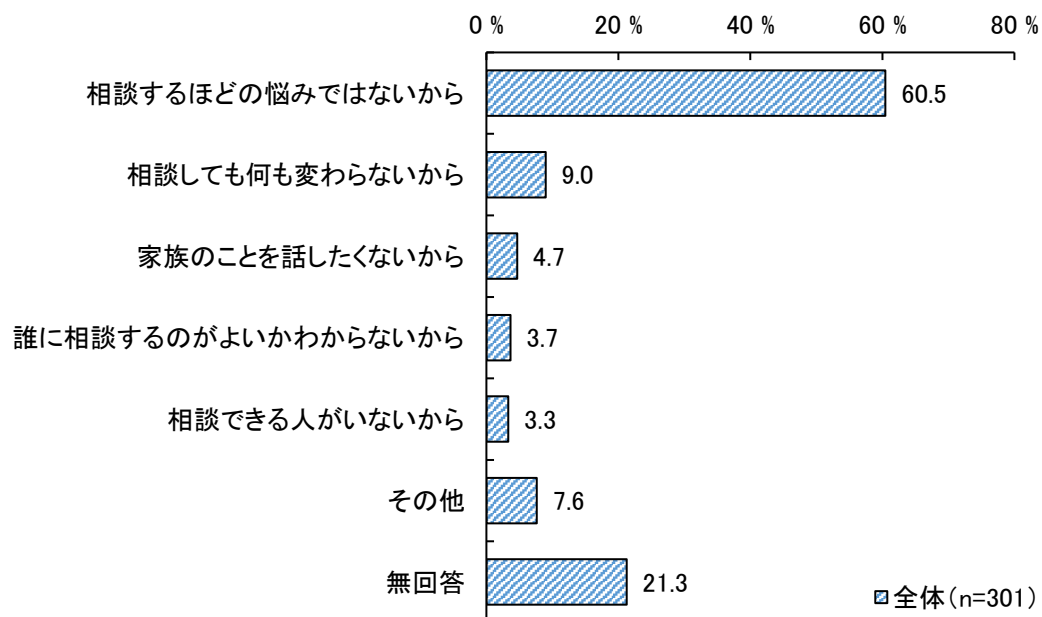
上段：回答数 下段：割合 (%)		合計	ある	ない	答えたくない	無回答
全体		464	93	301	63	7
		100.0	20.0	64.9	13.6	1.5
問8 悩みの 相談相手 の有無	いる	140	45	79	13	3
		100.0	32.1	56.4	9.3	2.1
	いない	29	2	24	2	1
		100.0	6.9	82.8	6.9	3.4
	話はしたくない	54	8	26	19	1
		100.0	14.8	48.1	35.2	1.9
	無回答	2	0	2	0	0
		100.0	0.0	100.0	0.0	0.0

問 14 お世話についての相談相手（問 13 で「ある」と回答した人）



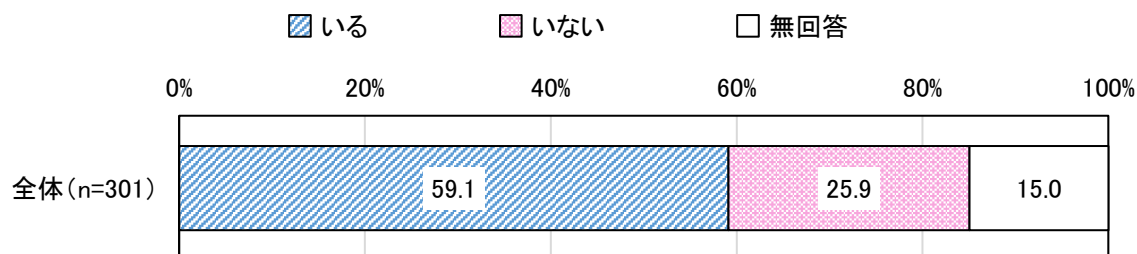
お世話についての相談相手は、「家族（お父さん、お母さん、おじいさん、おばあさん、きょうだい）」が 78.5% で最も高く、次いで「友だち」（48.4%）、「学校の先生（保健室の先生以外）」（8.6%）となっている。

問 15 お世話について相談していない理由（問 13 で「ない」と回答した人）



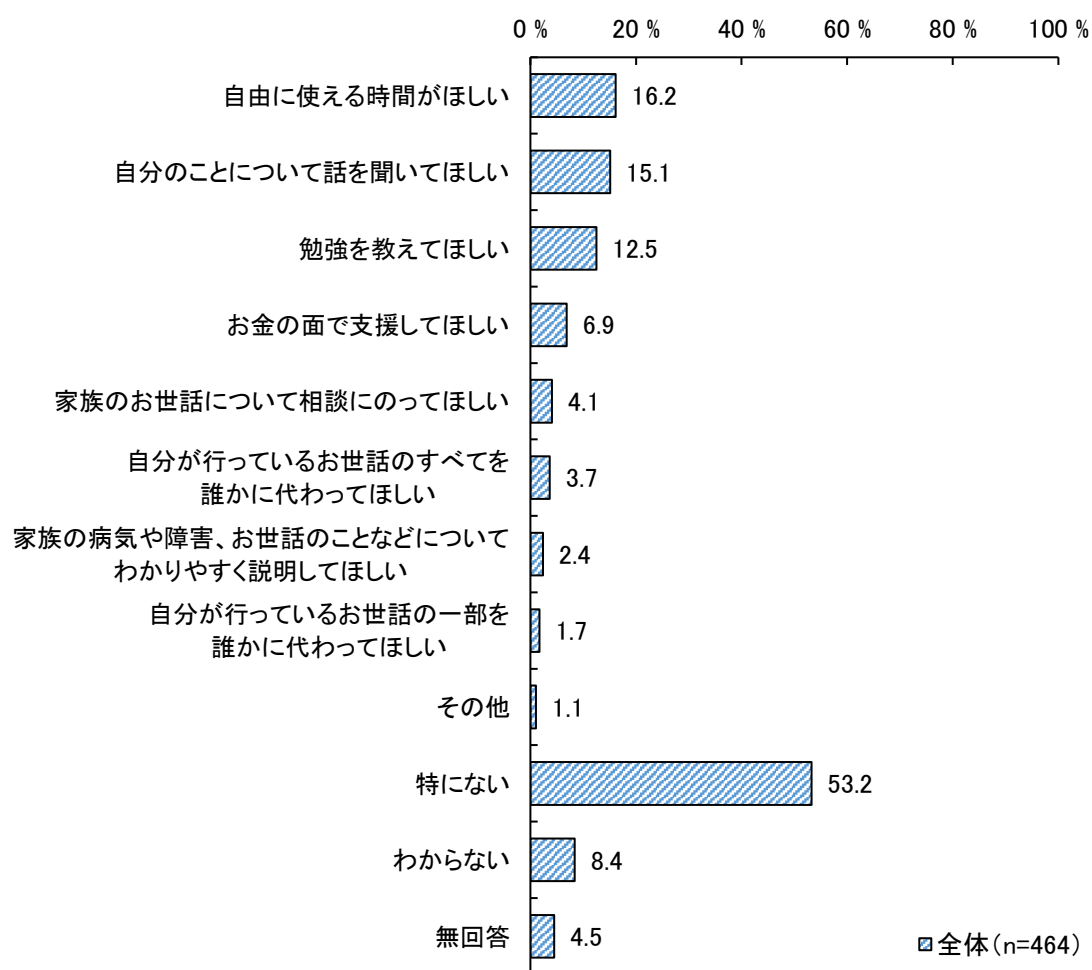
お世話について相談していない理由は、「相談するほどの悩みではないから」が 60.5%で最も高く、次いで「相談しても何も変わらないから」(9.0%)、「家族のことを話したくないから」(4.7%) となっている。

問 16 お世話について相談できる人の有無（問 13 で「ない」と回答した人）



お世話について相談できる人の有無は、「いる」が 59.1%、「いない」が 25.9%となっている。

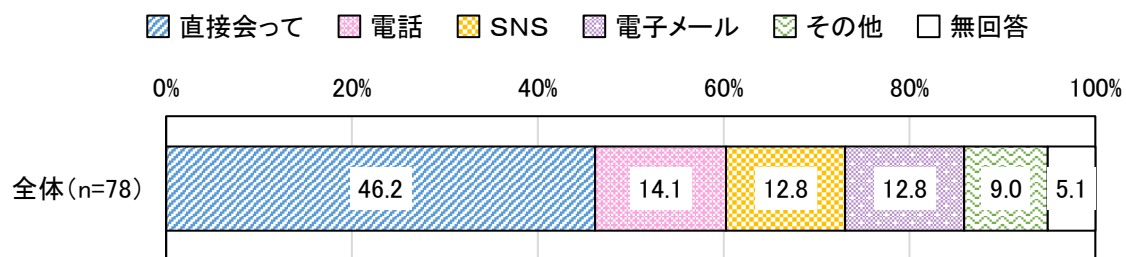
## 問 17 学校や周りの大人にしてもらいたいこと



学校や周りの大人にしてもらいたいことは、「特にない」が53.2%を占めている。具体的な選択肢の中では、「自由に使える時間がほしい」が16.2%で最も高く、次いで「自分のことについて話を聞いてほしい」(15.1%)、「勉強を教えてほしい」(12.5%)、「お金の面で支援してほしい」(6.9%)となっている。



問 18 相談の方法（問 17 で「自分のことについて話を聞いてほしい」「家族のお世話について相談にのってほしい」と回答した人）

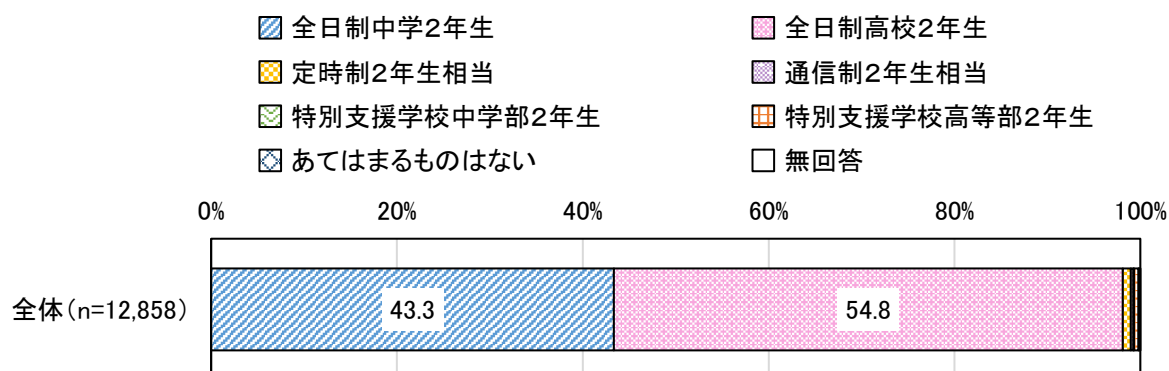


相談の方法は、「直接会って」が 46.2% で最も高く、次いで「電話」(14.1%)、「SNS」、「電子メール」(ともに 12.8%) となっている。

## 2. 中高生アンケート調査結果

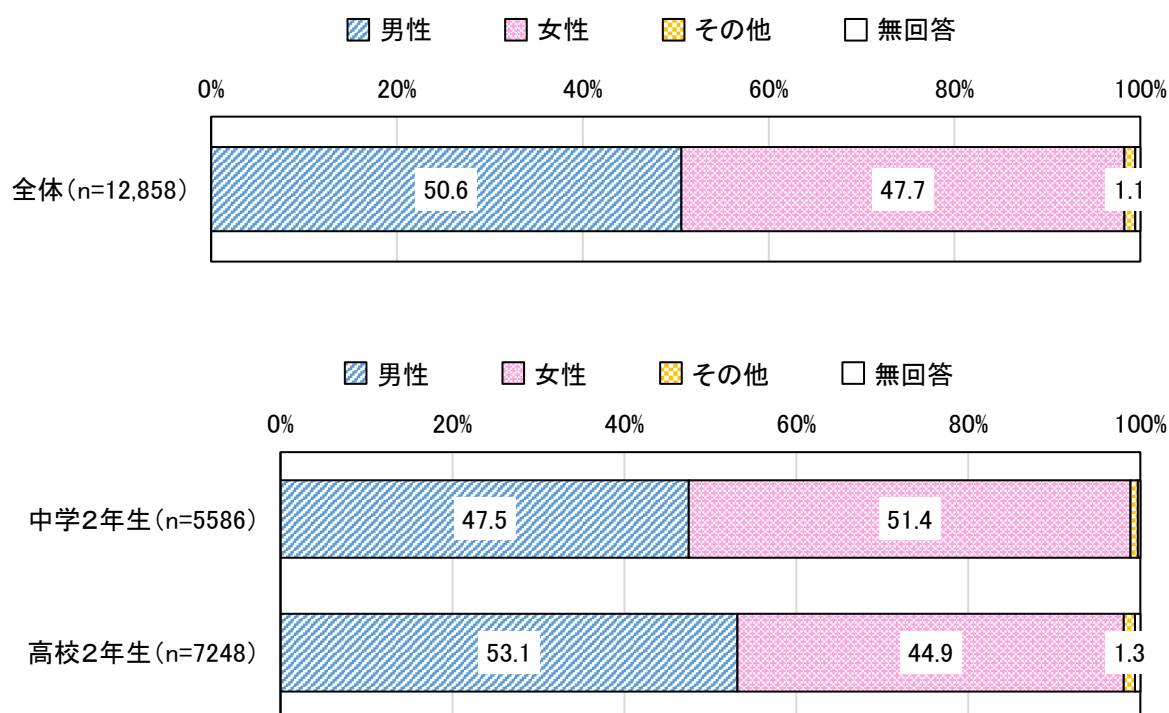
### (1) 基本情報

#### 問1 学年



※全日制中学2年生、全日制高校2年生以外の項目は回答数が少ないため、以降の分析において、全日制中学2年生・特別支援学校中学部2年生は「中学2年生」、全日制高校2年生・定時制2年生相当・通信制2年生相当・特別支援学校高等部2年生は「高校2年生」として分析する。

#### 問2 性別



回答者の性別は上記のとおりとなっている。

### 問3 居住地

割合 (%)	前橋市	高崎市	桐生市	伊勢崎市	太田市	沼田市	館林市
全体 (n=12,858)	17.7	13.2	4.9	8.5	12.0	3.7	4.2
中学2年生 (n=5,586)	18.1	0.9	5.2	6.4	15.8	4.7	6.1
高校2年生 (n=7,248)	17.4	22.7	4.7	10.1	9.0	2.9	2.7

渋川市	藤岡市	富岡市	安中市	みどり市	北群馬郡	多野郡
5.2	3.4	3.2	3.4	4.1	1.6	0.1
6.6	3.9	4.2	3.6	5.6	0.8	0.1
4.2	3.1	2.4	3.3	2.9	2.3	0.0

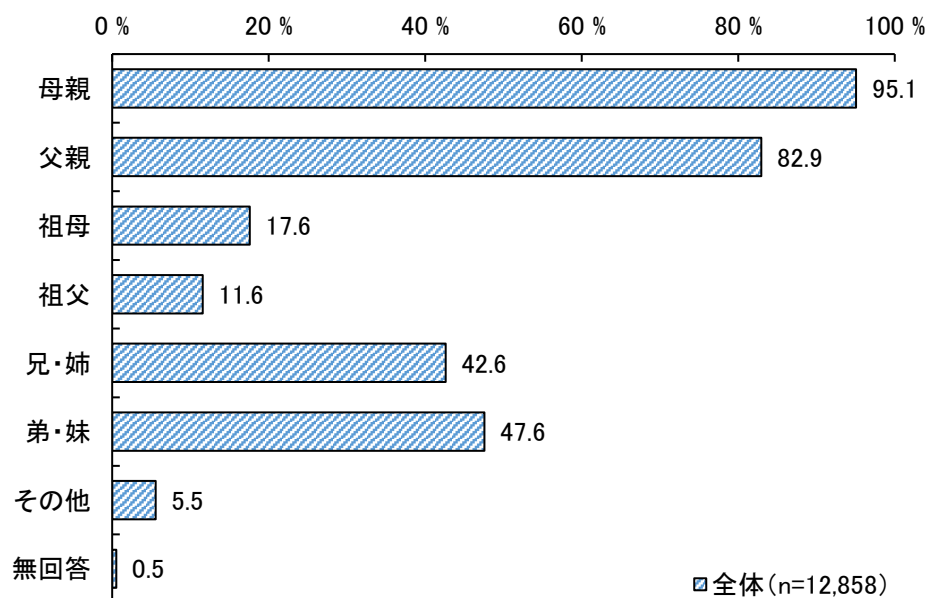
  

甘楽郡	吾妻郡	利根郡	佐波郡	邑楽郡	県外	無回答
1.4	2.2	2.2	1.8	5.5	1.4	0.2
2.0	2.7	2.7	2.1	8.0	0.3	0.1
0.9	1.9	1.8	1.6	3.6	2.2	0.2

回答者の居住地は上記のとおりとなっている。

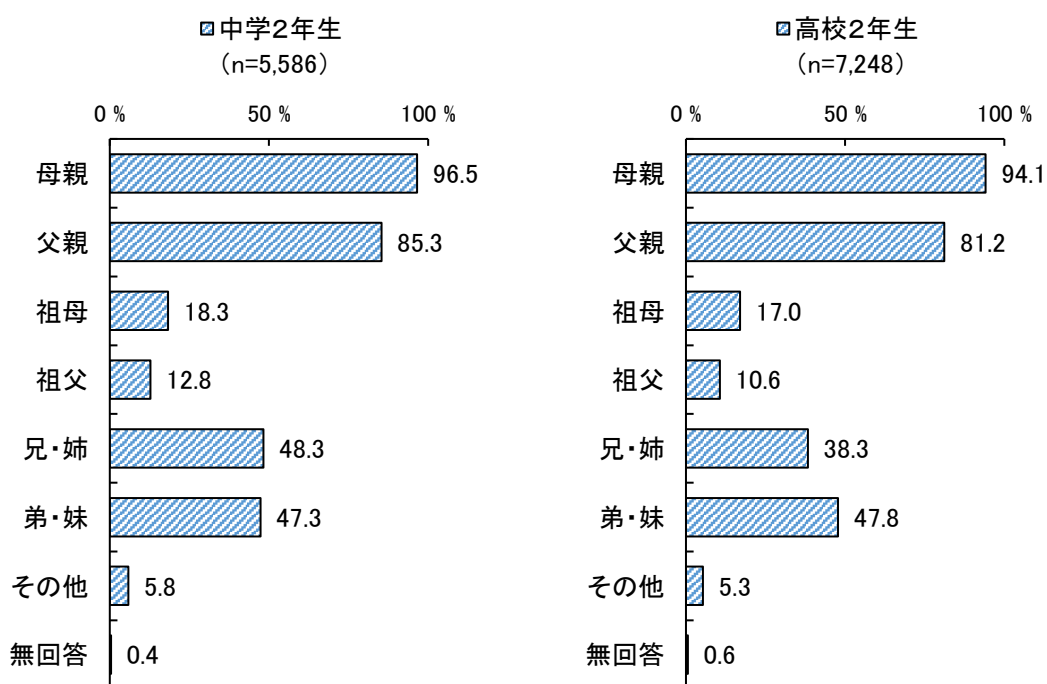
※高崎市立の学校は調査対象外。

#### 問4 同居家族



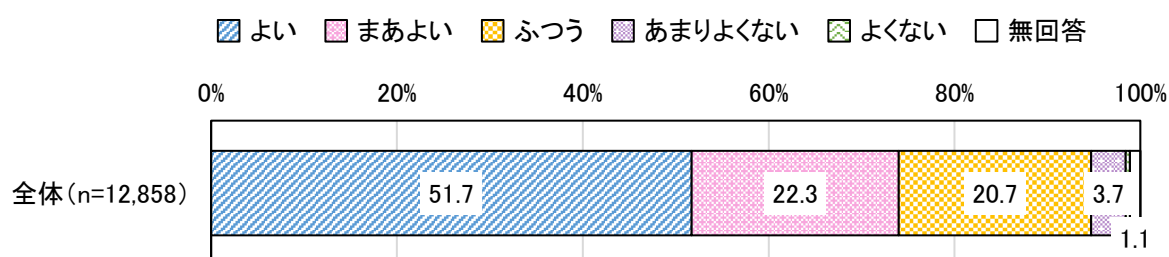
同居家族は「お母さん」が95.1%で最も高く、次いで「お父さん」(82.9%)、「弟・妹」(47.6%)、「兄・姉」(42.6%)となっている。

#### 【学年別】



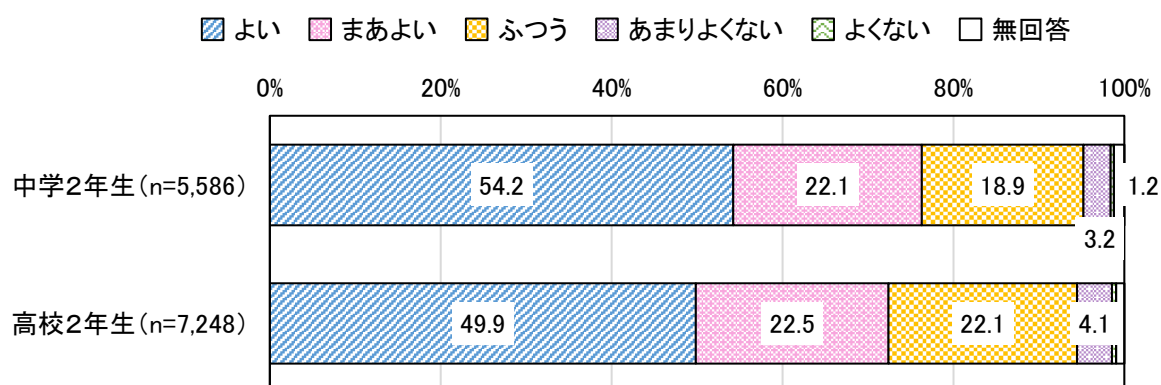
同居家族は、中学2年生、高校2年生ともに「母親」がそれぞれ96.5%、94.1%で最も高く、次いで「父親」(85.3%、81.2%)となっている。以下、中学2年生では「兄・姉」(48.3%)、高校2年生「弟・妹」(47.8%)が続く。

## 問5 健康状態



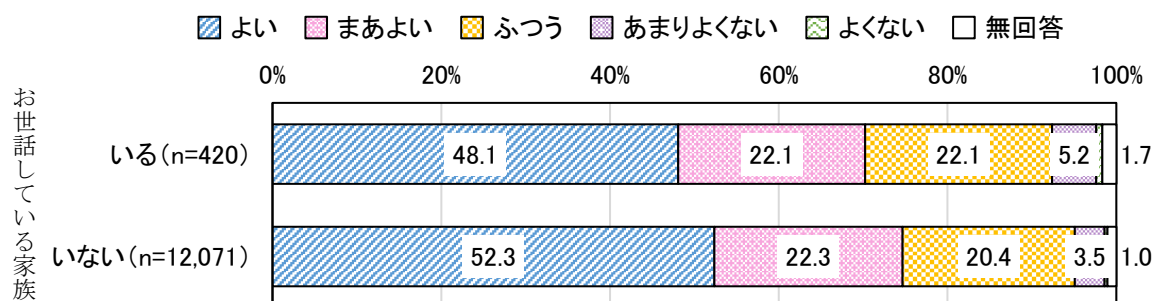
健康状態は「よい」が 51.7%で最も高く、次いで「まあよい」(22.3%)、「ふつう」(20.7%)となっている。「あまりよくない」、「よくない」は4%未満となっている。

### 【学年別】



健康状態は、中学2年生、高校2年生ともに「よい」がそれぞれ 54.2%、49.9%で最も高く、次いで「まあよい」(22.1%、22.5%)、「ふつう」(18.9%、22.1%)となっている。

### 【お世話している家族の有無別】

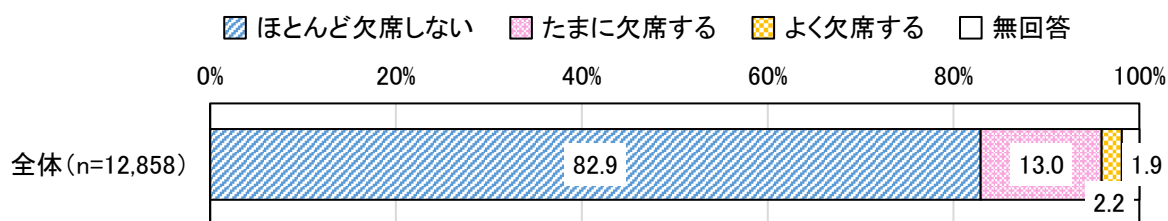


「よい」の割合は、お世話している家族がいる生徒 (48.1%) よりお世話している家族がいない生徒 (52.3%) の方が高い。

## (2) ふだんの生活について

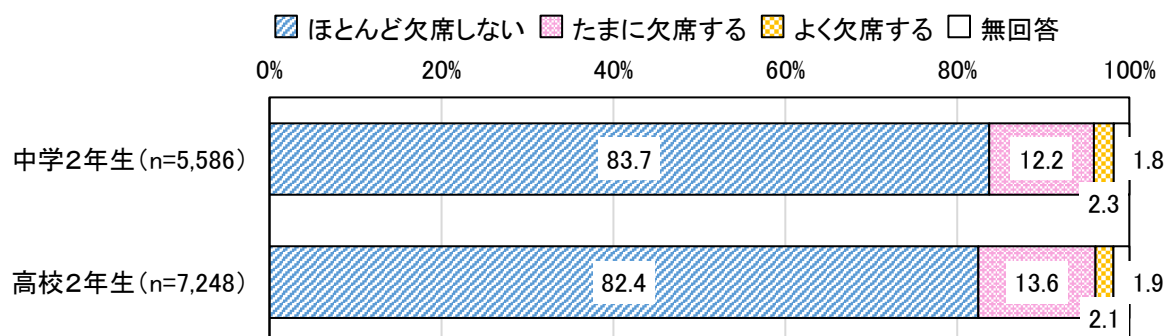
### 問6 学校への通学状況

#### ①出席状況



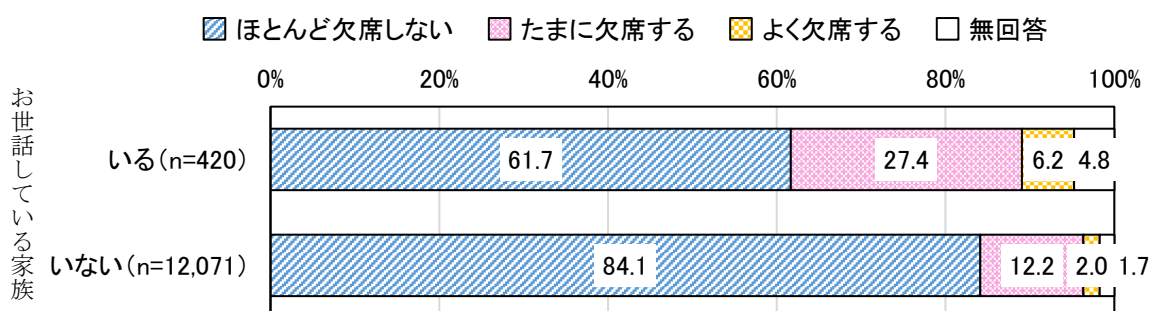
学校への出席状況は、「ほとんど欠席しない」が82.9%で最も高く、次いで「たまに欠席する」(13.0%)、「よく欠席する」(2.2%)となっている。

#### 【学年別】



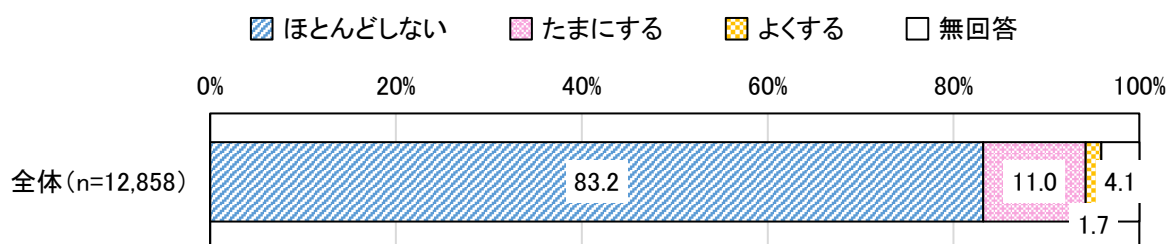
学校への出席状況は、中学2年生、高校2年生ともに「ほとんど欠席しない」がそれぞれ83.7%、82.4%で最も高く、次いで「たまに欠席する」(12.2%、13.6%)、「よく欠席する」(2.3%、2.1%)となっている。

#### 【お世話している家族の有無別】



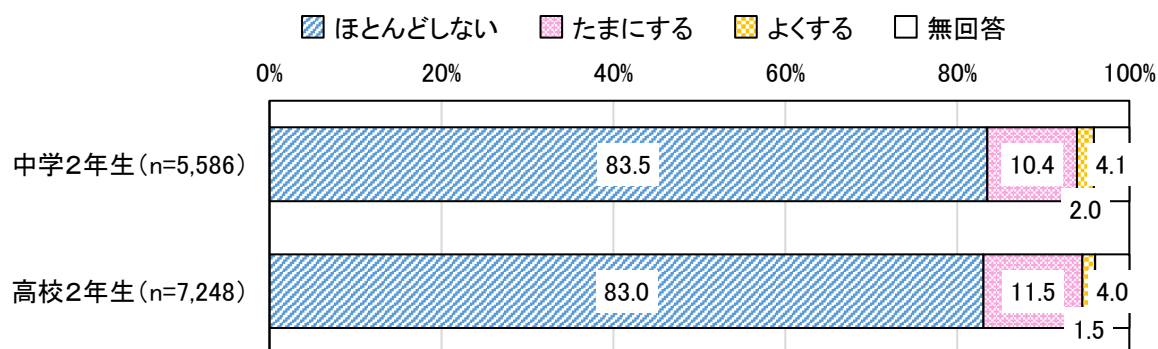
「ほとんど欠席しない」の割合は、お世話している家族がいる生徒(61.7%)よりお世話している家族がいない生徒(84.1%)の方が高く、お世話している家族がいる生徒では、「たまに欠席する」(27.4%)と「よく欠席する」(6.2%)を合わせた割合(33.6%)が3割強となっている。

## ②遅刻や早退の状況



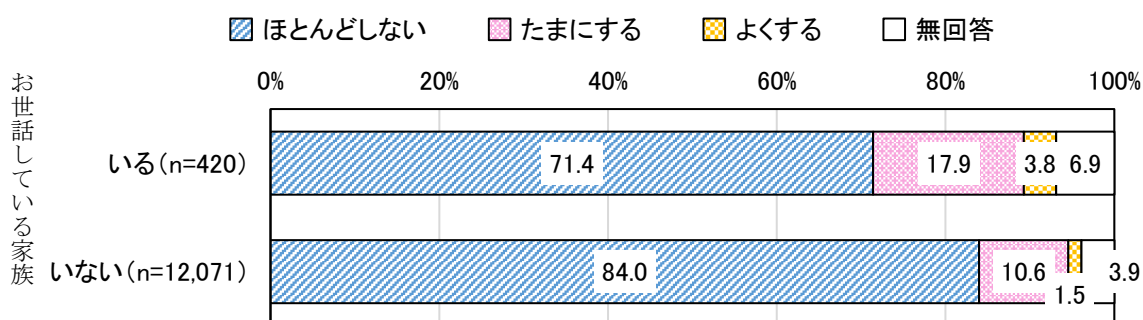
学校への遅刻や早退の状況は、「ほとんどしない」が83.2%で最も高く、次いで「たまにする」(11.0%)、「よくする」(1.7%)となっている。

### 【学年別】



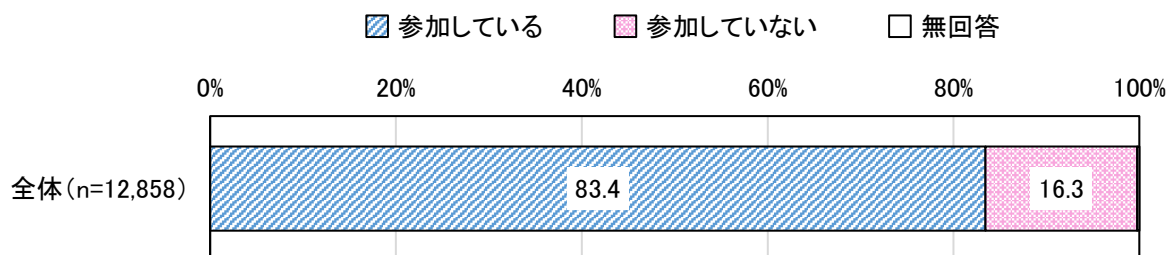
学校への遅刻や早退の状況は、中学2年生、高校2年生ともに「ほとんどしない」がそれぞれ83.5%、83.0%で最も高く、次いで「たまに欠席する」(10.4%、11.5%)、「よくする」(2.0%、1.5%)となっている。

### 【お世話している家族の有無別】



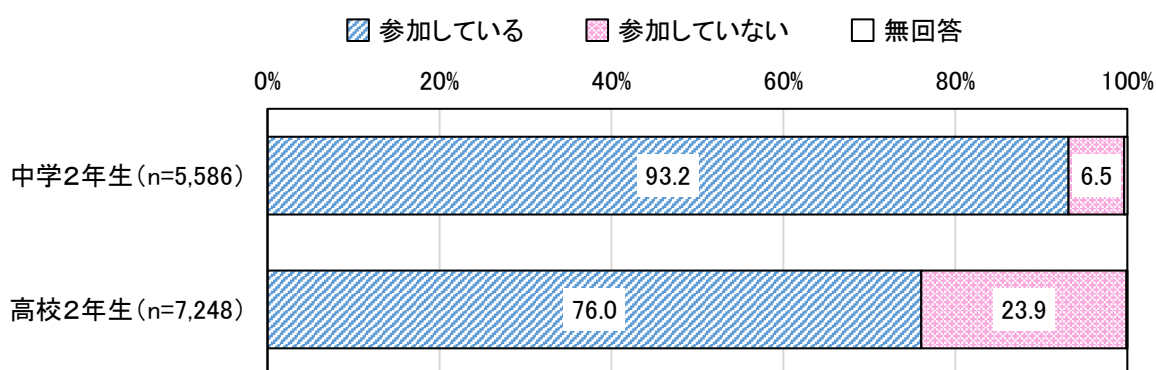
「ほとんどしない」の割合は、お世話している家族がいる生徒(71.4%)よりお世話している家族がいない生徒(84.0%)の方が高く、お世話している家族がいる生徒では、「たまにする」(17.9%)と「よくする」(3.8%)を合わせた割合(21.7%)が約2割となっている。

## 問7 部活動（学校外での活動を含む）への参加



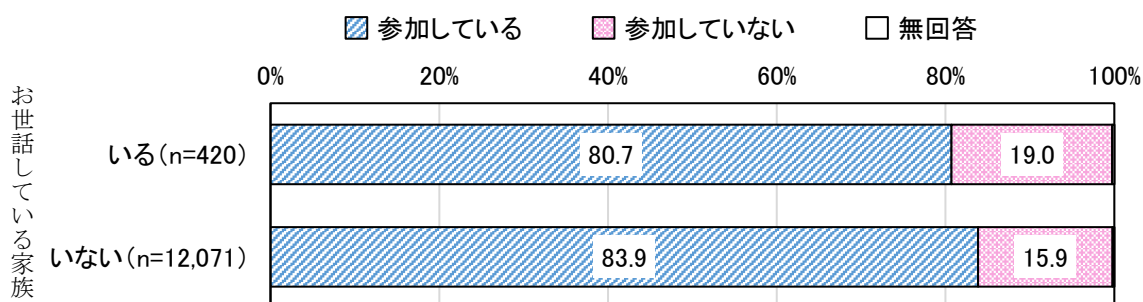
部活動（学校外での活動を含む）への参加は、「参加している」が83.4%、「参加していない」が16.3%となっており、8割以上が部活動（学校外での活動を含む）へ参加をしている。

### 【学年別】



部活動（学校外での活動を含む）への参加は、中学2年生、高校2年生ともに「参加している」がそれぞれ93.2%、76.0%、「参加していない」が6.5%、23.9%となっており、中学2年生では、9割以上が部活動（学校外での活動を含む）へ参加をしている。

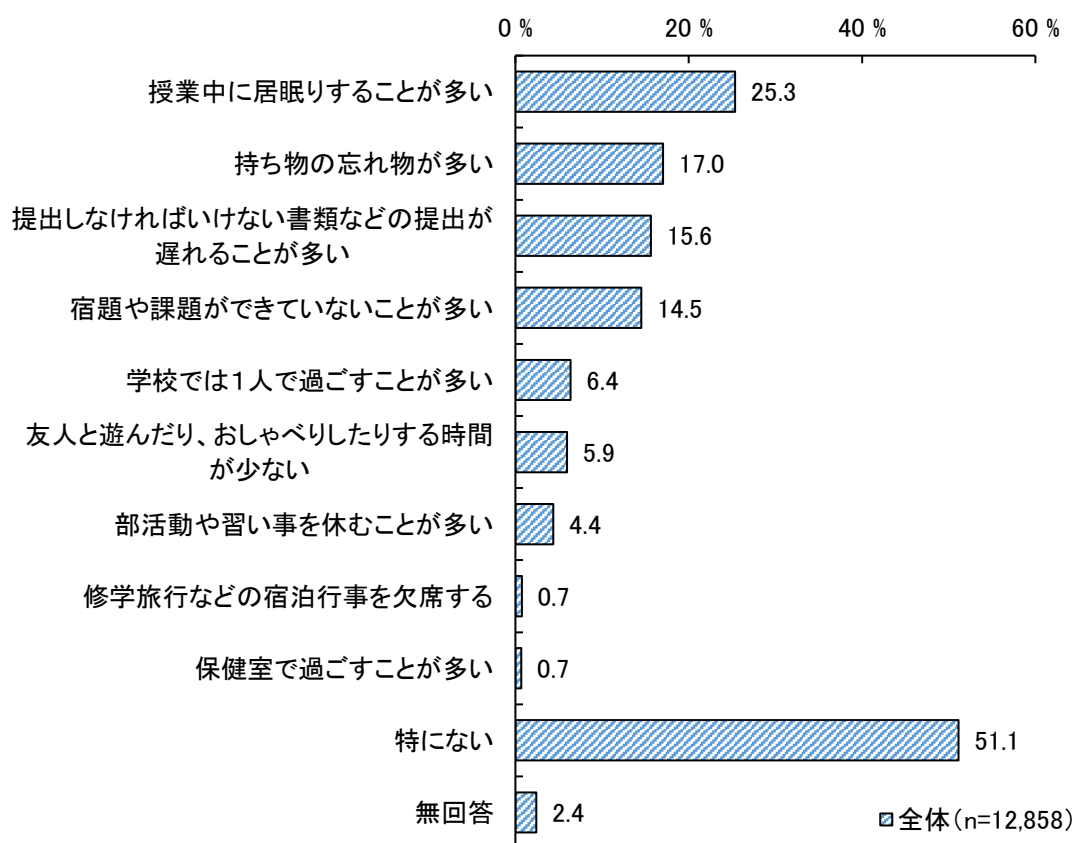
### 【お世話している家族の有無別】



部活動（学校外での活動を含む）へ参加している割合は、お世話している家族がいる生徒（80.7%）よりお世話している家族がいない生徒（83.9%）の方がやや高いが、お世話している家族の有無での大きな差は見られない。

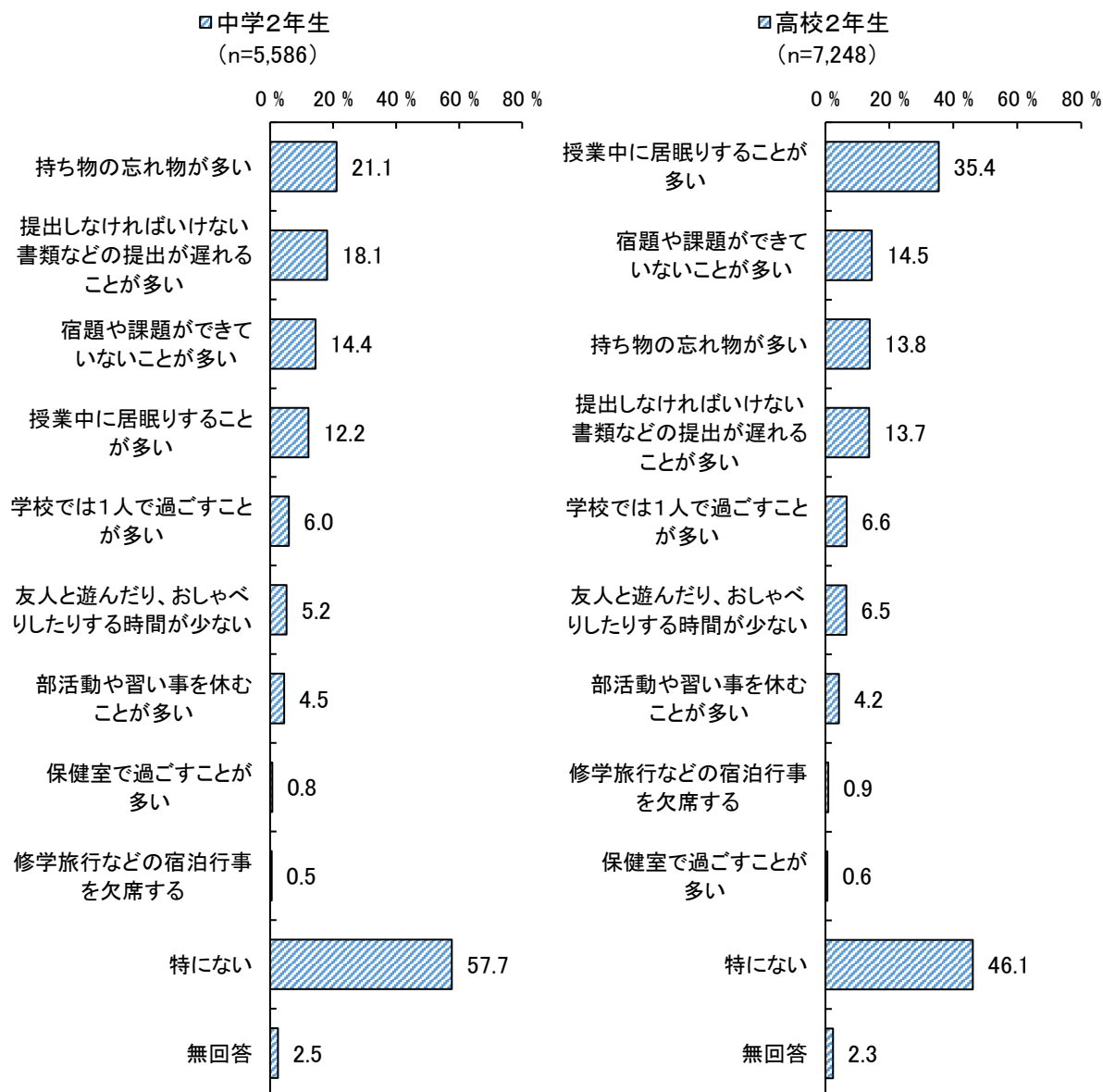


問 8 ふだんの学校生活などにおいてあてはまること



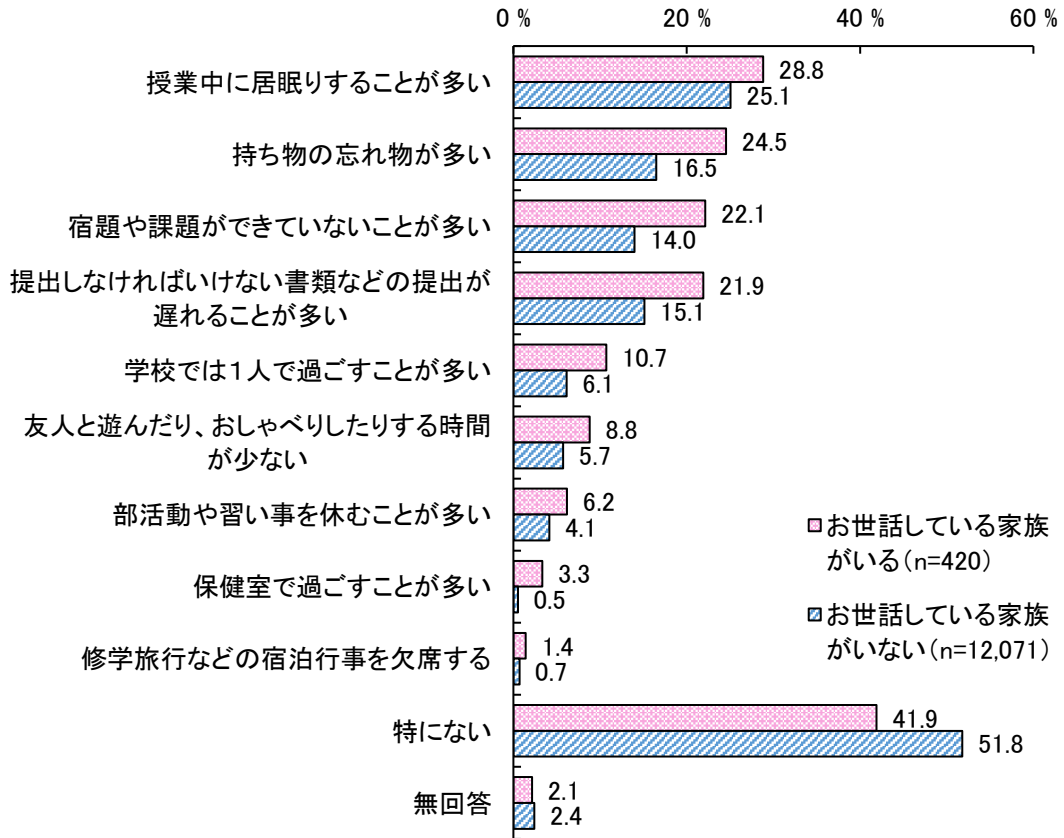
ふだんの学校生活などにおいてあてはまることは、「特にない」が51.1%を占めている。具体的な選択肢の中では、「授業中に居眠りすることが多い」が25.3%で最も高く、次いで「持ち物の忘れ物が多い」(17.0%)、「提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い」(15.6%)、「宿題や課題ができていないことが多い」(14.5%)となっている。

【学年別】



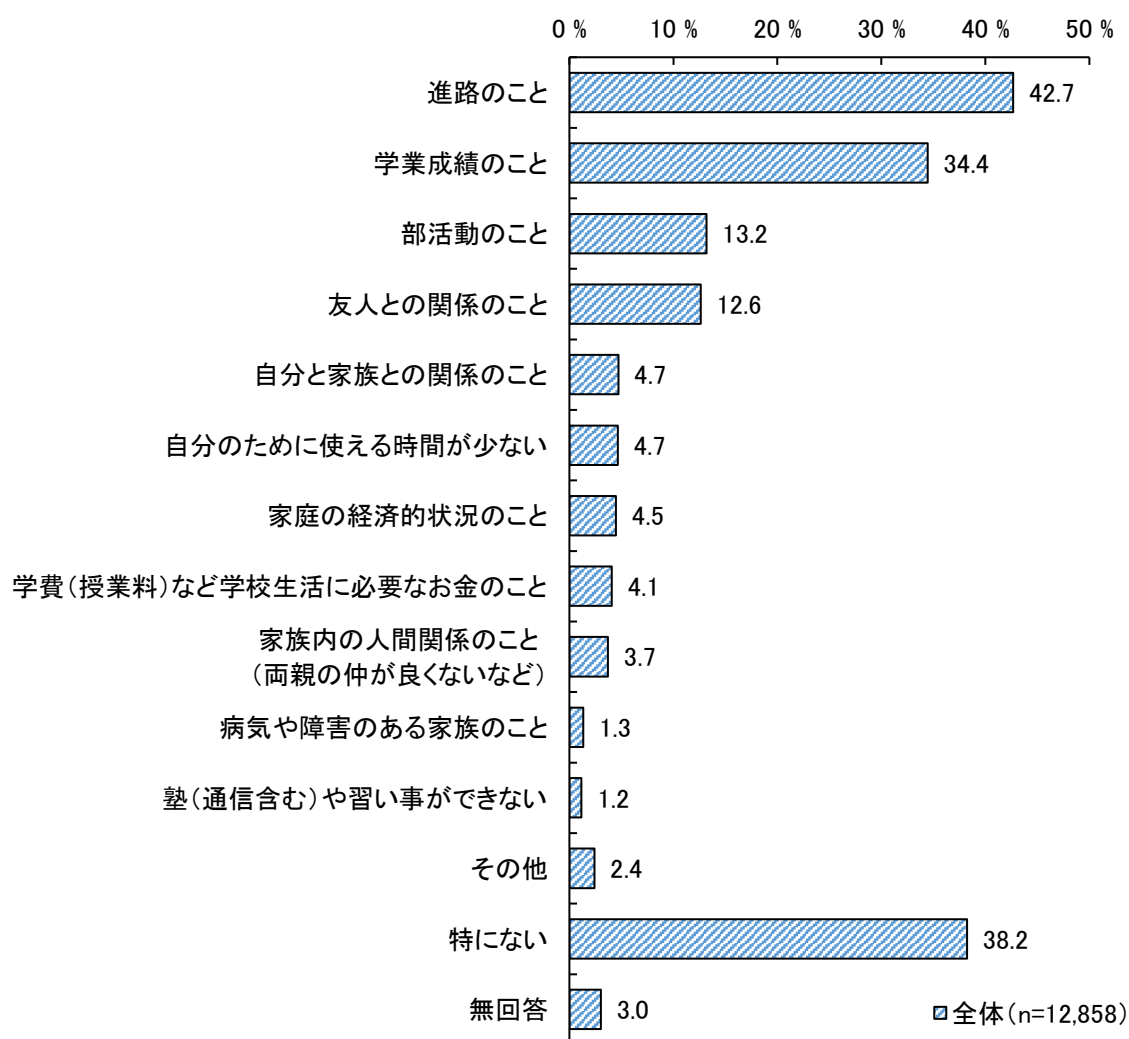
ふだんの学校生活などにおいてあてはまることは、中学2年生、高校2年生ともに「特にない」がそれぞれ57.7%、46.1%で半数近くを占めている。具体的な選択肢の中では、中学2年生は「持ち物の忘れ物が多い」が21.1%で最も高く、次いで「提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い」(18.1%)、「宿題や課題ができていないことが多い」(14.4%)と続き、高校2年生は「授業中に居眠りすることが多い」が35.4%で最も高く、次いで「宿題や課題ができていないことが多い」(14.5%)、「持ち物の忘れ物が多い」(13.8%)と続いている。

【お世話している家族の有無別】



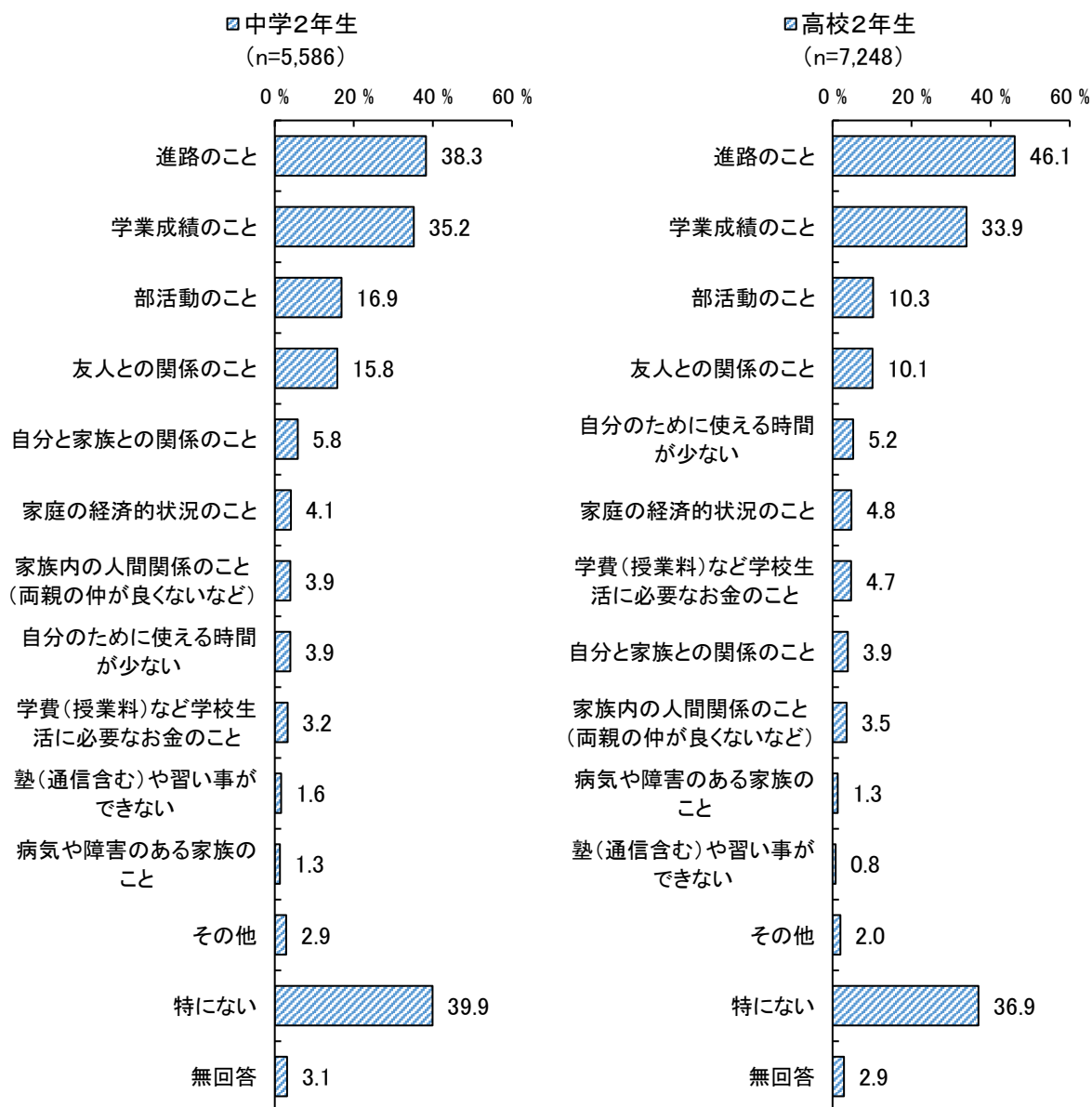
「特になし」の割合は、お世話している家族がいる生徒（41.9%）よりお世話している家族がいない生徒（51.8%）の方が高く、具体的な選択肢の中では、すべての選択肢でお世話している家族がいる生徒の方が、割合が高くなっている。

## 問9 悩んでいること



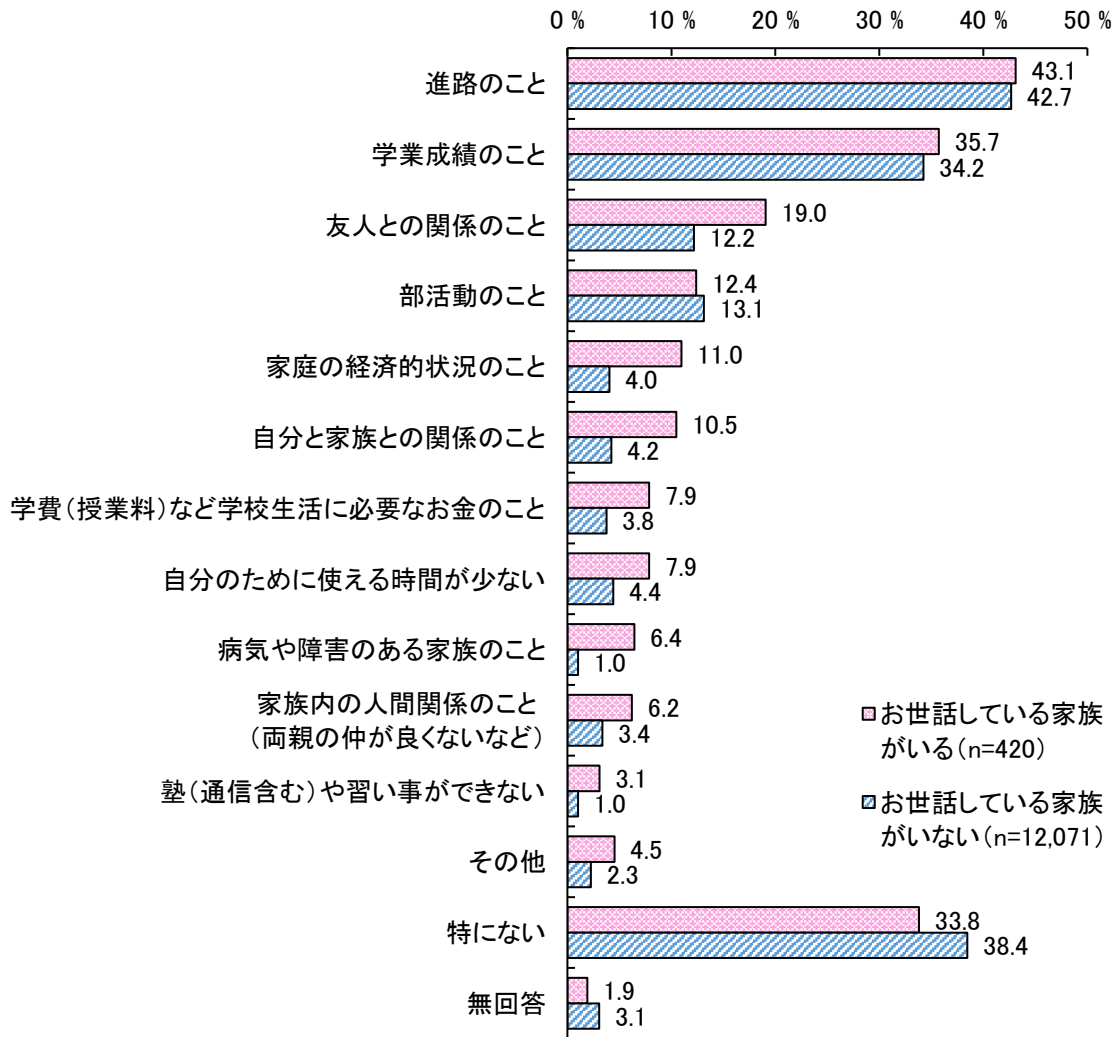
悩んでいることは、「進路のこと」が42.7%で最も高く、次いで「学業成績のこと」(34.4%)、「部活動のこと」(13.2%)、「友人との関係のこと」(12.6%)となっている。「特にない」は38.2%を占めている。

【学年別】



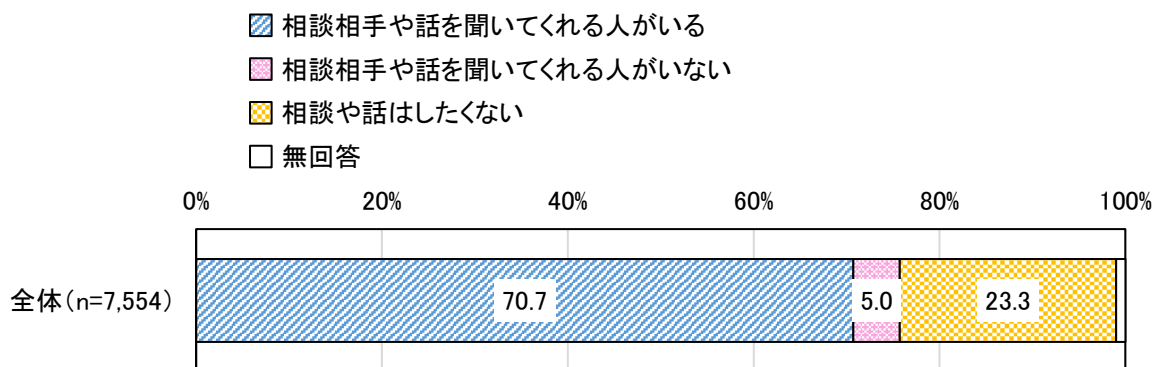
悩んでいることは、中学2年生、高校2年生ともに「特にない」がそれぞれ39.9%、36.9%で4割近くを占めている。具体的な選択肢の中では、「進路のこと」がそれぞれ38.3%、46.1%で最も高く、次いで「学業成績のこと」(35.2%、33.9%)、「部活動のこと」(16.9%、10.3%)、「友人との関係のこと」(15.8%、10.1%)となっている。

【お世話している家族の有無別】



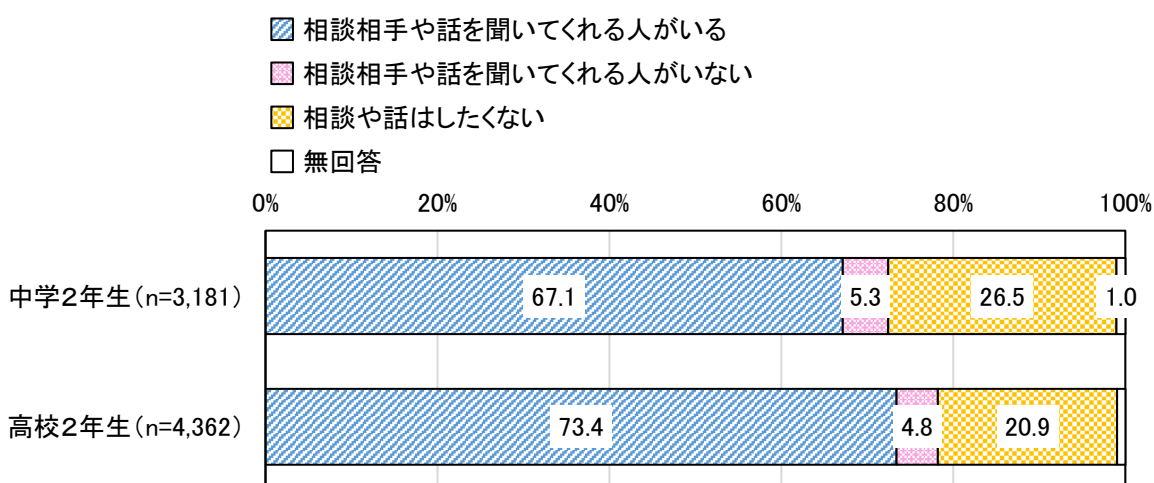
「特にない」の割合は、お世話している家族がいる生徒（33.8%）よりお世話している家族がない生徒（38.4%）の方が高く、具体的な選択肢の中では、すべての選択肢でお世話している家族がいる生徒の方が、割合が高くなっている。特に「友人との関係のこと」、「家庭の経済的状況のこと」、「自分と家族との関係のこと」、「病気や障害のある家族のこと」、「塾（通信含む）や習い事ができない」でお世話している家族がない生徒よりお世話している家族がいる生徒の方が割合が高く、倍以上の差が出ている。

問10 悩みの相談相手、話を聞いてくれる人の有無(問9で悩みがあると回答した人)



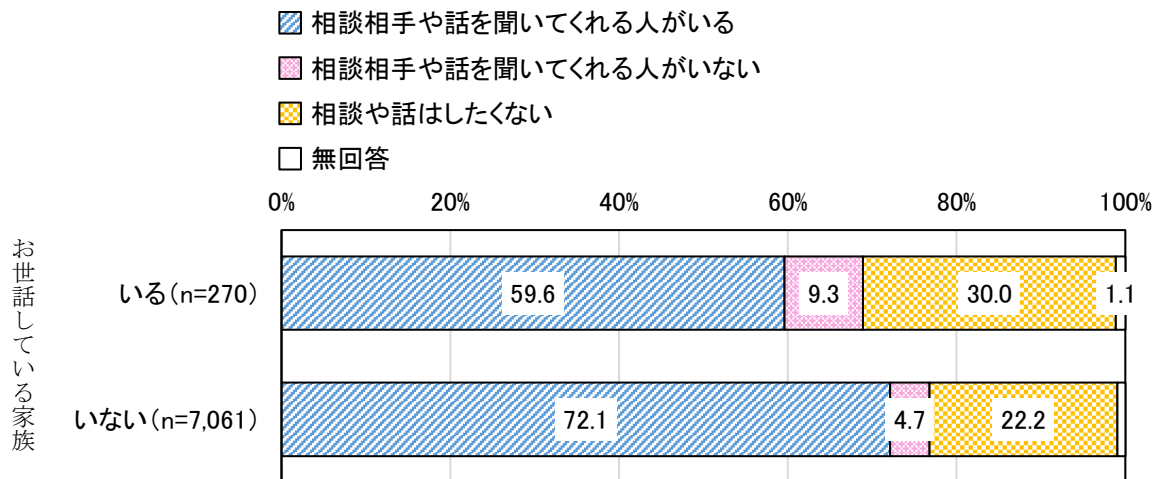
悩みの相談相手、話を聞いてくれる人の有無は、「相談相手や話を聞いてくれる人がいる」が70.7%で最も高く、次いで「相談や話はしたくない」(23.3%)、「相談相手や話を聞いてくれる人がいない」(5.0%)となっている。

【学年別】



悩みの相談相手、話を聞いてくれる人の有無は、中学2年生、高校2年生ともに「相談相手や話を聞いてくれる人がいる」がそれぞれ67.1%、73.4%で最も高く、次いで「相談や話はしたくない」(26.5%、20.9%)、「相談相手や話を聞いてくれる人がいない」(5.3%、4.8%)となっている。

【お世話している家族の有無別】

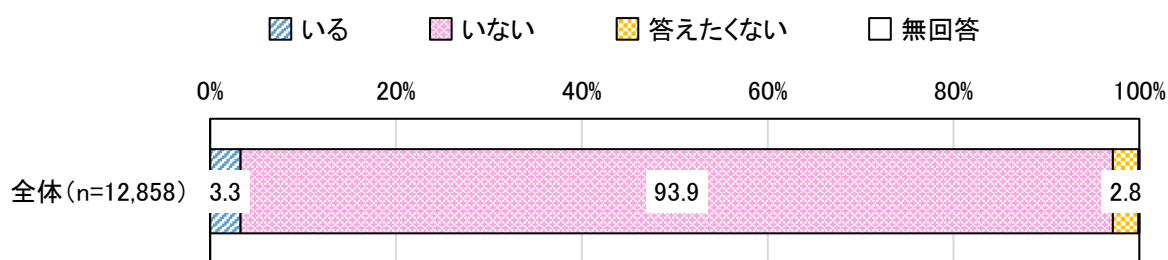


悩みの相談相手、話を聞いてくれる人が「いる」割合は、お世話している家族がいる生徒（59.6%）よりお世話している家族がない生徒（72.1%）の方が高くなっている。



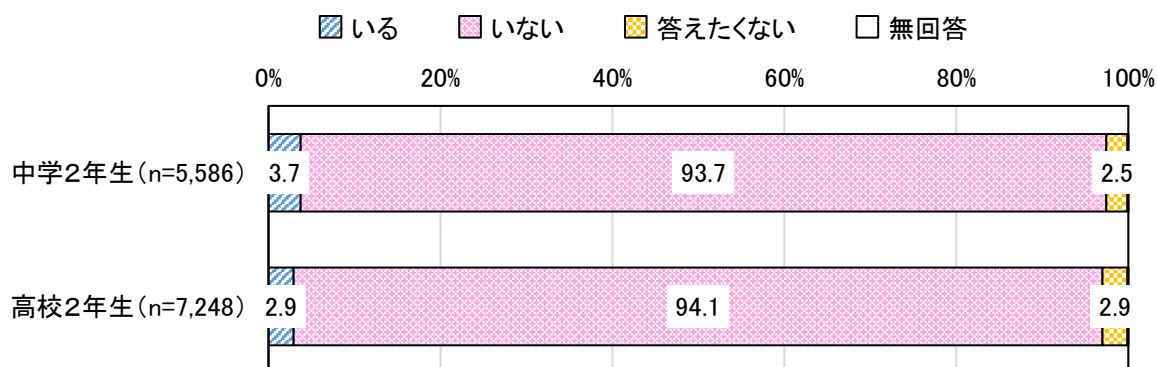
### (3) 家庭や家族のことについて

#### 問 11 お世話している家族の有無



お世話している家族の有無は、「いる」が3.3%、「いない」が93.9%となっている。

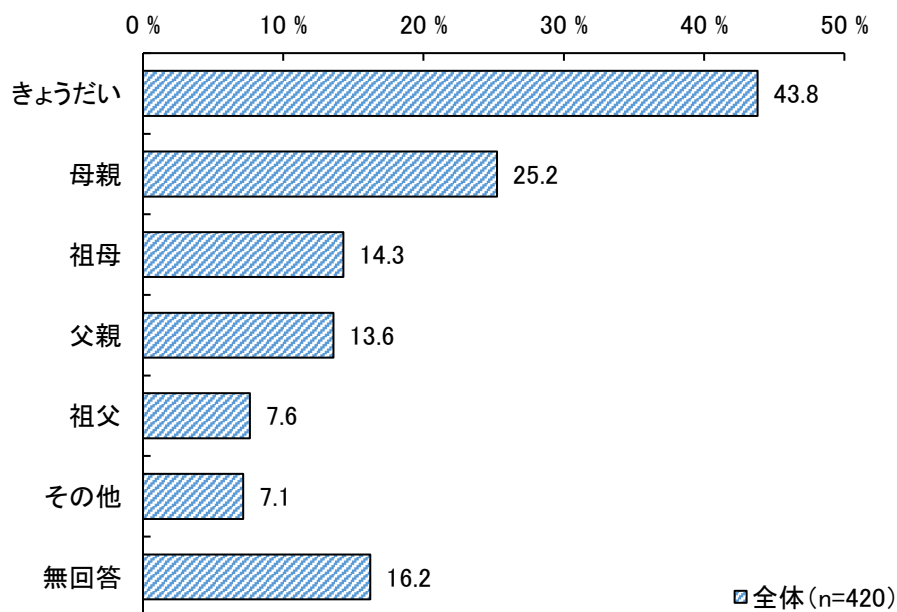
#### 【学年別】



お世話している家族の有無は、中学2年生では「いる」が3.7%、「いない」が93.7%、高校2年生では「いる」が2.9%、「いない」が94.1%となっている。

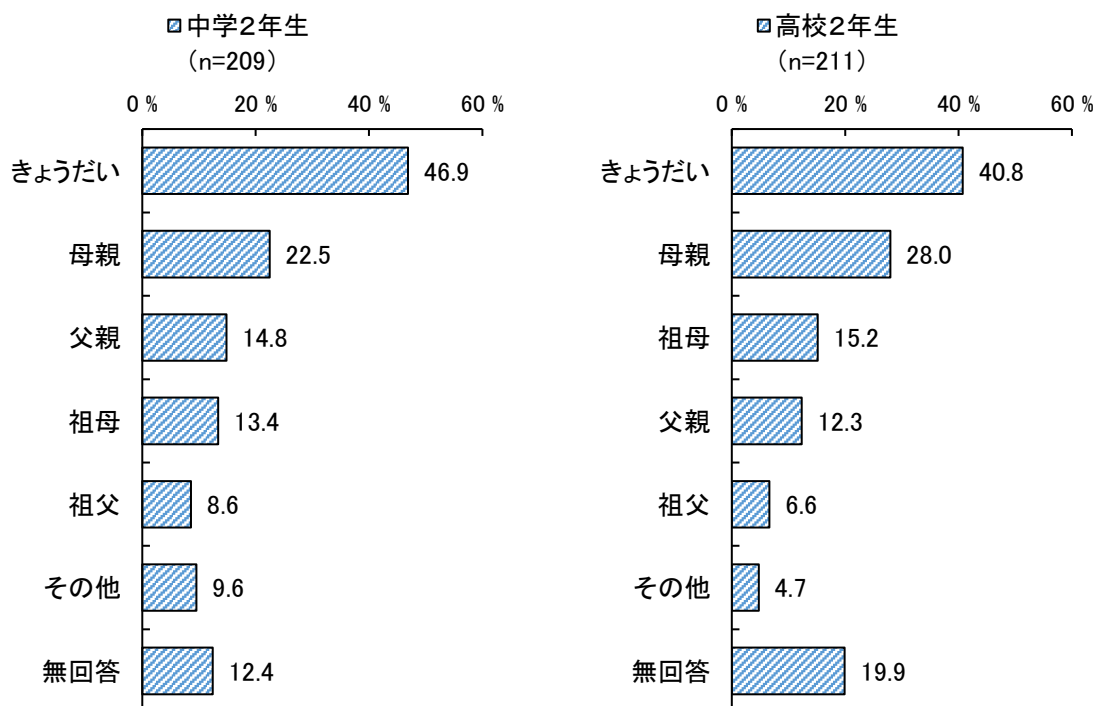
## 問 12 お世話の状況（問 11 で「いる」と回答した人）

### ①あなたがお世話をしている人



お世話をしている人は、「きょうだい」が43.8%で最も高く、次いで「母親」（25.2%）、「祖母」（14.3%）、「父親」（13.6%）、「祖父」（7.6%）となっている。

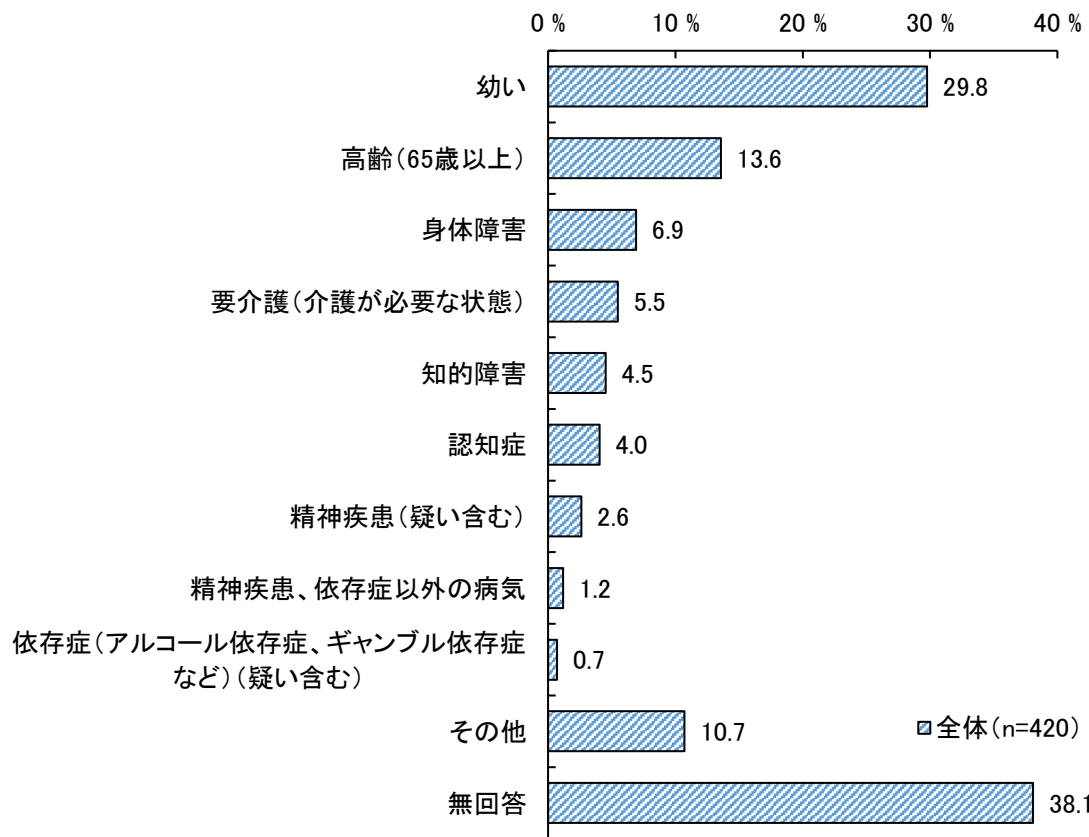
### 【学年別】



お世話をしている人は、中学2年生、高校2年生ともに「きょうだい」がそれぞれ46.9%、40.8%で最も高く、次いで「母親」（22.5%、28.0%）となっている。

## ②お世話について

### a) お世話を必要としている方の状況

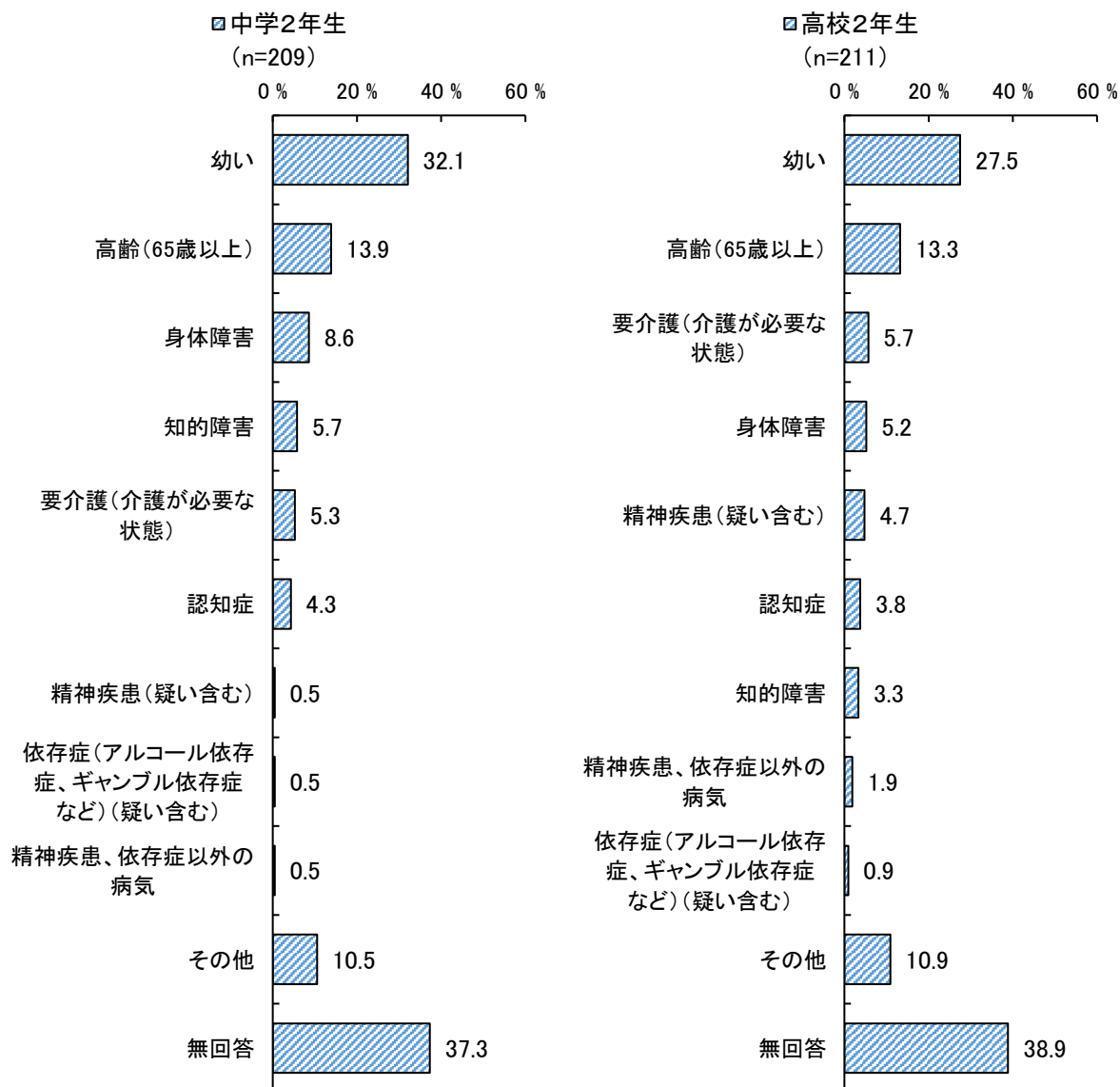


お世話を必要としている方の状況は、「若い」が29.8%で最も高く、次いで「高齢(65歳以上)」(13.6%)、「身体障害」(6.9%)、「要介護(介護が必要な状態)」(5.5%)となっている。

### 参考結果：お世話対象別状況

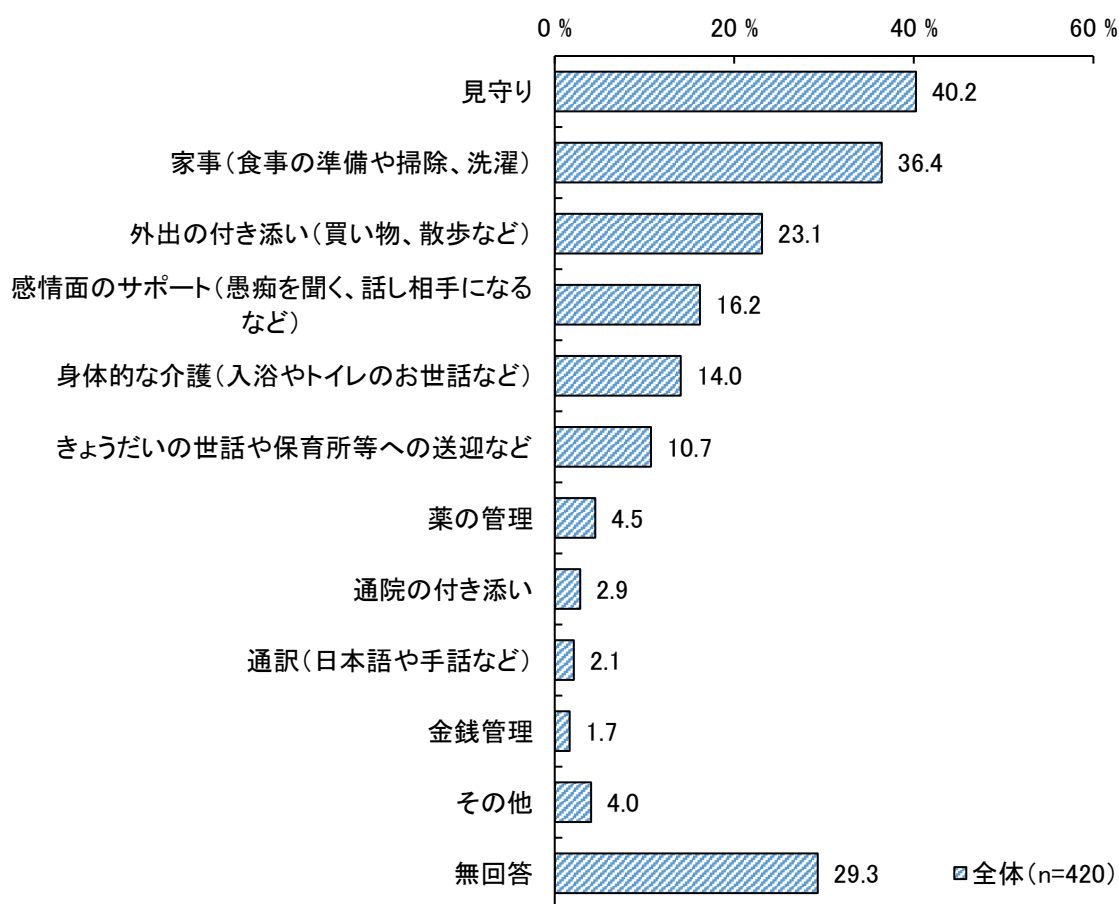
上段：回答数 下段：割合 (%)		合計	高齢(65歳以上)	若い	要介護(介護が必要な状態)	認知症	身体障害	知的障害	精神疾患(疑い含む)	依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症など)	精神疾患、依存症以外の病気	その他	無回答
全体		420	57	125	23	17	29	19	11	3	5	45	160
		100.0	13.6	29.8	5.5	4.0	6.9	4.5	2.6	0.7	1.2	10.7	38.1
問12 ① お世話を必要としている方	母親	106	10	6	6	3	6	4	4	2	3	20	59
		100.0	9.4	5.7	5.7	2.8	5.7	3.8	3.8	1.9	2.8	18.9	55.7
	父親	57	4	5	5	1	7	3	0	2	0	8	34
		100.0	7.0	8.8	8.8	1.8	12.3	5.3	0.0	3.5	0.0	14.0	59.6
	祖母	60	39	1	10	8	11	2	6	0	1	6	11
		100.0	65.0	1.7	16.7	13.3	18.3	3.3	10.0	0.0	1.7	10.0	18.3
	祖父	32	23	1	8	4	6	1	1	0	1	4	4
		100.0	71.9	3.1	25.0	12.5	18.8	3.1	3.1	0.0	3.1	12.5	12.5
	きょうだい	184	3	117	1	0	7	14	1	0	2	24	31
		100.0	1.6	63.6	0.5	0.0	3.8	7.6	0.5	0.0	1.1	13.0	16.8
その他	30	4	8	1	3	1	1	0	1	0	10	11	
	100.0	13.3	26.7	3.3	10.0	3.3	3.3	0.0	3.3	0.0	33.3	36.7	
無回答	68	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	67	
	100.0	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	98.5	

【学年別】



お世話を必要としている人の状況は、中学2年生、高校2年生ともに「幼い」がそれぞれ32.1%、27.5%で最も高く、次いで「高齢(65歳以上)」(13.9%、13.3%)となっている。以下、中学2年生は「身体障害」(8.6%)、「知的障害」(5.7%)が続き、高校2年生は「要介護(介護が必要な状態)」(5.7%)、「身体障害」(5.2%)が続いている。

b) お世話している内容

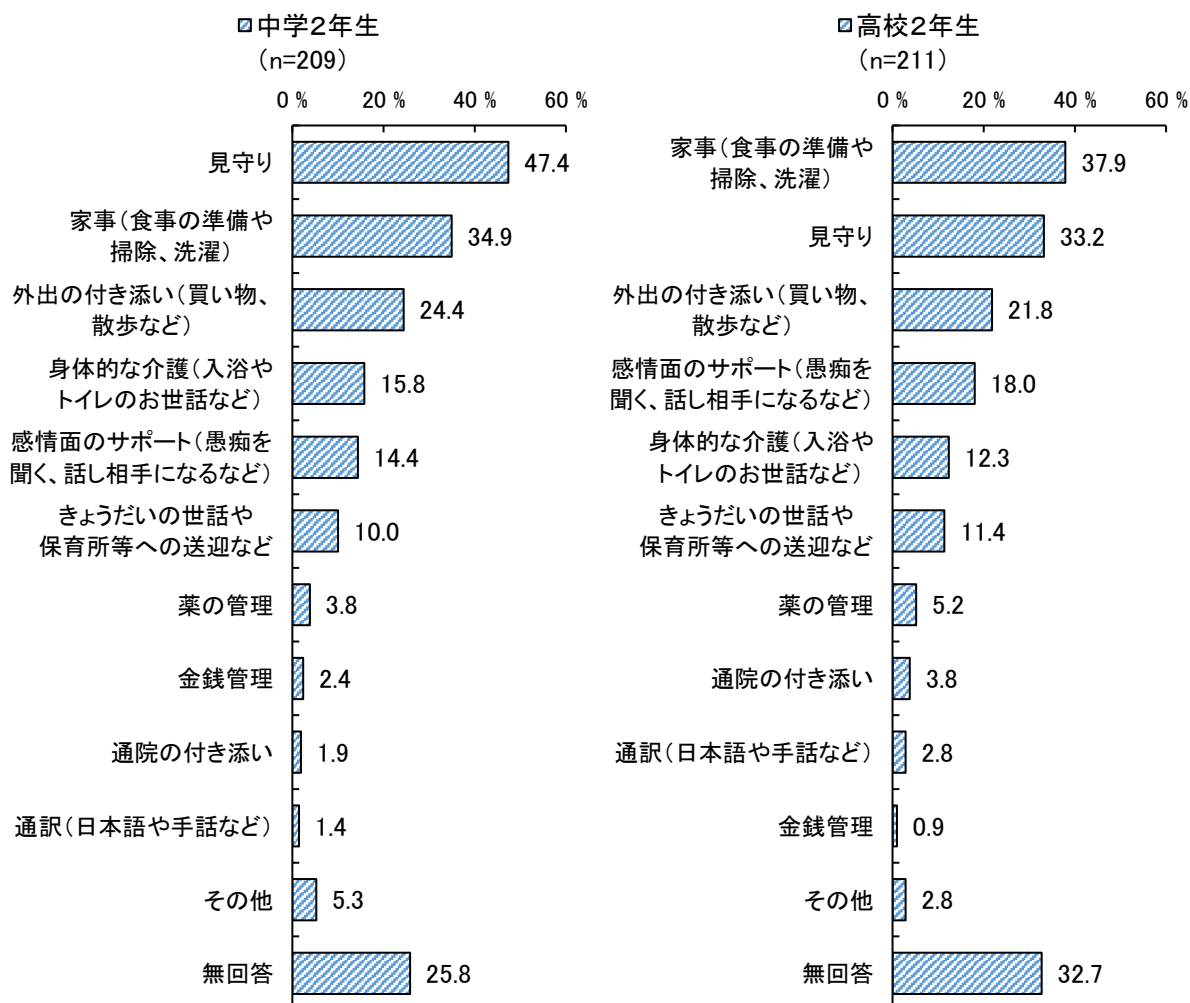


お世話している内容は、「見守り」が40.2%で最も高く、次いで「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」（36.4%）、「外出の付き添い（買い物、散歩など）」（23.1%）、「感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）」（16.2%）、「身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）」（14.0%）、「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」（10.7%）となっている。

参考結果：お世話対象別お世話の内容

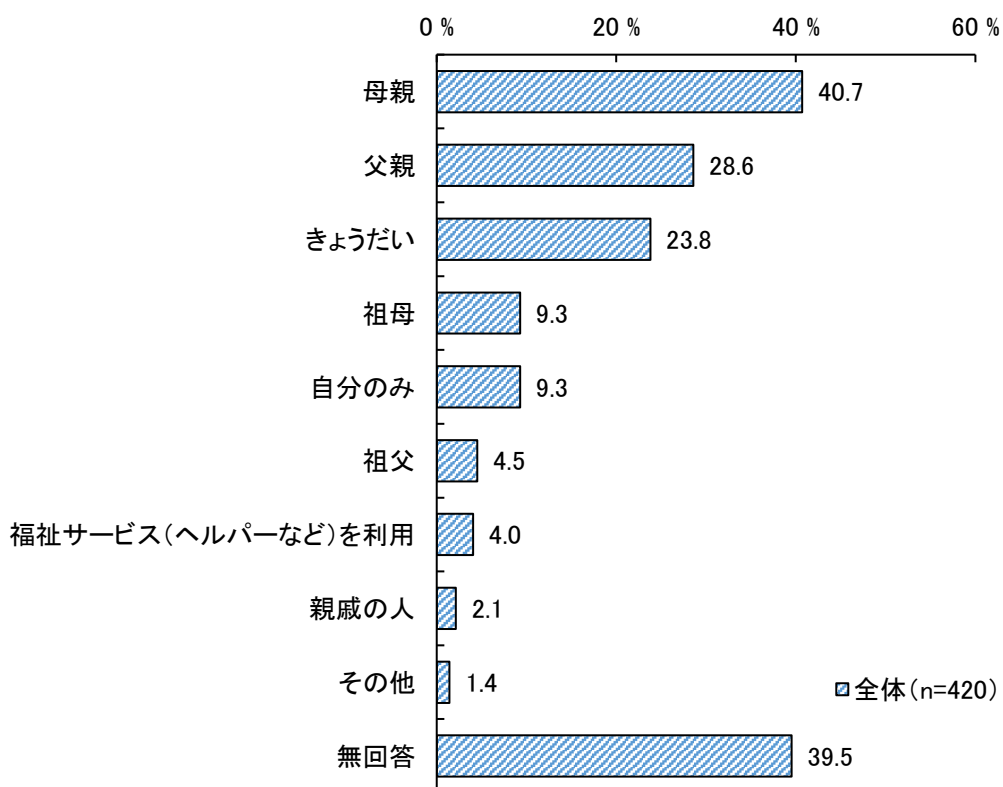
上段：回答数 下段：割合 (%)	合計	家事(食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)	外出の付き添い(買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	見守り	通訳(日本語や手話など)	金銭管理	薬の管理	その他	無回答	
全体	420 100.0	153 36.4	45 10.7	59 14.0	97 23.1	12 2.9	68 16.2	169 40.2	9 2.1	7 1.7	19 4.5	17 4.0	123 29.3	
問12 ①お世話を必要としている方	母親	106 100.0	52 49.1	3 2.8	15 14.2	25 23.6	4 3.8	16 15.1	7 6.6	2 1.9	5 4.7	4 3.8	38 35.8	
	父親	57 100.0	23 40.4	3 5.3	10 17.5	12 21.1	1 1.8	8 14.0	3 5.3	1 1.8	3 5.3	2 3.5	23 40.4	
	祖母	60 100.0	21 35.0	1 1.7	4 6.7	16 26.7	1 1.7	16 26.7	27 45.0	1 1.7	3 5.0	4 6.7	4 6.7	11 18.3
	祖父	32 100.0	13 40.6	0 0.0	5 15.6	9 28.1	2 6.3	6 18.8	13 40.6	0 0.0	1 3.1	4 12.5	3 9.4	5 15.6
	きょうだい	184 100.0	80 43.5	45 24.5	33 17.9	55 29.9	6 3.3	38 20.7	117 63.6	2 1.1	3 1.6	6 3.3	12 6.5	15 8.2
	その他	30 100.0	15 50.0	0 0.0	8 26.7	9 30.0	1 3.3	4 13.3	13 43.3	0 0.0	0 0.0	3 10.0	5 16.7	6 20.0
	無回答	68 100.0	0 0.0	0 0.0	1 1.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	67 98.5

## 【学年別】



お世話している内容は、中学2年生では「見守り」が47.4%で最も高く、次いで「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」（34.9%）、「外出の付き添い（買い物、散歩など）」（24.4%）、「身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）」（15.8%）、「感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）」（14.4%）、「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」（10.0%）となっている。高校2年生では「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」が37.9%で最も高く、次いで「見守り」（33.2%）、「外出の付き添い（買い物、散歩など）」（21.8%）、「感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）」（18.0%）、「身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）」（12.3%）、「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」（11.4%）となっている。

### ③お世話を一緒にしている人

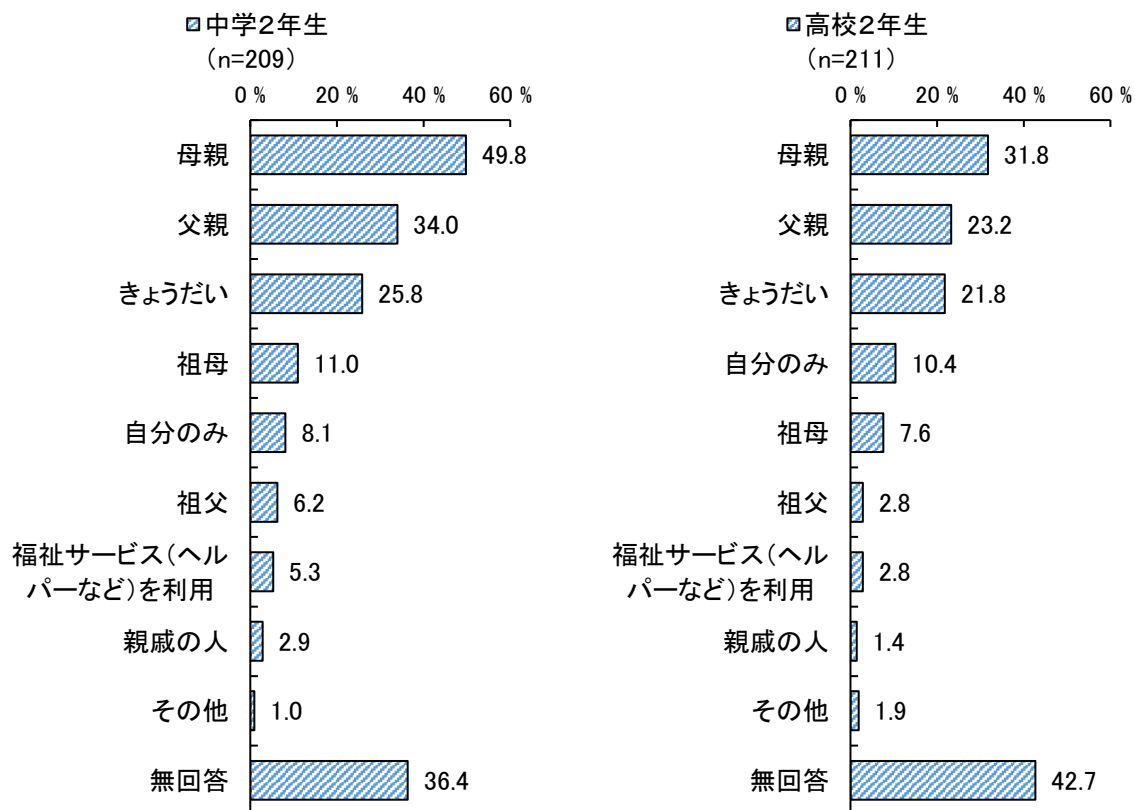


お世話を一緒にしている人は、「母親」が40.7%で最も高く、次いで「父親」(28.6%)、「きょうだい」(23.8%)となっている。また、「自分のみ」(9.3%)は、約1割となっている。

### 参考結果：お世話対象別お世話を一緒にしている人

上段：回答数 下段：割合 (%)	合計	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	親戚の人	自分のみ	福祉サービス(ヘルパーなど)を利用	その他	無回答	
		全体	420 100.0	171 40.7	120 28.6	39 9.3	19 4.5	100 23.8	9 2.1	39 9.3	17 4.0	6 1.4
問12 ①お世話を必要としている方	母親	106 100.0	23 21.7	19 17.9	7 6.6	2 1.9	18 17.0	2 1.9	14 13.2	2 1.9	1 0.9	54 50.9
	父親	57 100.0	15 26.3	13 22.8	2 3.5	1 1.8	7 12.3	1 1.8	6 10.5	2 3.5	1 1.8	31 54.4
	祖母	60 100.0	26 43.3	18 30.0	7 11.7	5 8.3	10 16.7	4 6.7	5 8.3	6 10.0	2 3.3	17 28.3
	祖父	32 100.0	17 53.1	13 40.6	11 34.4	3 9.4	4 12.5	2 6.3	1 3.1	5 15.6	1 3.1	8 25.0
	きょうだい	184 100.0	113 61.4	80 43.5	20 10.9	13 7.1	62 33.7	3 1.6	20 10.9	2 1.1	2 1.1	37 20.1
	その他	30 100.0	12 40.0	5 16.7	2 6.7	0 0.0	11 36.7	0 0.0	6 20.0	2 6.7	3 10.0	8 26.7
	無回答	68 100.0	1 1.5	2 2.9	0 0.0	0 0.0	2 2.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.5	65 95.6

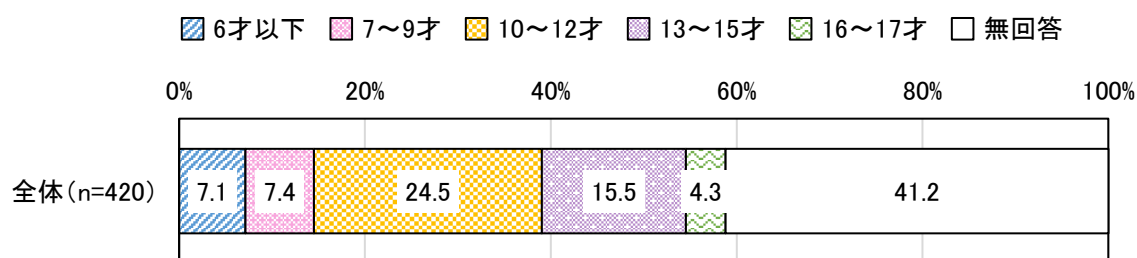
【学年別】



お世話を一緒にしている人は、中学2年生、高校2年生ともに「母親」がそれぞれ49.8%、31.8%で最も高く、次いで「父親」(34.0%、23.2%)、「きょうだい」(25.8%、21.8%)となっている。



#### ④お世話を始めた年齢

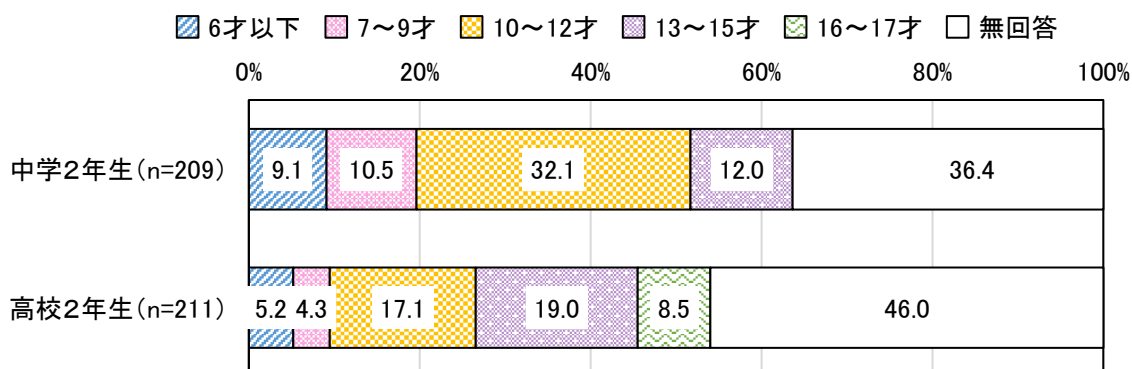


お世話を始めた年齢は、「10~12才」が24.5%で最も高く、次いで「13~15才」(15.5%)、「7~9才」(7.4%)、「6歳以下」(7.1%)となっている。

#### 参考結果：お世話対象別お世話を始めた年齢

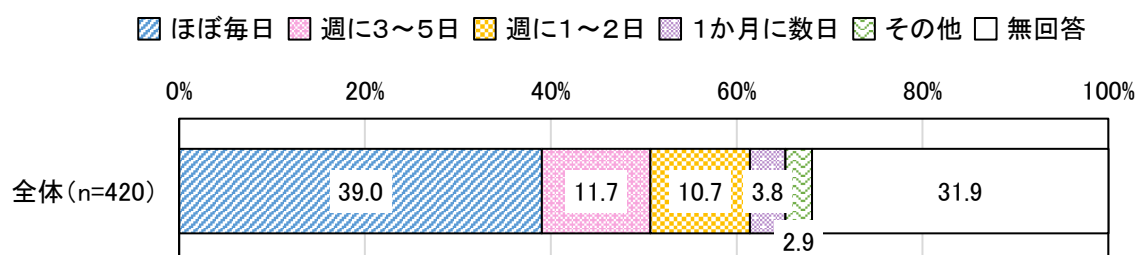
上段：回答数 下段：割合 (%)		合計	6才以下	7~9才	10~12才	13~15才	16~17才	無回答
全体		420	30	31	103	65	18	173
		100.0	7.1	7.4	24.5	15.5	4.3	41.2
問12 ① お世話を必要としている方	母親	106	5	7	24	10	3	57
		100.0	4.7	6.6	22.6	9.4	2.8	53.8
	父親	57	2	1	12	5	3	34
		100.0	3.5	1.8	21.1	8.8	5.3	59.6
	祖母	60	5	1	10	20	3	21
		100.0	8.3	1.7	16.7	33.3	5.0	35.0
	祖父	32	3	2	6	6	3	12
		100.0	9.4	6.3	18.8	18.8	9.4	37.5
きょうだい	184	23	19	62	34	7	39	
	100.0	12.5	10.3	33.7	18.5	3.8	21.2	
その他	30	1	3	10	5	0	11	
	100.0	3.3	10.0	33.3	16.7	0.0	36.7	
無回答	68	0	1	0	0	2	65	
	100.0	0.0	1.5	0.0	0.0	2.9	95.6	

#### 【学年別】



お世話を始めた年齢は、中学2年生では「10~12才」が32.1%で最も高く、次いで「13~15才」(12.0%)、「7~9才」(10.5%)となっている。高校2年生では「13~15才」が19.0%で最も高く、次いで「10~12才」(17.1%)、「16~17才」(8.5%)となっている。

### ⑤お世話の頻度

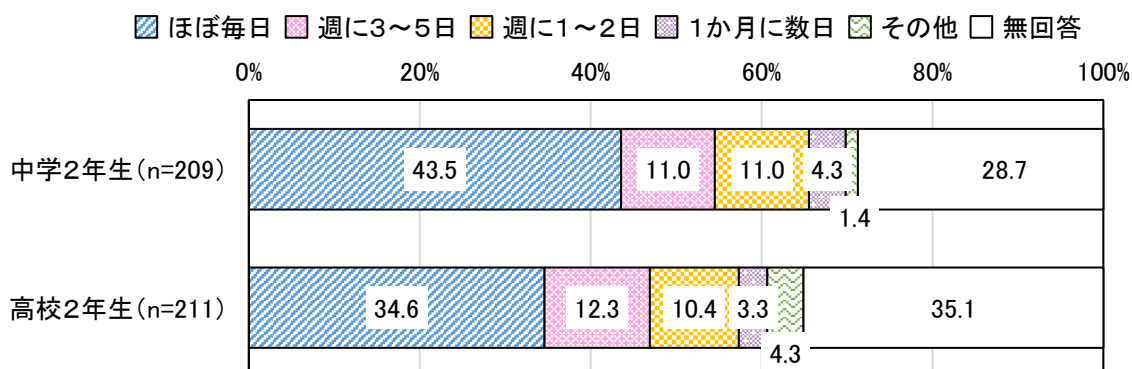


お世話の頻度は、「ほぼ毎日」が39.0%で最も高く、次いで「週に3～5日」(11.7%)、「週に1～2日」(10.7%)となっている。

### 参考結果：お世話対象別お世話の頻度

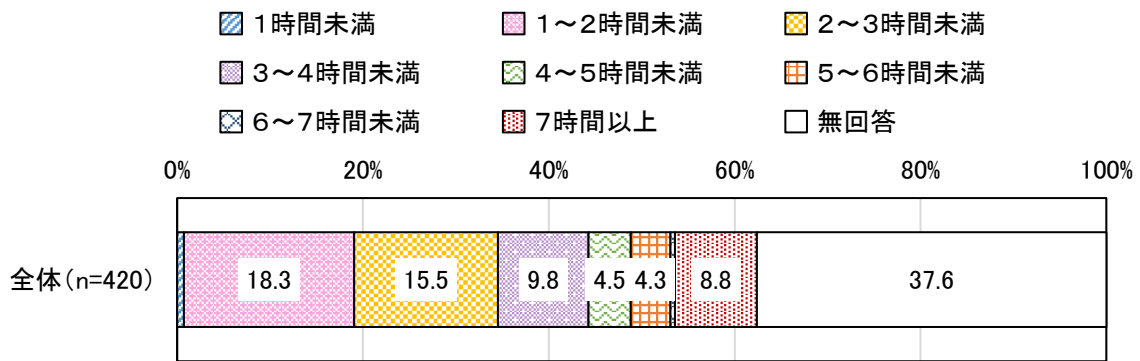
上段：回答数 下段：割合 (%)		合計	ほぼ毎日	週に3～5日	週に1～2日	1か月に数日	その他	無回答
全体		420	164	49	45	16	12	134
		100.0	39.0	11.7	10.7	3.8	2.9	31.9
問12 ①お世話を必要としている方	母親	106	35	14	5	2	6	44
		100.0	33.0	13.2	4.7	1.9	5.7	41.5
	父親	57	16	8	3	0	3	27
		100.0	28.1	14.0	5.3	0.0	5.3	47.4
	祖母	60	24	7	12	5	4	8
		100.0	40.0	11.7	20.0	8.3	6.7	13.3
	祖父	32	9	4	6	4	2	7
		100.0	28.1	12.5	18.8	12.5	6.3	21.9
きょうだい	184	101	25	23	6	3	26	
	100.0	54.9	13.6	12.5	3.3	1.6	14.1	
その他	30	13	2	5	0	3	7	
	100.0	43.3	6.7	16.7	0.0	10.0	23.3	
無回答	68	0	1	1	0	1	65	
	100.0	0.0	1.5	1.5	0.0	1.5	95.6	

### 【学年別】



お世話の頻度は、中学2年生、高校2年生ともに「ほぼ毎日」がそれぞれ43.5%、34.6%で最も高く、次いで「週に3～5日」(11.0%、12.3%)、「週に1～2日」(11.0%、10.4%)となっている。

⑥平日1日あたりにお世話に費やす時間

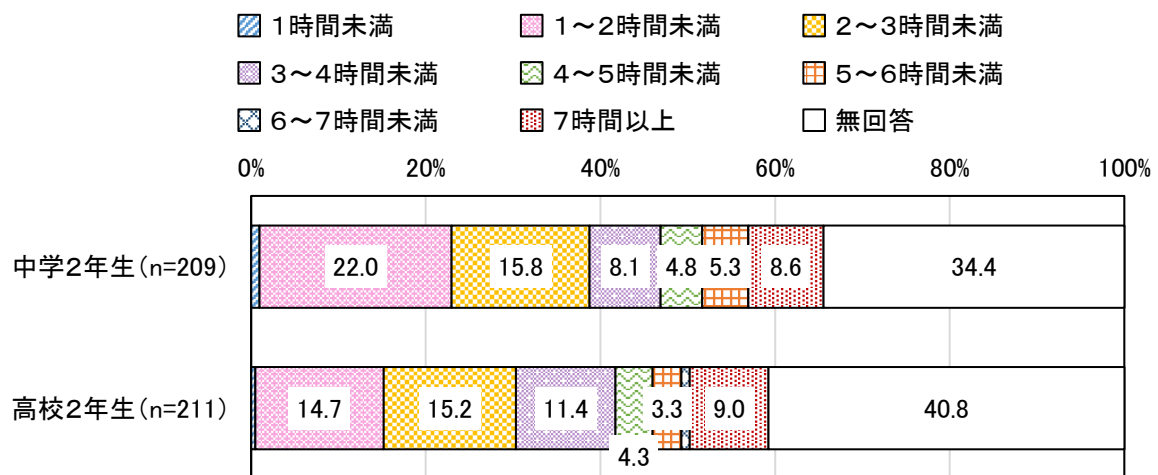


平日1日あたりにお世話に費やす時間は、「1~2時間未満」が18.3%で最も高く、次いで「2~3時間未満」(15.5%)、「3~4時間未満」(9.8%)、「7時間以上」(8.8%)となっている。

参考結果：お世話対象別平日1日あたりにお世話に費やす時間

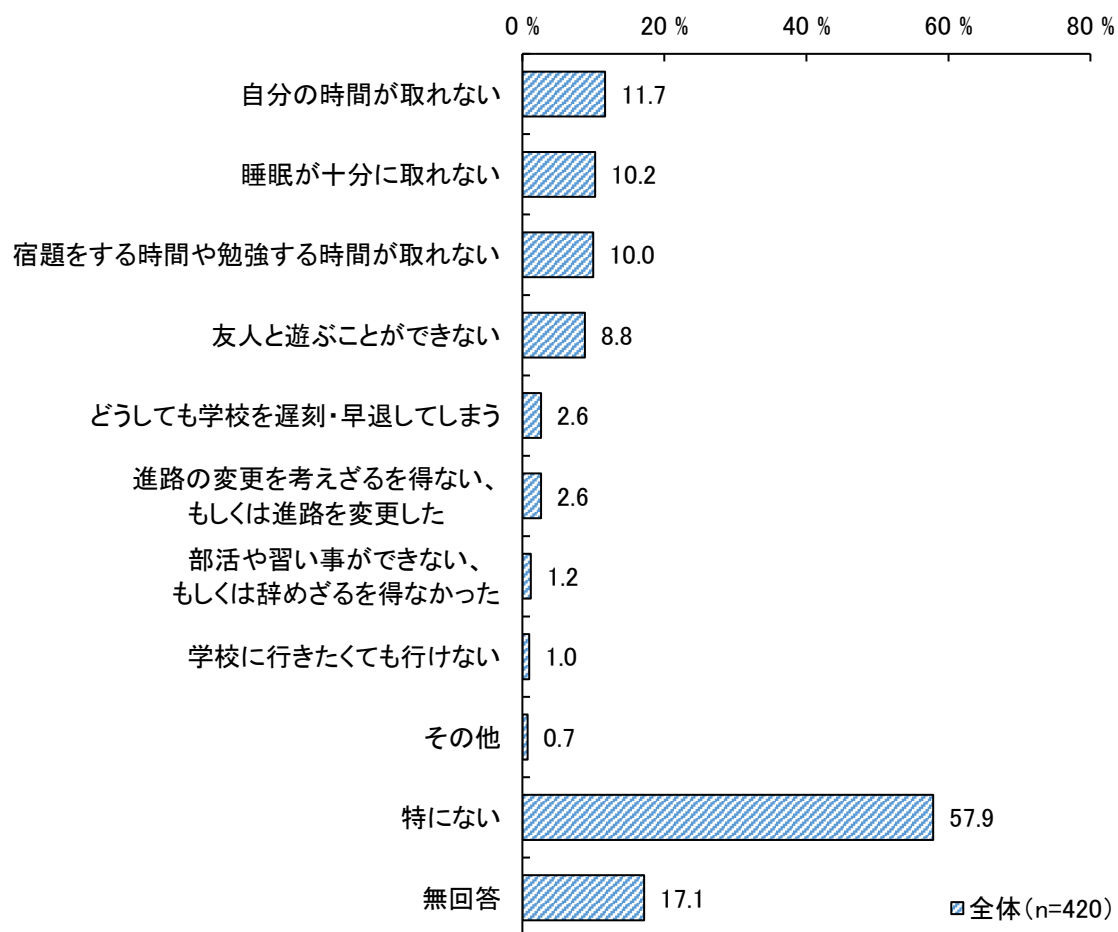
		上段：回答数	合計	1時間未満	1~2時間未満	2~3時間未満	3~4時間未満	4~5時間未満	5~6時間未満	6~7時間未満	7時間以上	無回答
		下段：割合 (%)										
全体			420	3	77	65	41	19	18	2	37	158
			100.0	0.7	18.3	15.5	9.8	4.5	4.3	0.5	8.8	37.6
問12 ①お世話を必要としている方	母親		106	0	18	19	9	6	2	1	3	48
			100.0	0.0	17.0	17.9	8.5	5.7	1.9	0.9	2.8	45.3
	父親		57	1	9	7	4	4	0	0	1	31
			100.0	1.8	15.8	12.3	7.0	7.0	0.0	0.0	1.8	54.4
	祖母		60	1	21	14	5	0	2	2	3	12
			100.0	1.7	35.0	23.3	8.3	0.0	3.3	3.3	5.0	20.0
	祖父		32	1	9	7	2	0	0	1	3	9
			100.0	3.1	28.1	21.9	6.3	0.0	0.0	3.1	9.4	28.1
きょうだい		184	1	37	26	26	15	13	1	26	39	
		100.0	0.5	20.1	14.1	14.1	8.2	7.1	0.5	14.1	21.2	
その他		30	0	5	5	1	1	1	0	4	13	
		100.0	0.0	16.7	16.7	3.3	3.3	3.3	0.0	13.3	43.3	
無回答		68	0	0	1	0	0	0	0	1	66	
		100.0	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	97.1	

【学年別】



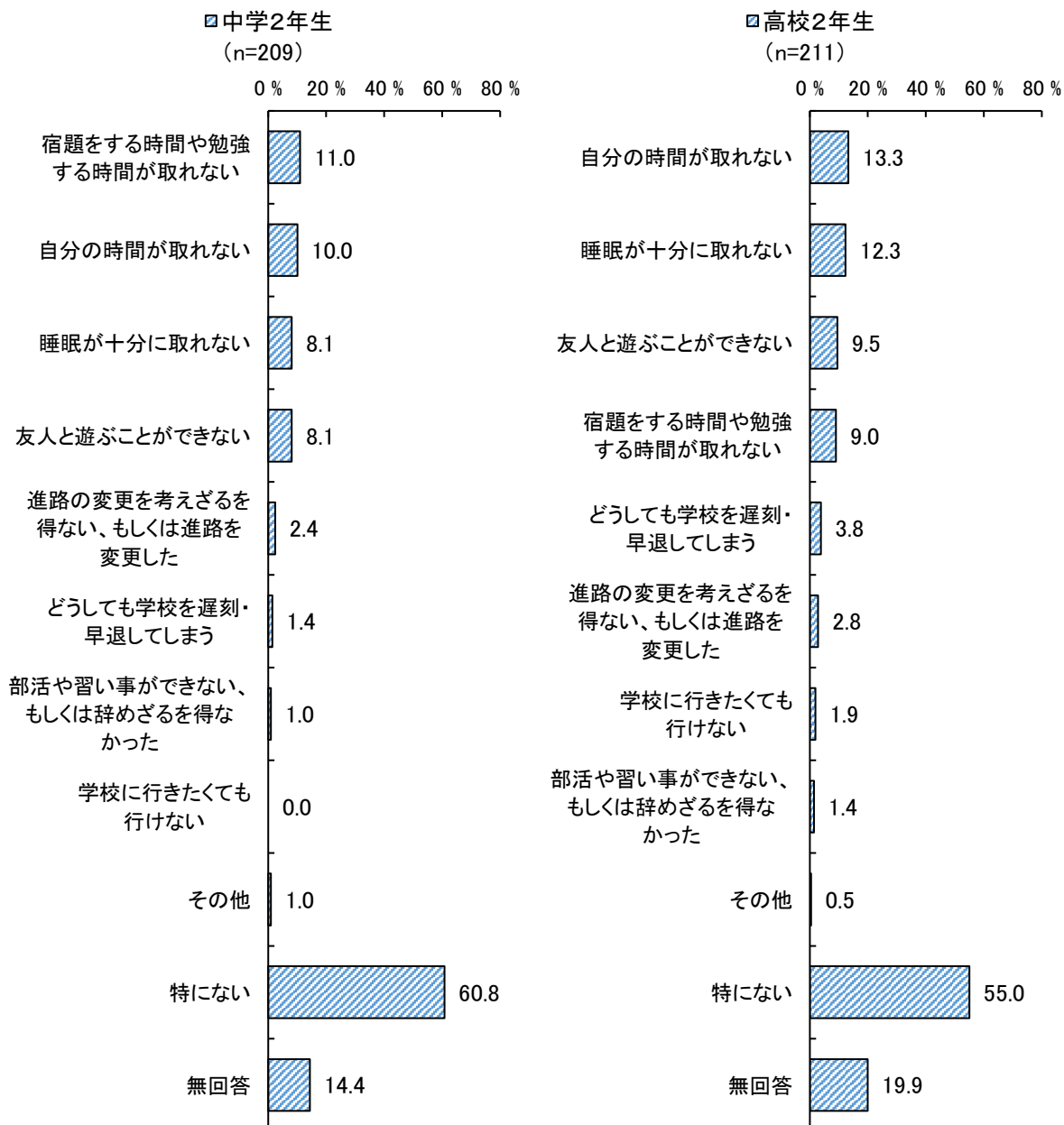
平日1日あたりにお世話を費やす時間は、中学2年生では「1～2時間未満」が22.0%で最も高く、次いで「2～3時間未満」(15.8%)、「7時間以上」(8.6%)、「3～4時間未満」(8.1%)となっている。高校2年生では「2～3時間未満」が15.2%で最も高く、次いで、「1～2時間未満」(14.7%)、「3～4時間未満」(11.4%)、「7時間以上」(9.0%)となっている。

問 13 お世話しているためにやりたいけどできないこと



お世話しているために、やりたいけどできないことは、「特にない」が 57.9% を占めている。具体的な選択肢の中では、「自分の時間が取れない」が 11.7% で最も高く、「睡眠が十分に取れない」(10.2%)、「宿題など勉強する時間がない」(10.0%)、「友人と遊ぶことができない」(8.8%) となっている。

【学年別】



お世話しているために、やりたいけどできないことは、中学2年生、高校2年生ともに「特にな

ない」がそれぞれ60.8%、55.0%で半数以上を占めている。具体的な選択肢の中では、中学2

年生は「宿題など勉強する時間がない」が11.0%で最も高く、「自分の時間が取れない

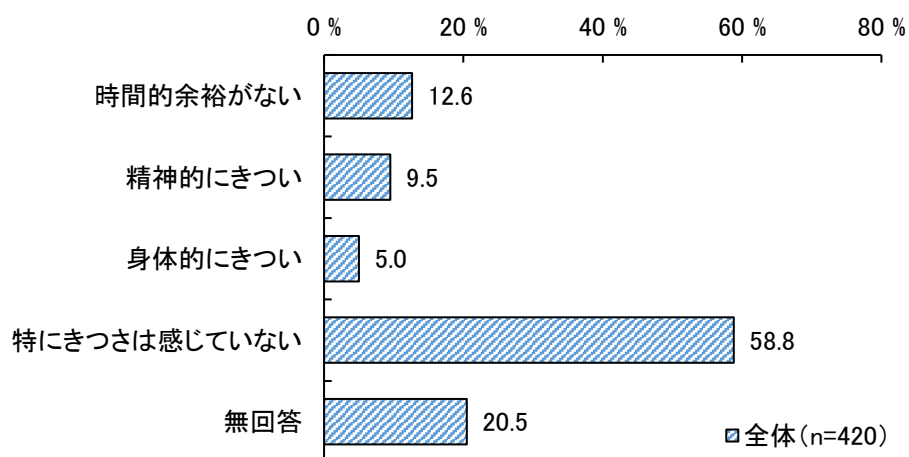
(10.0%)、「睡眠が十分に取れない」(8.1%)、「友人と遊ぶことができない」(8.1%)となっ

ている。高校2年生は「自分の時間が取れない」が13.3%で最も高く、「睡眠が十分に取れない

(12.3%)、「友人と遊ぶことができない」(9.5%)、「宿題など勉強する時間がない」(9.0%)と

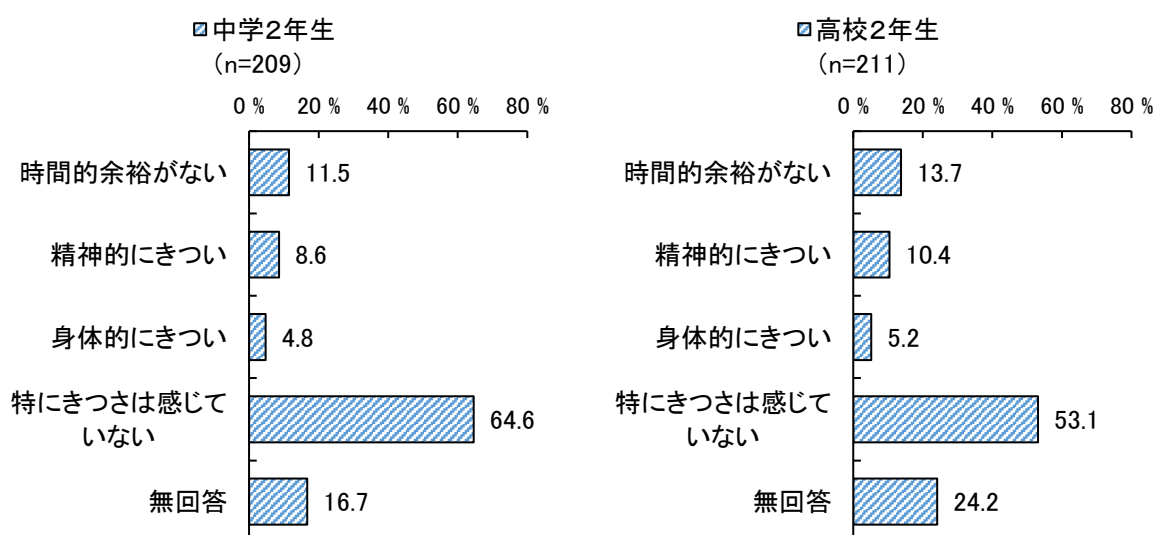
なっている。

## 問 14 お世話することのきつさ



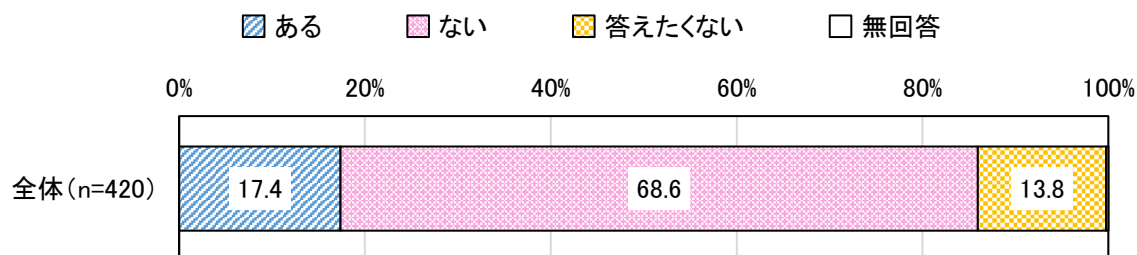
お世話することのきつさは、「特にきつさは感じていない」が58.8%を占めている。具体的な選択肢の中では、「時間的余裕がない」が12.6%で最も高く、次いで「精神的にきつい」(9.5%)、「身体的にきつい」(5.0%)となっている。

### 【学年別】



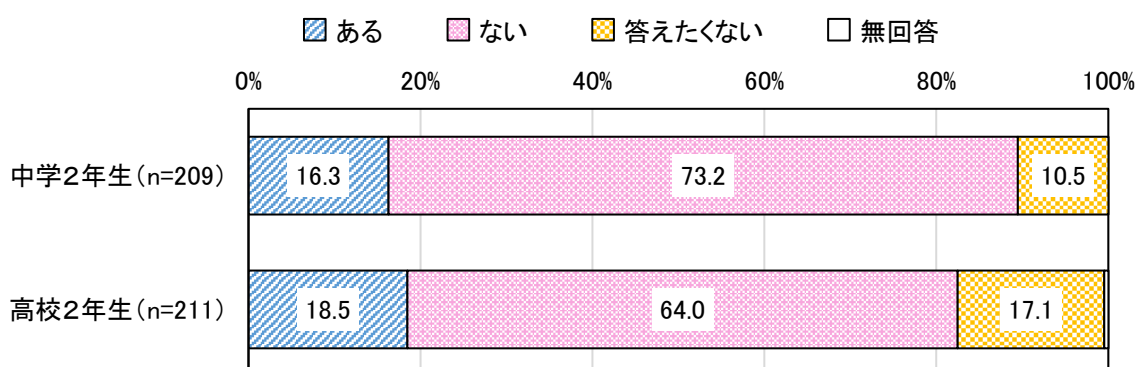
お世話することのきつさは、中学2年生、高校2年生ともに「特にきつさは感じていない」がそれぞれ64.6%、53.1%で半数以上を占めている。具体的な選択肢の中では、「時間的余裕がない」がそれぞれ11.5%、13.7%で最も高く、次いで「精神的にきつい」(8.6%、10.4%)、「身体的にきつい」(4.8%、5.2%)となっている。

### 問 15 お世話している家族のことや、お世話の悩みを相談した経験



お世話している家族のことや、お世話の悩みを相談した経験は、「ある」が17.4%、「ない」が68.6%、「答えたくない」が13.8%となっている。

#### 【学年別】



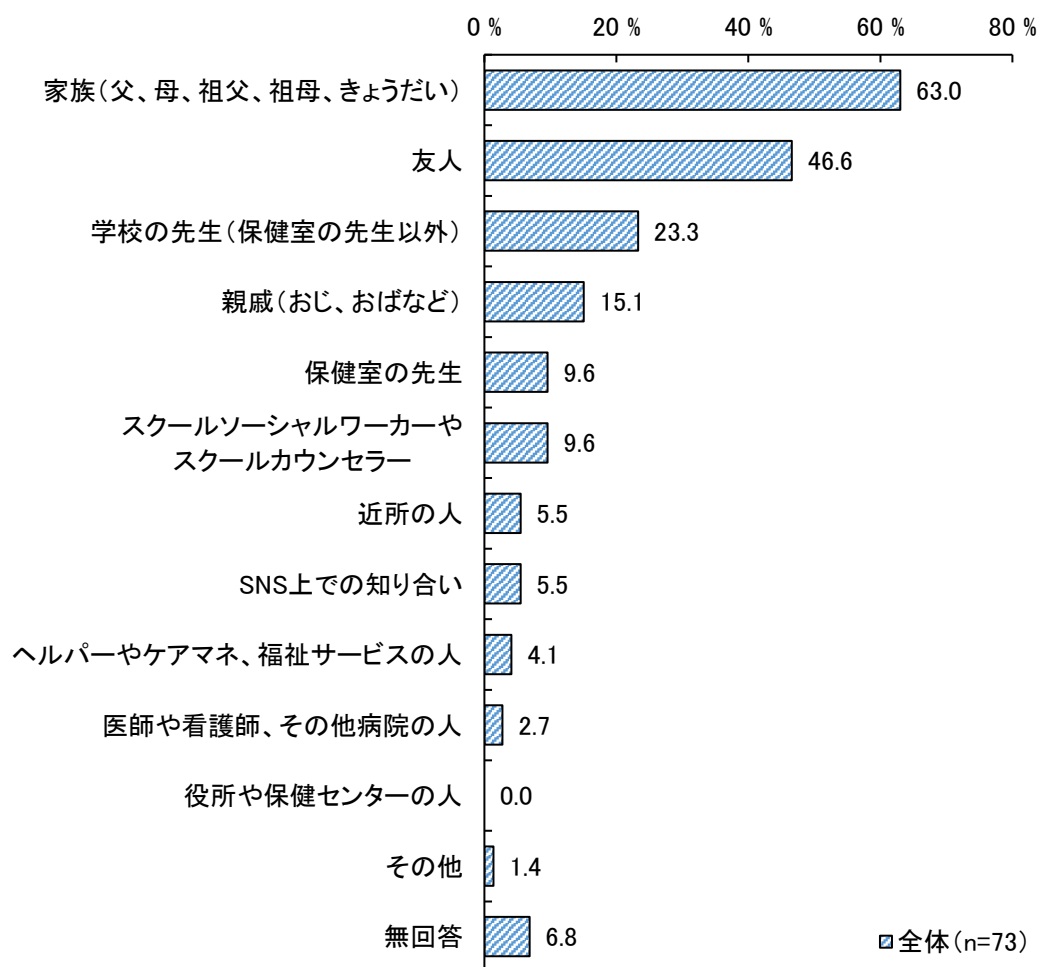
お世話している家族のことや、お世話の悩みを相談した経験は、中学2年生では「ある」が16.3%、「ない」が73.2%、「答えたくない」が10.5%となっている。高校2年生では「ある」が18.5%、「ない」が64.0%、「答えたくない」が17.1%となっている。

#### 参考結果：悩みの相談相手の有無別のお世話の悩みを相談した経験

上段：回答数 下段：割合 (%)		合計	ある	ない	答えたくない	無回答
全体		420	73	288	58	1
		100.0	17.4	68.6	13.8	0.2
問10 悩みの 相談 相手の 有無	相談相手や話を聞いてくれる人がいる	161	41	104	16	0
		100.0	25.5	64.6	9.9	0.0
	相談相手や話を聞いてくれる人がいない	25	4	20	1	0
		100.0	16.0	80.0	4.0	0.0
	相談や話はしたくない	81	11	55	15	0
		100.0	13.6	67.9	18.5	0.0
	無回答	3	0	1	2	0
		100.0	0.0	33.3	66.7	0.0

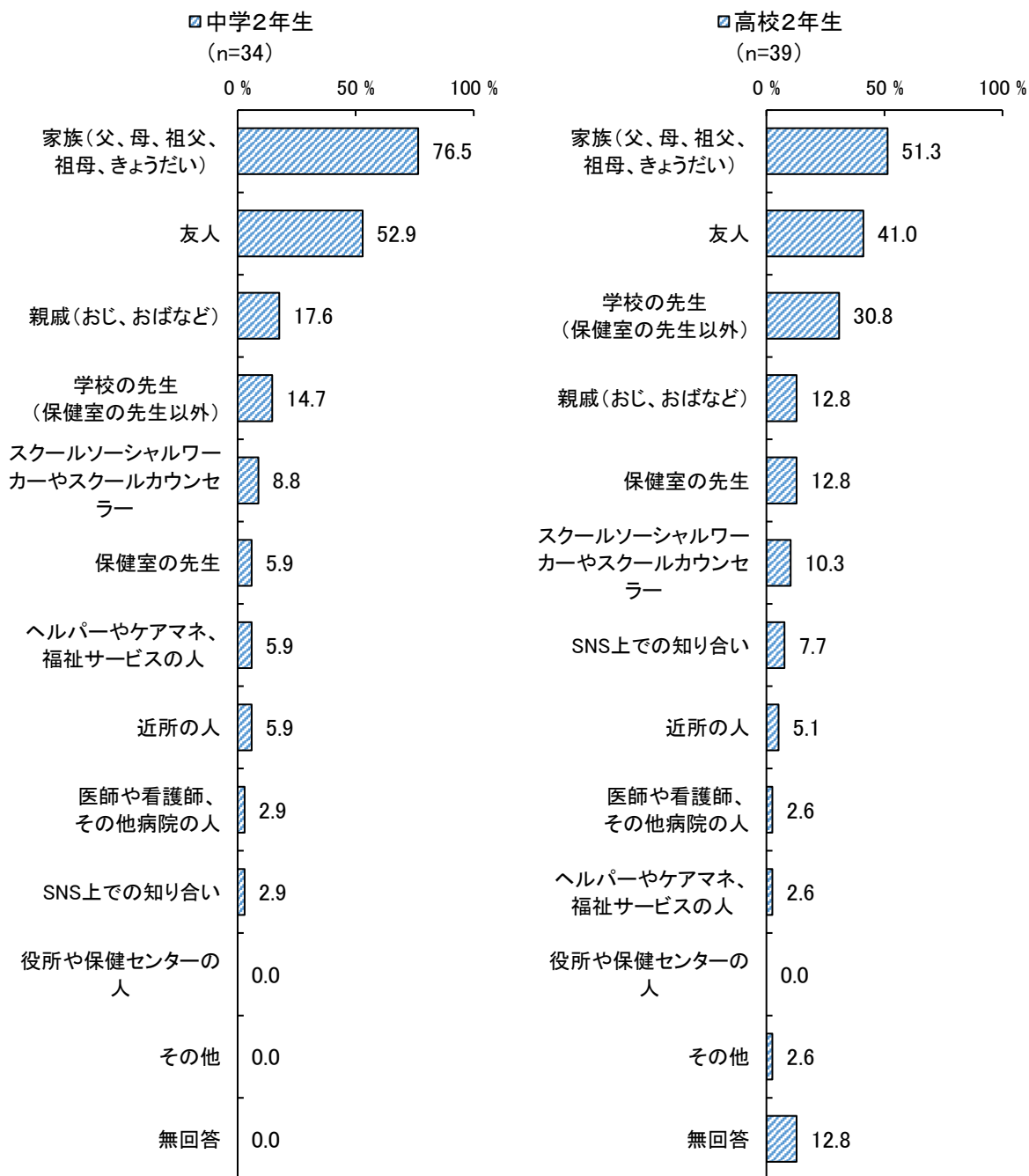


問 16 お世話についての相談相手（問 15 で「ある」と回答した人）



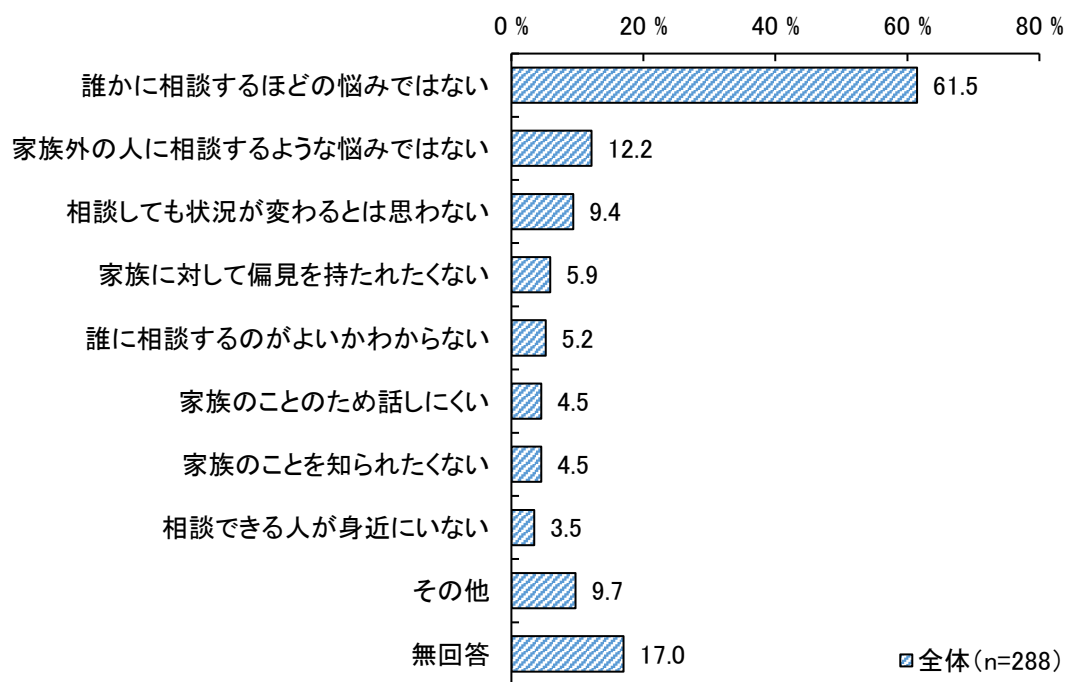
お世話についての相談相手は、「家族（父、母、祖父、祖母、きょうだい）」が 63.0%で最も高く、次いで「友人」（46.6%）、「学校の先生（保健室の先生以外）」（23.3%）、「親戚（おじ、おばなど）」（15.1%）となっている。

【学年別】



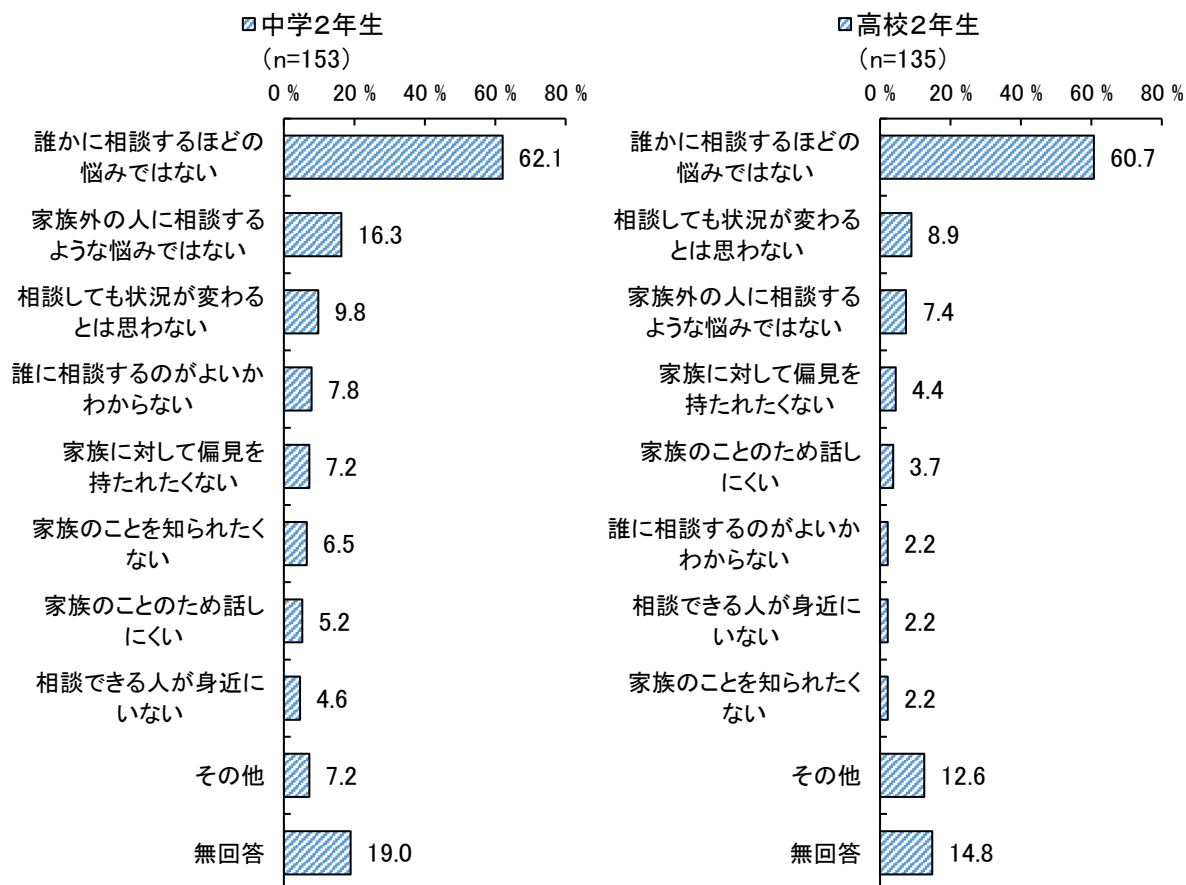
お世話についての相談相手は、中学2年生では「家族（父、母、祖父、祖母、きょうだい）」が76.5%で最も高く、次いで「友人」（52.9%）、「親戚（おじ、おばなど）」（17.6%）「学校の先生（保健室の先生以外）」（14.7%）となっている。高校2年生では「家族（父、母、祖父、祖母、きょうだい）」が51.3%で最も高く、次いで「友人」（41.0%）、「学校の先生（保健室の先生以外）」（30.8%）、「親戚（おじ、おばなど）」、「保健室の先生」（ともに12.8%）となっている。

問 17 お世話について相談していない理由（問 15 で「ない」と回答した人）



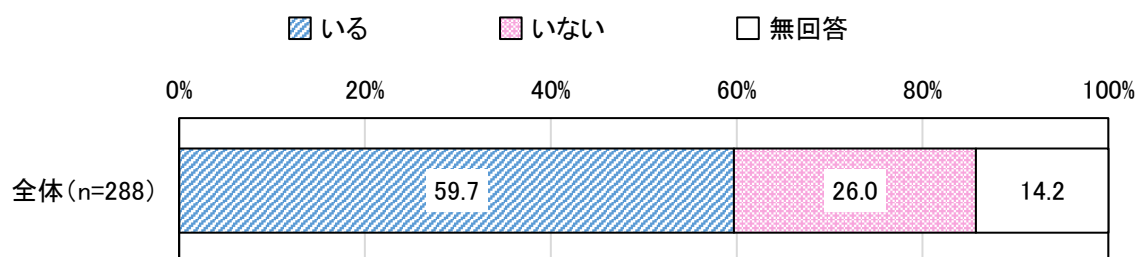
お世話について相談していない理由は、「誰かに相談するほどの悩みではない」が 61.5%で最も高く、次いで「家族外の人に相談するような悩みではない」(12.2%)、「相談しても状況が変わると思わない」(9.4%) となっている。

【学年別】



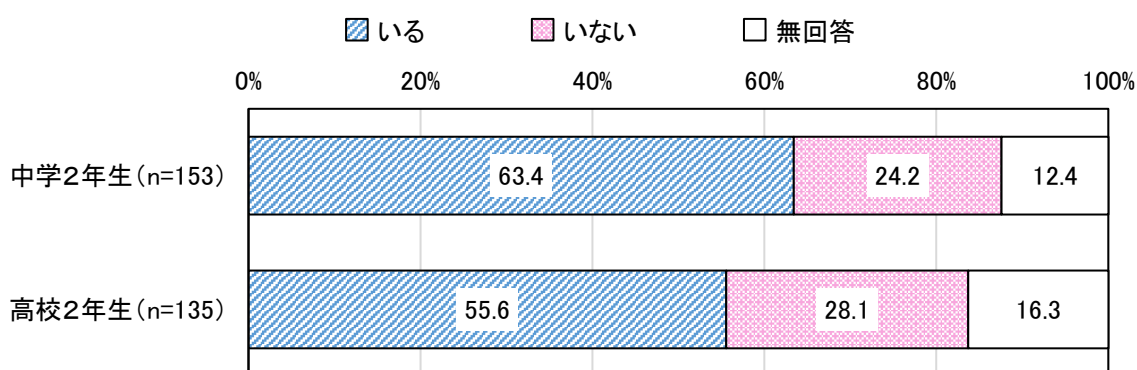
お世話について相談していない理由は、中学2年生、高校2年生ともに「誰かに相談するほどの悩みではない」がそれぞれ62.1%、60.7%で最も高く、次いで、中学2年生では「家族外の人に相談するような悩みではない」(16.3%)、「相談しても状況が変わるとは思わない」(9.8%)、高校2年生では「相談しても状況が変わるとは思わない」(8.9%)、「家族外の人に相談するような悩みではない」(7.4%)となっている。

問 18 お世話について相談できる人の有無（問 15 で「ない」と回答した人）



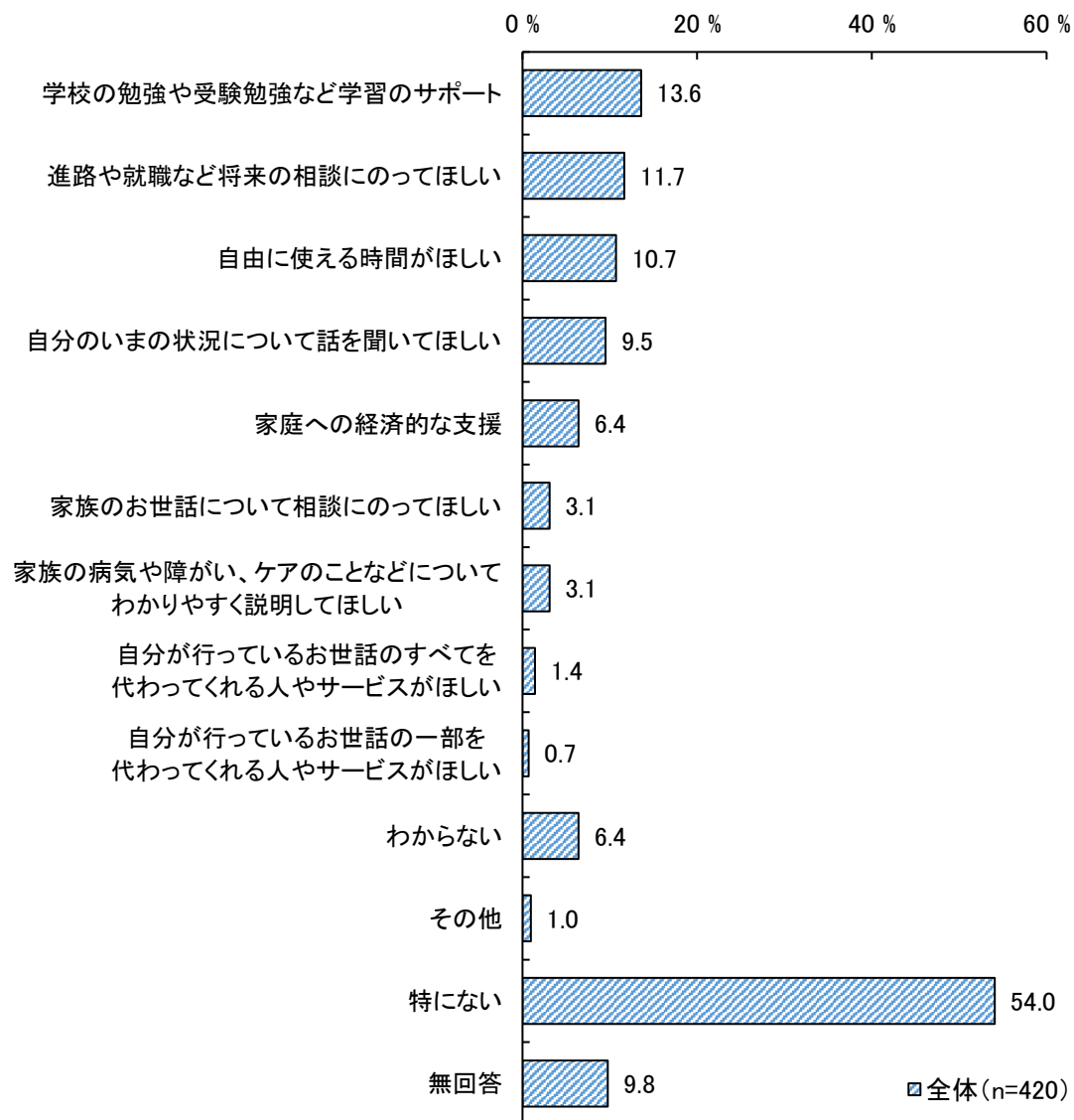
お世話について相談できる人の有無は、「いる」が 59.7%、「いない」が 26.0%となっている。

【学年別】



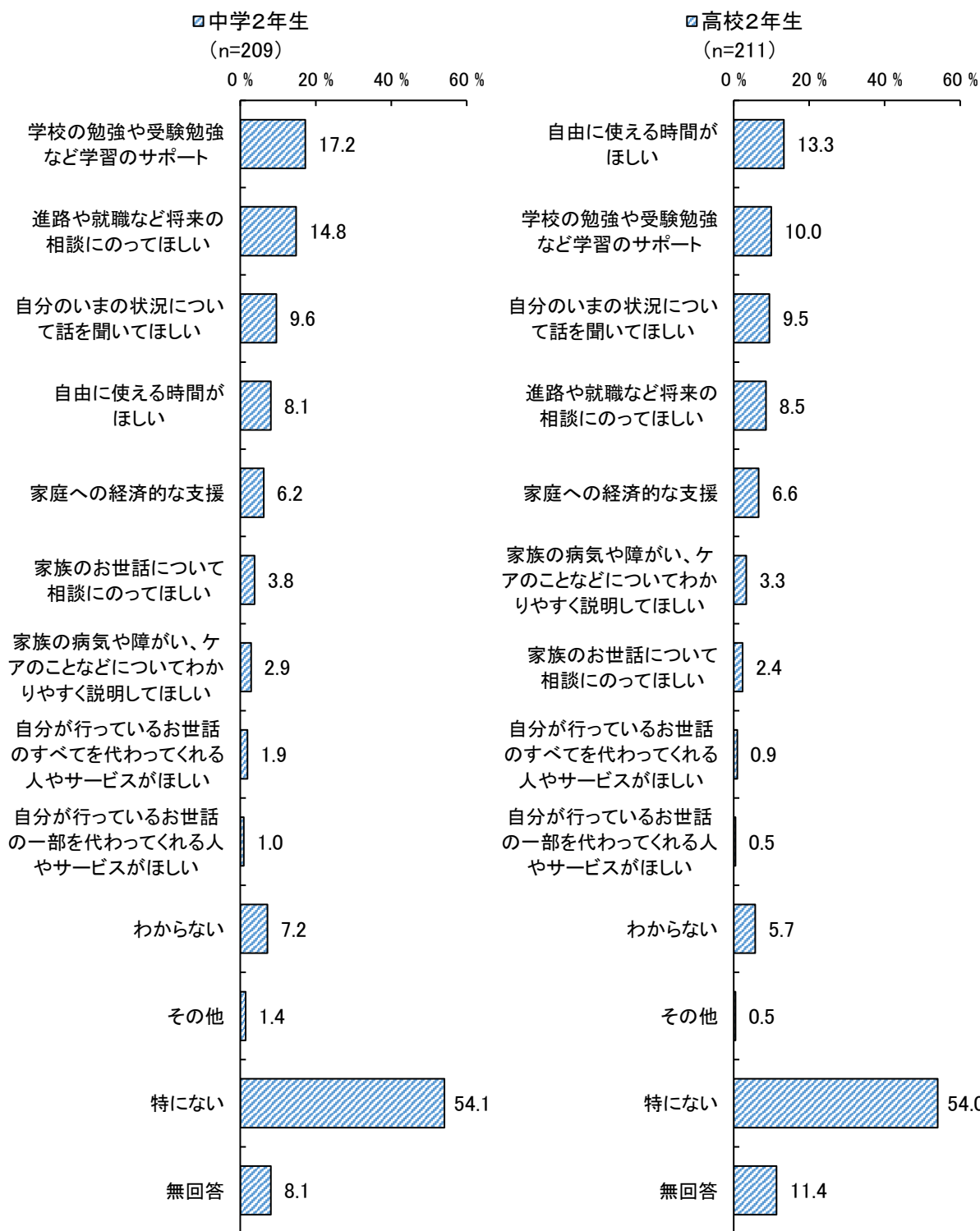
お世話について相談できる人の有無は、中学2年生では、「いる」が 63.4%、「いない」が 24.2%となっている。高校2年生では、「いる」が 55.6%、「いない」が 28.1%となっている。

問 19 学校や周りの大人に助けてほしいことや必要としている支援



学校や周りの大人にしてもらいたいことは、「特にない」が 54.0%を占めている。具体的な選択肢の中では、「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」が 13.6%で最も高く、次いで「進路や就職など将来の相談にのってほしい」(11.7%)、「自由に使える時間がほしい」(10.7%)、「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」(9.5%)となっている。

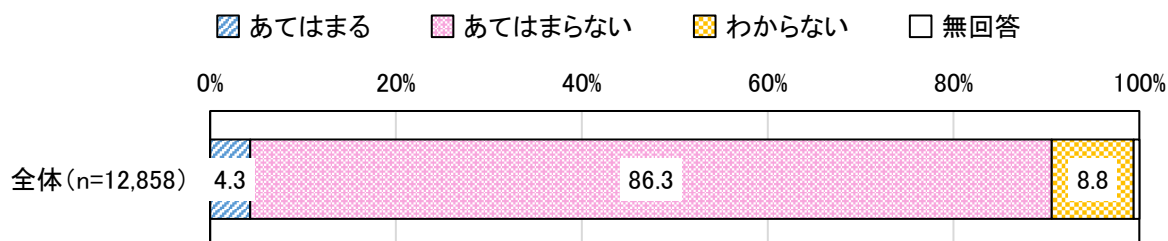
【学年別】



学校や周りの大人にしてもらいたいことは、中学2年生、高校2年生ともに「特になし」がそれぞれ54.1%、54.0%で半数を占めている。具体的な選択肢の中では、中学2年生は「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」が17.2%で最も高く、次いで「進路や就職など将来の相談にのってほしい」(14.8%)が続く、高校2年生は「自由に使える時間がほしい」が13.3%で最も高く、次いで「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」(10.0%)が続いている。

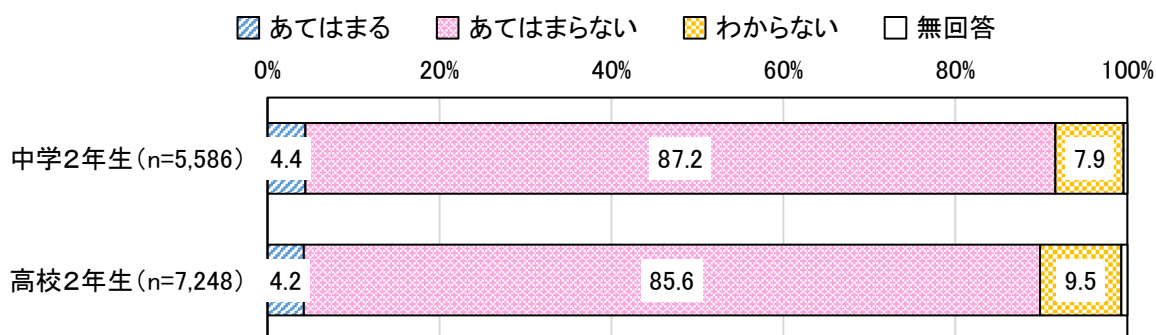
#### (4) ヤングケアラーについて

##### 問 20 「ヤングケアラー」の自覚



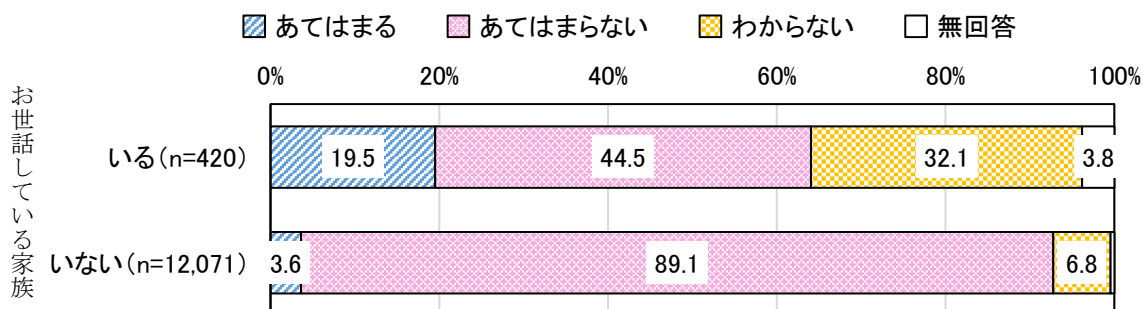
「ヤングケアラー」の自覚は、「あてはまる」が4.3%、「あてはまらない」が86.3%、「わからない」が8.8%となっている。

##### 【学年別】



「ヤングケアラー」の自覚は、中学2年生では「あてはまる」が4.4%、「あてはまらない」が87.2%、「わからない」が7.9%となっている。高校2年生では「あてはまる」が4.2%、「あてはまらない」が85.6%、「わからない」が9.5%となっている。

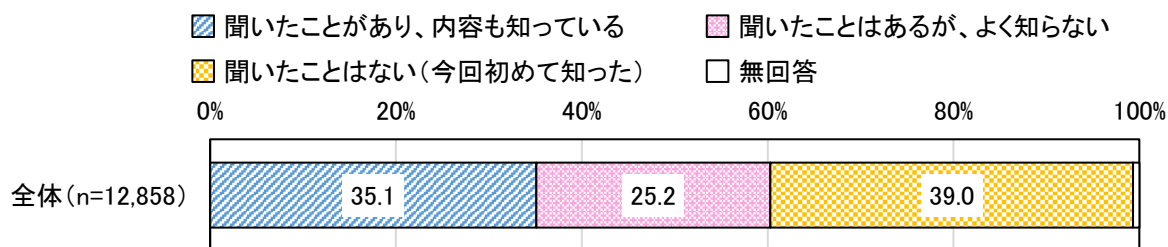
##### 【お世話している家族の有無別】



「あてはまる」の割合は、お世話している家族がいない生徒（3.6%）よりお世話している家族がいる生徒（19.5%）の方が高いが、お世話している家族がいる生徒でも「あてはまらない」と回答した生徒が44.5%存在した。

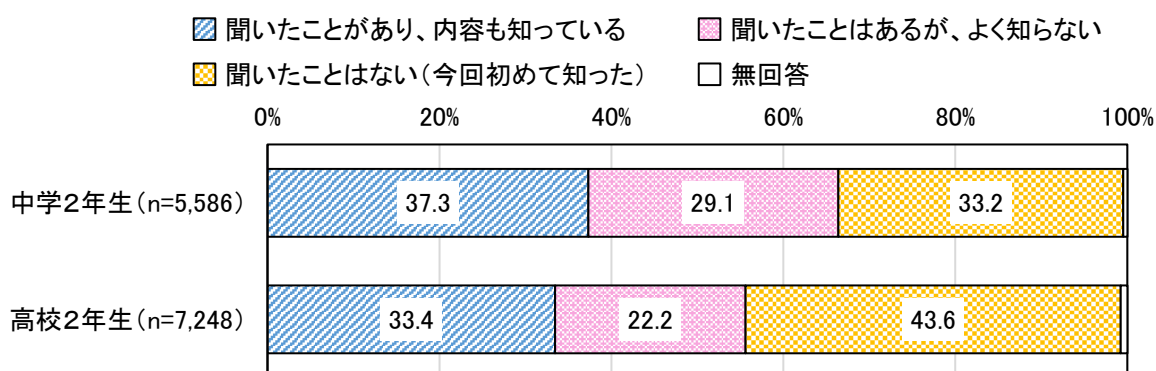


## 問 21 「ヤングケアラー」という言葉の認知度



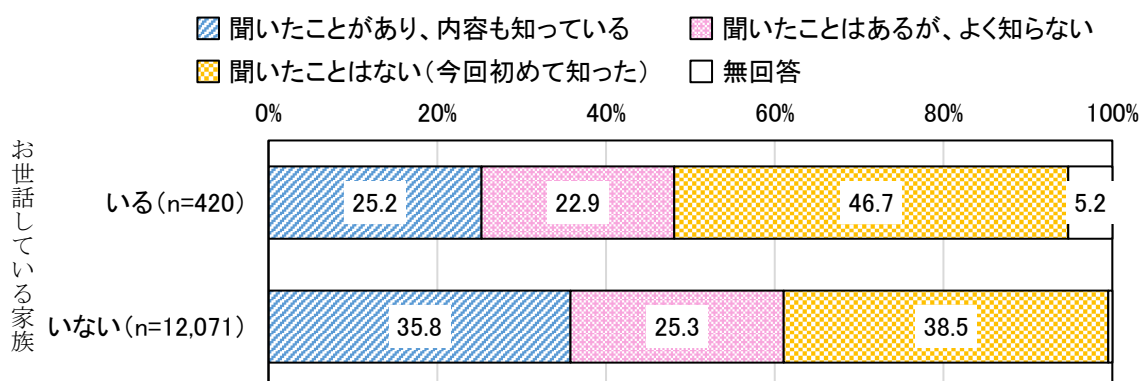
「ヤングケアラー」という言葉の認知度は、「聞いたことがあり、内容も知っている」が35.1%、「聞いたことはあるが、よく知らない」が25.2%、「聞いたことはない(今回初めて知った)」が39.0%となっており、半数以上が聞いたことがあると回答している。

### 【学年別】



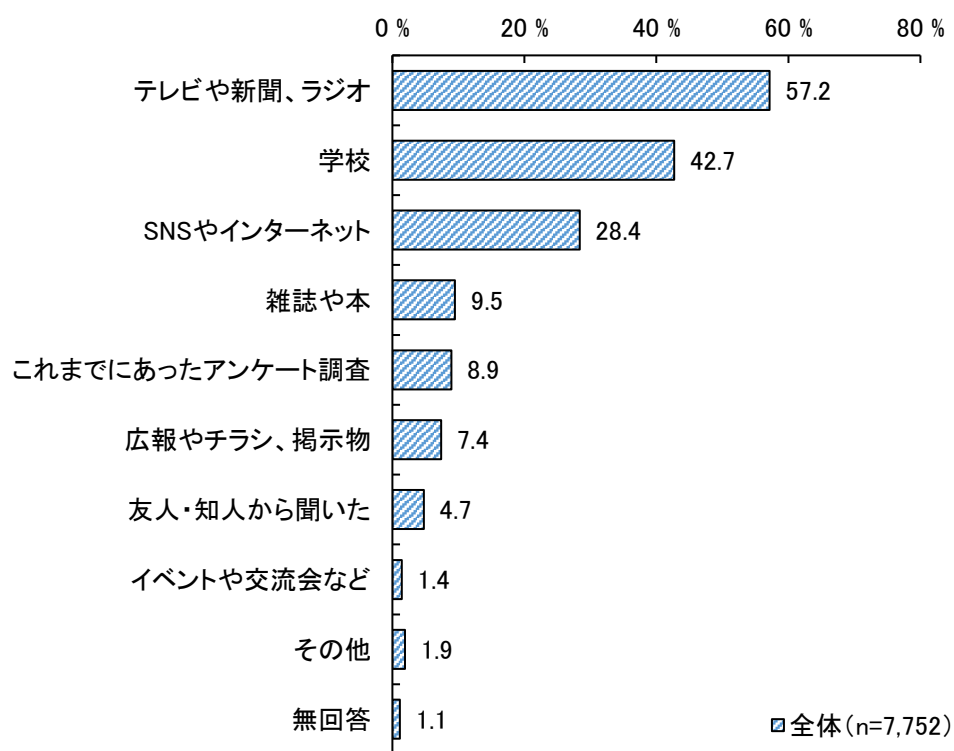
「ヤングケアラー」という言葉の認知度は、中学2年生では「聞いたことがあり、内容も知っている」が37.3%、「聞いたことはあるが、よく知らない」が29.1%、「聞いたことはない(今回初めて知った)」が33.2%となっている。高校2年生では「聞いたことがあり、内容も知っている」が33.4%、「聞いたことはあるが、よく知らない」が22.2%、「聞いたことはない(今回初めて知った)」が43.6%となっている。

### 【お世話している家族の有無別】



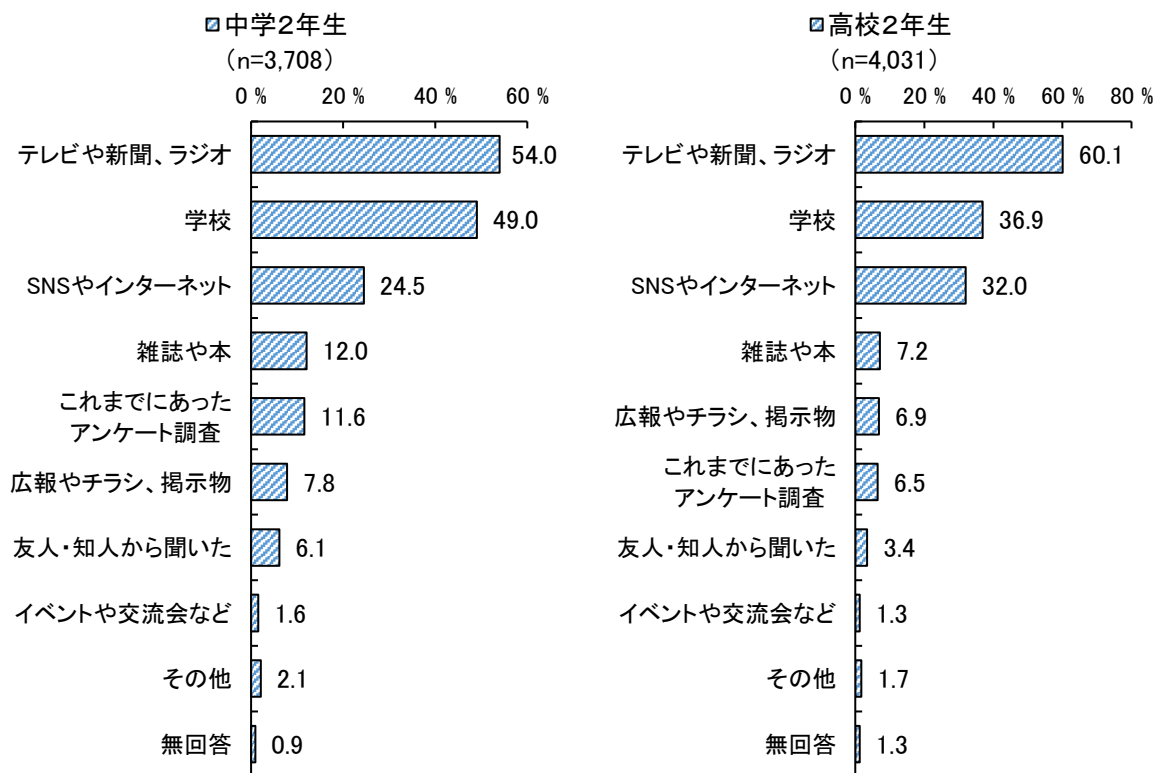
お世話している家族がいる生徒でも「聞いたことはない(今回初めて知った)」が46.7%となっており、約半数近くが「ヤングケアラー」という言葉の認知していない。

問 22 「ヤングケアラー」という言葉を知ったきっかけ（問 21 で「聞いたことがあり、内容も知っている」「聞いたことはあるが、よく知らない」と回答した人）



「ヤングケアラー」という言葉を知ったきっかけは、「テレビや新聞、ラジオ」が 57.2%で最も高く、次いで「学校」(42.7%)、「SNS やインターネット」(28.4%) となっている。

【学年別】



「ヤングケアラー」という言葉を知ったきっかけは、中学2年生、高校2年生ともに「テレビや新聞、ラジオ」がそれぞれ54.0%、60.1%で最も高く、次いで「学校」(49.0%、36.9%)、「SNSやインターネット」(24.5%、32.0%)となっている。

### 3. 国の調査との比較

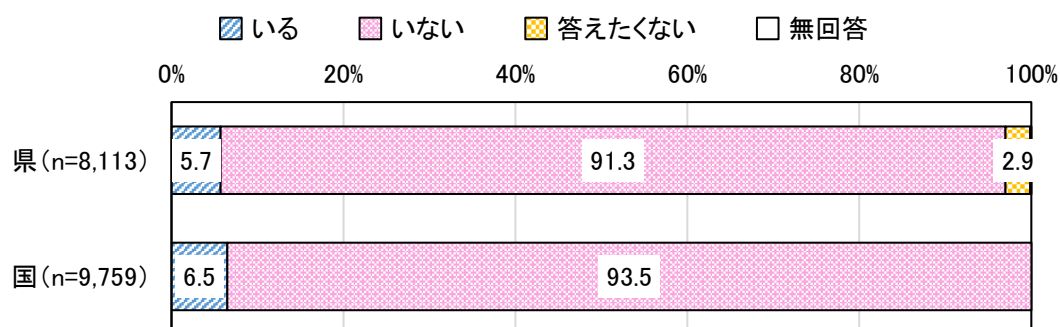
※令和2年度及び令和3年度実施された「ヤングケアラーの実態に関する調査研究」  
（厚生労働省・文部科学省）と比較。

※高校2年生の比較は、国の全日制高校2年生の調査結果と比較。

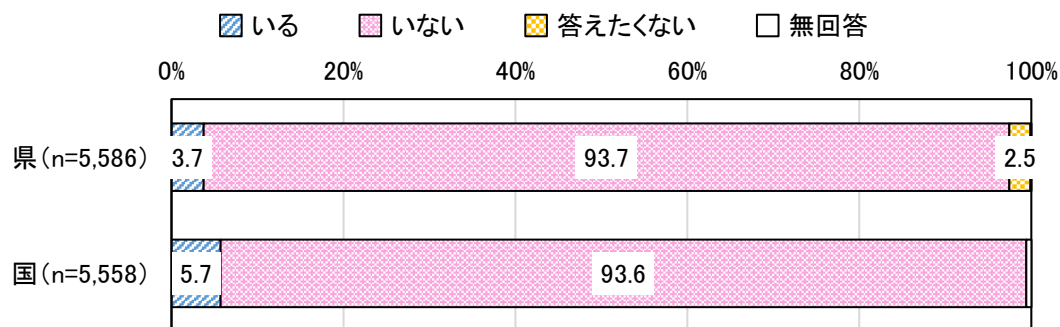
#### (1) お世話している家族の有無

お世話している家族の有無を国の調査結果と比較すると、「いる」の割合は、小学6年生、中学2年生、高校2年生ともに国よりやや低くなっている。

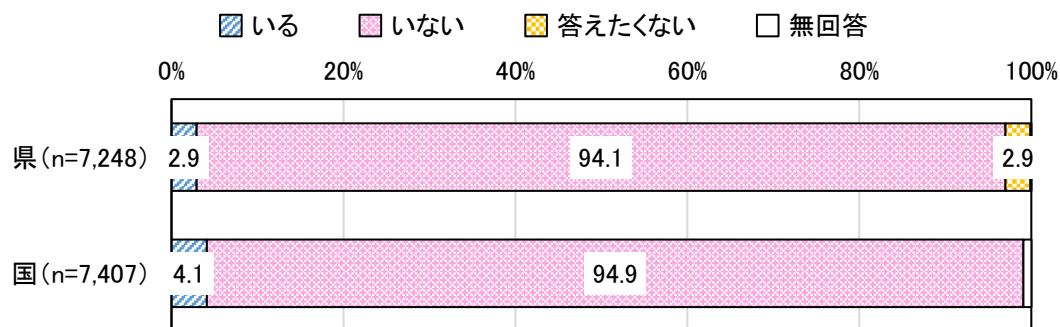
##### <小学6年生>



##### <中学2年生>



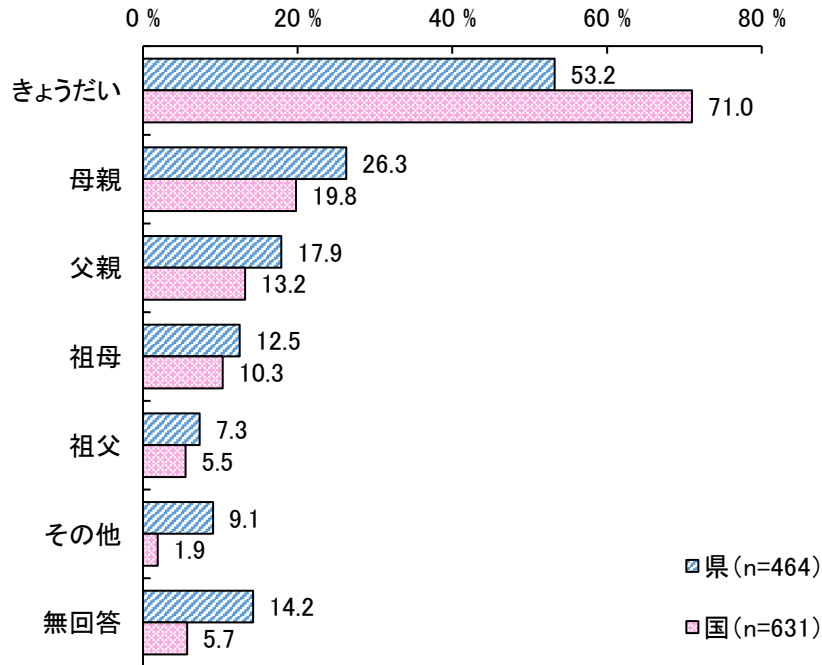
##### <高校2年生>



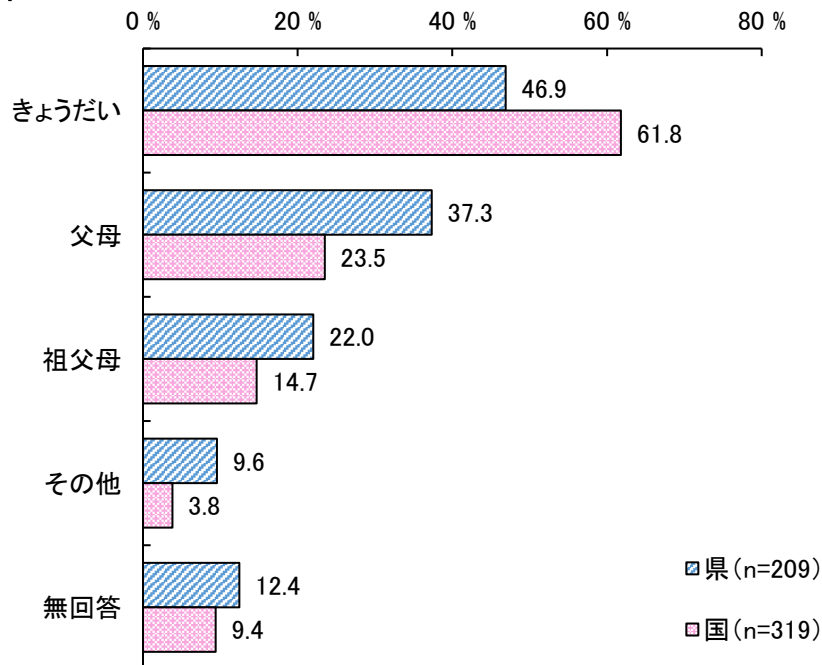
## (2) お世話をしている人

お世話をしている人を国の調査結果と比較すると、小学6年生、中学2年生、高校2年生ともに、国より「きょうだい」の割合が低く、「父母」の割合が高くなっている。

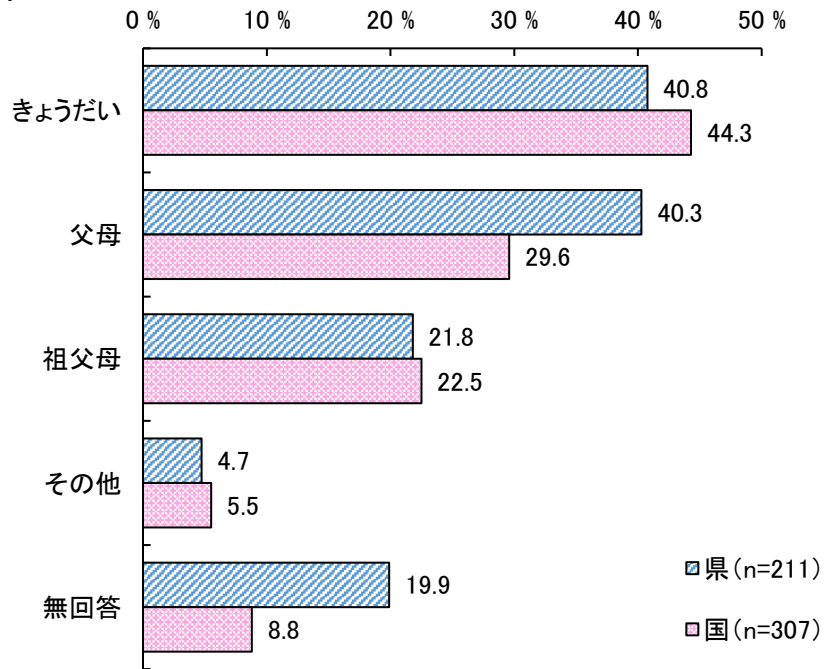
### <小学6年生>



### <中学2年生>



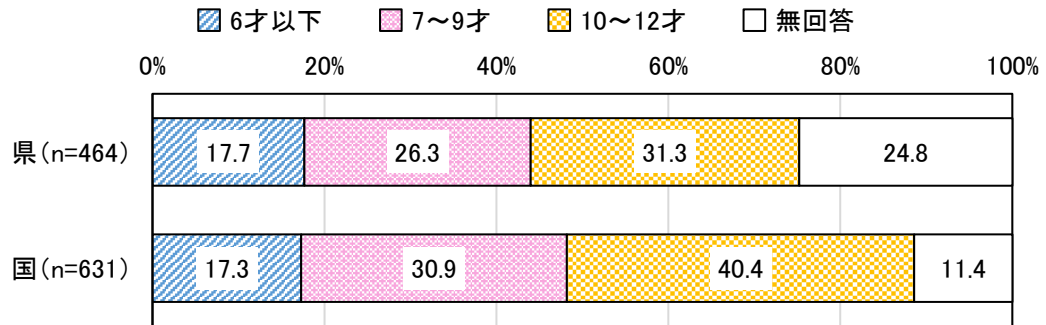
<高校2年生>



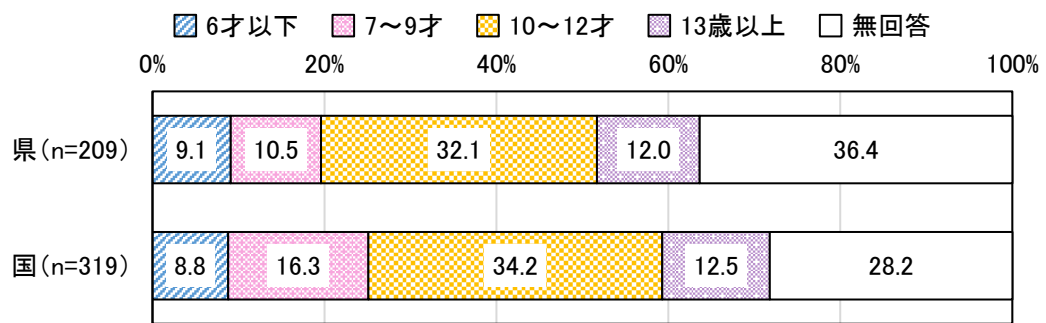
### (3) お世話を始めた年齢

お世話を始めた年齢を国の調査結果と比較すると、国と同様に、小学6年生と中学2年生では「10～12才」、高校2年生では「13歳以上」の割合が最も高くなっている。

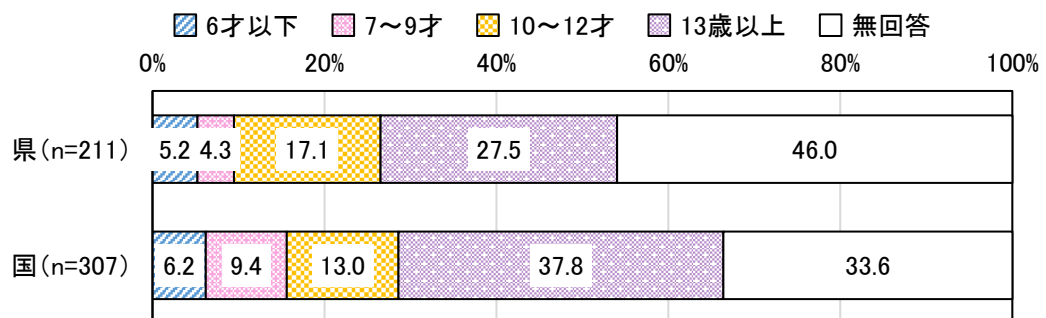
#### <小学6年生>



#### <中学2年生>



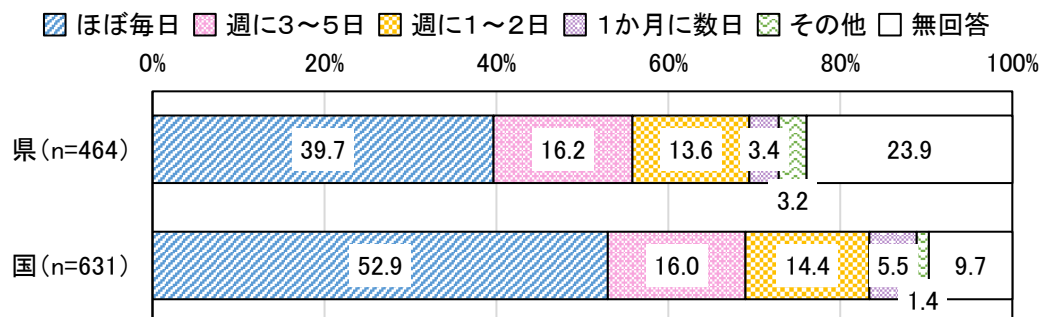
#### <高校2年生>



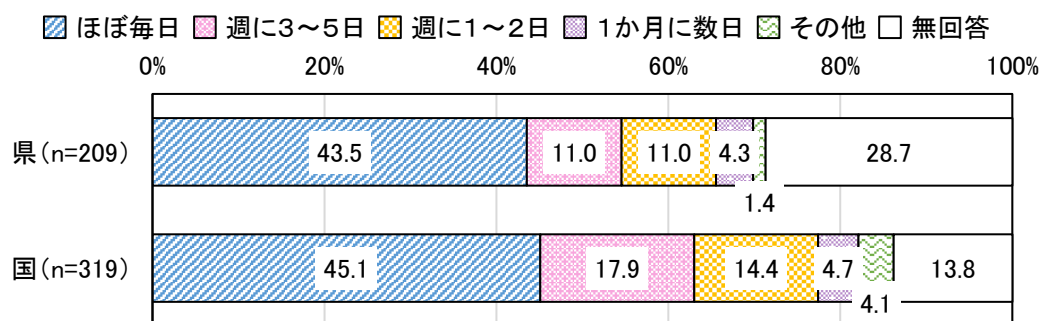
#### (4) お世話の頻度

お世話の頻度を国の調査結果と比較すると、「ほぼ毎日」の割合は、小学6年生、中学2年生、高校2年生ともに、国より低くなっているが、国と同様に「ほぼ毎日」の割合が最も高くなっている。

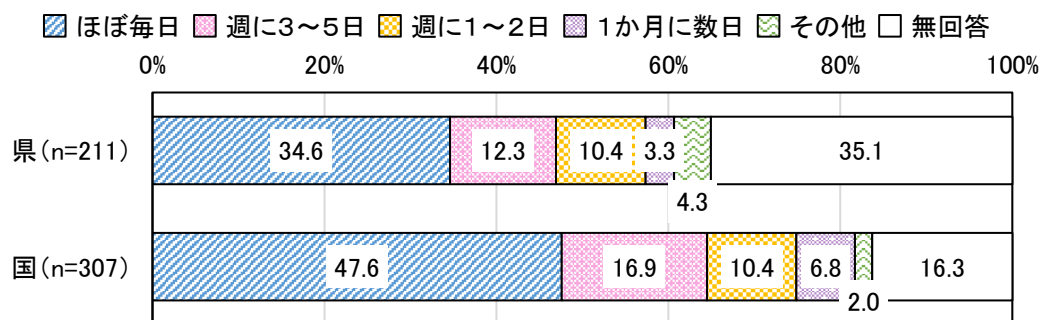
##### <小学6年生>



##### <中学2年生>



##### <高校2年生>

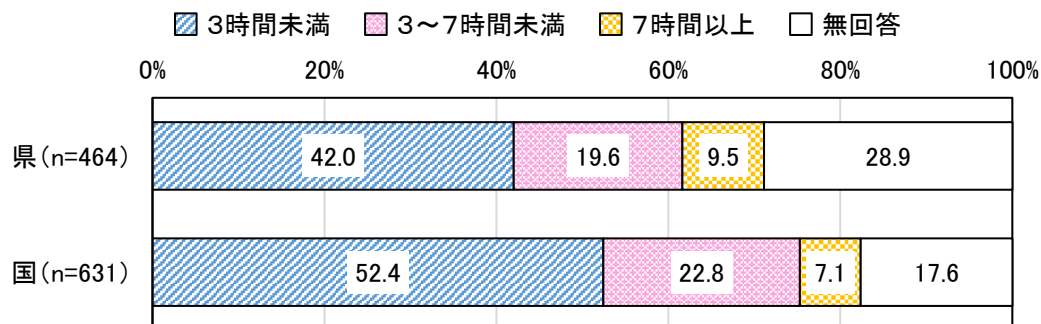




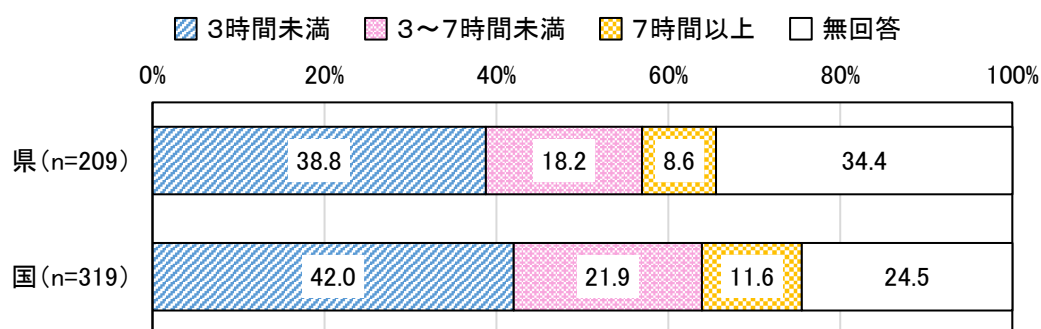
## (5) 平日1日あたりにお世話を費やす時間

平日1日あたりにお世話を費やす時間を国の調査結果と比較すると、小学6年生、中学2年生、高校2年生ともに、国と同様に「3時間未満」の割合が最も高くなっている。

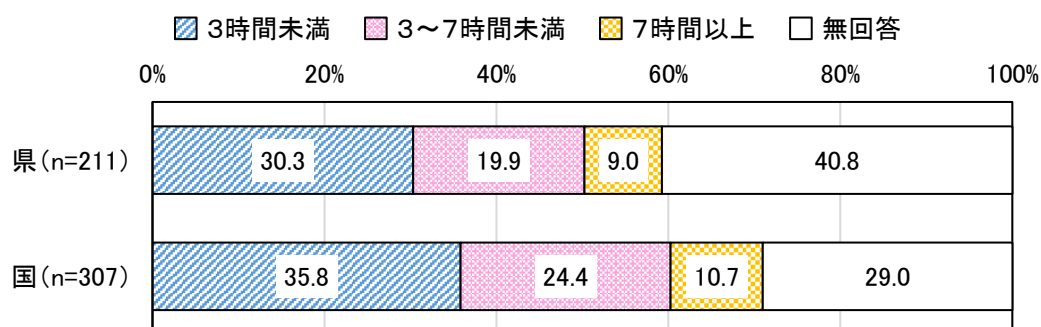
### <小学6年生>



### <中学2年生>



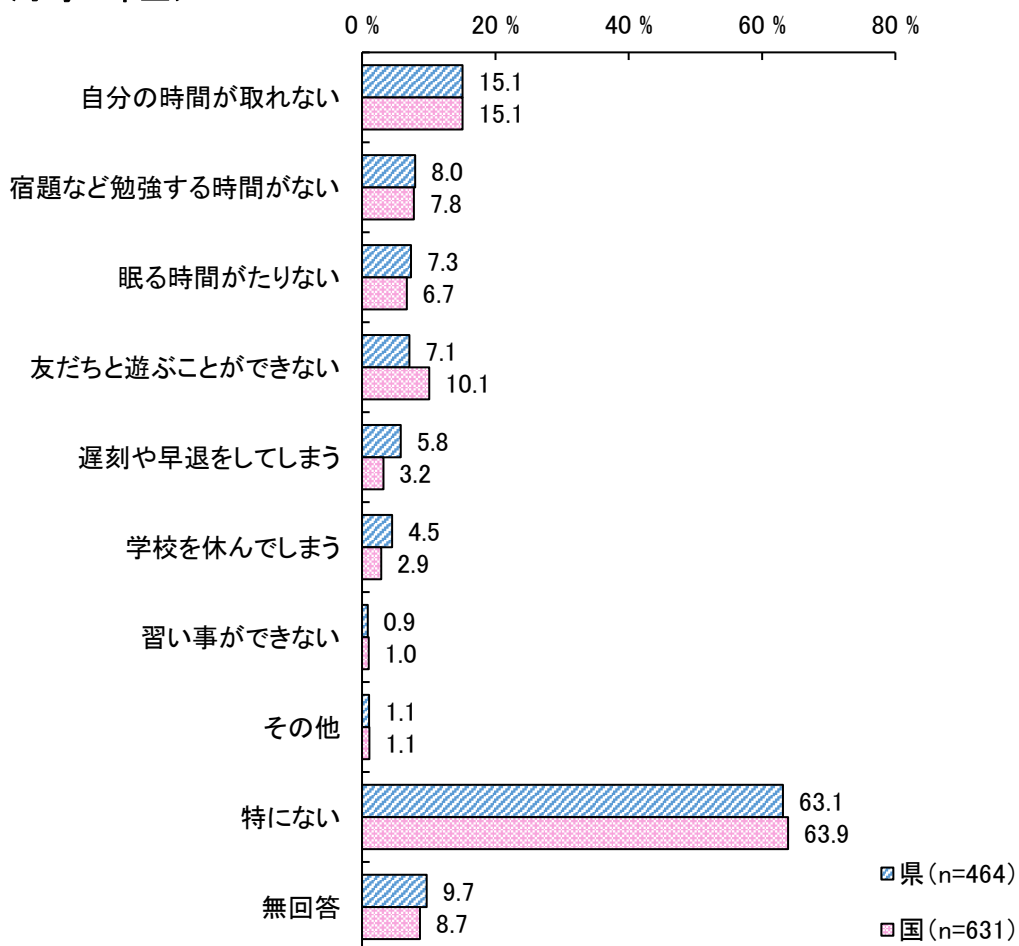
### <高校2年生>



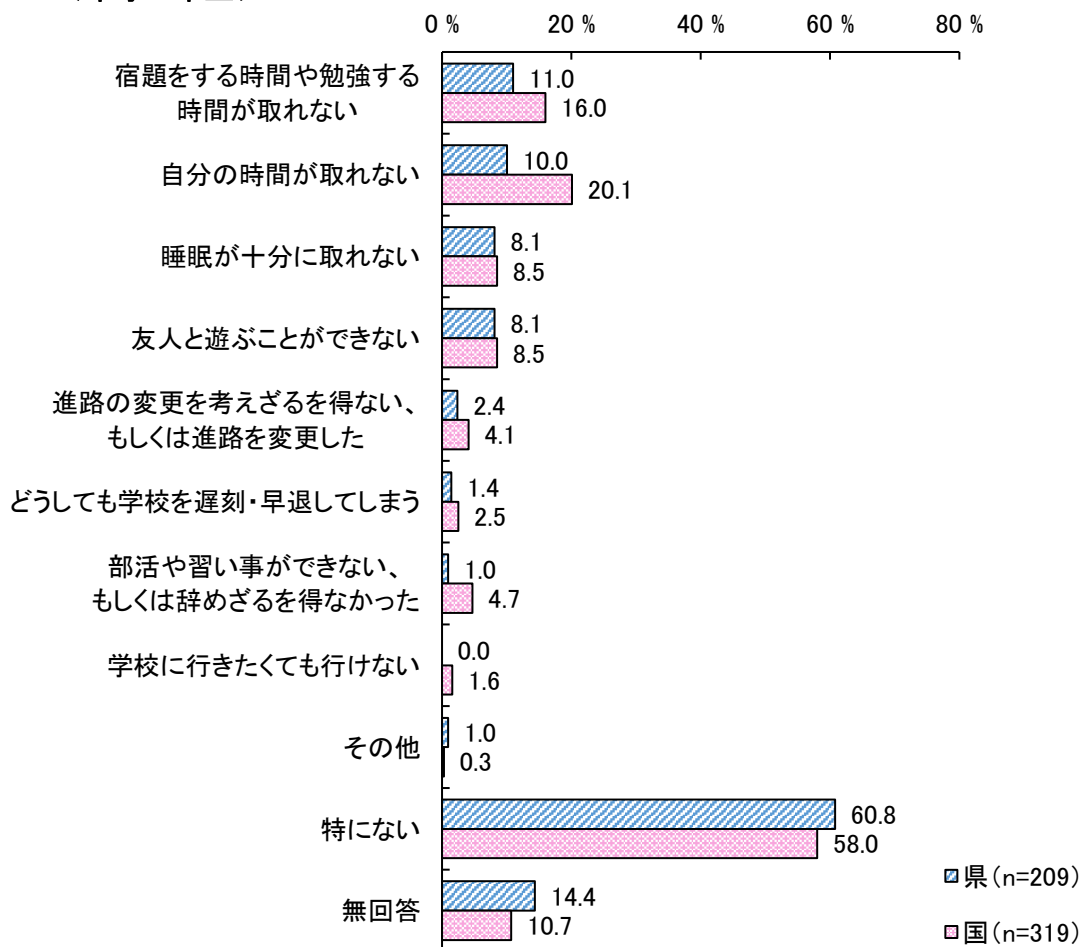
## (6) お世話しているためにやりたいけどできないこと

お世話しているためにやりたいけどできないことを国の調査結果と比較すると、小学6年生では大きな差は見られない。中学2年生では、「自分の時間が取れない」の割合が国の約半分と低く、「宿題をする時間や勉強する時間が取れない」の割合も国よりやや低くなっている。高校2年生では、「自分の時間が取れない」、「宿題をする時間や勉強する時間が取れない」の割合も国よりやや低くなっている。

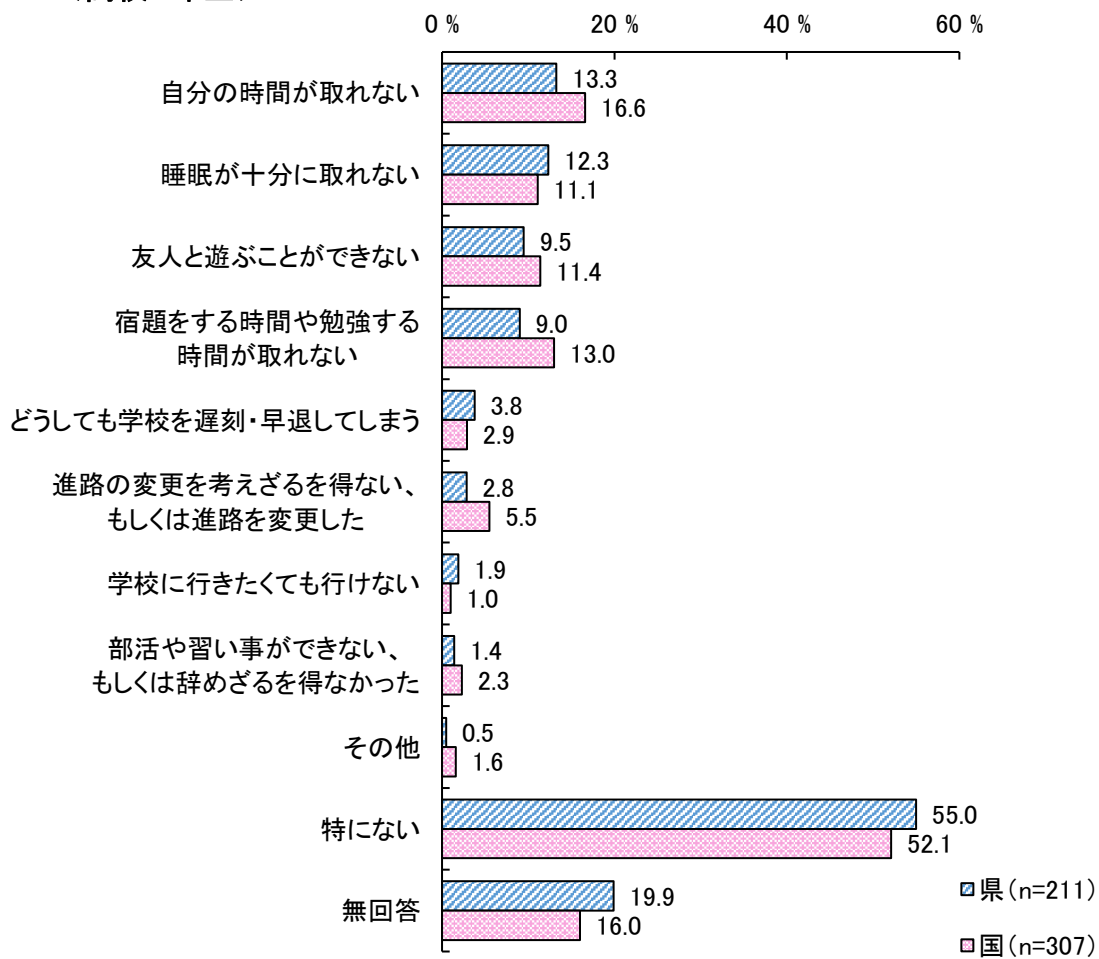
### <小学6年生>



## <中学2年生>



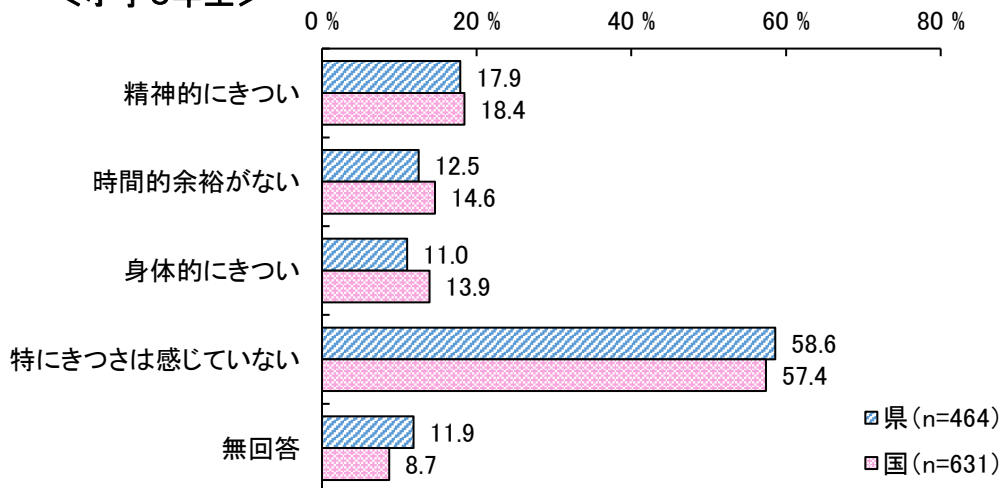
## <高校2年生>



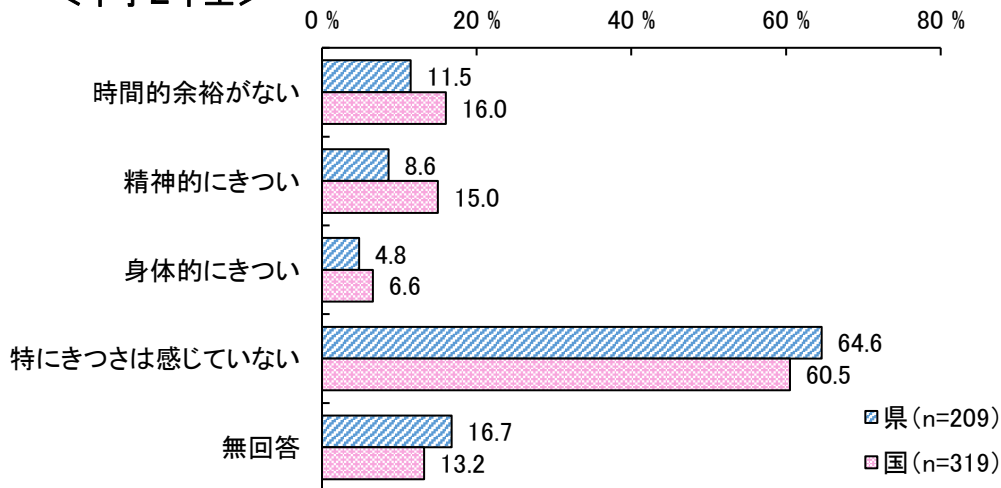
## (7) お世話することのきつさ

お世話することのきつさを国の調査結果と比較すると、小学6年生では大きな差は見られない。中学2年生では、「時間的に余裕がない」、「精神的にきつい」の割合が国より低く、「特にきつさは感じていない」の割合が国より高くなっている。高校2年生では、県では「時間的に余裕がない」の割合が最も高いが、国では「精神的にきつい」の割合が県の約2倍で最も高くなっている。

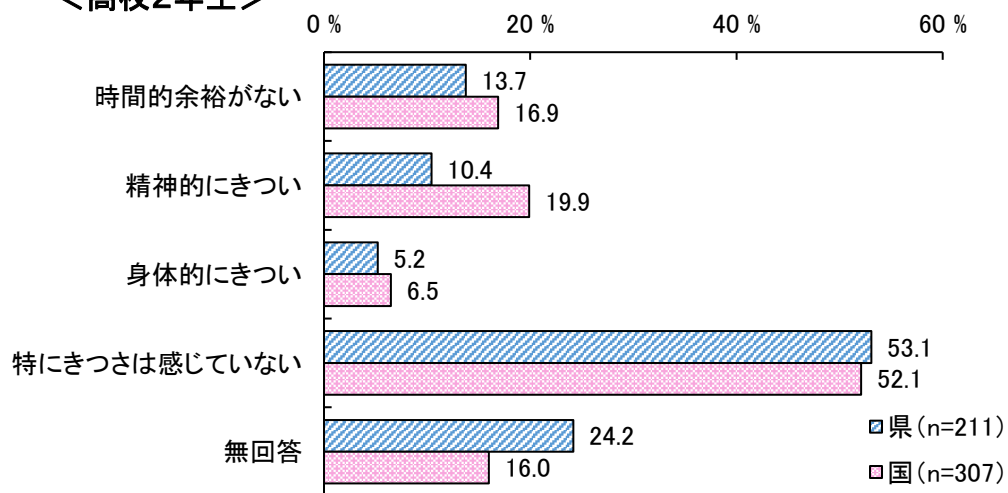
### <小学6年生>



### <中学2年生>



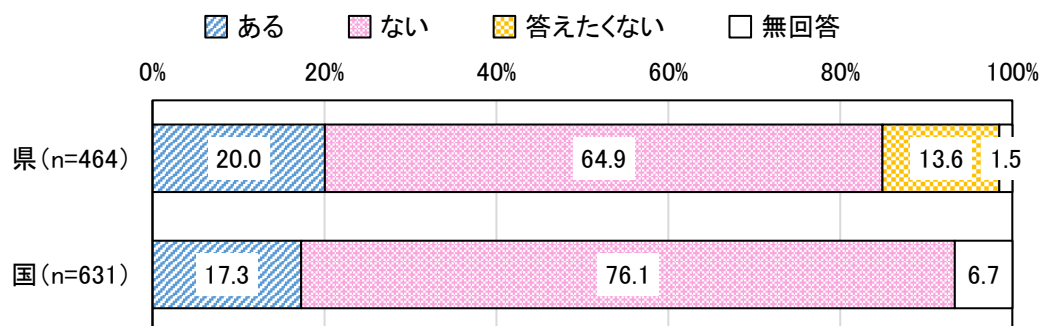
### <高校2年生>



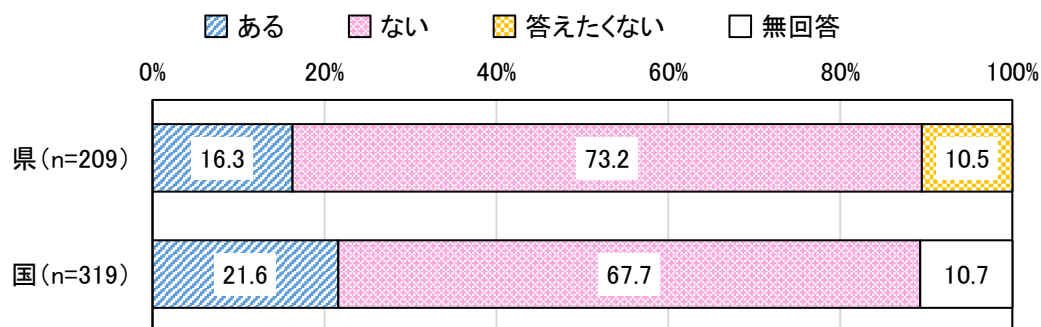
## (8) お世話している家族のことや、お世話の悩みを相談した経験

お世話している家族のことや、お世話の悩みを相談した経験を国の調査結果と比較すると、小学6年生では、相談したことが「ある」の割合は国より高くなっているが、中学2年生と高校2年生では、国より低くなっている。

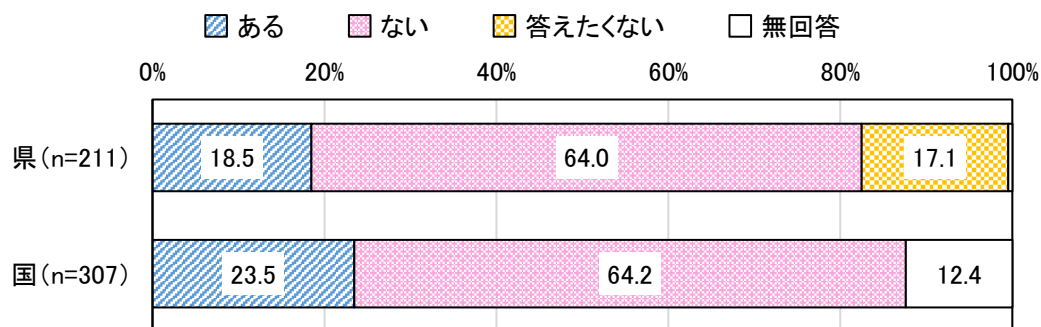
### <小学6年生>



### <中学2年生>



### <高校2年生>

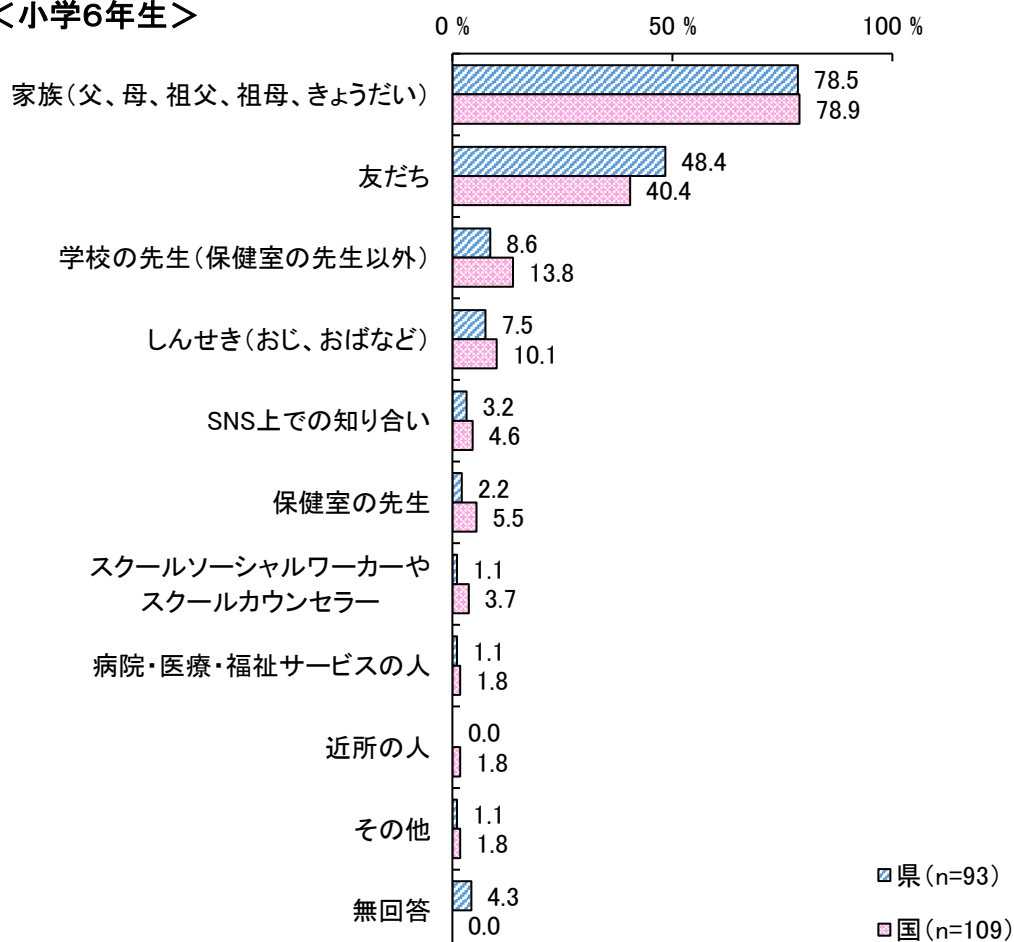


## (9) お世話についての相談相手

お世話についての相談相手を国の調査結果と比較すると、小学6年生、中学2年生、高校2年生ともに、国と同様に「家族」半数以上で最も高くなっている。

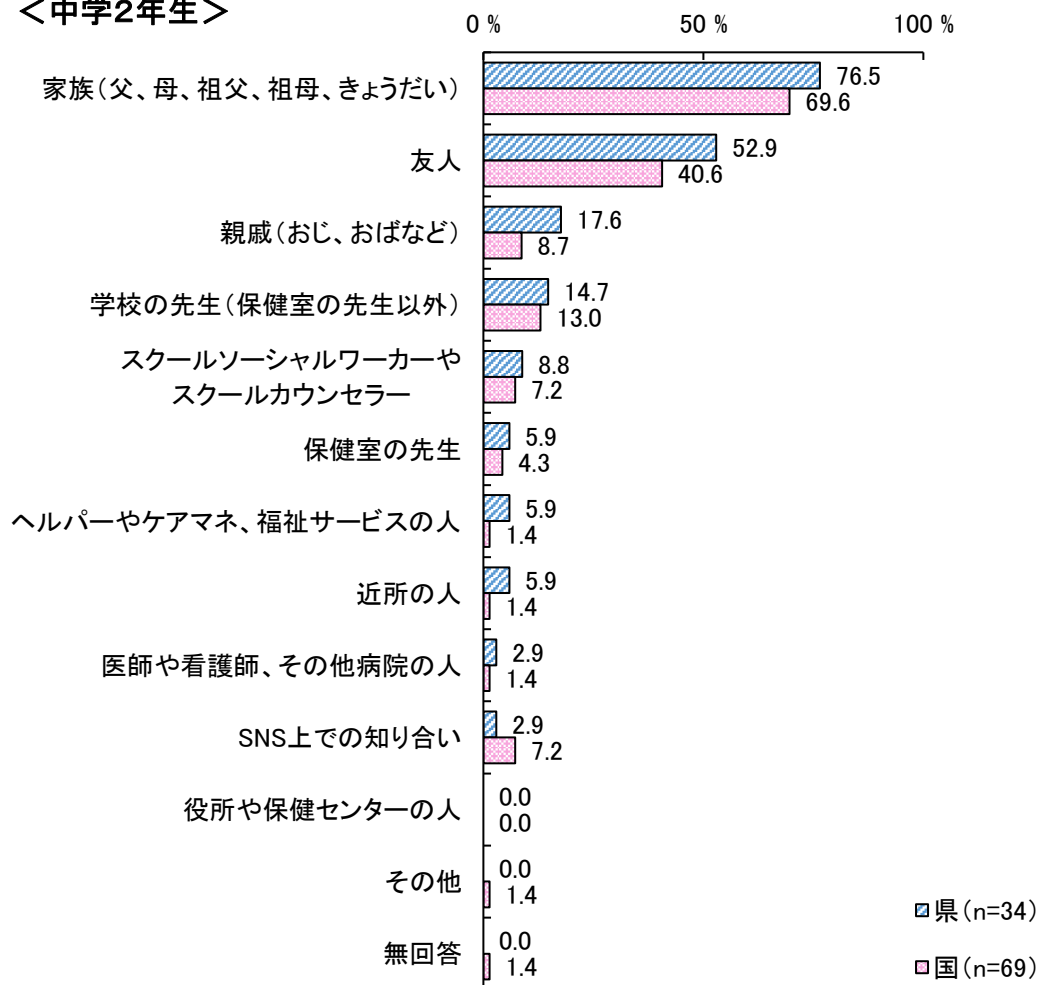
小学6年生と中学2年生では、「友だち（友人）」の割合が国より高くなっている。また、中学2年生と高校2年生では、「親戚」の割合が国より高い。高校2年生では、「家族」の割合が国より低く、「学校の先生」や「保健室の先生」の割合が高くなっている。

### <小学6年生>

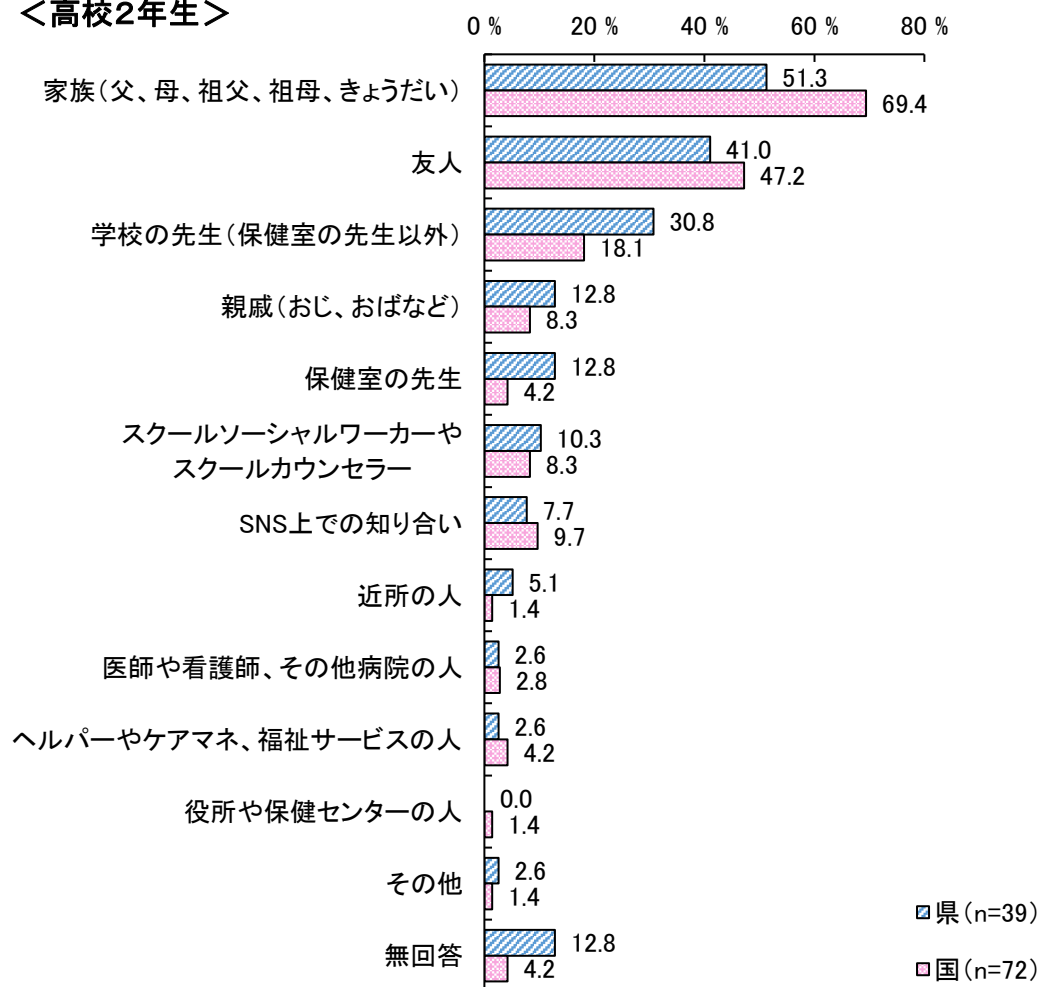




<中学2年生>



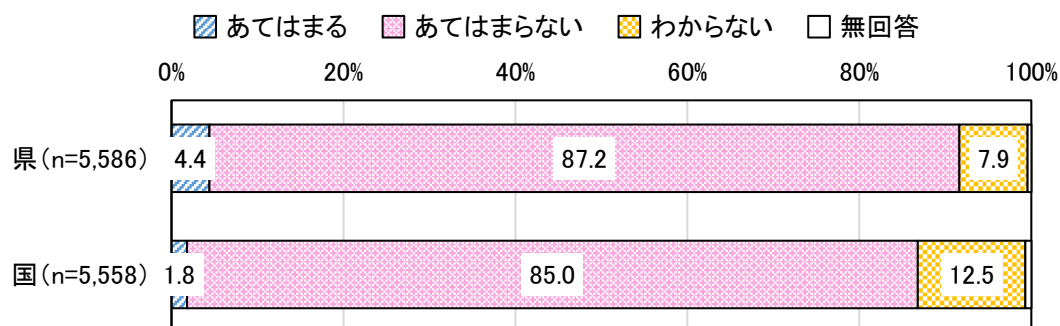
### <高校2年生>



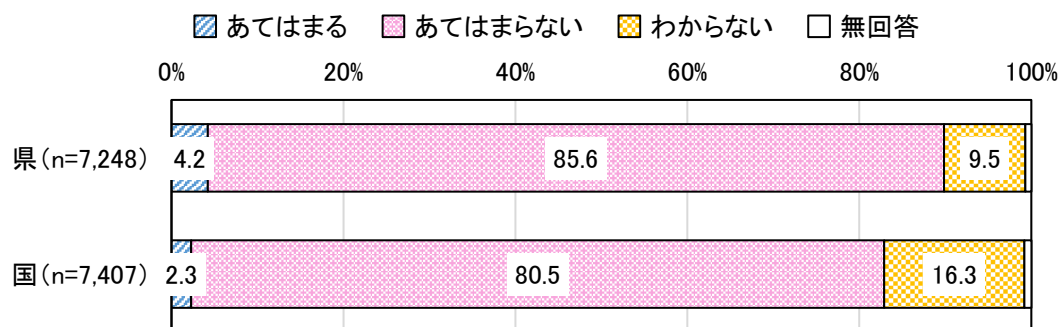
## (10) 「ヤングケアラー」の自覚

「ヤングケアラー」の自覚状況を国の調査結果と比較すると、中学2年生、高校2年生ともに、国より「あてはまる」の割合がやや高くなっているが、「あてはまらない」の割合も高く、「わからない」の割合が1割以下と低くなっている。

### <中学2年生>



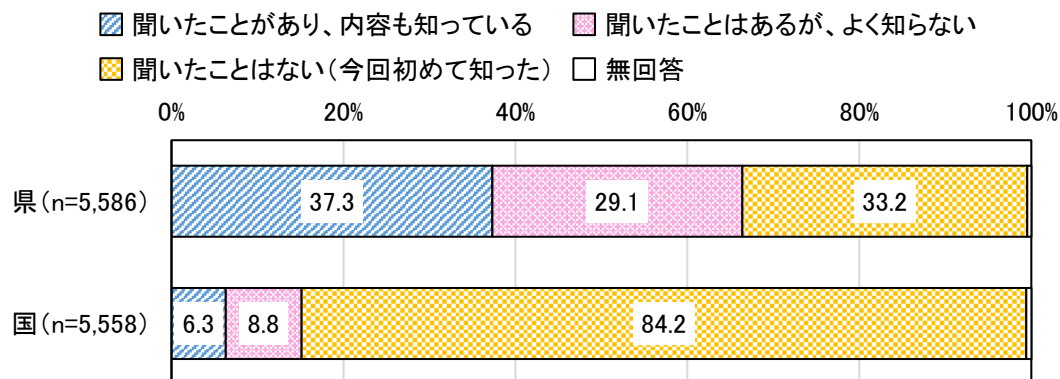
### <高校2年生>



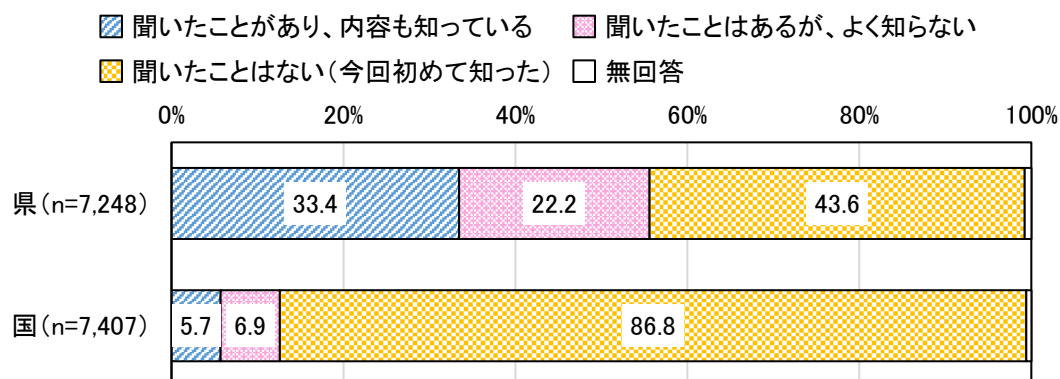
## (11) 「ヤングケアラー」という言葉の認知度

「ヤングケアラー」という言葉の認知度を国の調査結果と比較すると、中学2年生、高校2年生ともに、「聞いたことがあり、内容も知っている」、「聞いたことはあるが、よく知らない」の割合は国より高く、県の方が認知度が高くなっている。

### <中学2年生>



### <高校2年生>



## 4. 調査結果とりまとめ

### (1) 結果・傾向のサマリー

#### ◆小学生アンケート調査結果

##### ①健康状態やふだんの生活について

- \* 健康状態については、お世話している家族がいる児童（以降、ヤングケアラーと表記）よりもいない児童の方が、「よい」の割合が高くなっている。
- \* 出席状況については、ヤングケアラーで「たまに欠席する」と「よく欠席する」を合わせた割合が約3割となっている。
- \* 遅刻や早退の状況については、ヤングケアラーで「たまにする」と「よくする」を合わせた割合が約2割となっている。
- \* 放課後の習い事については、約7割の児童が習い事をしており、ヤングケアラーの方が習い事をしている割合が僅かに低くなっている。
- \* ふだんの学校生活などにおいてあてはまることについて、ヤングケアラーの方が「持ち物の忘れ物が多い」、「提出物を出すのが遅れることが多い」、「宿題ができていないことが多い」等の回答が多くなっている。
- \* 悩んでいることについては、「特にない」が最も多いが、具体的な選択肢の中では、すべての選択肢でヤングケアラーの方の割合が高くなっている。特に、「学校の成績のこと」、「家族のこと」、「生活や勉強に必要なお金のこと」、「自分のために使える時間が少ないこと」で倍以上の差が出ている。
- \* 悩みの相談相手、話を聞いてくれる人の有無については、約6割が「いる」としているが、一方で「いない」とする児童も約1割いる点に留意が必要である。

##### ②家庭や家族のことについて

- \* ヤングケアラーは5.7%となっている。
- \* お世話している人の多くがきょうだいで、次いでお母さんやお父さんとなっている。
- \* お母さんやお父さんをお世話している場合は、その状況についてはわからない場合が多く、おばあさんやおじいさんをお世話している場合は、高齢者であること、介護や認知症の状態にあるケースである。また、きょうだいをお世話している場合は、若いケースが多数を占めている。
- \* お世話している内容については、家事が最も多く、次いで見守りや話を聞くことが多くなっている。
- \* お世話を一緒にしている人については、お母さんが最も多く、次いでお父さんやきょうだいとなっている。
- \* お世話を始めた年齢については、小学生高学年から始めた児童が最も多く、次いで小学校低学年からとなっている。
- \* お世話の頻度については、ほぼ毎日行っているヤングケアラーが最も多く、平日1日あたりにお世話に費やす時間は、1~2時間未満が最も多くなっている。
- \* お世話しているためにやりたいけどできないことについては、多数のヤングケアラーが、「特にない」としているが、自分の時間が取れないと感じるヤングケアラーも一定数存在している。その他の回答として、勉強や睡眠、友達との遊びに時間を割けないという意見がある。

- \* お世話することの大変さについては、多数のヤングケアラーが、お世話することの大変さを特に感じていないとしているが、一方で、気持ちの面で大変だと感じるヤングケアラーも少なからず存在し、時間の余裕や体力の面でも大変だと感じている。
- \* お世話している家族のことや、お世話の悩みを相談した経験については、相談した経験がある人は少数派である。
- \* 相談相手については、家族が最も多く、次いで友達が多くなっている。
- \* 相談していない理由については、多数のヤングケアラーが、相談するほどの悩みではないと回答している一方で、相談しても何も変わらないと思う、家族のことを話したくないという回答もある。
- \* お世話について相談できる人の有無については、「いる」と回答したヤングケアラーが多数であるが、一方、相談相手がいないと回答した児童も4人に1人程度いることに留意が必要である。
- \* 学校や周りの大人にしてもらいたいことについては、半数以上のヤングケアラーが「特にない」としている。これは、学校や周りの大人に期待を持たず、自己解決力を高めることが求められる状況にあることを示唆している。一方で、具体的な選択肢の中では、自由に使える時間を希望する児童が最も多く、1割半ば程度が自分のことについて話を聞いてほしいとしている。また、少数派であるが、お金の面で支援してほしいと回答するヤングケアラーも存在する。
- \* 相談の方法については、半数弱のヤングケアラーが直接会っての相談を望んでいる。これは、対面でのコミュニケーションがヤングケアラーにとって重要であることを示唆している。一方で、電話やSNS、電子メールといったオンライン上での相談への要望も一定数存在しており、これらの手段を通じてヤングケアラーがより気軽に相談できる環境づくりが求められる。

## ◆中高生アンケート調査結果

### ①健康状態やふだんの生活について

- \* 健康状態については、ヤングケアラーでない生徒の方が、「よい」の割合が高くなっている。
- \* 出席の状況について、ヤングケアラーで「たまに欠席する」と「よく欠席する」を合わせた割合が3割強となっている。
- \* 遅刻や早退の状況について、ヤングケアラーで「たまにする」と「よくする」を合わせた割合が約2割となっている。
- \* 部活動（学校外での活動を含む）への参加状況について、ヤングケアラーとそうでない生徒の間で大きな差はみられない。
- \* ふだんの学校生活などにおいてあてはまることについて、ヤングケアラーの方が「授業中に居眠りすることが多い」、「持ち物の忘れ物が多い」、「宿題や課題ができていないことが多い」、「提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い」等の回答が多くなっている。
- \* 悩んでいることについて、「特にない」の割合はヤングケアラーでない生徒の方が高く、具体的な選択肢の中では、すべての選択肢でヤングケアラーの方の割合が高くなっている。特に「友人との関係のこと」、「家庭の経済的状況のこと」、「自分と家族との関係のこと」、「学費（授業料）など学校生活に必要なお金のこと」、「病気や障害のある家族のこと」、「塾（通信含む）や習い事ができない」で倍以上の差が出ている。
- \* 悩みの相談相手、話を聞いてくれる人の有無については、ヤングケアラーでは約6割が「いる」としているが、一方で「いない」とする生徒も約1割いる点に留意が必要である。

## ②家庭や家族のことについて

- \* ヤングケアラーは中高生全体で 3.3%、中学 2 年生で 3.7%、高校 2 年生で 2.9%となっている。
- \* お世話をしている人はきょうだいが多く、祖父母よりも母親やきょうだいを支える傾向がみられる。
- \* お世話を必要としている方の状況は幼い家族を中心に、高齢者や障害者のお世話も行っている。
- \* お世話している内容は見守りや家事全般のサポートが多く、精神的なサポートや身体介護も必要とされている。
- \* お世話を一緒にしている人については、母親や父親等の家族と一緒に世話するケースが多く、自分のみで世話するケースは少ない傾向がある。
- \* ヤングケアラーは比較的若い年齢からお世話を始めることが多くなっている。
- \* お世話の頻度については、ほぼ毎日行っているヤングケアラーが最も高く、平日 1 日あたり 1 時間程度から 3 時間程度の時間をお世話に費やしている。
- \* お世話しているためにやりたいけどできないことについては、多数のヤングケアラーが「特にない」としているが、自分自身の時間、睡眠や勉強、交友等に制限を受けているケースも一定数存在している。
- \* お世話することのきつさについては、時間的に余裕がないと感じているものの、特にきつさを感じていないという傾向がある。
- \* お世話している家族のことや、お世話の悩みを相談した経験については、相談した経験がある人は少数派である。多くのヤングケアラーは、自分が抱える家族のことやお世話の悩みを相談しない傾向にある。
- \* 相談相手については、家族や友人への相談が多いが、学校の先生や親戚に相談する人もある程度存在する。
- \* 相談していない理由については、誰かに相談するほどの悩みではないという回答が最も多く、ヤングケアラーたちは、自分の悩みが大したことではないと思っている可能性がある。
- \* お世話について相談できる人の有無については、「いる」と回答したヤングケアラーが多数であるが、一方、相談相手がいないと回答した児童も 4 人に 1 人程度いることに留意が必要である。
- \* 学校や周りの大人にしてもらいたいことについては、「特にない」という回答が最も多いことから、学校や周りの大人に対して必要な支援を感じていない、もしくは必要な支援がないと感じているヤングケアラーも一定数以上存在することが示唆される。具体的な要望としては、学習のサポートを必要としている人が最も多く、進路や就職の相談、自由な時間の確保、自分の状況について話を聞いてもらいたいというニーズが多くなっている。

## ③ヤングケアラーについて

- \* 「ヤングケアラー」の自覚があると回答した割合は低く、自覚がない、もしくは「ヤングケアラー」という言葉自体が理解できていない恐れがある。
- \* 「ヤングケアラー」という言葉の認知度は、半数以上が聞いたことがあると回答しているが、一方で、ヤングケアラーの場合でも「聞いたことはない（今回初めて知った）」が半数弱となっており、認知度にはまだ改善の余地がある。
- \* 「ヤングケアラー」という言葉を知ったきっかけは、マスメディアを通じて知った生徒が多く、学校を通じての情報伝達も一定程度ある。ただし、SNS やインターネットを通じて知った生徒は比較的少なくなっている。

## (2) 県内ヤングケアラーが抱える課題

調査結果を受けて、群馬県内のヤングケアラーが抱える課題を以下の6項目にまとめた。

①「ヤングケアラー」の認知度の不足：

周囲、また、ヤングケアラー自身も「ヤングケアラー」であると気づいていない場合がある。自分がヤングケアラーであることを周囲に理解してもらえず、必要な情報やサポートを受けられない場合がある。

②悩みごと：

ヤングケアラーの方が、友人や家族関係、家庭の経済状況等を中心とした悩みごとが多い傾向にある。また、その約1割には、悩みを相談できる相手がいない。

③健康状態やふだんの生活への影響：

ヤングケアラーの方が健康状態不良の傾向があり、出席状況や遅刻・早退の問題もある。また、授業中に居眠りすることや持ち物の忘れ物、課題の提出が遅れることが多く、学業の成績に影響を与える可能性がある。

④自己実現の制限：

ヤングケアラーには、家事全般や身体介護、精神的なサポートが必要とされている。自分の時間や勉強、交友に制限があることが多く、自己実現の制限を感じている児童・生徒がいる。

⑤精神的な負担やストレスの増加：

家族の世話をすることにより、ヤングケアラーは精神的な負担を感じることもある。

⑥将来のキャリアに対する不安：

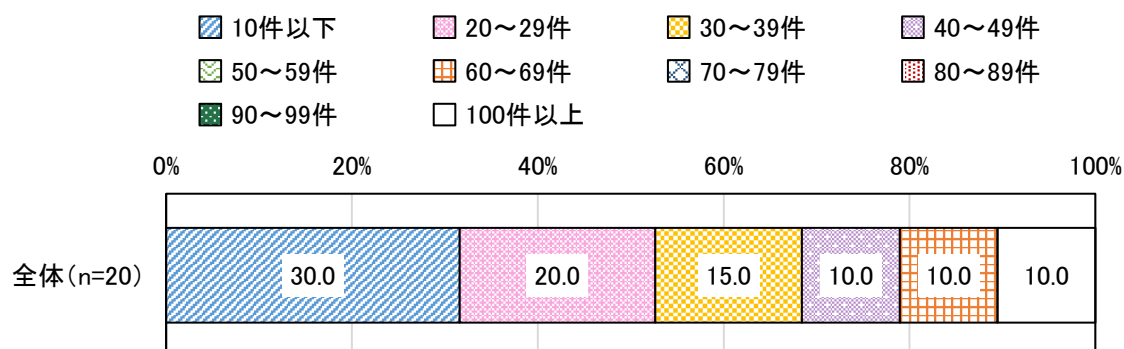
将来的に家族を支える必要があるため、進路選択や就職活動に対する不安を感じるケースがある。



## 5. 市町村要保護児童対策地域協議会アンケート調査結果

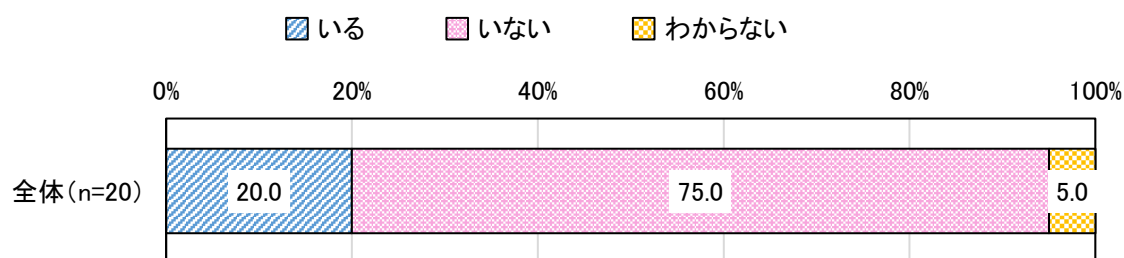
### (1) 調査票結果

問1 令和4年10月1日現在の貴協議会におけるケース登録数



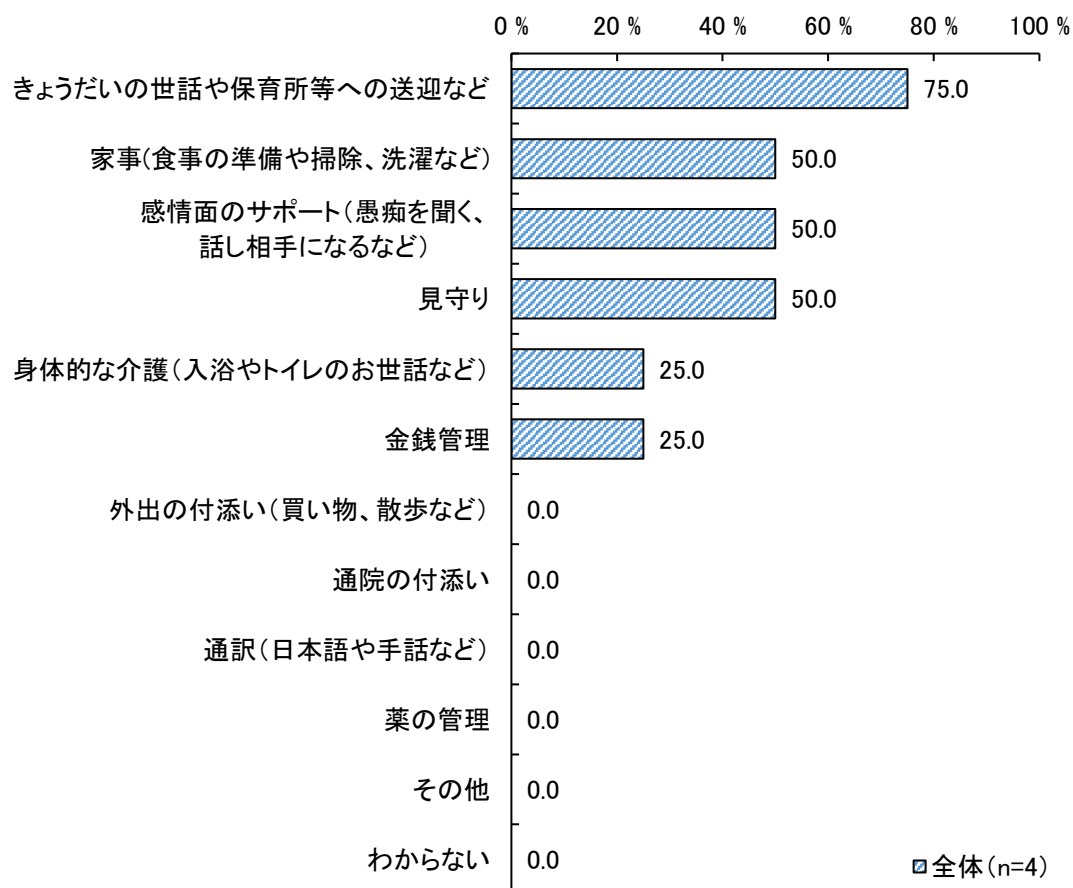
ケース登録数は、「10件以下」が30.0%で最も高く、平均は53.3件となっている。

問2 ヤングケアラーと思われる子どもの有無



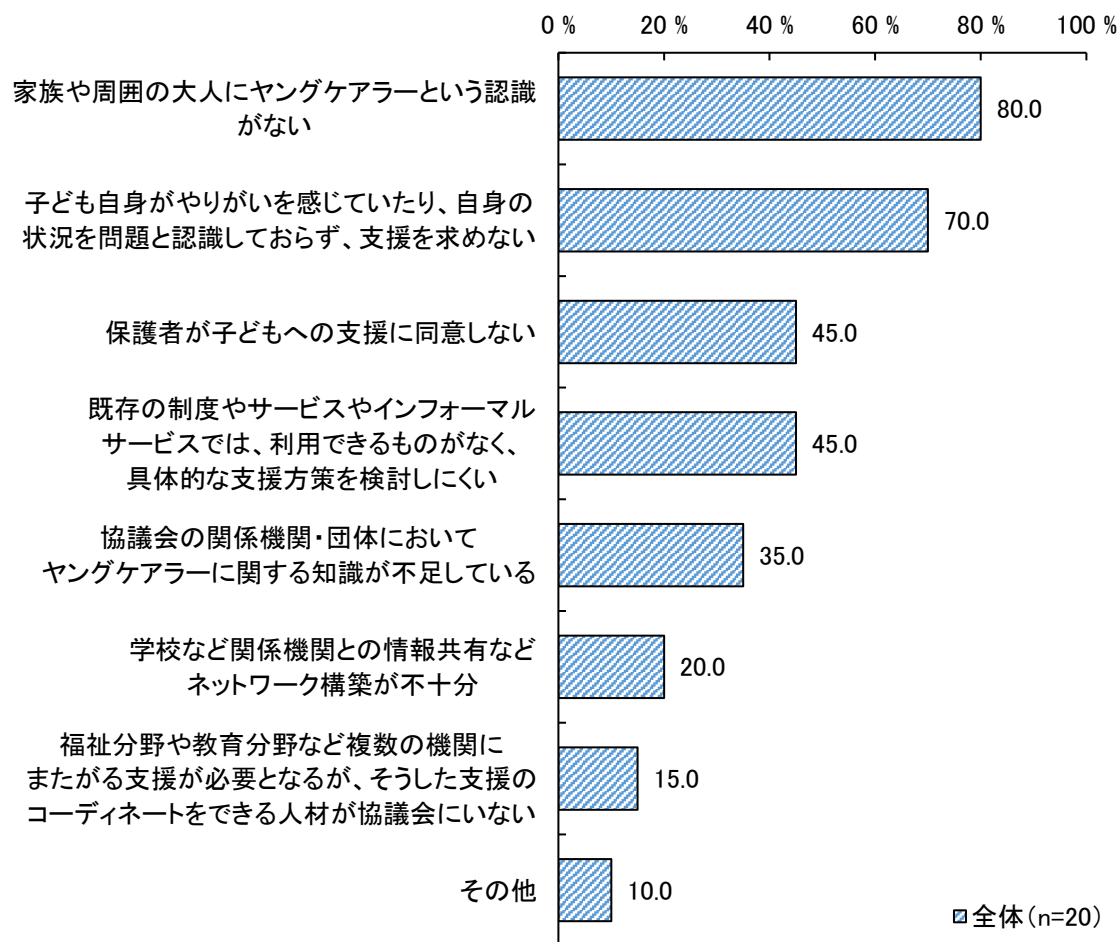
ヤングケアラーと思われる子どもの有無は、「いる」が20.0%、「いない」が75.0%。「わからない」が5.0%となっている。

問3 ヤングケアラーと思われる子どもが、家族に対して行っているケアの内容



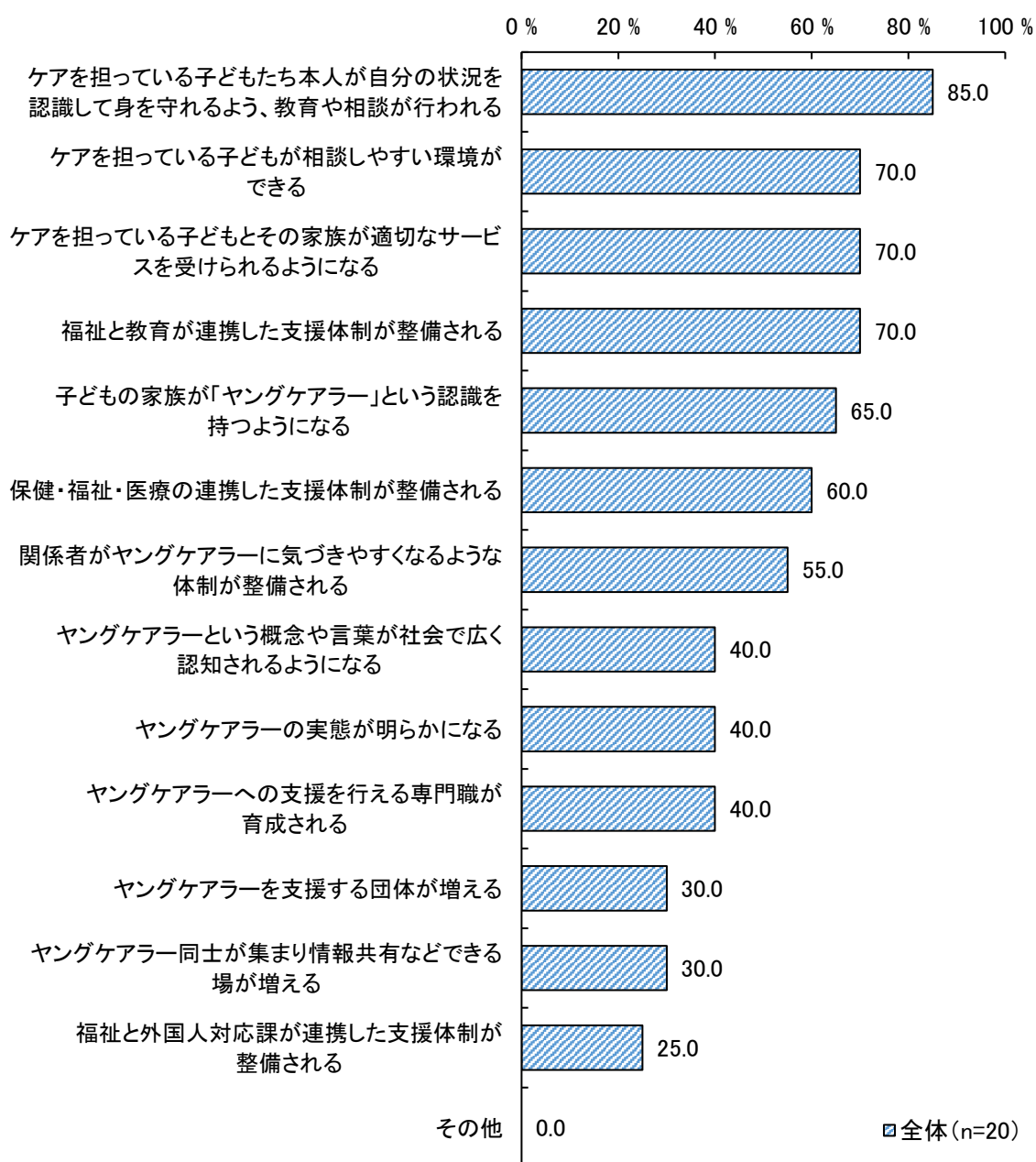
家族に対して行っているケアの内容は、「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」が75.0%で最も高く、次いで「家事（食事の準備や掃除、洗濯など）」、「感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）」、「見守り」（いずれも50.0%）となっている。

### 問5 ヤングケアラーと思われる子どもたちに支援をする際の課題



ヤングケアラーと思われる子どもたちに支援をする際の課題は、「家族や周囲の大人にヤングケアラーという認識がない」が80.0%で最も高く、次いで「子ども自身がやりがいを感じていたり、自身の状況を問題と認識しておらず、支援を求めない」(70.0%)、「保護者が子どもへの支援に同意しない」、「既存の制度やサービスやインフォーマルサービスでは、利用できるものがなく、具体的な支援方策を検討しにくい」(ともに45.0%)となっている。

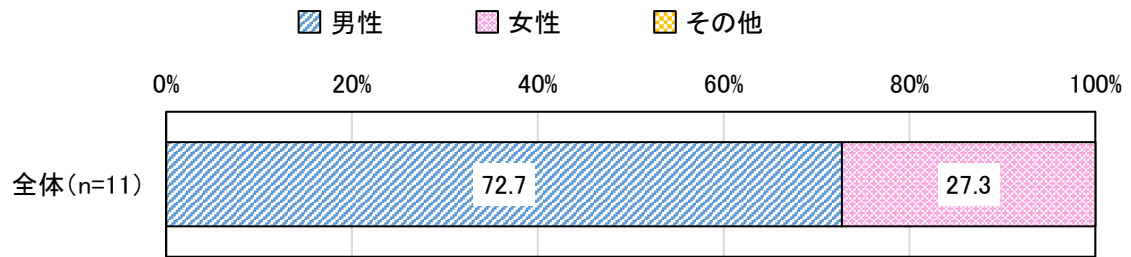
問7 今後、ヤングケアラーを広く支援するために、社会全体に期待すること



今後、ヤングケアラーを広く支援するために、社会全体に期待することは、「ケアを担っている子どもたち本人が自分の状況を認識して身を守れるよう、教育や相談が行われる」が85.0%で最も高く、次いで「ケアを担っている子どもが相談しやすい環境ができる」、「ケアを担っている子どもとその家族が適切なサービスを受けられるようになる」、「福祉と教育が連携した支援体制が整備される」（いずれも70.0%）となっている。

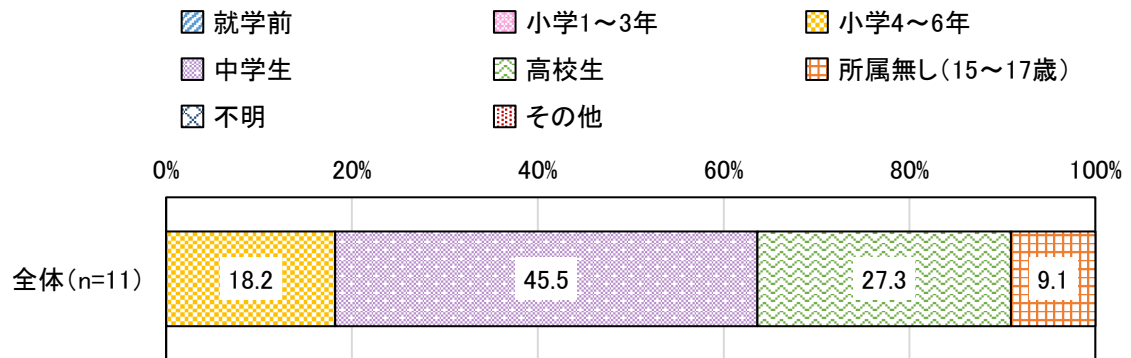
## (2) 個人票結果

該当する子どもの性別



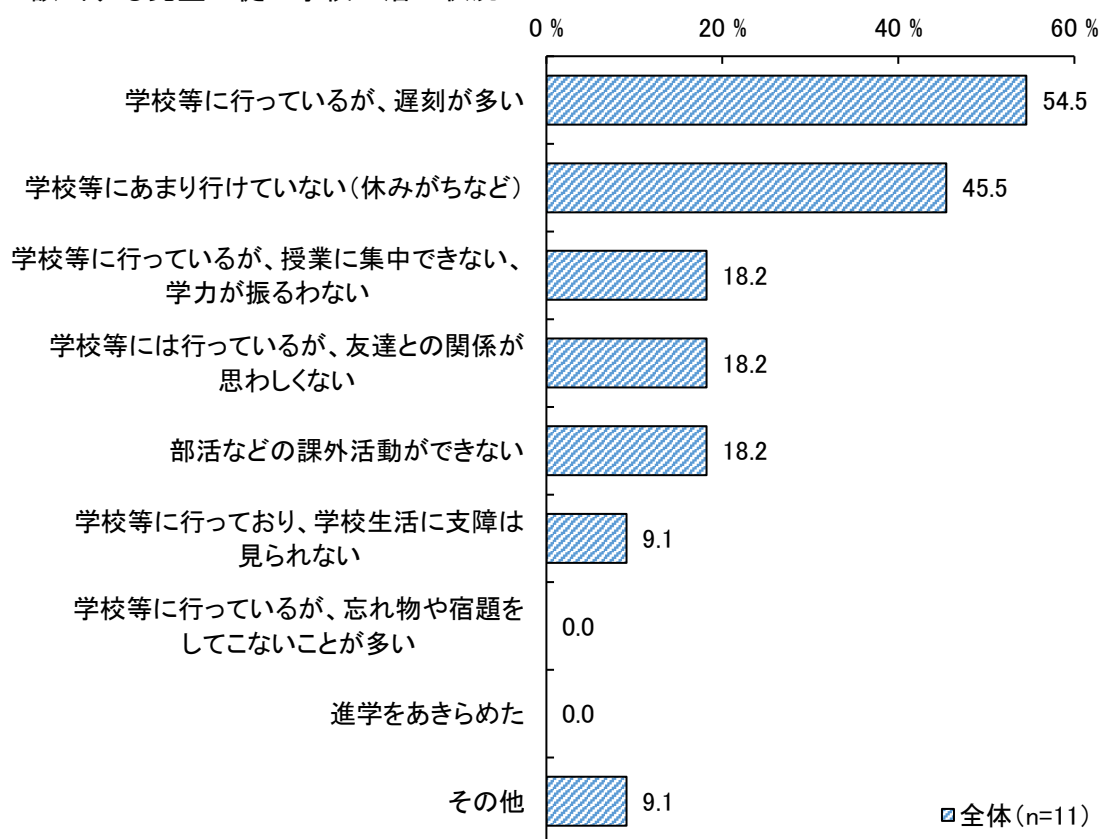
該当する子どもの性別は上記のとおりとなっている。

現在の学年・年齢



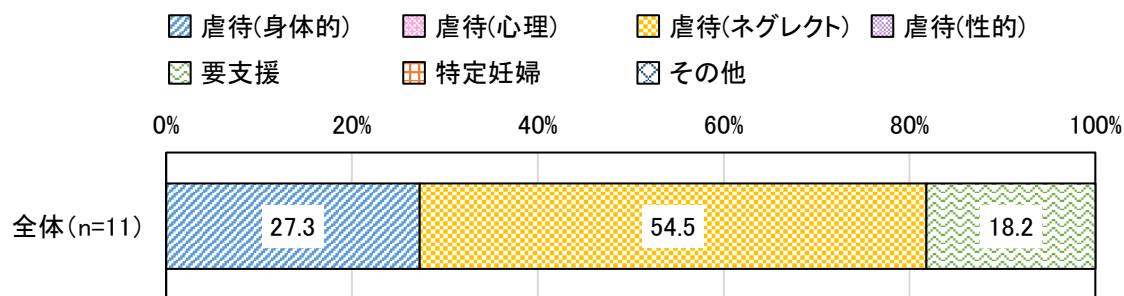
学年・年齢は、「中学生」が45.5%で最も高く、次いで「高校生」(27.3%)、「小学4～6年」(18.2%)、「所属無し(15～17歳)」(9.1%)となっている。

### 該当する児童生徒の学校生活の状況



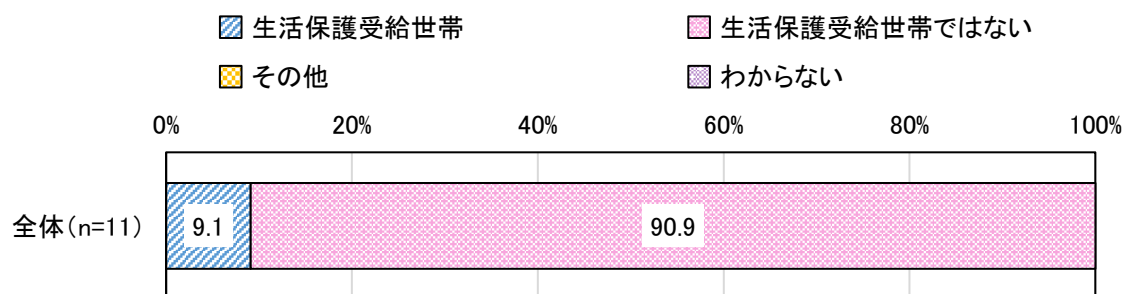
該当する児童生徒の学校生活の状況は、「学校等に行っているが、遅刻が多い」が54.5%で最も高く、次いで「学校等にあまり行けていない(休みがちななど)」(45.5%)となっている。

### 登録の種類



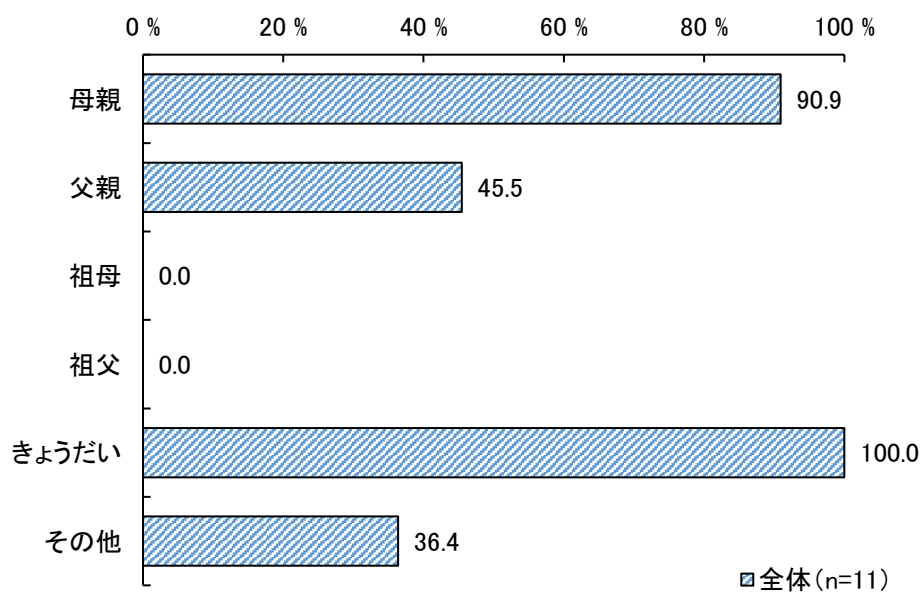
登録の種類は、「虐待(身体的)」が27.3%、「虐待(ネグレクト)」が54.5%、「要支援」が18.2%となっている。

### 生活保護の受給状況



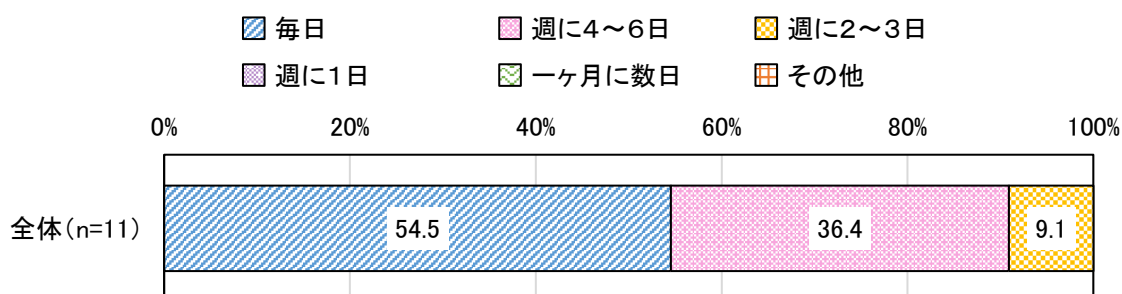
登録の種類は、「生活保護受給世帯」が9.1%、「生活保護受給世帯ではない」が90.9%となっている。

## 家族構成



家族構成は、「きょうだい」が100.0%で最も高く、次いで「母親」(90.9%)、「父親」(45.5%)となっている。

## 該当の子どもが行っているケアの頻度

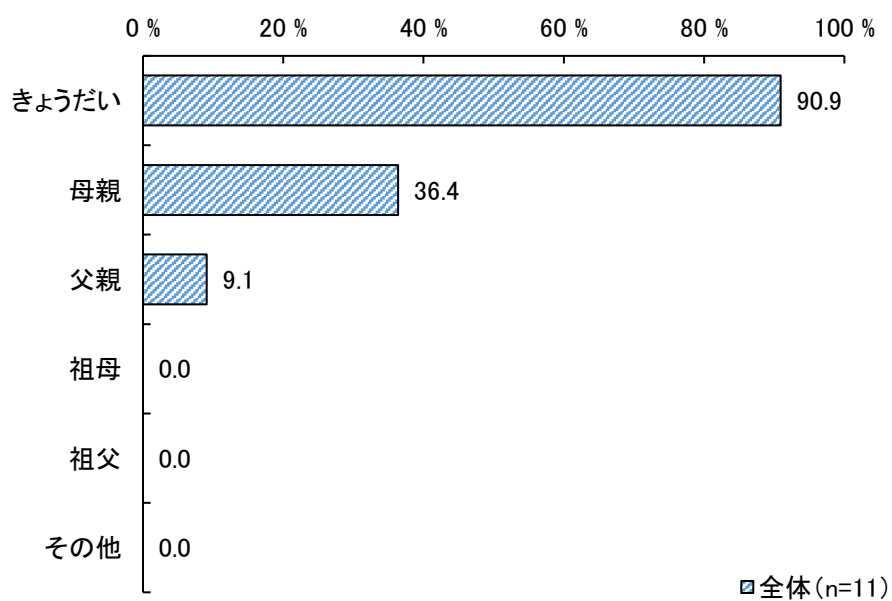


該当の子どもが行っているケアの頻度は、「毎日」が54.5%で最も高く、半数を占めている。次いで「週に4~6日」(36.4%)、「週に2~3日」(9.1%)となっている。



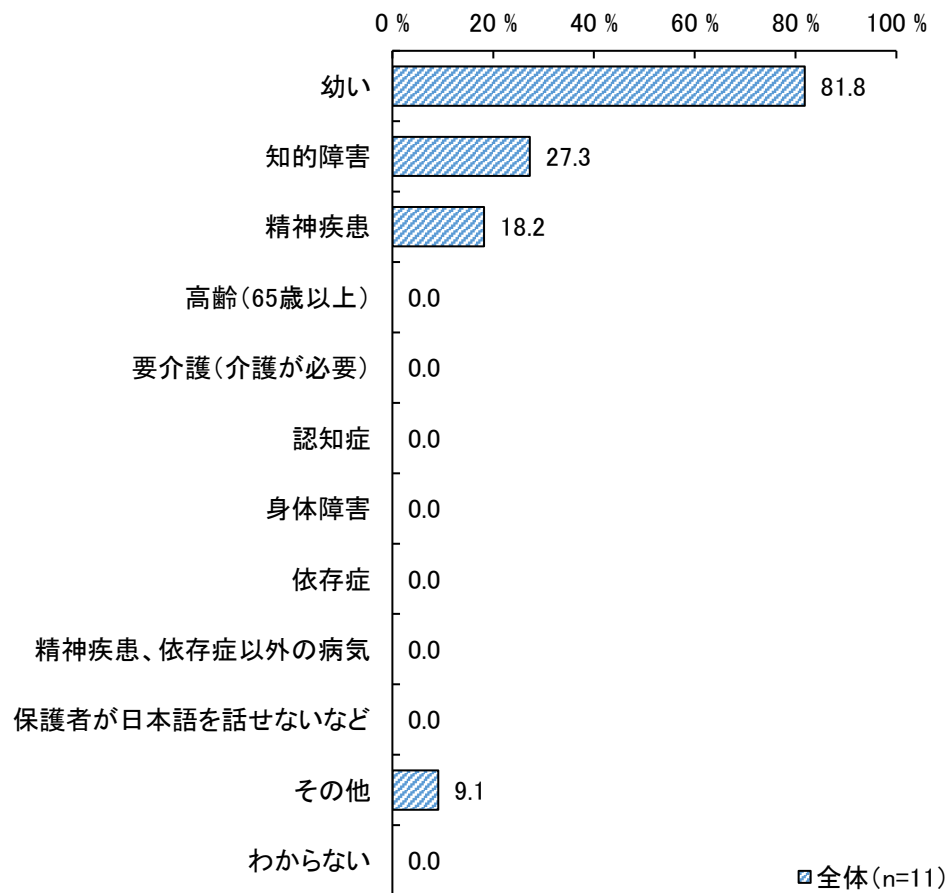
## 家庭でのケアの状況

### A) ケアの対象者



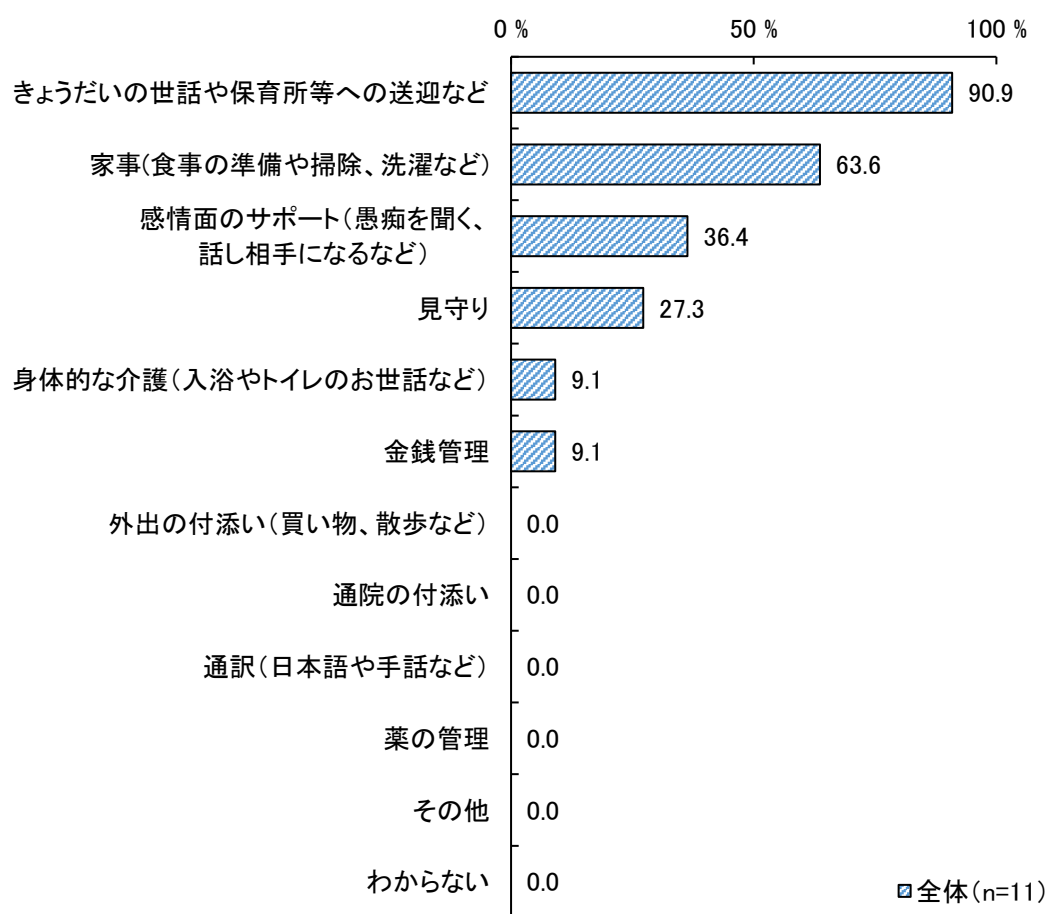
ケアの対象者は、「きょうだい」が90.9%で最も高く、次いで「母親」(36.4%)、「父親」(9.1%)となっている。

B) ケアを必要としている人の状況



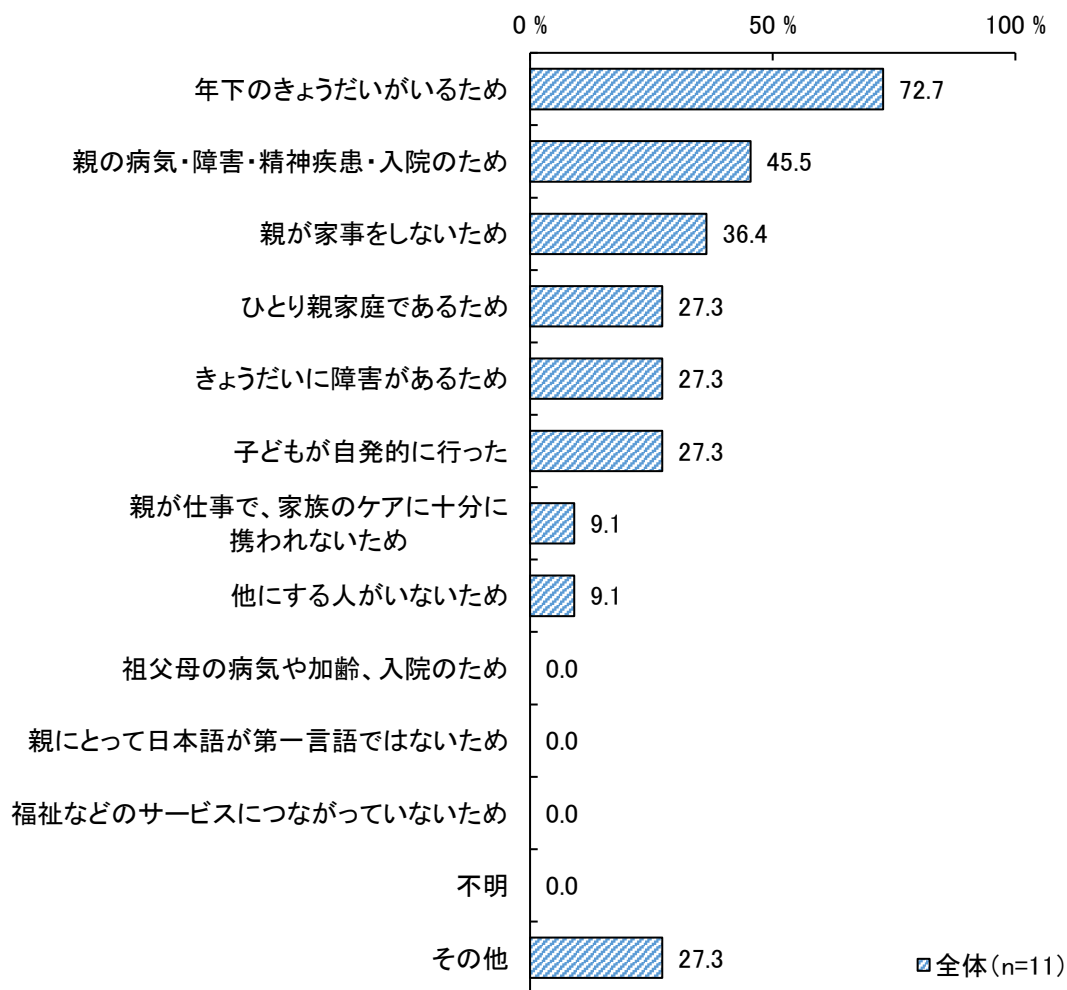
ケアを必要としている人の状況は、「若い」が81.8%で最も高く、次いで「知的障害」(27.3%)、「精神疾患」(18.2%)となっている。

## B) 子どもがしている「ケア」の内容



子どもがしている「ケア」の内容は、「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」が90.9%で最も高く、次いで「家事(食事の準備や掃除、洗濯など)」(63.6%)、「感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)」(36.4%)、「見守り」(27.3%)となっている。

## ケアをすることになった理由

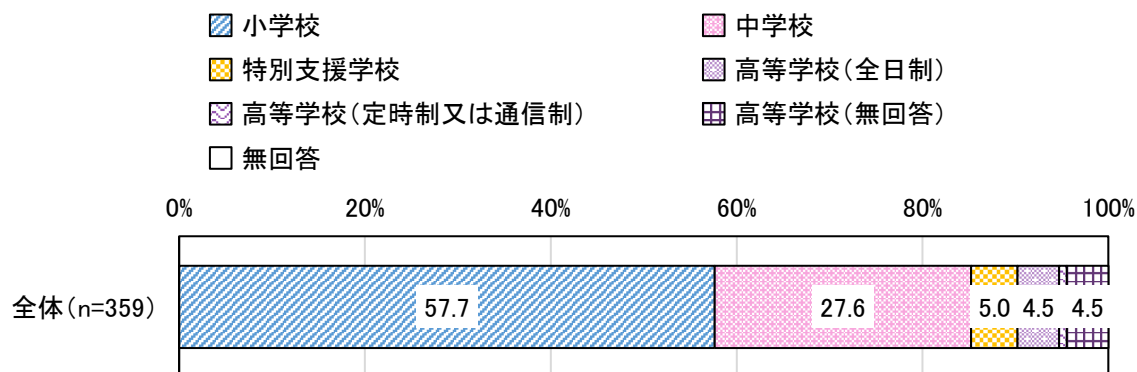


ケアをすることになった理由は、「年下のきょうだいがいるため」が72.7%で最も高く、次いで「親の病気・障害・精神疾患・入院のため」(45.5%)、「親が家事をしないため」(36.4%)、「ひとり親家庭であるため」、「きょうだいに障害があるため」、「子どもが自発的に行った」(いずれも27.3%)となっている。

## 6. 学校向けアンケート調査結果

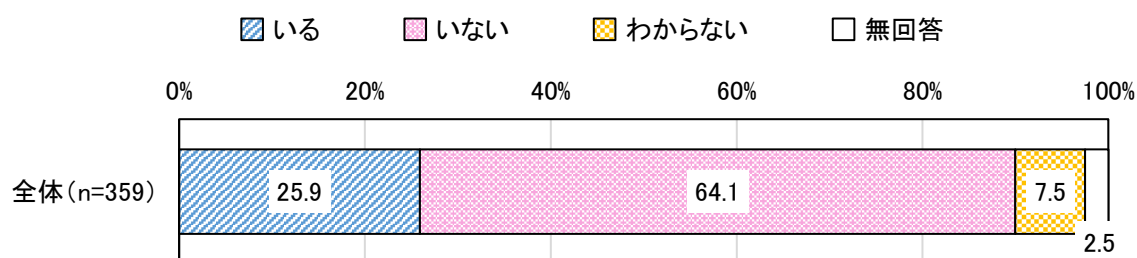
### (1) 調査票結果

学校区分



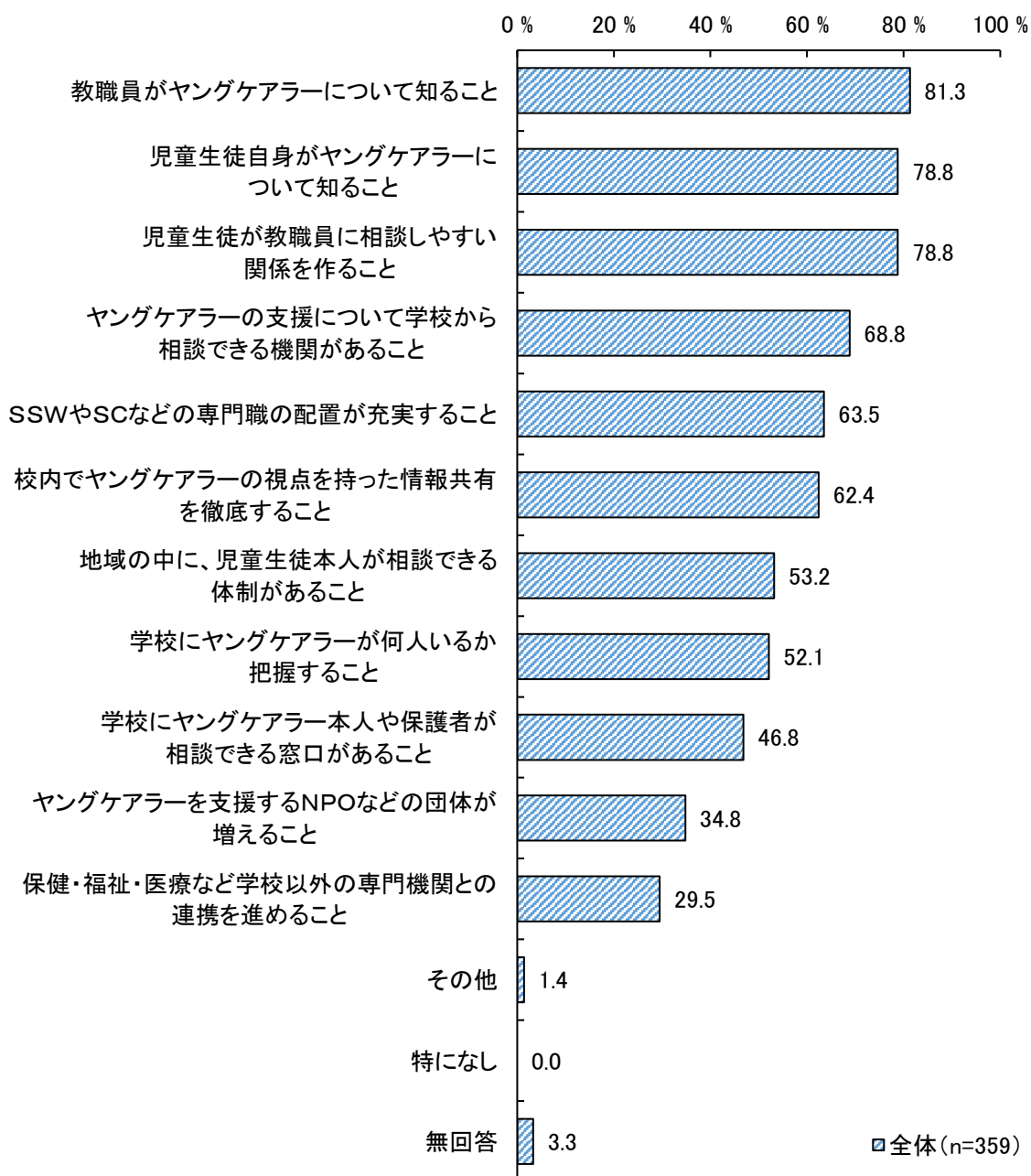
学校区分は上記のとおりとなっている。

### 問1 ヤングケアラーと思われる子どもの有無



ヤングケアラーと思われる子どもの有無は、「いる」が25.9%、「いない」が64.1%、「わからない」が7.5%、「無回答」が2.5%となっている。

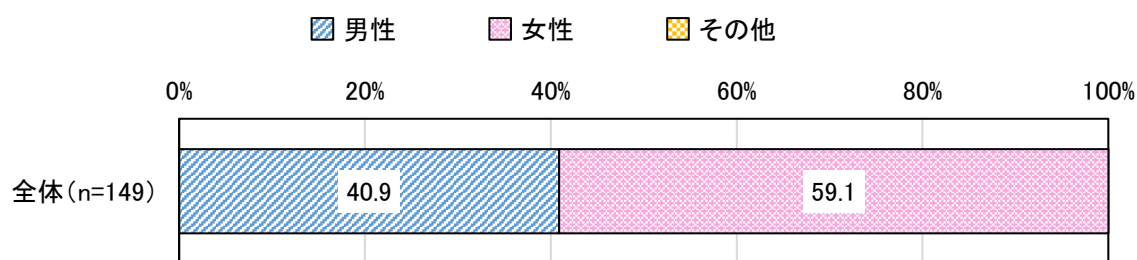
#### 問4 ヤングケアラーを支援するために、必要だと思うこと



ヤングケアラーを支援するために、必要だと思うことは、「教職員がヤングケアラーについて知ること」が81.3%で最も高く、次いで「児童生徒自身がヤングケアラーについて知ること」(78.8%)、「児童生徒が教職員に相談しやすい関係を作ること」(78.8%)、「ヤングケアラーの支援について学校から相談できる機関があること」(68.8%)となっている。

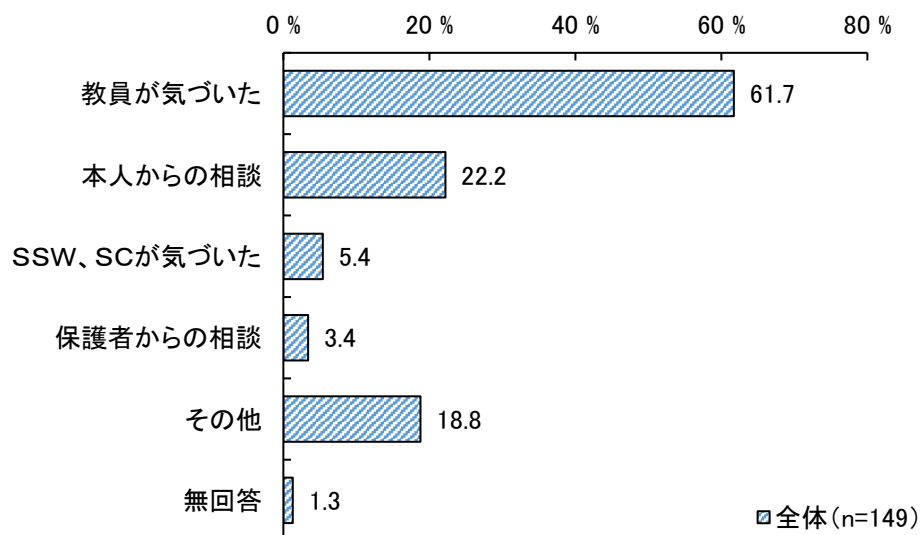
## (2) 個人票結果

該当する児童生徒の性別



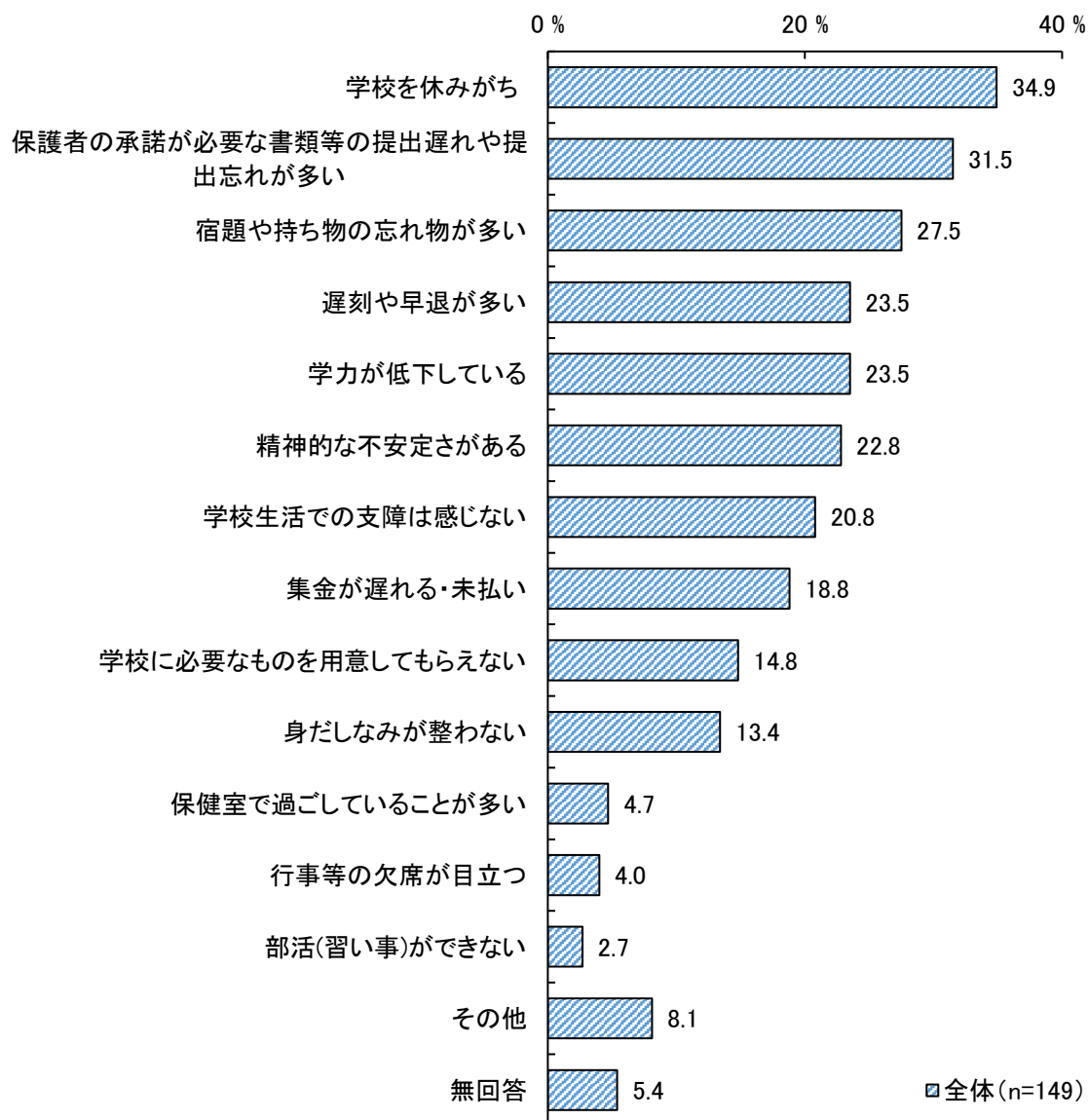
該当する子どもの性別は上記のとおりとなっている。

ケアラーと気づいたきっかけ・理由



ケアラーと気づいたきっかけ・理由は、「教員が気づいた」が 61.7%で最も高く、次いで「本人からの相談」(22.2%) となっている。

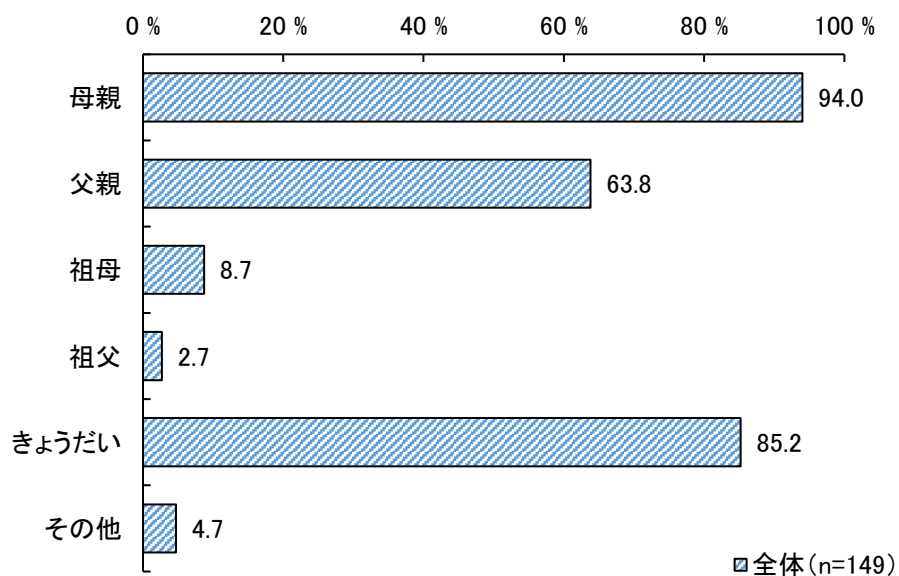
## 該当する児童生徒の学校生活の状況



該当する児童生徒の学校生活の状況は、「学校を休みがち」が34.9%で最も高く、次いで「保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い」(31.5%)、「宿題や持ち物の忘れ物が多い」(27.5%)、「遅刻や早退が多い」「学力が低下している」(ともに23.5%)、「精神的な不安定さがある」(22.8%)となっている。



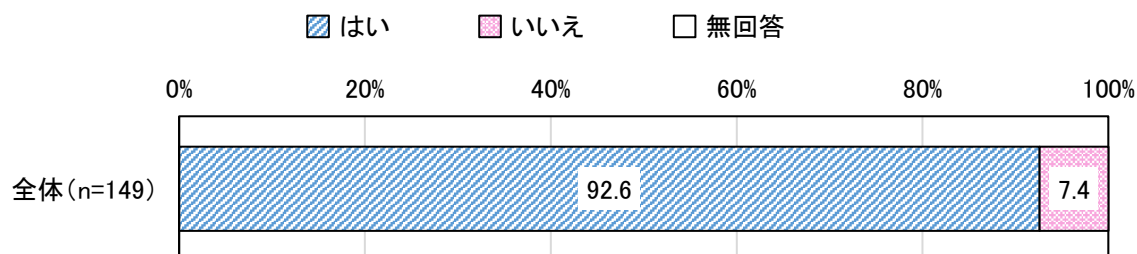
## 家族構成



家族構成は、「母親」が94.0%で最も高く、次いで「きょうだい」(85.2%)、「父親」(63.8%)となっている。

## 家庭でのケアの状況

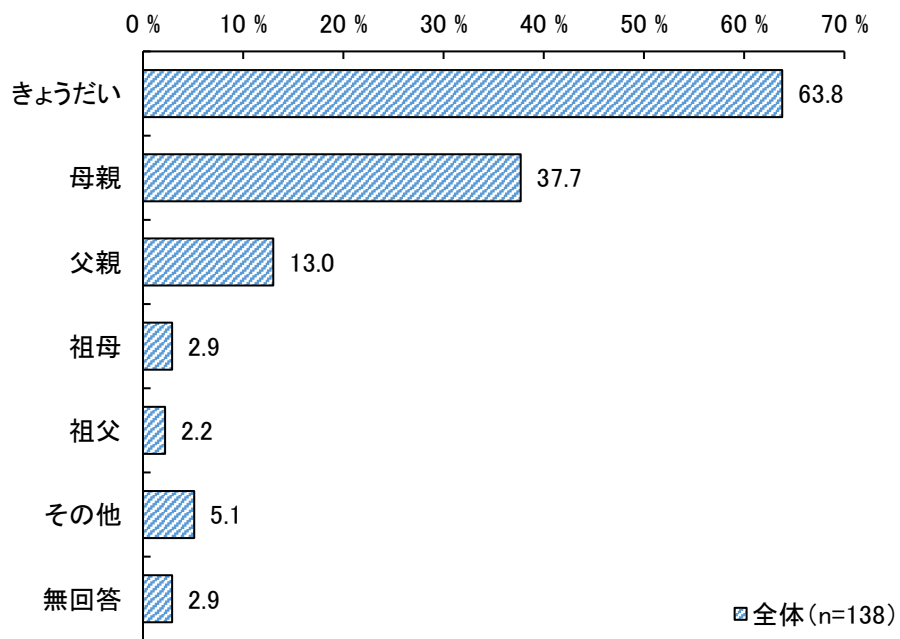
①ケアの状況を把握しているか



ケアの状況を把握しているかは、「はい」が92.6%、「いいえ」が7.4%となっている。

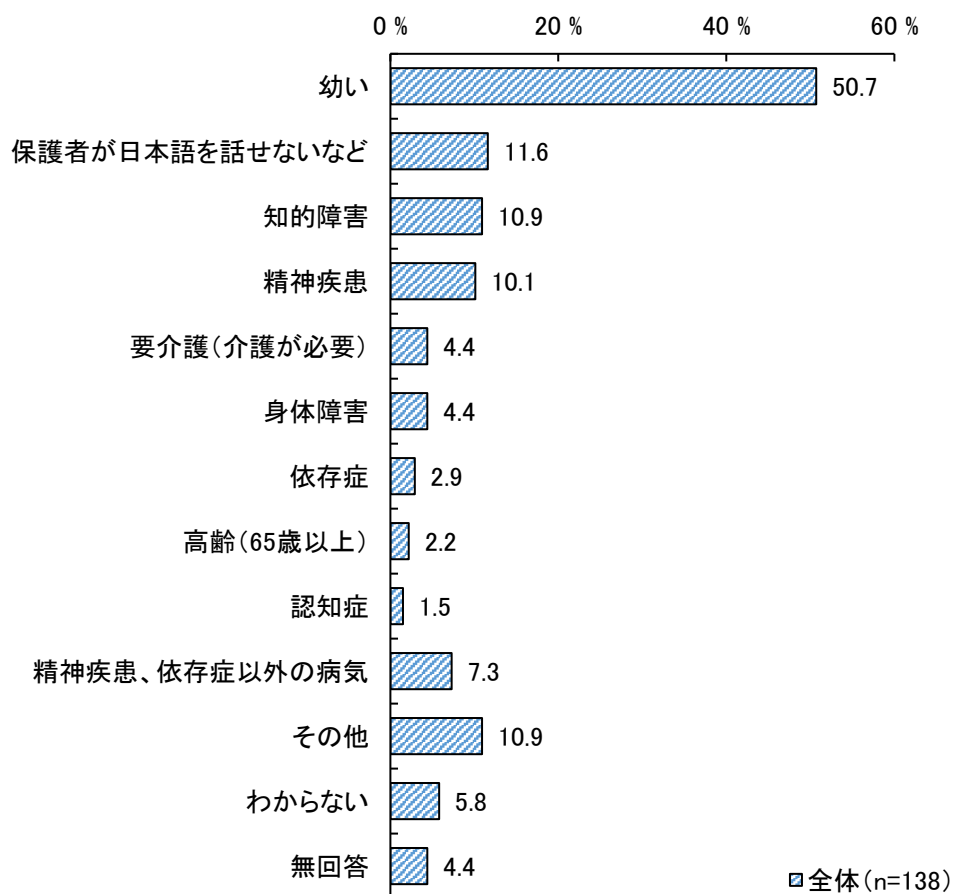
②ケアの具体的な内容（①で「はい」の場合）

A) ケアの対象者



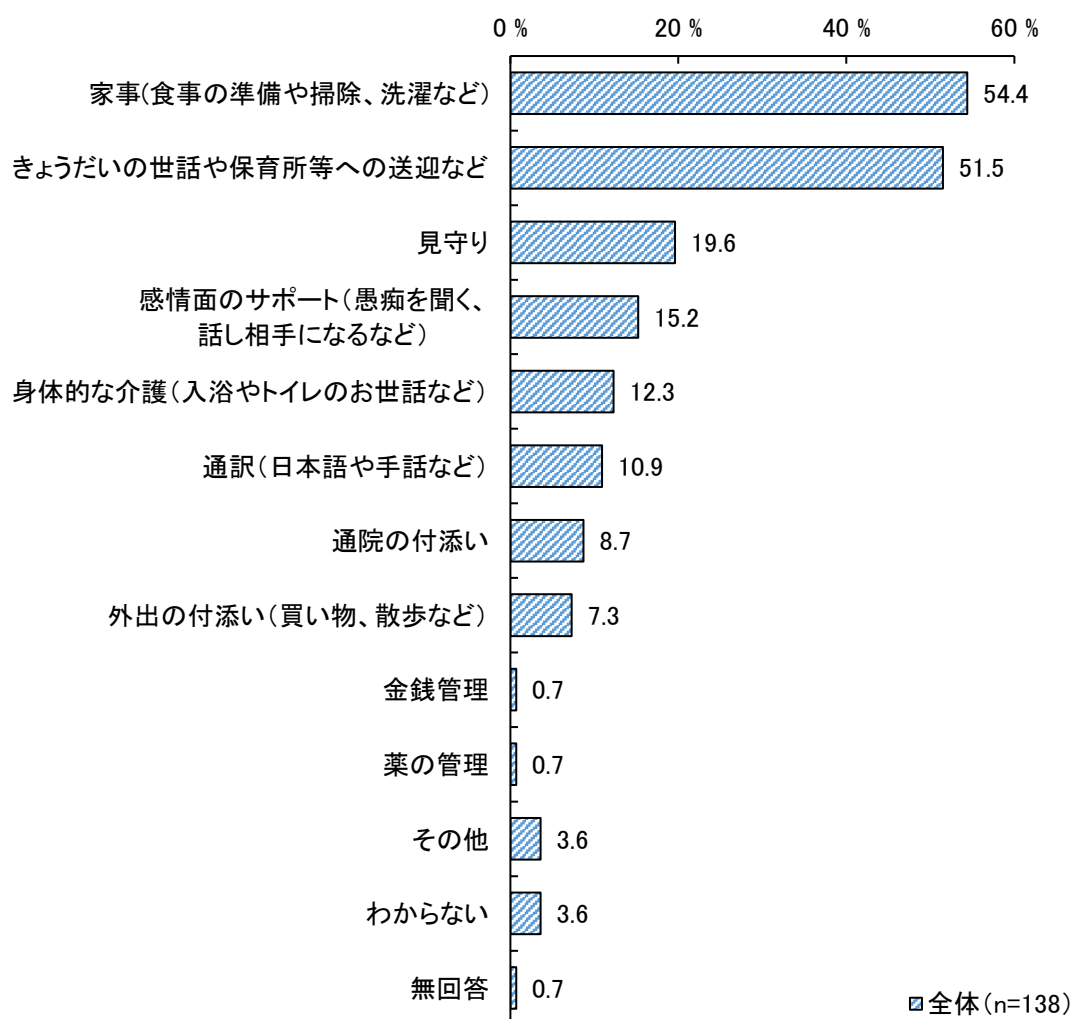
ケアの対象者は、「きょうだい」が 63.8%で最も高く、次いで「母親」(37.7%)、「父親」(13.0%)となっている。

B) ケアを必要としている人の状況



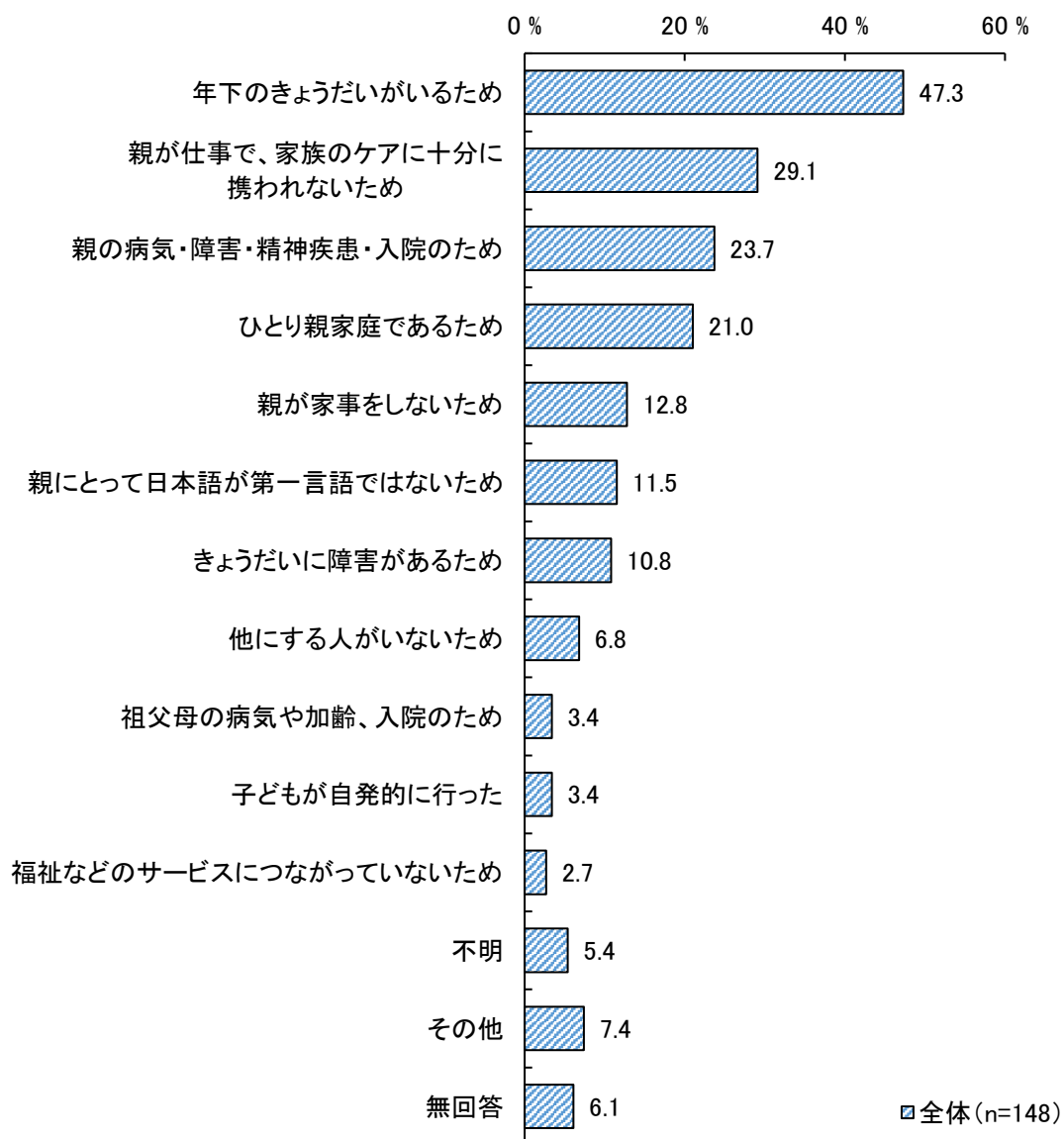
ケアを必要としている人の状況は、「幼い」が50.7%で最も高く、次いで「保護者が日本語を話せないなど」(11.6%)、「知的障害」(10.9%)、「精神疾患」(10.1%)となっている。

C) 児童生徒がしている「ケア」の内容



児童生徒がしている「ケア」の内容は、「家事(食事の準備や掃除、洗濯など)」が54.4%で最も高く、次いで「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」(51.5%)、「見守り」(19.6%)、「感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)」(15.2%)となっている。

## ケアをするようになった理由

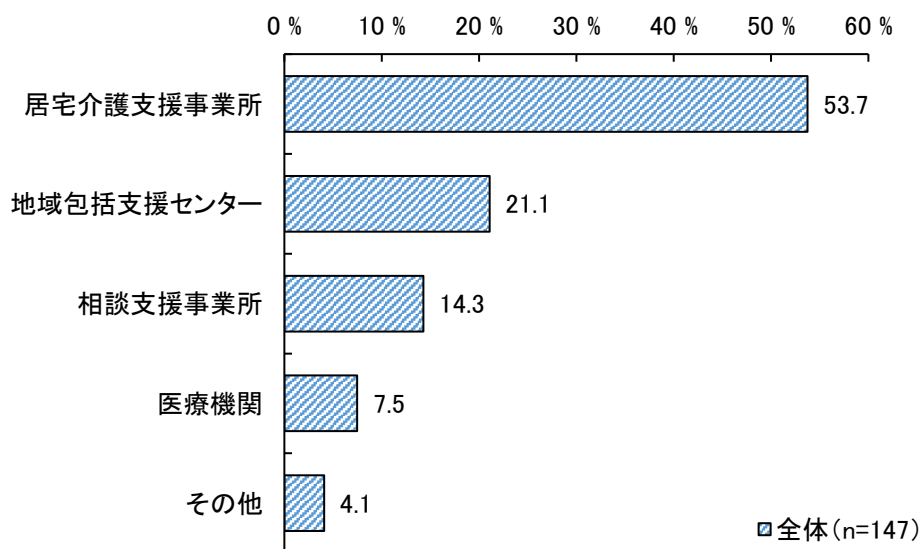


ケアをするようになった理由は、「年下のきょうだいがいるため」が47.3%で最も高く、次いで「親が仕事で、家族のケアに十分に携われないため」(29.1%)、「親の病気・障害・精神疾患・入院のため」(23.7%)、「ひとり親家庭であるため」(21.0%)、「親が家事をしないため」(12.8%)、「親にとって日本語が第一言語ではないため」(11.5%)となっている。

## 7. 関係機関アンケート調査結果

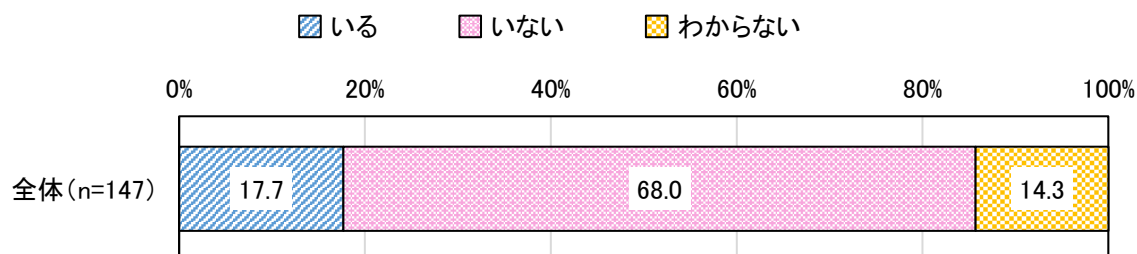
### (1) 調査票結果

機関の種類



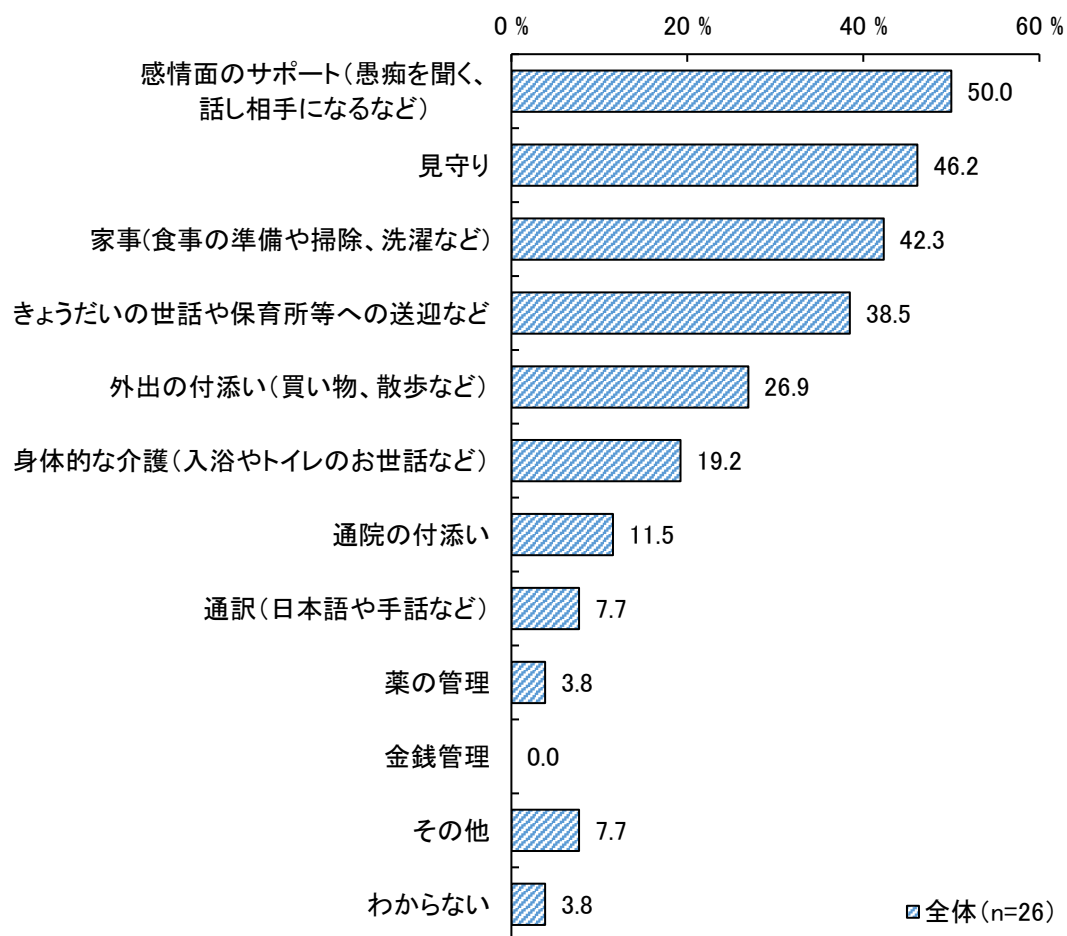
機関の種類は上記のとおりとなっている。

### 問1 家事や家族のケアを日常的に行っていると思われる子どもの有無



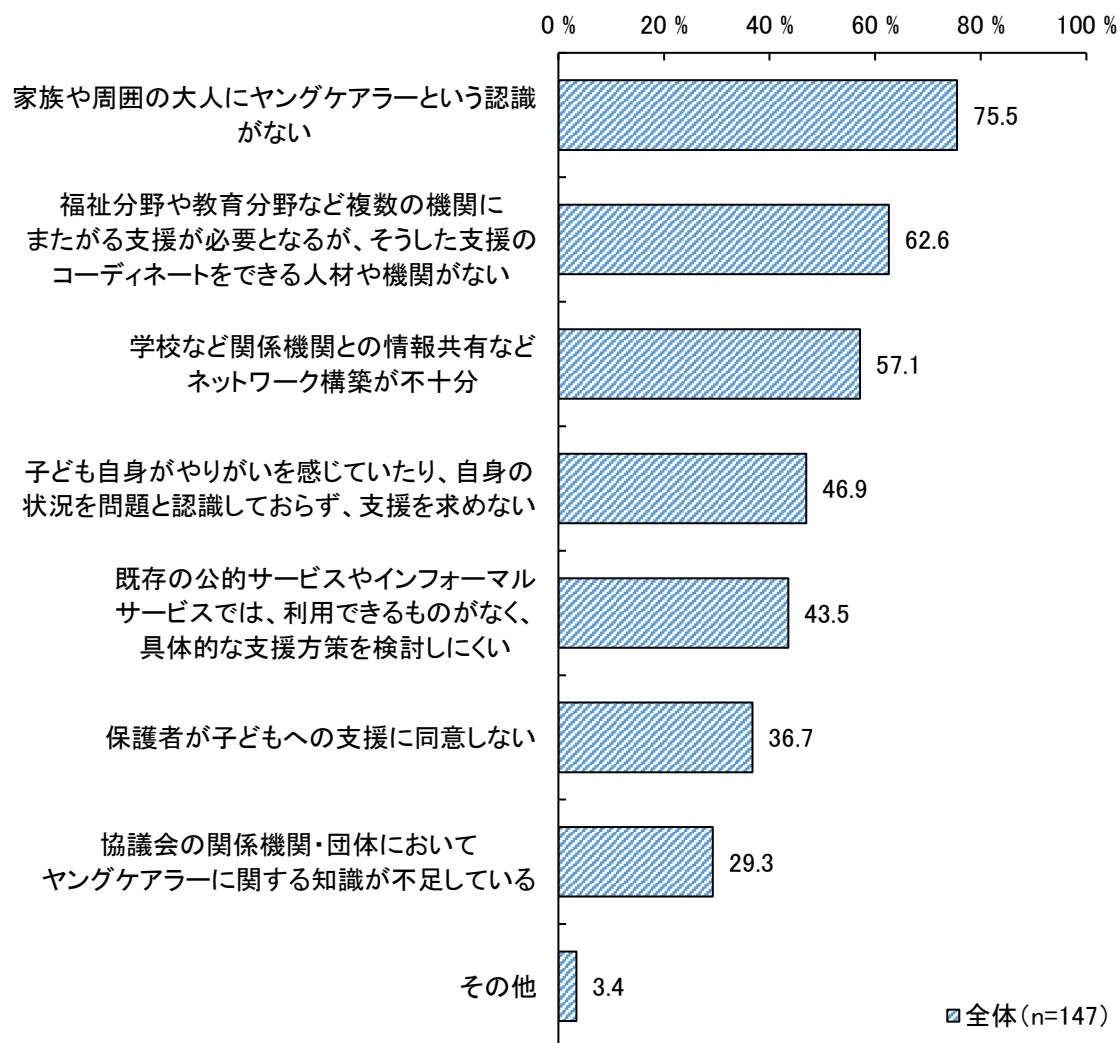
家事や家族のケアを日常的に行っていると思われる子どもの有無は、「いる」が17.7%、「いない」が68.0%。「わからない」が14.3%となっている。

問2 ヤングケアラーと思われる子どもが、家族に対して行っているケアの内容



家族に対して行っているケアの内容は、「感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)」が50.0%で最も高く、次いで「見守り」(46.2%)、「家事(食事の準備や掃除、洗濯など)」(42.3%)、「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」(38.5%)となっている。

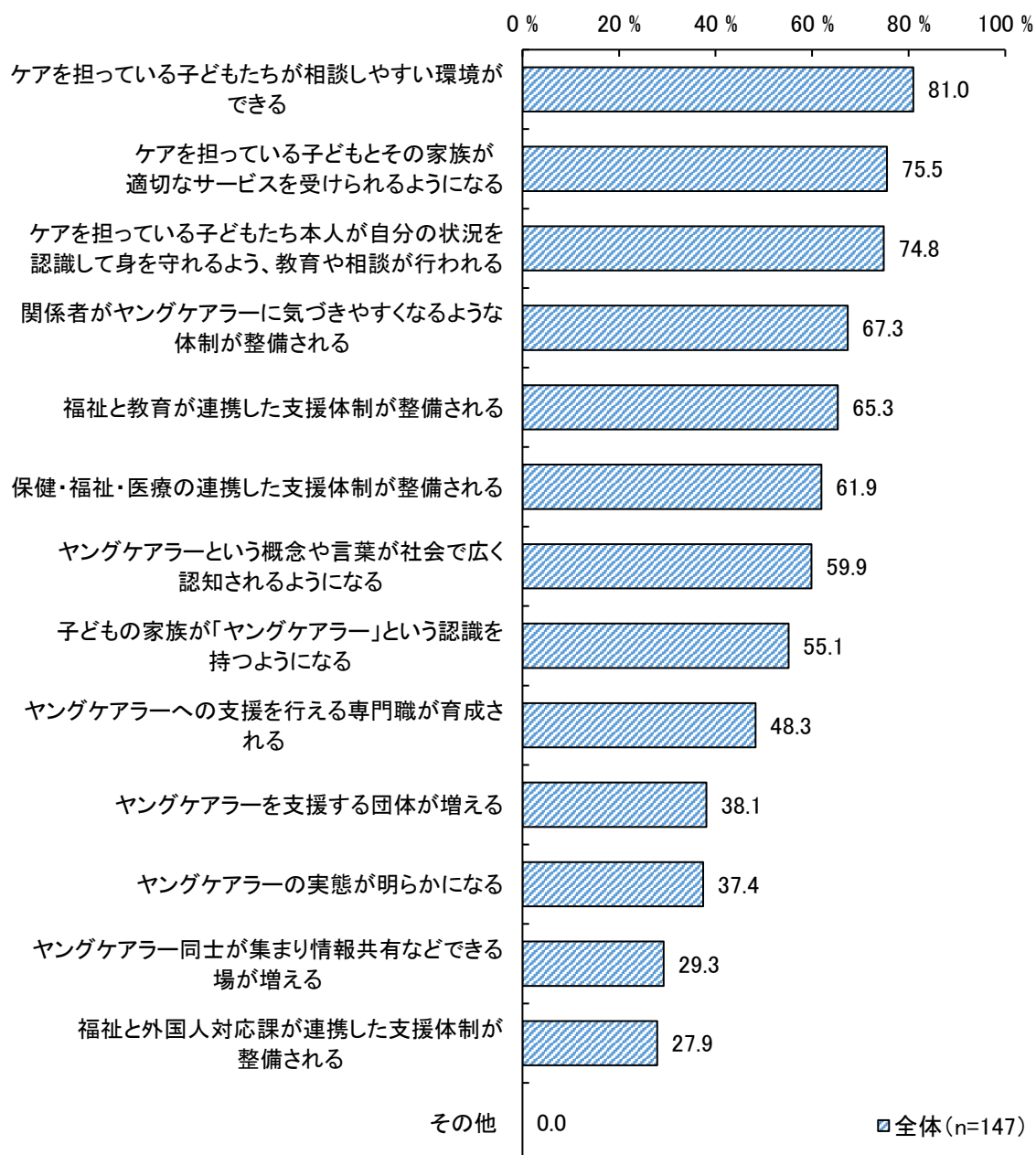
### 問5 ヤングケアラーと思われる子どもたちに支援をする際の課題



ヤングケアラーと思われる子どもたちに支援をする際の課題は、「家族や周囲の大人にヤングケアラーという認識がない」が75.5%で最も高く、次いで「福祉分野や教育分野など複数の機関にまたがる支援が必要となるが、そうした支援のコーディネートができる人材や機関がない」(62.6%)、「学校など関係機関との情報共有などネットワーク構築が不十分」(57.1%)、「子ども自身がやりがいを感じていたり、自身の状況を問題と認識しておらず、支援を求めない」(46.9%)となっている。



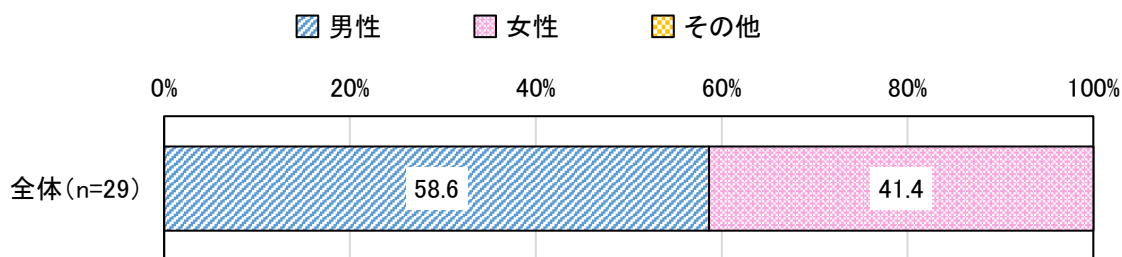
問7 今後、ヤングケアラーを広く支援するために、社会全体に期待すること



今後、ヤングケアラーを広く支援するために、社会全体に期待することは、「ケアを担っている子どもたちが相談しやすい環境ができる」が81.0%で最も高く、次いで「ケアを担っている子どもとその家族が適切なサービスを受けられるようになる」(75.5%)、「ケアを担っている子どもたち本人が自分の状況を認識して身を守れるよう、教育や相談が行われる」(74.8%)、「関係者がヤングケアラーに気づきやすくなるような体制が整備される」(67.3%)となっている。

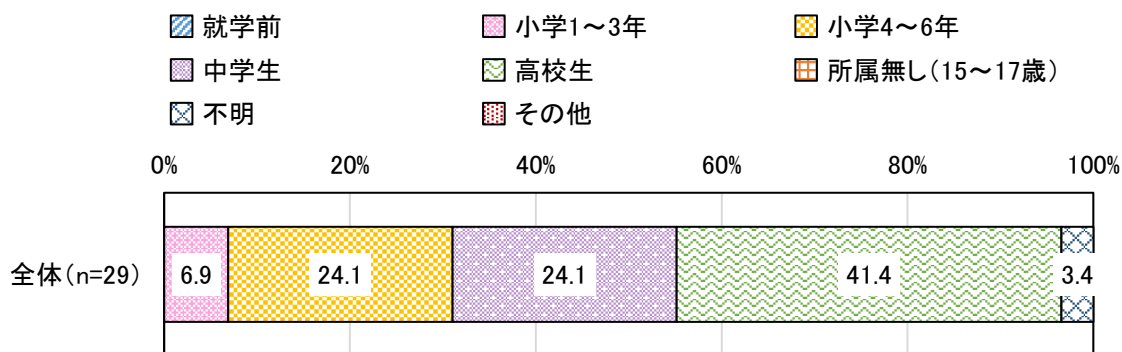
## (2) 個人票結果

該当する子どもの性別



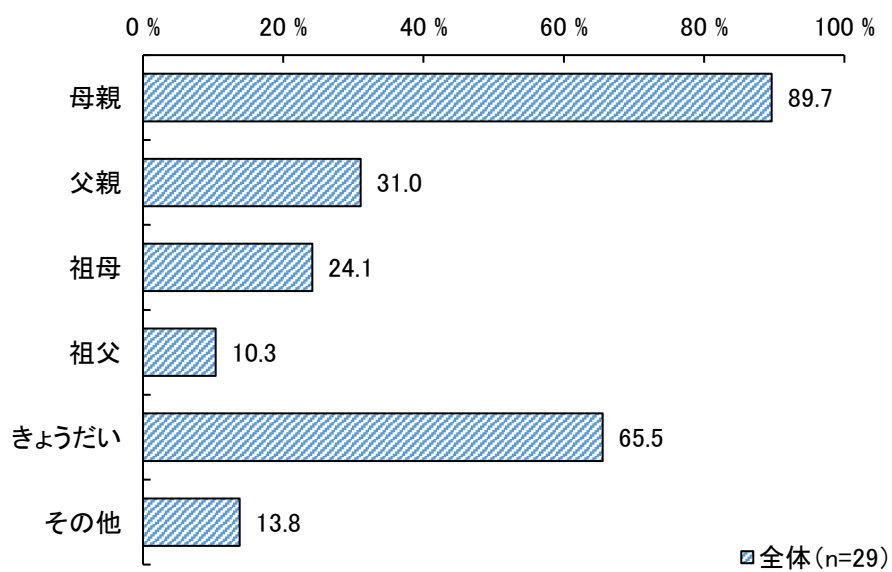
該当する子どもの性別は上記のとおりとなっている。

現在の学年・年齢



学年・年齢は、「高校生」が41.4%で最も高く、次いで「小学4~6年」、「中学生」（ともに24.1%）、「小学1~3年」（6.9%）となっている。

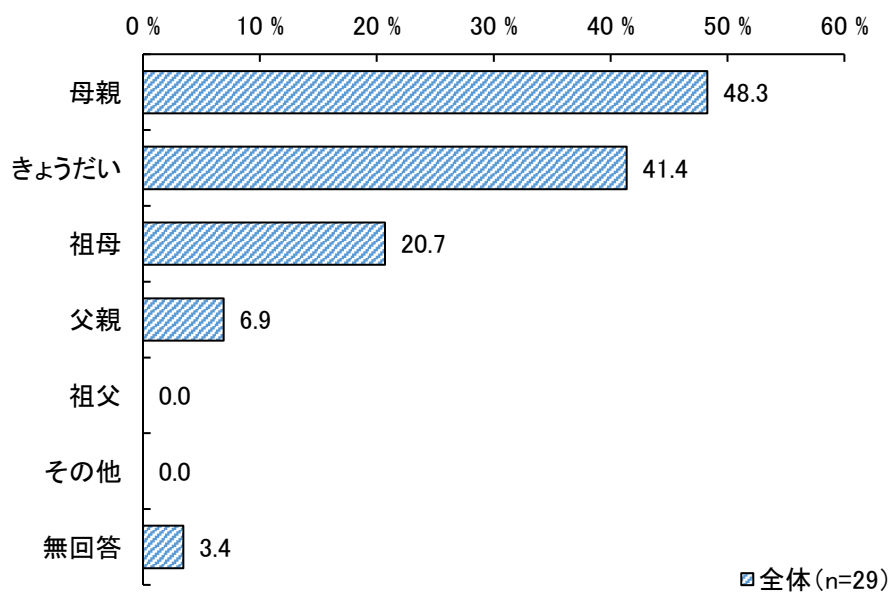
## 家族構成



家族構成は、「母親」が89.7%で最も高く、次いで「きょうだい」(65.5%)、「父親」(31.0%)、「祖母」(24.1%)、「祖父」(10.3%)となっている。

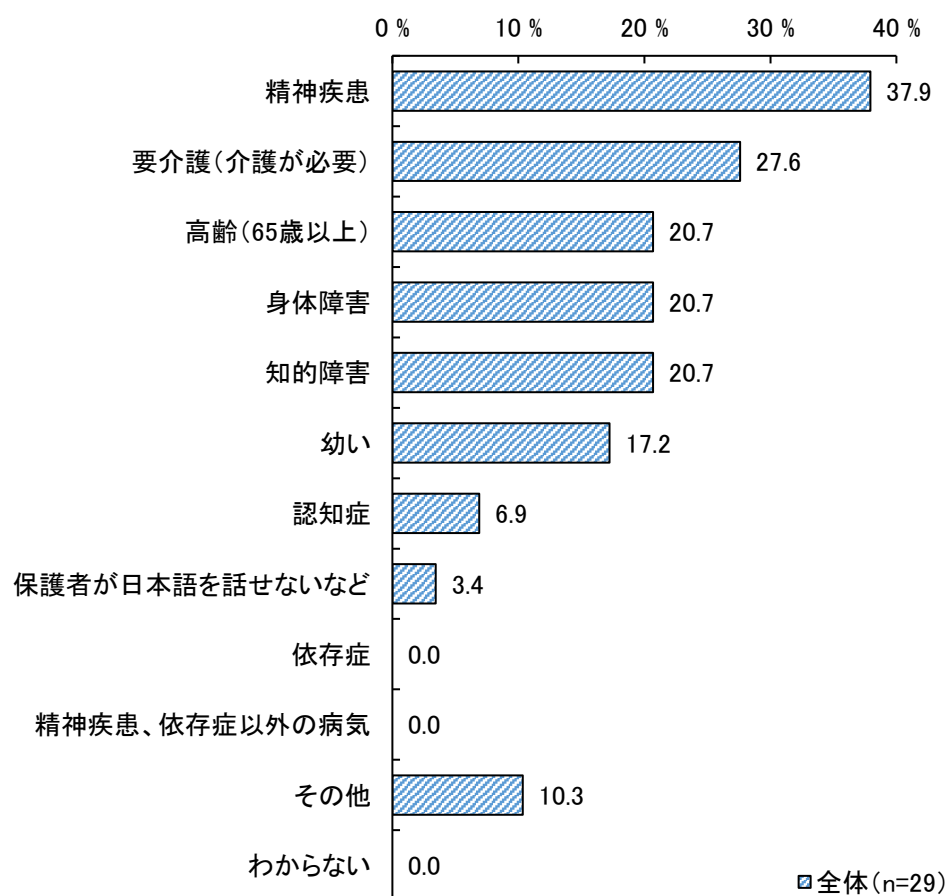
## 家庭でのケアの状況

### A) ケアの対象者



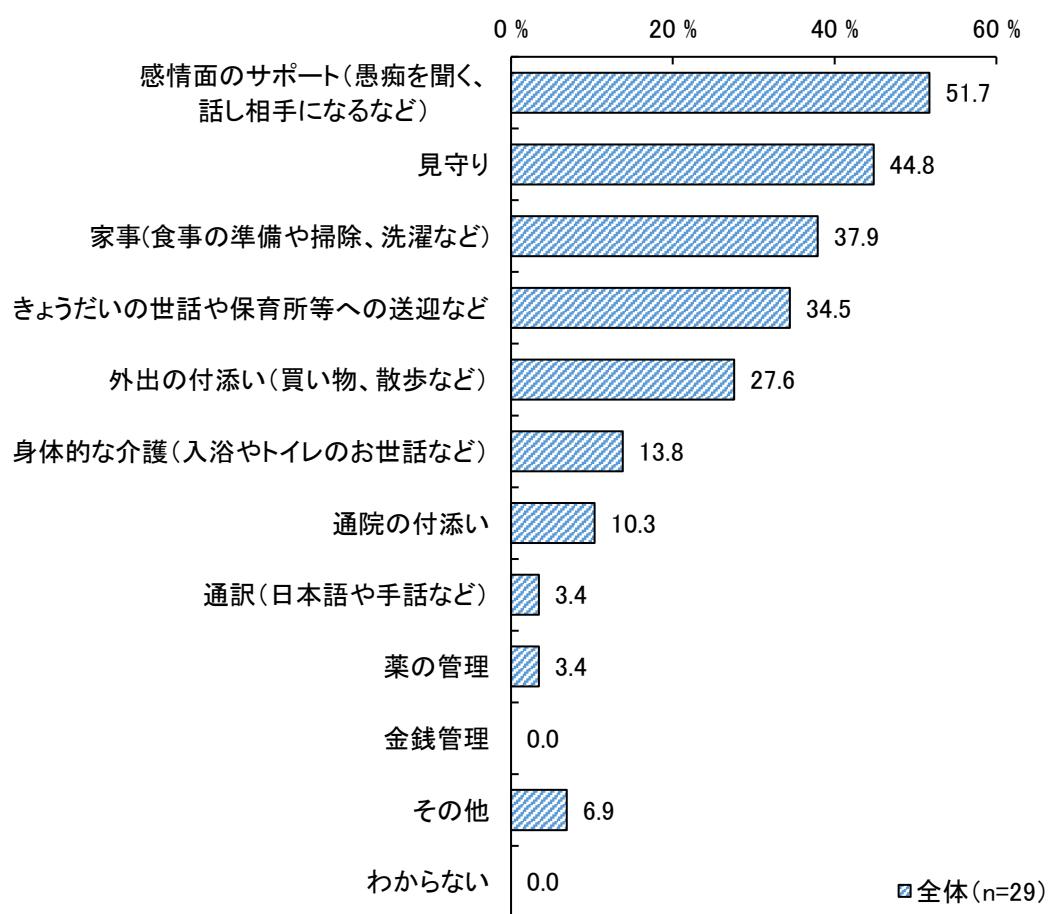
ケアの対象者は、「母親」が48.3%で最も高く、次いで「きょうだい」(41.4%)、「祖母」(20.7%)となっている。

## B) ケアを必要としている人の状況



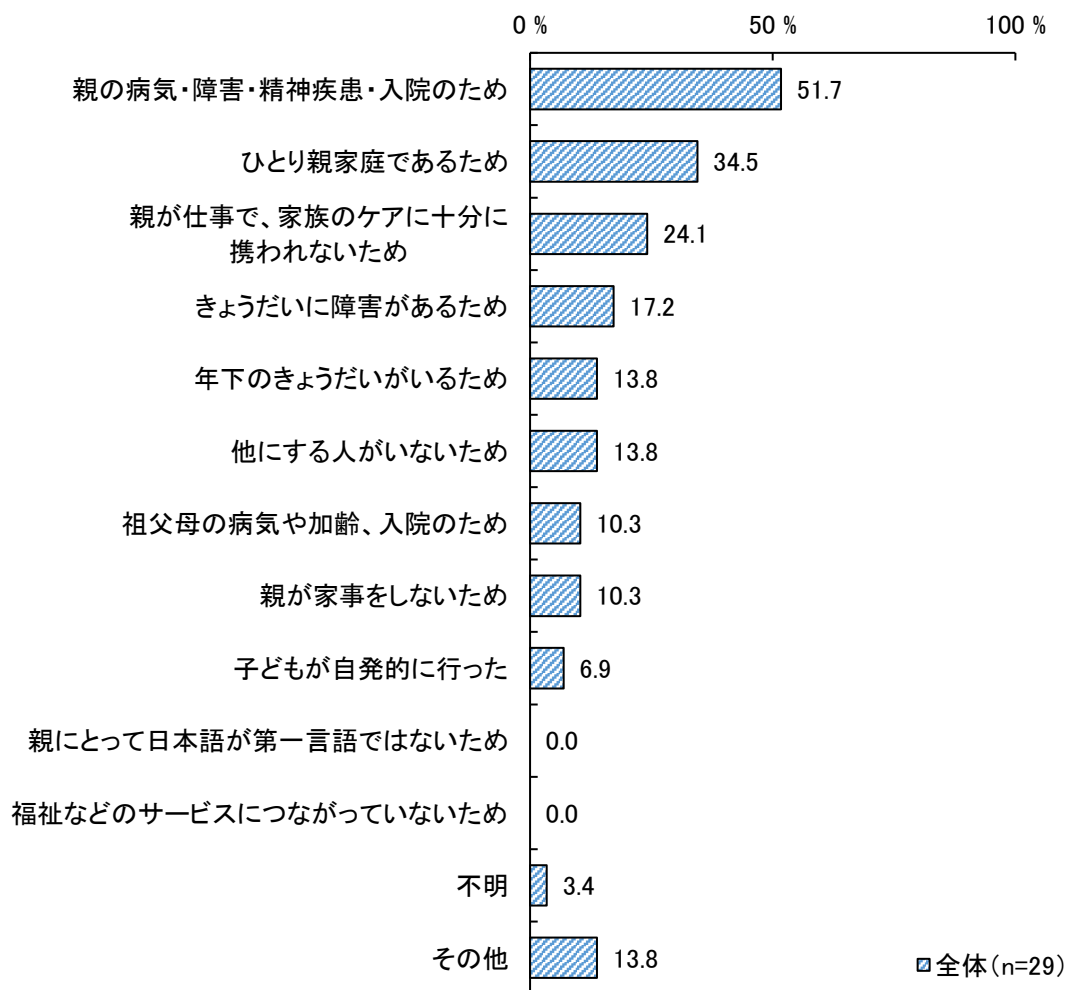
ケアを必要としている人の状況は、「精神疾患」が37.9%で最も高く、次いで「要介護（介護が必要）」（27.6%）、「高齢（65歳以上）」、「身体障害」、「知的障害」（いずれも20.7%）となっている。

B) 子どもがしている「ケア」の内容



子どもがしている「ケア」の内容は、「感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）」が51.7%で最も高く、次いで「見守り」（44.8%）、「家事（食事の準備や掃除、洗濯など）」（37.9%）、「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」（34.5%）、「外出の付添い（買い物、散歩など）」（27.6%）となっている。

## ケアをすることになった理由

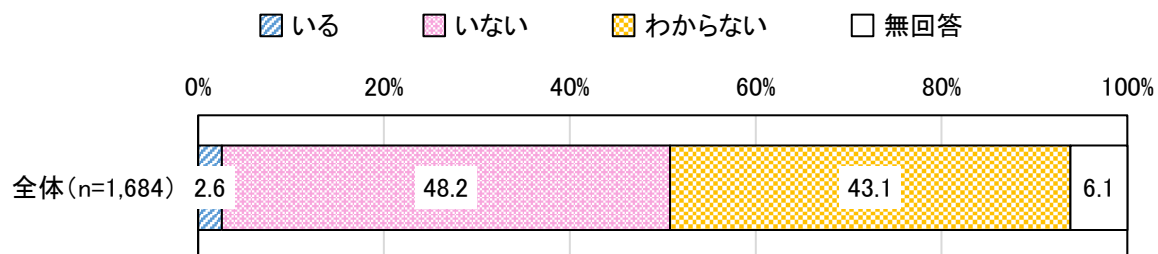


ケアをすることになった理由は、「親の病気・障害・精神疾患・入院のため」が 51.7% で最も高く、次いで「ひとり親家庭であるため」(34.5%)、「親が仕事で、家族のケアに十分に携われないため」(24.1%)、「きょうだいに障害があるため」(17.2%)、「年下のきょうだいがいるため」、「他にする人がいないため」(ともに 13.8%) となっている。

## 8. 民生委員・児童委員アンケート調査結果

### (1) 調査票結果

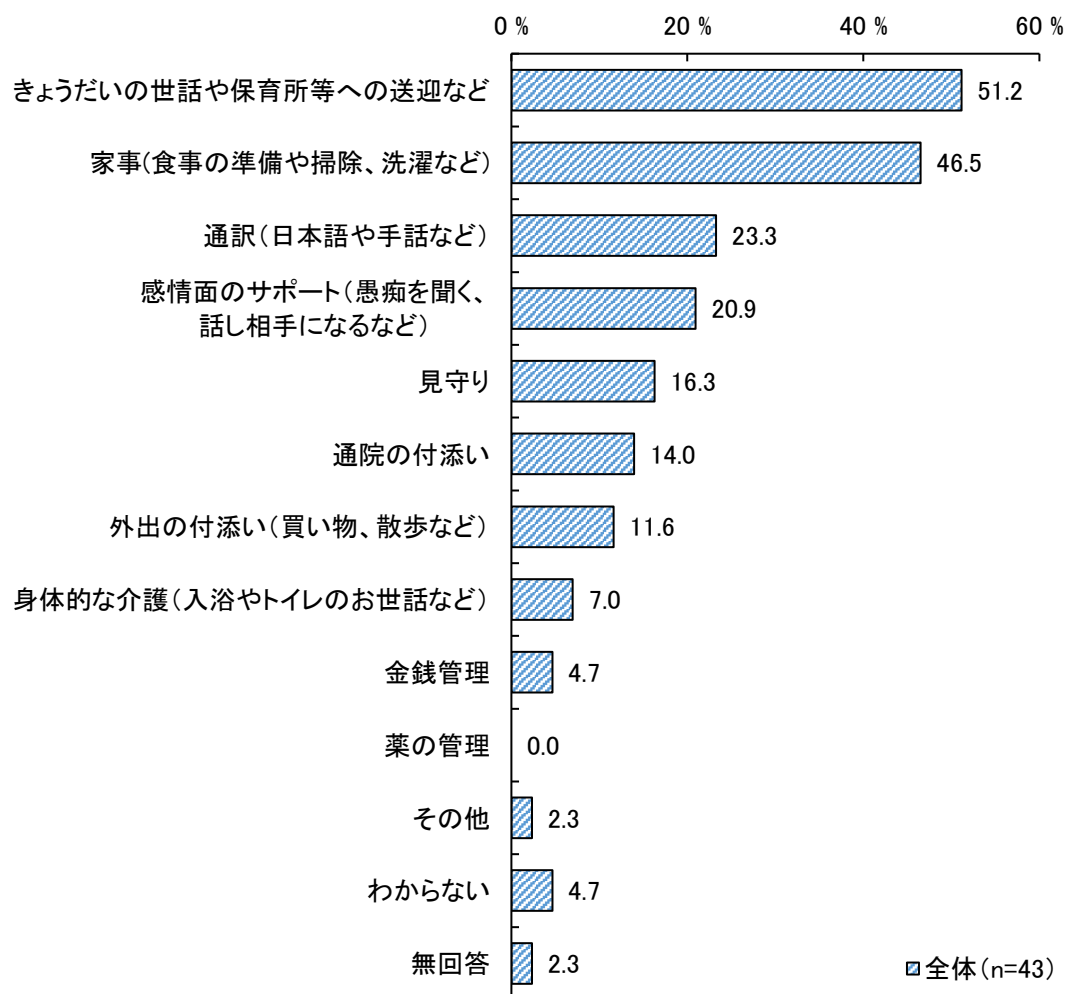
問1 家事や家族のケアを日常的に行っていると思われる子どもの有無



家事や家族のケアを日常的に行っていると思われる子どもの有無は、「いる」が2.6%、「いない」が48.2%。「わからない」が43.1%となっている。

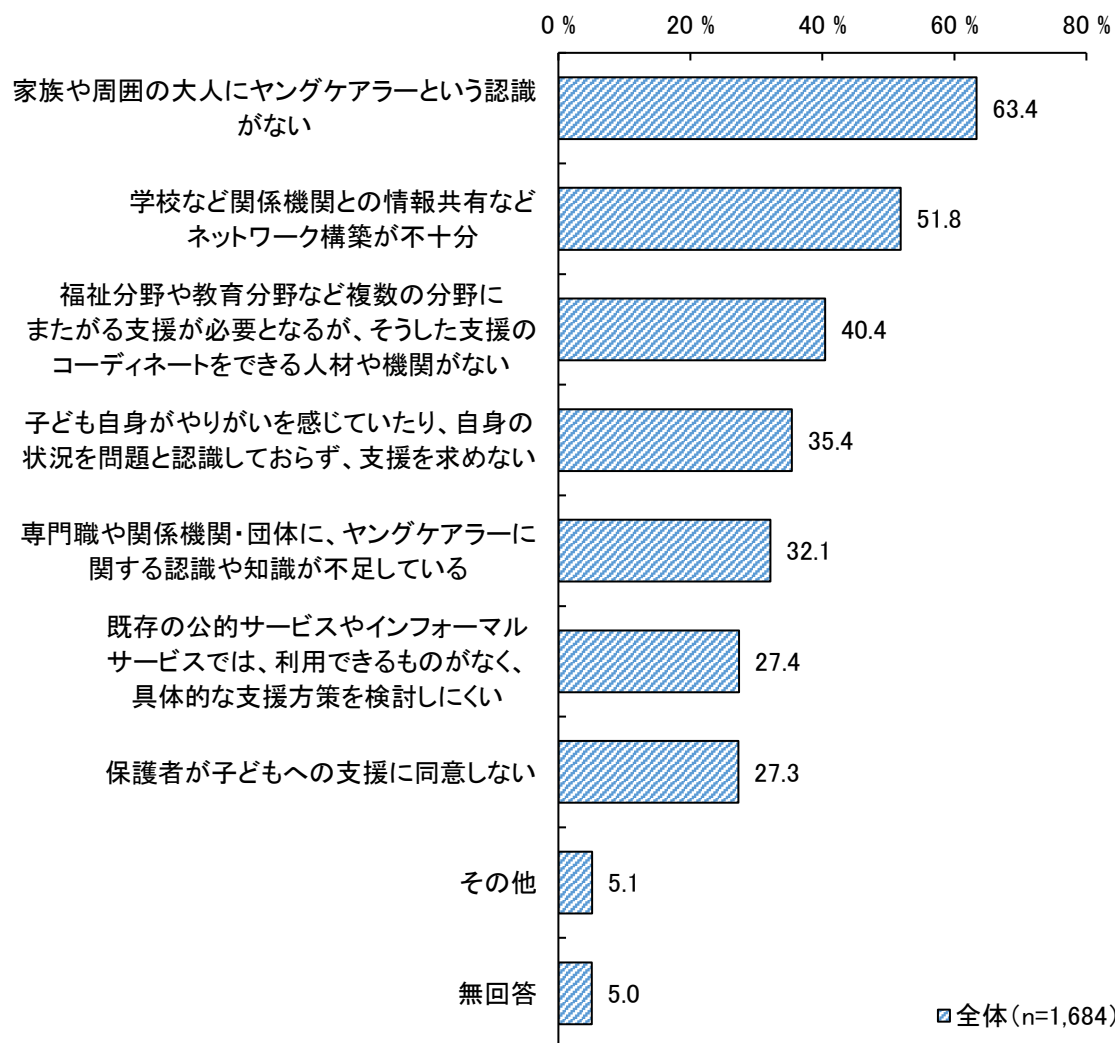


問2 ヤングケアラーと思われる子どもが、家族に対して行っているケアの内容



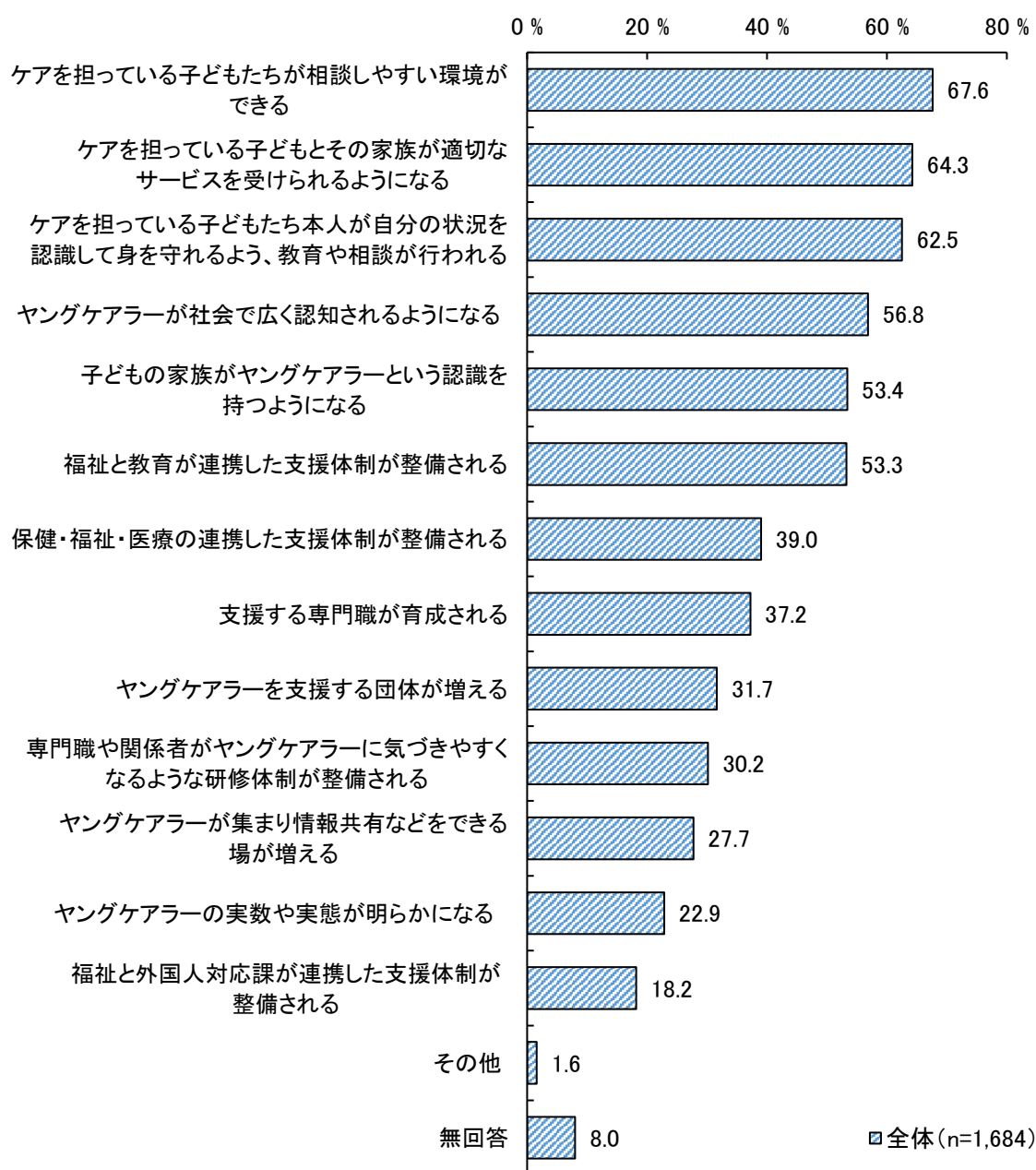
家族に対して行っているケアの内容は、「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」が51.2%で最も高く、次いで「家事(食事の準備や掃除、洗濯など)」(46.5%)、「通訳(日本語や手話など)」(23.3%)、「感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)」(20.9%)となっている。

## 問5 ヤングケアラーと思われる子どもたちに支援をする際の課題



ヤングケアラーと思われる子どもたちに支援をする際の課題は、「家族や周囲の大人にヤングケアラーという認識がない」が63.4%で最も高く、次いで「学校など関係機関との情報共有などネットワーク構築が不十分」(51.8%)、「福祉分野や教育分野など複数の分野にまたがる支援が必要となるが、そうした支援のコーディネートができる人材や機関がない」(40.4%)、「子ども自身がやりがいを感じていたり、自身の状況を問題と認識しておらず、支援を求めない」(35.4%)となっている。

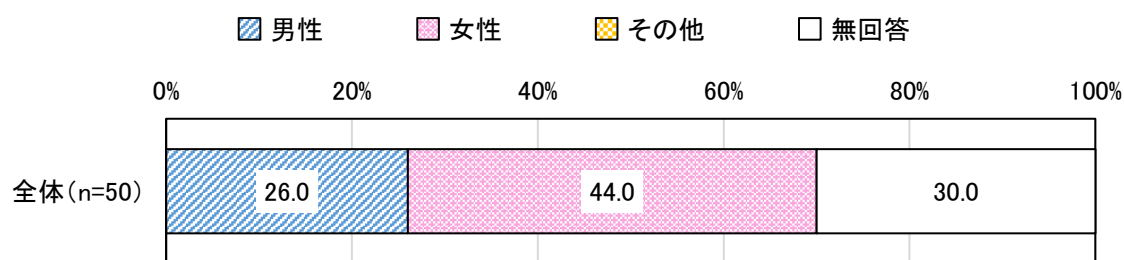
問7 今後、ヤングケアラーを広く支援するために、社会全体に期待すること



今後、ヤングケアラーを広く支援するために、社会全体に期待することは、「ケアを担っている子どもたちが相談しやすい環境ができる」が67.6%で最も高く、次いで「ケアを担っている子どもとその家族が適切なサービスを受けられるようになる」(64.3%)、「ケアを担っている子どもたち本人が自分の状況を認識して身を守れるよう、教育や相談が行われる」(62.5%)、「ヤングケアラーが社会で広く認知されるようになる」(56.8%)、「子どもの家族がヤングケアラーという認識を持つようになる」(53.4%)、「福祉と教育が連携した支援体制が整備される」(53.3%)となっている。

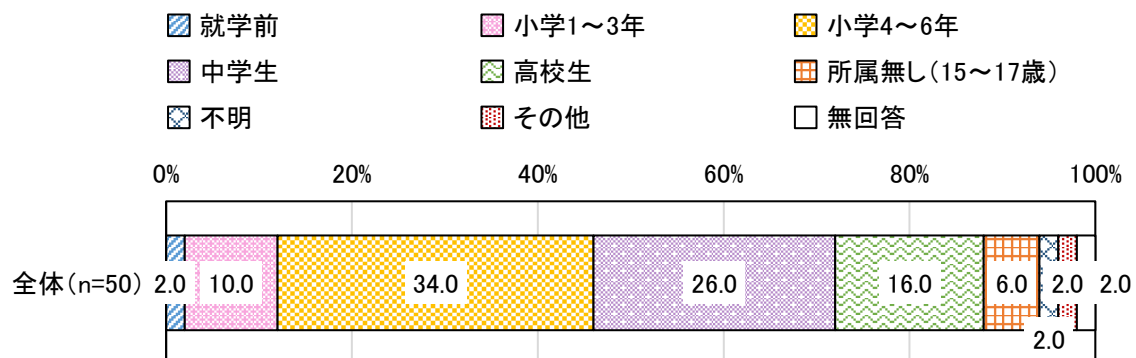
## (2) 個人票結果

### 該当する子どもの性別



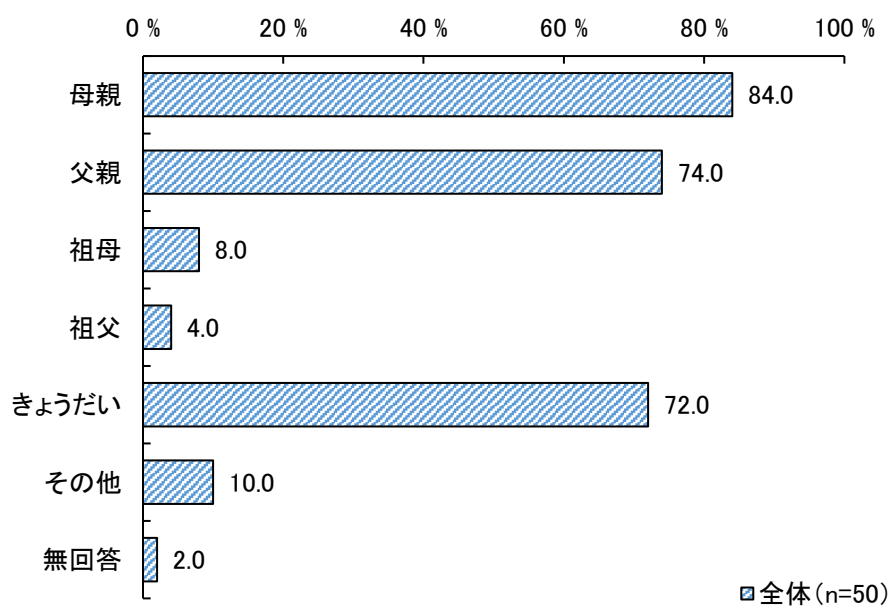
該当する子どもの性別は上記のとおりとなっている。

### 現在の学年・年齢



学年・年齢は、「小学4～6年」が34.0%で最も高く、次いで「中学生」(26.0%)、「高校生」(16.0%)、「小学1～3年」(10.0%)、「所属無し(15～17歳)」(6.0%)となっている。

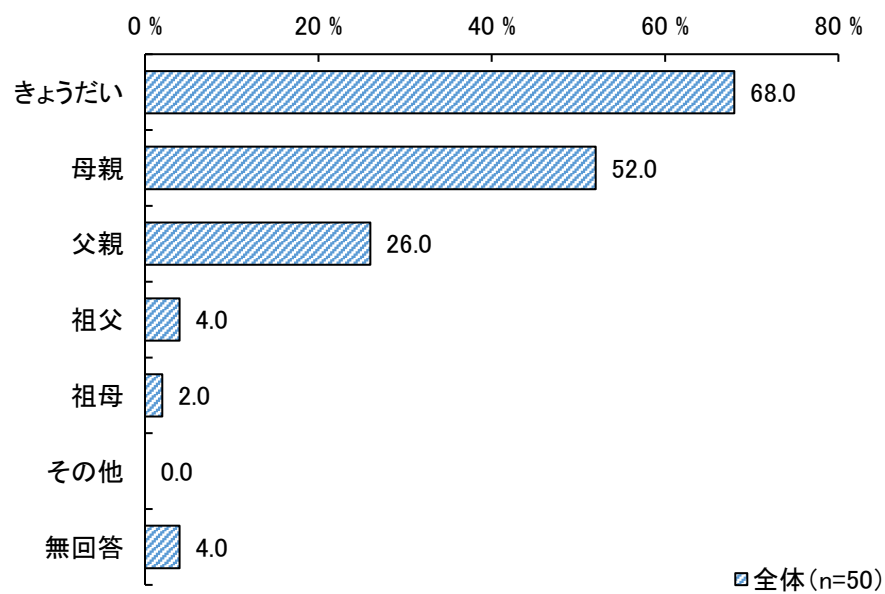
## 家族構成



家族構成は、「母親」が84.0%で最も高く、次いで「父親」(74.0%)、「きょうだい」(72.0%)、「祖母」(8.0%)、「祖父」(4.0%)となっている。

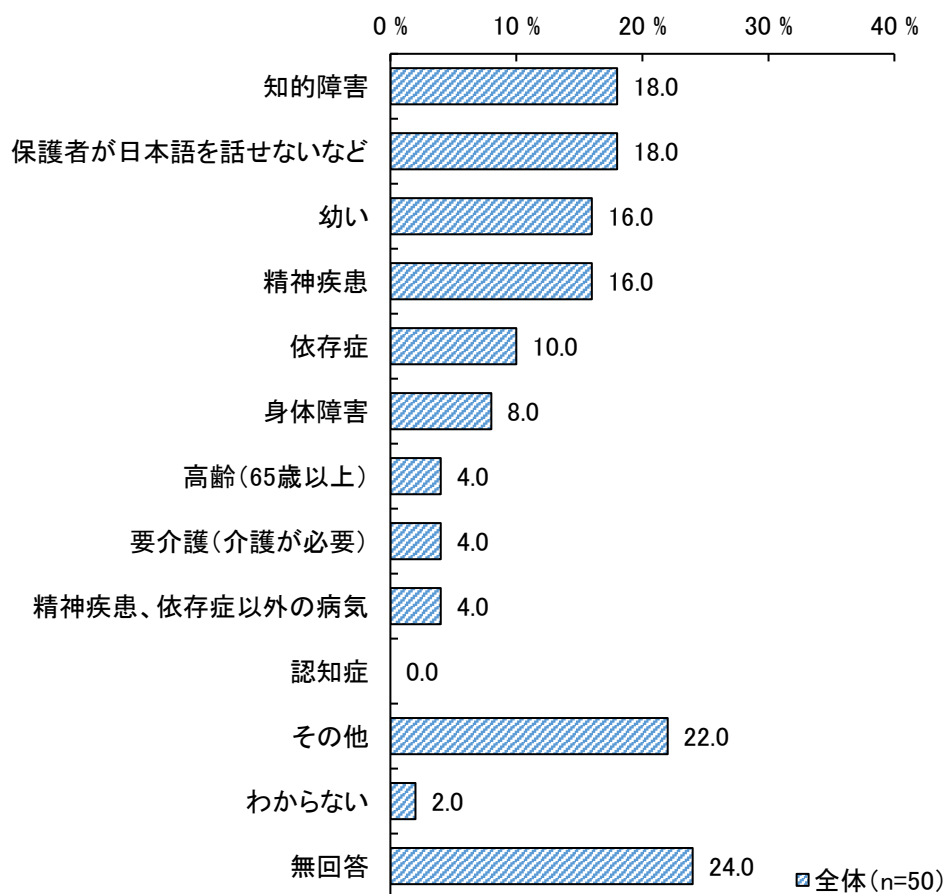
## 家庭でのケアの状況

### A) ケアの対象者



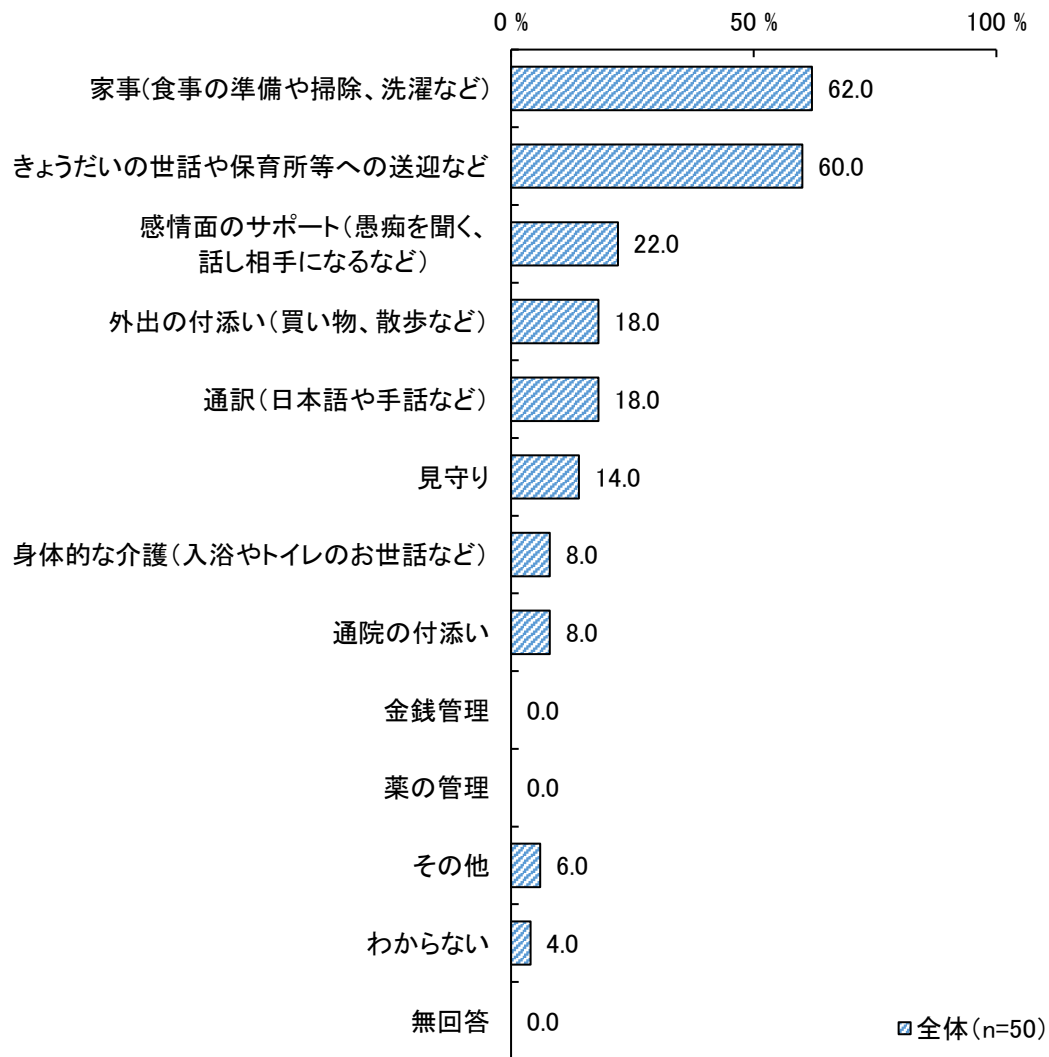
ケアの対象者は、「きょうだい」が 68.0%で最も高く、次いで「母親」(52.0%)、「父親」(26.0%)となっている。

B) ケアを必要としている人の状況



ケアを必要としている人の状況は、「知的障害」、「保護者が日本語を話せないなど」がともに18.0%で最も高く、次いで「若い」、「精神疾患」（ともに16.0%）、「依存症」10.0%）となっている。

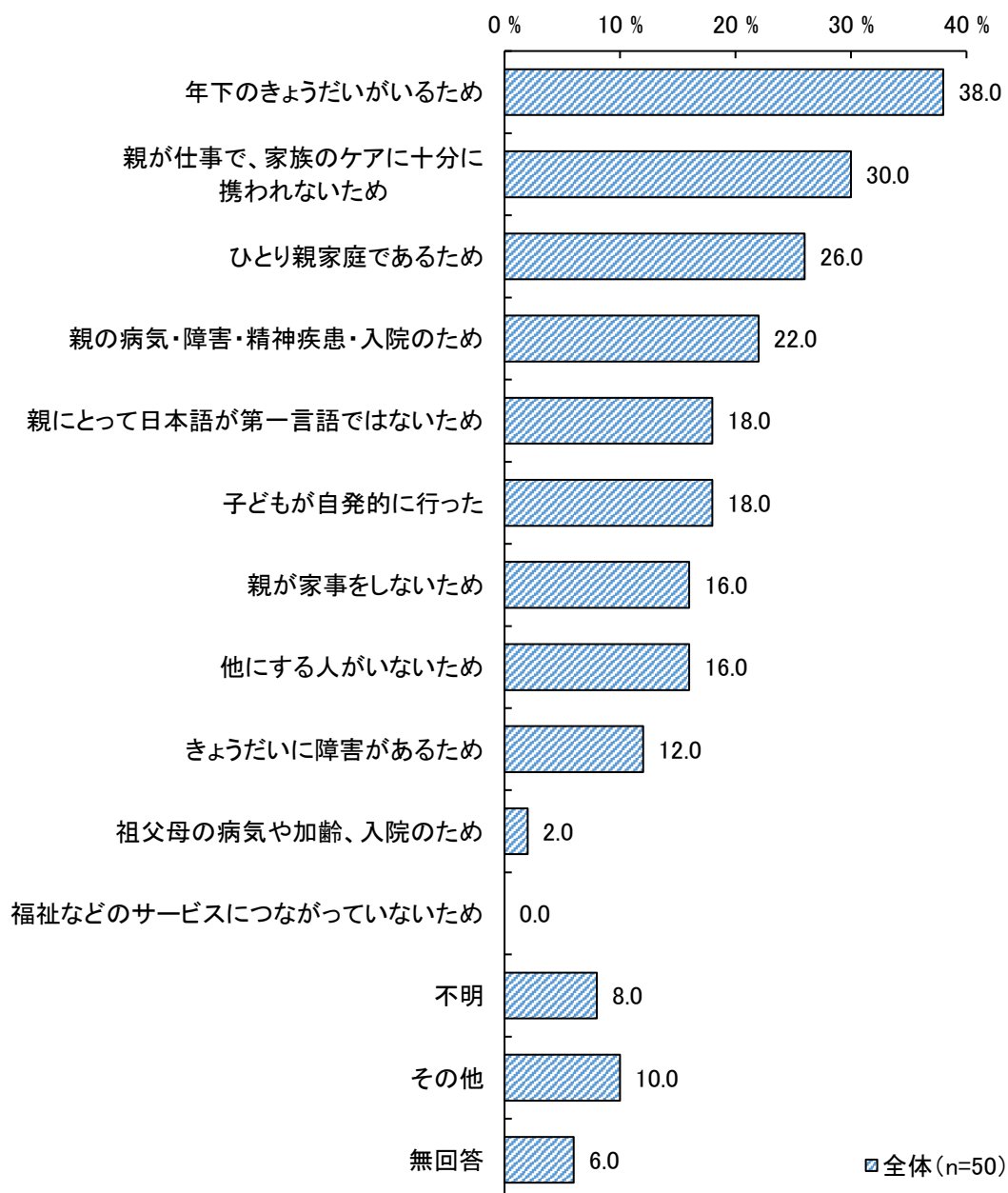
B) 子どもがしている「ケア」の内容



子どもがしている「ケア」の内容は、「家事(食事の準備や掃除、洗濯など)」が62.0%で最も高く、次いで「きょうだいのお世話や保育所等への送迎など」(60.0%)、「感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)」(22.0%)、「外出の付添い(買い物、散歩など)」、「通訳(日本語や手話など)」(ともに18.0%)となっている。



## ケアをすることになった理由



ケアをすることになった理由は、「年下のきょうだいがいるため」が38.0%で最も高く、次いで「親が仕事で、家族のケアに十分に携われないため」(30.0%)、「ひとり親家庭であるため」(26.0%)、「親の病気・障害・精神疾患・入院のため」(22.0%)、「親にとって日本語が第一言語ではないため」、「子どもが自発的に行った」(ともに18.0%)となっている。



# 調查票

## 小学生の生活についてのアンケート調査

保護者の皆様

この度、群馬県内の小学校に通っている小学6年生を対象に、学校や家庭での生活の中で抱える悩みや困りごと、家族のお世話の状況などをお聞かせいただき、その解決に必要な支援策を検討するためにアンケート調査を実施します。例えば介護や看病が必要な家族を抱えながら、あるいは保護者ご自身が病気や障害を抱えながら子育てをしている方は多くいらっしゃると思います。それは簡単なことではなく、どうしても子どもにお世話を手伝ってもらわなければならない場合も出てくるかもしれません。そのような時に、保護者や子どもたちが困難を抱え込まずに済むよう、どのような支援が可能かを検討していきたいと考えており、今回はそのための調査となります。

調査は無記名で行い、回答しなくてもお子様に不利益は全くありません。ご回答いただける場合でも、答えにくい質問は答えなくてもかまいません。無理のない範囲でお答えいただくようお願いしています。回答内容は全て統計的に処理しますので、お子様の回答が特定されたり、外部に知られることはありません（ただし、無記名のため、一度ご回答いただいた内容を修正したり、取り消すことはできません）。ご回答いただいた内容は、厳重に保管し、本調査研究や関連する調査研究事業、学術研究の目的以外には使用いたしません。

本アンケート調査は、群馬県が実施しているものです。集計結果を含めた報告書は、個々の回答が特定できないように編集し、ホームページなどで公表します。

### ◆◇ご回答にあたってのお願い◇◆

本調査は、お子様ご自身に回答いただくものです。

主な調査項目として、学校や家庭での生活の状況、悩みや困りごとなどをお聞きします。

回答は、**インターネットでのご回答をおねがいしております。**

右のQRコードを読み取るかURLを入力いただき回答ページへお入りください。

回答用URL：<https://form.qooker.jp/Q/auto/ja/gunmashou/gunmashou/>



※回答の締切日 2022年12月8日（木）

- 設問文の注意書きに従ってご回答ください。
- 回答を途中で一時保存し、後で入力することもできます。なお、回答は1人1回限りです。
- 所要時間は5～10分程度です。

※本アンケート調査は、株式会社スピードリサーチが群馬県からの委託を受け、実施しています。

※回答画面操作に関するお問い合わせは、株式会社スピードリサーチ（025-270-3800）までお願いします。

※ご家庭でインターネット環境が整わない場合は、用紙での回答もできますので、アンケートを封筒に入れ、封をして、学校に提出してください。

（この調査に関するお問い合わせ先）

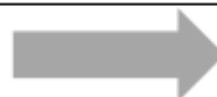
群馬県 生活こども部 児童福祉・青少年課 家庭福祉係

電話027-226-2628 メール：[jidosei@pref.gunma.lg.jp](mailto:jidosei@pref.gunma.lg.jp)

〒371-8570 前橋市大手町1-1-1

ぜひお子様の調査へのご協力にご理解をお願いします。

6年生の児童の皆様への説明は次のページをご確認ください。



## このアンケート調査を受け取った6年生の皆様へ

- このアンケート調査は、あなたのふだんの生活や困りごとをお聞きし、どのような支援があった方がよいか考えるために行うものです。
- このアンケート調査に回答するかどうかはあなたの自由です。
- 調査は名前を書かずに行いますので、あなたの回答が誰かに知られることはありません。
- この調査は、群馬県が行うものです。
- みなさんの回答一つひとつが大切な意見です。ぜひご協力をおねがいします。

回答にかかる時間：5～10分程度 回答のしめ切り：2022年12月8日(木)


### 【回答の手順】

### インターネットでのご回答をおねがいしております。

- ①右のQRコードを読み取るか、URLを入力して質問に答える→  
回答用URL： <https://form.qooker.jp/Q/auto/ja/gunmashou/gunmashou/>  
(12月8日までにおねがいします)



※ご家庭でインターネット環境が整わない場合は、用紙での回答もできますので、アンケートを封筒に入れ、封をして、学校に提出してください。

群馬県では子どもたちの様々な悩みごとの相談を受け付けています。		
名称	電話番号等	相談内容・注意事項
子どもホットライン24	0120-783-884 携帯電話からは 027-263-1100  メール： kodomo- soudan@pref. gu nma. lg. jp  LINE： 	18歳未満のお子さんや保護者からの様々な相談を受け付けています。 電話：24時間対応  メール：メール本文に「氏名」「お住まいの市町村」「電話番号」をなるべくご記入ください。メールの受信後、回答までに数日かかることもあります。特に、年末年始やゴールデンウィークなど長期間閉所する場合は、児童相談所開所日以降の回答となります。  LINE：相談は、左のQRコードをスマートフォン等で読み込んで、友だち登録をしてから利用してください。 1. 相談は平日9時から17時まで（ただし、12時から13時までは受け付けません）。 2. 土曜日、日曜日および年末年始（12月29日から1月3日まで）は休みとなります。 3. 相談の開始前にアンケート（性別・年齢・お住まいの市町村）に回答していただきます。 4. 相談に応じられる人数に限りがあり、お待たせしてしまう場合があります。 5. 10分以上応答が途絶えた場合、相談を終了することがあります。 6. 相談員との相談内容は公開しないでください。また、相談内容や相談画面については、群馬県の許可なく転送・転載はしないでください。
子ども教育・子育て相談	0270-26-9200	乳幼児から高校生までの教育や子育てに関する相談 月曜～金曜の9時～17時 第2・第4土曜の9時～15時 ※祝祭日および年末年始を除く
24時間子供SOSダイヤル	0120-0-78310 (なやみいおう)	いじめ問題やその他の子どものSOS全般 24時間対応

【 答 え 方 】

1. 答えは、問の後のあてはまる番号に○をつけてください。
2. 「その他」に○をした時は、( )の中に自分で考えた答えを書いてください。
3. (あてはまる番号すべてに○)と書いている間は、思ったところすべてに○をつけてください。
4. 答えたくない問は答えず、次の問に進んでもかまいません。
5. このアンケートに回答することで、あなた個人が特定されたり、あなたの家族に連絡が入ったりすることはありませんので、安心してお答えください。

I. 基本情報

問1-1. あなたの性別を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

- |      |      |        |           |
|------|------|--------|-----------|
| 1. 男 | 2. 女 | 3. その他 | 4. 答えたくない |
|------|------|--------|-----------|

問1-2. あなたの住んでいる市町村を教えてください。

市町村名 (記入):

問2. あなたと一緒に住んでいるのは誰ですか。(あてはまる番号すべてに○)

- |          |                |
|----------|----------------|
| 1. お母さん  | 5. 兄・姉 → ( ) 人 |
| 2. お父さん  | 6. 弟・妹 → ( ) 人 |
| 3. おばあさん | 7. その他         |
| 4. おじいさん | ( )            |

問3. あなたの健康状態について教えてください。(あてはまる番号1つに○)

- |         |            |
|---------|------------|
| 1. よい   | 4. あまりよくない |
| 2. まあよい | 5. よくない    |
| 3. ふつう  |            |

## II. ふだんの生活について

問4. あなたは学校を欠席したり、遅刻や早退をしたりすることがありますか。

① 欠席について（あてはまる番号1つに○）

1. ほとんど欠席しない      2. たまに欠席する      3. よく欠席する

② 遅刻や早退について（あてはまる番号1つに○）

1. ほとんどしない      2. たまにする      3. よくする

問5. 放課後、習い事などをしてありますか。（あてはまる番号1つに○）

1. はい      2. いいえ

問6. ふだんの学校生活などにおいて、以下の中であてはまるものはありますか。（あてはまる番号すべてに○）

- |                     |                             |
|---------------------|-----------------------------|
| 1. 授業中に寝てしまうことが多い   | 7. 保健室で過ごすことが多い             |
| 2. 宿題ができていないことが多い   | 8. 学校では一人で過ごすことが多い          |
| 3. 持ち物の忘れ物が多い       | 9. 友達と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない |
| 4. 習い事を休むことが多い      | 10. 特にない                    |
| 5. 提出物を出すのが遅れることが多い |                             |
| 6. 修学旅行などの宿泊行事を欠席する |                             |

問7. あなたが悩んでいることはありますか。（あてはまる番号すべてに○）

- |             |                              |
|-------------|------------------------------|
| 1. 友達のこと    | 5. 生活や勉強に必要なお金のこと            |
| 2. 学校の成績のこと | 6. 自分のために使える時間が少ないこと         |
| 3. 習い事のこと   | 7. その他（                    ） |
| 4. 家族のこと    | 8. 特にない →問9へ                 |



問8. 問7 でどれかに○をつけた人にお聞きします。○をつけた悩みについて、話を聞いてくれる人はいますか。(あてはまる番号1つに○)

- |       |        |            |
|-------|--------|------------|
| 1. いる | 2. いない | 3. 話はしたくない |
|-------|--------|------------|

### Ⅲ. 家庭や家族のことについて

問9. 家族の中にあなたがお世話をしている人はいますか。(ここで「お世話」とは、ふつう大人が行うような家事や家族のお世話を指します。)(あてはまる番号1つに○)

- |       |                                    |
|-------|------------------------------------|
| 1. いる | 2. いない→ここで回答は終わりです。どうもありがとうございました。 |
|-------|------------------------------------|

問10. 問9で「1. いる」と答えた人にお聞きします。あなたは誰に、どのようなお世話をしていますか。

① あなたがお世話をしている人(あてはまる番号すべてに○)

- |         |          |           |
|---------|----------|-----------|
| 1. お母さん | 3. おばあさん | 5. きょうだい  |
| 2. お父さん | 4. おじいさん | 6. その他( ) |

→「1. お母さん」「2. お父さん」を選んだ人は②-Aへ

→「3. おばあさん」「4. おじいさん」を選んだ人は②-Iへ

→「5. きょうだい」を選んだ人は②-Uへ

→「6. その他」を選んだ人は②-Eへ

※お世話をしている人が何人かいる場合には、それぞれについてお答えください。

② お世話を必要としている人の状況について教えてください。

②-A お母さん、あるいはお父さんをお世話している人にお聞きします。それはどのような理由ですか。(あてはまる番号すべてに○)

- |                        |  |
|------------------------|--|
| 1. 高齢(65歳以上)           | 7. 依存症(お酒やギャンブルなどをやめられず、生活に問題を抱えている) ※疑い含む |
| 2. 介護(食事や身の回りのお世話)が必要  | 8. 6:こころの病気、7:依存症 以外の病気                    |
| 3. 認知症                 | 9. 日本語が苦手                                  |
| 4. 身体障害                | 10. その他( )                                 |
| 5. 知的障害                | 11. わからない                                  |
| 6. こころの病気(うつ病など) ※疑い含む |  |

②-イ おばあさん、あるいはおじいさんをお世話している人にお聞きします。それはどのような理由ですか。(あてはまる番号すべてに○)

- |                         |   |
|-------------------------|---|
| 1. 高齢 (65歳以上)           | 7. 依存症 (お酒やギャンブルなどをやめられず、生活に問題を抱えている) ※疑い含む |
| 2. 介護 (食事や身の回りのお世話) が必要 | 8. 6:こころの病気、7:依存症 以外の病気                     |
| 3. 認知症                  | 9. 日本語が苦手                                   |
| 4. 身体障害                 | 10. その他 ( )                                 |
| 5. 知的障害                 | 11. わからない                                   |
| 6. こころの病気 (うつ病など) ※疑い含む |   |

②-ウ きょうだいをお世話している人にお聞きします。それはどのような理由ですか。(あてはまる番号すべてに○)

- |                         |            |
|-------------------------|------------|
| 1. 若い                   | 5. 病気      |
| 2. 介護 (食事や身の回りのお世話) が必要 | 6. 日本語が苦手  |
| 3. 身体障害                 | 7. その他 ( ) |
| 4. 知的障害                 | 8. わからない   |

②-エ 「その他」の人をお世話している人にお聞きします。それはどのような理由ですか。(あてはまる番号すべてに○)

- |                         |   |
|-------------------------|---|
| 1. 高齢 (65歳以上)           | 7. 依存症 (お酒やギャンブルなどをやめられず、生活に問題を抱えている) ※疑い含む |
| 2. 介護 (食事や身の回りのお世話) が必要 | 8. 6:こころの病気、7:依存症 以外の病気                     |
| 3. 認知症                  | 9. 日本語が苦手                                   |
| 4. 身体障害                 | 10. その他 ( )                                 |
| 5. 知的障害                 | 11. わからない                                   |
| 6. こころの病気 (うつ病など) ※疑い含む |   |

③ あなたはどのようなお世話をしていますか。お世話をしている人が何人かいる場合には、あてはまる番号すべてに○をしてください。

1. 家事（食事の準備や掃除、洗濯）	7. 見守り
2. きょうだいのお世話や送り迎え	8. 通訳（日本語や手話など）
3. 入浴やトイレのお世話	9. お金の管理
4. 買い物や散歩と一緒にいく	10. 家の管理
5. 病院へ一緒にいく	11. その他
6. 話を聞く	( )

④ あなたはお世話を誰と一緒にしていますか。何人かお世話をしている人がいる場合には、あてはまる番号すべてに○をしてください。

1. お母さん	6. しんせきの人
2. お父さん	7. 自分のみ
3. おばあさん	8. 福祉サービス（ヘルパーなど）を利用
4. おじいさん	9. その他（ )
5. きょうだい	

⑤ あなたは何才からお世話をしていますか。（はっきりとわからない場合は、だいたいの年でかまいません）

( ) 才から

⑥ あなたはどのくらいお世話をしていますか。（あてはまる番号1つに○）

1. ほぼ毎日	3. 週に1～2日	5. その他
2. 週に3～5日	4. 1か月に数日	( )

⑦ あなたは平日何時間くらいお世話をしていますか。（日によって違う場合は、この1か月でいちばん長かった日の時間を教えてください）

1日 ( ) 時間くらい

問11. お世話をしていることで、以下のような経験をしたことはありますか。

(あてはまる番号すべてに○)

- |                  |               |
|------------------|---------------|
| 1. 学校を休んでしまう     | 6. 習い事ができない   |
| 2. 遅刻や早退をしてしまう   | 7. 自分の時間が取れない |
| 3. 宿題など勉強する時間がない | 8. その他 ( )    |
| 4. 眠る時間がたりない     | 9. 特にない       |
| 5. 友だちと遊ぶことができない |               |

問12. お世話をすることに大変さを感じていますか。(あてはまる番号すべてに○)

- |             |                 |
|-------------|-----------------|
| 1. 体力の面で大変  | 3. 時間の余裕がない     |
| 2. 気持ちの面で大変 | 4. 特に大変さは感じていない |

問13. あなたがお世話をしている家族のことや、お世話の悩みについて誰かに相談したことはありますか。(あてはまる番号1つに○)

- |             |             |
|-------------|-------------|
| 1. ある →問14へ | 2. ない →問15へ |
|-------------|-------------|

問14. 問13で「1. ある」と回答した人にお聞きします。それは誰ですか。

(あてはまる番号すべてに○)

- |                                     |                             |
|-------------------------------------|-----------------------------|
| 1. 家族 (お父さん、お母さん、おじいさん、おばあさん、きょうだい) | 6. スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー |
| 2. しんせき (おじ、おばなど)                   | 7. 病院・医療・福祉サービスの人           |
| 3. 友だち                              | 8. 近所の人                     |
| 4. 学校の先生 (保健室の先生以外)                 | 9. SNS上での知り合い               |
| 5. 保健室の先生                           | 10. その他 ( )                 |

→問17へ

問15. 問13で「2. ない」と回答した人にお聞きします。相談していない理由を教えてください。

(あてはまる番号すべてに○)

- |                       |                   |
|-----------------------|-------------------|
| 1. 相談するほどの悩みではないから    | 4. 家族のことを話したくないから |
| 2. 誰に相談するのがよいかわからないから | 5. 相談しても何も変わらないから |
| 3. 相談できる人がいないから       | 6. その他 ( )        |

問16. 問13で「2. ない」と回答した人にお聞きします。あなたがお世話をしている家族のことや、お世話の悩みを聞いてくれる人はいますか。(あてはまる番号1つに○)

- |       |        |
|-------|--------|
| 1. いる | 2. いない |
|-------|--------|

問17. 学校や周りの大人にしてもらいたいことはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

- |   |            |
|---|------------|
| 1. 自分のことについて話を聞いてほしい  |            |
| 2. 家族のお世話について相談にのってほしい                                      |            |
| 3. 家族の病気や障害、お世話のことなどについてわかりやすく説明してほしい                       |            |
| 4. 自分が行っているお世話のすべてを誰かに代わってほしい                               |            |
| 5. 自分が行っているお世話の一部を誰かに代わってほしい<br>⇒具体的にどんなお世話、もしくはどんな時ですか ( ) |            |
| 6. 自由に使える時間がほしい   | 9. その他 ( ) |
| 7. 勉強を教えてください   | 10. 特にない   |
| 8. お金の面で支援してほしい   | 11. わからない  |

→「1. 自分のことについて話を聞いてほしい」「2. 家族のお世話について相談にのってほしい」を選んだ人は問18へ

→それ以外の方は問19へ

問18. 問17 で「1. 自分のことについて話を聞いてほしい」「2. 家族のお世話について相談の  
ってほしい」と回答した人にお聞きします。どのような方法で話を聞いたり相談にのったり  
してほしいですか。

- |          |          |        |
|----------|----------|--------|
| 1. 直接会って | 3. SNS   | 5. その他 |
| 2. 電話    | 4. 電子メール | ( )    |

問19. 家族のお世話をしている子どものために、必要だと思うことや、学校や周りの大人にしても  
らいたいこと（問17で書ききれなかったことなど）を自由に書いてください。

家族のお世話をすることは、とても価値のある大切なことです。ただ、お世話の負担が大きい  
と気持ちや体力の面で大変な思いをすることがあるかもしれません。

あなた自身、あるいは友だちなどで、家族のお世話をすることで悩みや心配なことがある場合  
には、学校の先生や、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーへ相談してくださ  
い。また、調査についての説明のページに記した相談先にいつでも連絡してください。

アンケートにご協力いただき、どうもありがとうございました。

## 「中高生の生活実態に関するアンケート調査」ご協力をお願い

このアンケート調査は、群馬県内の中学校・高校に通っている中学2年生および高校2年生を対象に実施しており、みなさんに、学校や家庭での生活状況の中で抱える悩みや困りごとなどをお聞かせいただき、それらを解決するのに必要な支援策を検討するために行うものです。

本調査は学校が行う調査ではありませんし、回答は自由です。ご回答いただかなくても、成績に影響するなど、あなたに不利益はまったくありません。ご回答いただける場合でも、答えにくい質問は無理にお答えいただかなくてもかまいません。また、あなたの回答内容を先生が見ることもありません。この調査は無記名で行い、回答内容は全て統計的に処理しますので、あなたの回答が特定されたり、外部に知られることはありません（ただし、無記名のため、一度ご送信いただいた（登録ボタンを押した）後は、回答内容を修正したり、取り消すことはできません）。ご回答いただいた内容は、厳重に保管し、本調査研究や関連する調査研究事業、学術研究の目的以外には使用いたしませんので、安心して回答してください。

みなさんの回答の一つ一つが参考になるものであり、より良い支援を検討していくためにも、できるだけ多くの人の意見をお聞きしたいと考えています。お忙しいとは思いますが、ぜひ調査へのご協力をお願いします。

### ◆◇ご回答にあたってのお願い◆◇

## 本アンケートは、 インターネットでのご回答をおねがいしております

●右のQRコードを読み取るかURLを入力いただき回答ページへお入りください。

回答用URL：<https://form.qooker.jp/Q/auto/ja/gunmachukou/gunmachuko/>



### ※回答の締切日 2022年12月8日（木）

- 設問文の注意書きに従ってご回答ください。
- 回答を途中で一時保存し、後で入力することもできます。なお、回答は1人1回限りです。
- 所要時間は5～10分程度です。
- 集計結果を含めた報告書は、個々の回答が特定できないように編集し、群馬県ホームページなどで公表します。

※本アンケート調査は、株式会社スピードリサーチが群馬県からの委託を受け、実施しています。

※回答画面操作に関するお問い合わせは、株式会社スピードリサーチ（025-270-3800）までお願いします。

※ご家庭でインターネット環境が整わない場合は、用紙での回答もできますので、アンケートを封筒に入れ、封をして、学校に提出してください。


### （この調査に関するお問い合わせ先）

群馬県 生活子ども部 児童福祉・青少年課 家庭福祉係

電話027-226-2628 メール：[jidosei@pref.gunma.lg.jp](mailto:jidosei@pref.gunma.lg.jp)

〒371-8570 前橋市大手町1-1-1

群馬県では子どもたちの様々な悩みごとの相談を受け付けています。

名称	電話番号等	相談内容・注意事項
こどもホット ライン24	0120-783-884 携帯電話からは 027-263-1100 メール： kodomo- soudan@pref.gu nma.lg.jp LINE： 	18歳未満のお子さんや保護者からの様々な相談を受け付けています。 電話：24時間対応 メール：メール本文に「氏名」「お住まいの市町村」「電話番号」をなるべくご記入ください。メールの受信後、回答までに数日かかることもあります。特に、年末年始やゴールデンウィークなど長期間閉所する場合は、児童相談所開所日以降の回答となります。 LINE：相談は、左のQRコードをスマートフォン等で読み込んで、友だち登録をしてから利用してください。 1. 相談は平日9時から17時まで（ただし、12時から13時まででは受け付けません）。 2. 土曜日、日曜日及び年末年始（12月29日から1月3日まで）は休みとなります。 3. 相談の開始前にアンケート（性別・年齢・お住いの市町村）に回答していただきます。 4. 相談に応じられる人数に限りがあり、お待たせしてしまう場合があります。 5. 10分以上応答が途絶えた場合、相談を終了することがあります。 6. 相談員との相談内容は公開しないでください。また、相談内容や相談画面については、群馬県の許可なく転送・転載はしないでください。
子ども教育・ 子育て相談	0270-26-9200	乳幼児から高校生までの教育や子育てに関する相談 月曜～金曜の9時～17時 第2・第4土曜の9時～15時 ※祝祭日および年末年始を除く
24時間子供 SOSダイヤル	0120-0-78310 (なやみいおう)	いじめ問題やその他の子どものSOS全般 24時間対応



保護者のみなさま

「中高生の生活実態に関するアンケート調査」ご協力をお願い

この度、群馬県として、県内の中学校・高等学校に通っている中学2年生、高校2年生を対象に、学校や家庭での生活の中で抱える悩みや困りごとなどをお聞かせいただき、その解決に必要な支援策を検討するためにアンケート調査を実施します。ヤングケアラー※と思われる生徒が悩みや困りごとを抱えている場合もあり、そうした生徒への支援をしていくことも必要です。回答の一つ一つが参考になるものであり、より良い支援を検討していくためにも、できるだけ多くの方の意見をお聞きしたいと考えています。

**調査は無記名で行い、回答しなくてもお子様に不利益は全くありません。ご回答いただける場合でも、答えにくい質問は答えなくてもかまいません。無理のない範囲でお答えいただくようお願いしています。回答内容は全て統計的に処理しますので、お子様の回答が特定されたり、外部に知られることはありません**（ただし、無記名のため、一度ご回答いただいた内容を修正したり、取り消すことはできません）。ご回答いただいた内容は、厳重に保管し、本調査研究や関連する調査研究事業、学術研究の目的以外には使用いたしません。

ぜひお子様の調査へのご協力にご理解をお願いします。

◆◇調査の概要◇◆

- 所要時間は5～10分程度です。
- 主な調査項目として、学校や家庭での生活の状況、悩みや困りごと、相談相手の有無、またヤングケアラーへの必要な支援等をお聞きます。
- 本調査は、ネット上でご回答いただくものであり、回答用のQRコード・URLを記載した案内文をお子様に配布しています。
- 集計結果を含めた報告書は、個々の回答が特定できないように編集し、群馬県ホームページなどで公表します。

※本アンケート調査は、株式会社スピードリサーチが群馬県からの委託を受け、実施しています。



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている



家族に代わり、幼い子どもだいの世話をしている



障がいや病気のある子どもだいの世話や見守りをしている



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている

一般社団法人日本ケアラー連盟 一節抜粋

(この調査に関するお問い合わせ先)

群馬県 生活子ども部 児童福祉・青少年課 家庭福祉係

電話027-226-2628 メール: [jidosei@pref.gunma.lg.jp](mailto:jidosei@pref.gunma.lg.jp)

〒371-8570 前橋市大手町1-1-1

「中高生の生活実態に関するアンケート調査」調査票

I. 基本情報

問1 あなたの学年を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1. 中学2年生    2. 高校2年生    3. 定時制2年生相当    4. 通信制2年生相当  
5. 特別支援学校中学部2年生    6. 特別支援学校高等部2年生    7. あてはまるものはない

問2 あなたの性別を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1. 男性    2. 女性    3. その他

問3 現在住んでいる市町村を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1. 前橋市    2. 高崎市    3. 桐生市    4. 伊勢崎市    5. 太田市    6. 沼田市    7. 館林市  
8. 渋川市    9. 藤岡市    10. 富岡市    11. 安中市    12. みどり市    13. 榛東村    14. 吉岡町  
15. 上野村    16. 神流町    17. 下仁田町    18. 南牧村    19. 甘楽町    20. 中之条町    21. 長野原町  
22. 嬬恋村    23. 草津町    24. 高山村    25. 東吾妻町    26. 片品村    27. 川場村    28. 昭和村  
29. みなかみ町    30. 玉村町    31. 板倉町    32. 明和町    33. 千代田町    34. 大泉町    35. 邑楽町  
36. 県外 (                      )

問4 現在一緒に住んでいる家族について教えてください。(あてはまる番号全てに○)

1. 母親    2. 父親    3. 祖母    4. 祖父  
5. 兄・姉 ⇒ (   ) 人    6. 弟・妹 ⇒ (   ) 人    7. その他 (                      )

問5 あなたの健康状態について教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1. よい    2. まあよい    3. ふつう    4. あまりよくない    5. よくない

II. ふだんの生活について教えてください。

問6 学校への通学状況等について教えてください。(あてはまる番号1つに○)

①出席状況

1. ほとんど欠席しない    2. たまに欠席する    3. よく欠席する

②遅刻や早退の状況

1. ほとんどしない    2. たまにする    3. よくする

問7 部活動(学校外での活動を含む)に参加していますか。(あてはまる番号1つに○)

1. 参加している    2. 参加していない

問8 ふだんの学校生活等において、以下の中であてはまるものはありますか。(あてはまる番号全てに○)

1. 授業中に居眠りすることが多い    2. 宿題や課題ができていないことが多い  
3. 持ち物の忘れ物が多い    4. 部活動や習い事を休むことが多い  
5. 提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い    6. 修学旅行などの宿泊行事を欠席する  
7. 保健室で過ごすことが多い    8. 学校では1人で過ごすことが多い  
9. 友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない    10. 特にない

問9 現在、悩んだり困っていることはありますか。(あてはまる番号全てに○)

1. 友人との関係のこと    2. 学業成績のこと    3. 進路のこと    4. 部活動のこと  
5. 学費(授業料)など学校生活に必要なお金のこと    6. 塾(通信含む)や習い事ができない  
7. 家庭の経済的状況のこと    8. 自分と家族との関係のこと  
9. 家族内の人間関係のこと(両親の仲が良くないなど)    10. 病気や障害のある家族のこと  
11. 自分のために使える時間が少ない    12. その他 (                      )  
13. 特にない

問10 問9で1～12のいずれかを回答した方にお聞きします。回答した悩みや困りごとについて、相談に乗ってくれたり、話を聞いてくれる人がいますか。(あてはまる番号1つに○)

1. 相談相手や話を聞いてくれる人がいる
2. 相談相手や話を聞いてくれる人がいない
3. 相談や話はしたくない

**Ⅲ. 家庭や家族のことについて教えてください。**

問11 家族の中にあなたがお世話をしている人はいますか。(ここで「お世話」とは本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などをすることです。)(あてはまる番号1つに○)

1. いる ⇒ 問12へ
2. いない ⇒ 問20へ

問12 問11で「1. いる」と回答した方にお聞きします。お世話の状況について教えてください。

<b>① お世話を必要としている方(あてはまる番号すべてに○)</b>	
1. 母親 2. 父親 3. 祖母 4. 祖父 5. きょうだい 6. その他	
<b>② お世話を必要としている方の状況やあなたが行っているお世話について教えてください。お世話を必要としている方が複数いる場合はそれぞれの方についてお答えください。</b>	
お世話を必要としている方 ※お世話をしている人が複数いる場合、それぞれについて回答いただく	<b>a) お世話を必要としている方の状況を教えてください。(あてはまる番号全てに○)</b> 1. 高齢(65歳以上) 2. 幼い 3. 要介護(介護が必要な状態) 4. 認知症 5. 身体障害 6. 知的障害 7. 精神疾患(疑い含む) 8. 依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症など)(疑い含む) 9. 7、8以外の病気 10. その他( )
	<b>b) あなたが行っているお世話の内容を教えてください。(あてはまる番号全てに○)</b> 1. 家事(食事の準備や掃除、洗濯) 2. きょうだいの世話や保育所等への送迎など 3. 身体的な介護(入浴やトイレのお世話など) 4. 外出の付き添い(買い物、散歩など) 5. 通院の付き添い 6. 感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど) 7. 見守り 8. 通訳(日本語や手話など) 9. 金銭管理 10. 薬の管理 11. その他( )
★以下は、お世話を必要としている方が複数いる場合も、それぞれの方ごとではなく一括でお答えください。	
<b>③ お世話は誰と行っていますか。(あてはまる番号全てに○)</b>	
1. 母親 2. 父親 3. 祖母 4. 祖父 5. きょうだい 6. 親戚の人 7. 自分のみ 8. 福祉サービス(ヘルパーなど)を利用 9. その他( )	
<b>④ お世話はいつから行っていますか。お世話を始めた年齢をお答えください。(はっきりとわからない場合は、だいたい年齢でかまいません)</b> ( )歳から	
<b>⑤ お世話をしている頻度を教えてください。(あてはまる番号1つに○)</b>	
1. ほぼ毎日 2. 週に3～5日 3. 週に1～2日 4. 1か月に数日 5. その他( )	
<b>⑥ 平日にお世話はどれくらい行っていますか。時間数をお答えください。(日によって異なる場合は、この1か月の中で最も長かった日の時間をお答えください)</b>	
1日( )時間程度	

**問 13 お世話をしていることで、やりたいけど、できていないことはありますか。(あてはまる番号全てに○)**

1. 学校に行きたくても行けない
2. どうしても学校を遅刻・早退してしまう
3. 宿題をする時間や勉強する時間が取れない
4. 睡眠が十分に取れない
5. 友人と遊ぶことができない
6. 部活や習い事ができない、もしくは辞めざるを得なかった
7. 進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変更した
8. 自分の時間が取れない
9. その他 ( )
10. 特にない

**問 14 お世話をすることにきつさを感じていますか。(あてはまる番号全てに○)**

1. 身体的にきつい
2. 精神的にきつい
3. 時間的余裕がない
4. 特にきつさは感じていない

**問 15 お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを誰かに相談したことはありますか。(あてはまる番号1つに○)**

1. ある ⇒問 16 へ
2. ない ⇒問 17 へ

**問 16 問 15 で「1. ある」と回答した方にお聞きします。それは誰ですか。(あてはまる番号全てに○)**

1. 家族(父、母、祖父、祖母、きょうだい)
2. 親戚(おじ、おばなど)
3. 友人
4. 学校の先生(保健室の先生以外)
5. 保健室の先生
6. スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー
7. 医師や看護師、その他病院の人
8. ヘルパーやケアマネ、福祉サービスの人
9. 役所や保健センターの人
10. 近所の人
11. SNS 上での知り合い
12. その他 ( )

⇒問 19 へ

**問 17 問 15 で「2. ない」と回答した方にお聞きします。相談していない理由を教えてください。(あてはまる番号全てに○)**

1. 誰かに相談するほどの悩みではない
2. 家族外の人に相談するような悩みではない
3. 誰に相談するのがよいかわからない
4. 相談できる人が身近にいない
5. 家族のここのため話にくい
6. 家族のことを知られたくない
7. 家族に対して偏見を持たれたくない
8. 相談しても状況が変わるとは思わない
9. その他 ( )

**問 18 問 15 で「2. ない」と回答した方にお聞きします。お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを聞いてくれる人はいますか。(あてはまる番号1つに○)**

1. いる
2. いない

**問 19 学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援はありますか。(あてはまる番号全てに○)**

1. 自分のいまの状況について話を聞いてほしい
2. 家族のお世話について相談にのってほしい
3. 家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい
4. 自分が行っているお世話のすべてを代わってくれる人やサービスがほしい
5. 自分が行っているお世話の一部を代わってくれる人やサービスがほしい  
⇒具体的にどんなお世話、もしくはどんな時ですか ( )
6. 自由に使える時間がほしい
7. 進路や就職など将来の相談にのってほしい
8. 学校の勉強や受験勉強など学習のサポート
9. 家庭への経済的な支援
10. わからない
11. その他 ( )
12. 特にない

#### IV. ヤングケアラーについて

ヤングケアラーとは、「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世帯などを日常的に行っていることにより、子ども自身がやりたいことができないなど、子ども自身の権利が守られていないと思われる子ども」のことをいいます。

<ヤングケアラーはこんな子どもたちです (イメージ) >



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている



家族に代わり、幼い子どもだいの世話をしている



障がいや病気のあるさょうだいの世話や見守りをしている



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている



障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

©一般社団法人日本ケアラー連盟 / illustration : izumi Shiga

問 20 上のイメージ図を見てあなた自身は「ヤングケアラー」にあてはまると感じますか。(あてはまる番号1つに○)

1. あてはまる      2. あてはまらない      3. わからない

問 21 ヤングケアラーという言葉をご存知ですか。(あてはまる番号1つに○)

1. 聞いたことがあります、内容も知っている → 問 22 へ  
2. 聞いたことはあるが、よく知らない → 問 22 へ  
3. 聞いたことはなく (今回初めて知った) → 問 23 へ

問 22 問 21 で「1. 聞いたことがあります、内容も知っている」「2. 聞いたことはあるが、よく知らない」と回答した方にお聞きします。「ヤングケアラー」という言葉をどこで知りましたか。(あてはまる番号全てに○)

1. テレビや新聞、ラジオ      2. 雑誌や本      3. SNS やインターネット  
4. 広報やチラシ、掲示物      5. イベントや交流会など      6. 学校      7. 友人・知人から聞いた  
8. これまでにあつたアンケート調査      9. その他 ( )

問 23 ヤングケアラーへの支援を上げていくために必要だと思われることや、要望等があればなんでも書いてください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

**要保護児童対策地域協議会向け調査票**

**家族のケアを担っているヤングケアラー実態調査**

要保護児童対策地域協議会（以下「協議会」）の状況についてお尋ねします。

自治体名(選択)		電話番号	
担当課名		担当者名	
メールアドレス			

貴協議会の活動状況やヤングケアラーと思われる子どもへの対応についてお尋ねします。

問1> 令和4年10月1日現在の貴協議会におけるケース登録数を教えてください

件

問2> 添付のヤングケアラーの図を参考にしてお答えください。

現在、貴協議会の把握しているケースの中にヤングケアラーと思われる子どもはいますか？（状況の詳細を把握していないが「可能性がある」場合は「いる」に含めてください。

1. いる → 問3へ（別に「個人票アンケート」にもご回答ください）  
 2. いない → 問5へ  
 3. わからない → 問5へ

問3> 問2で「1・いる」と回答された協議会におうかがいします。貴協議会で把握しているヤングケアラーと思われる子どもが、家族に対して行っているケアの内容は、以下のうちどれですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 家事(食事の準備や掃除、洗濯など)  
 2. きょうだいの世話や保育所等への送迎など  
 3. 身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)  
 4. 外出の付添い(買い物、散歩など)  
 5. 通院の付添い  
 6. 感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)  
 7. 見守り  
 8. 通訳(日本語や手話など)  
 9. 金銭管理  
 10. 薬の管理  
 11. その他( )  
 12. わからない

問4> 問2で「1・いる」と回答された協議会にお聞きします。貴協議会でヤングケアラー又は同様のものとして捉えているケースの数はどのくらいですか？（令和4年10月1日現在の数でお答えください）

ヤングケアラーもしくは同様のものとして捉えている件数  件

→この件数について、当該のA)子どもの学年と、B)登録種類ごとの件数について、内訳を教えてください。

A)子どもの学年	件数	B)登録の種類	件数
1)小学1～3年	<input type="text"/> 件	1)虐待(身体)	<input type="text"/> 件
2)小学4～6年	<input type="text"/> 件	2)虐待(心理)	<input type="text"/> 件
3)中学生	<input type="text"/> 件	3)虐待(セクシュアル)	<input type="text"/> 件
4)高校生	<input type="text"/> 件	4)虐待(性的)	<input type="text"/> 件
5)所属無し (15～17歳)	<input type="text"/> 件	5)要支援	<input type="text"/> 件
6)その他	<input type="text"/> 件	6)特定妊婦	<input type="text"/> 件
		7)その他	<input type="text"/> 件

問5 > 協議会がヤングケアラーと思われる子どもたちに支援をする際に、課題として考えられることは何ですか。（あてはまるもの全てに○）

- 1. 子ども自身がやりがいを感じていたり、自身の状況を問題と認識しておらず、支援を求めない
- 2. 家族や周囲の大人にヤングケアラーという認識がない
- 3. 保護者が子どもへの支援に同意しない
- 4. 協議会の関係機関・団体においてヤングケアラーに関する知識が不足している
- 5. 学校など関係機関との情報共有などネットワーク構築が不十分
- 6. 福祉分野や教育分野など複数の機関にまたがる支援が必要となるが、そうした支援のコーディネートができる人材が協議会にいない
- 7. 既存の制度やサービスやインフォーマルサービスでは、利用できるものがなく、具体的な支援方を検討しにくい
- 8. その他（ ）

問6 > ヤングケアラーと思われる子どもを発見した後、支援を行う際の留意点はありますか。また、支援が難しいと思われたケースはありますか。（具体的に記載）

支援を行う際の留意点	
支援が難しいと思ったケース	

問7 > 今後、ヤングケアラーを広く支援するために、社会全体に期待することは何ですか。（あてはまるもの全てに○）

- 1. ヤングケアラーという概念や言葉が社会で広く認知されるようになる
- 2. ケアを担っている子どもたち本人が自分の状況を認識して身を守れるよう、教育や相談が行われる
- 3. 子どもの家族が「ヤングケアラー」という認識を持つようになる
- 4. 関係者がヤングケアラーに気づきやすくなるような体制が整備される
- 5. ケアを担っている子どもが相談しやすい環境ができる
- 6. ケアを担っている子どもとその家族が適切なサービスを受けられるようになる
- 7. ヤングケアラーの実態が明らかになる
- 8. ヤングケアラーへの支援を行える専門職が育成される
- 9. 福祉と教育が連携した支援体制が整備される
- 10. 保健・福祉・医療の連携した支援体制が整備される
- 11. 福祉と外国人対応課が連携した支援体制が整備される
- 12. ヤングケアラーを支援する団体が増える
- 13. ヤングケアラー同士が集まり情報共有などできる場が増える
- 14. その他（ ）

問8 > 該当するケースの中にヤングケアラーがいた場合、貴協議会ではどのような支援ができるとお考えですか。または、支援の上でどんな課題があるとお考えですか

問9>貴協議会でヤングケアラーと思われる子どもへの対応として、既に取り組んだものや予定している取組はありますか？あれば教えてください。例)「研修会の実施」「広報誌などによる啓発」「関係団体とのネットワークの強化」など

実施済みのもの	
実施予定のもの	

問10>ヤングケアラーに関するご意見など、ご自由にお書きください。

--

問11>「問2」で「1. いる」とお答えいただいた協議会にお願いします。把握されている具体的なヤングケアラーで、現在、対応中のケース(10件を超える場合は、直近に把握した10件)について個人票アンケートに回答してください

**アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。**

**【連絡先】**

群馬県生活こども部児童福祉・青少年課家庭福祉係

電話：027-226-2628 / FAX：027-223-6526

メール：jidosei@pref.gunma.lg.jp



【別紙個人票アンケート】現在対応中のケース（10件まで）について、回答をお願いします。

自治体名(選択)	担当課名																										
該当する子どもの性別	<input type="checkbox"/> 1. 男性	<input type="checkbox"/> 2. 女性	<input type="checkbox"/> 3. その他																								
現在の学年・年齢	<input type="checkbox"/> 1. 就学前	<input type="checkbox"/> 2. 小学1～3年	<input type="checkbox"/> 3. 小学4～6年																								
	<input type="checkbox"/> 4. 中学生	<input type="checkbox"/> 5. 高校生	<input type="checkbox"/> 6. 所属無し（15～17歳）																								
	<input type="checkbox"/> 7. 不明																										
	<input type="checkbox"/> 8. その他（ ）																										
該当する児童生徒の学校生活の状況（該当する項目全てに○）	<input type="checkbox"/> 1. 学校等に行っており、学校生活に支障は見られない <input type="checkbox"/> 2. 学校等に行っているが、遅刻が多い <input type="checkbox"/> 3. 学校等に行っているが、授業に集中できない、学力が振るわない <input type="checkbox"/> 4. 学校等に行っているが、忘れ物や宿題をしないことが多い <input type="checkbox"/> 5. 学校等には行っているが、友達との関係が思わしくない <input type="checkbox"/> 6. 部活などの課外活動ができない <input type="checkbox"/> 7. 学校等にあまり行っていない（休みがちななど） <input type="checkbox"/> 8. 進学をあきらめた <input type="checkbox"/> 9. その他（ ）																										
登録の種類	<input type="checkbox"/> 1. 虐待(身体的)	<input type="checkbox"/> 2. 虐待(心理)	<input type="checkbox"/> 5. 要支援																								
	<input type="checkbox"/> 3. 虐待(ネグレクト)	<input type="checkbox"/> 4. 虐待(性的)	<input type="checkbox"/> 6. 特定妊婦																								
	<input type="checkbox"/> 7. その他（ ）																										
生活保護の受給状況	<input type="checkbox"/> 1. 生活保護受給世帯		<input type="checkbox"/> 2. 生活保護受給世帯ではない																								
	<input type="checkbox"/> 3. その他（ ）		<input type="checkbox"/> 4. わからない																								
家族構成（同居する全てに○）	<input type="checkbox"/> 1. 母親	<input type="checkbox"/> 2. 父親	<input type="checkbox"/> 3. 祖母																								
	<input type="checkbox"/> 4. 祖父	<input type="checkbox"/> 5. きょうだい																									
	<input type="checkbox"/> 6. その他（ ）																										
ヤングケアラーだと把握した経緯																											
該当の子どもが行っているケアの頻度	<input type="checkbox"/> 1. 毎日（ <input type="checkbox"/> 時間程度）	<input type="checkbox"/> 2. 週に4～6日																									
	<input type="checkbox"/> 3. 週に2～3日	<input type="checkbox"/> 4. 週に1日																									
	<input type="checkbox"/> 5. 一ヶ月に数日																										
家庭でのケアの状況（該当する全てに○）	A) ケアの対象者 <table border="0"> <tr> <td><input type="checkbox"/> 1. 母親</td> <td><input type="checkbox"/> 1. 高齢（65歳以上）</td> <td><input type="checkbox"/> 2. 幼い</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 2. 父親</td> <td><input type="checkbox"/> 3. 要介護（介護が必要）</td> <td><input type="checkbox"/> 4. 認知症</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 3. 祖母</td> <td><input type="checkbox"/> 5. 身体障害</td> <td><input type="checkbox"/> 6. 知的障害</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 4. 祖父</td> <td><input type="checkbox"/> 8. 依存症</td> <td><input type="checkbox"/> 7. 精神疾患</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 5. きょうだい</td> <td><input type="checkbox"/> 9. 7,8以外の病気</td> <td></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 6. その他（ ）</td> <td><input type="checkbox"/> 10. 保護者が日本語を話せないなど</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td><input type="checkbox"/> 11. その他（ ）</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td><input type="checkbox"/> 12. わからない</td> <td></td> </tr> </table> B) ケアを必要としている人の状況			<input type="checkbox"/> 1. 母親	<input type="checkbox"/> 1. 高齢（65歳以上）	<input type="checkbox"/> 2. 幼い	<input type="checkbox"/> 2. 父親	<input type="checkbox"/> 3. 要介護（介護が必要）	<input type="checkbox"/> 4. 認知症	<input type="checkbox"/> 3. 祖母	<input type="checkbox"/> 5. 身体障害	<input type="checkbox"/> 6. 知的障害	<input type="checkbox"/> 4. 祖父	<input type="checkbox"/> 8. 依存症	<input type="checkbox"/> 7. 精神疾患	<input type="checkbox"/> 5. きょうだい	<input type="checkbox"/> 9. 7,8以外の病気		<input type="checkbox"/> 6. その他（ ）	<input type="checkbox"/> 10. 保護者が日本語を話せないなど			<input type="checkbox"/> 11. その他（ ）			<input type="checkbox"/> 12. わからない	
<input type="checkbox"/> 1. 母親	<input type="checkbox"/> 1. 高齢（65歳以上）	<input type="checkbox"/> 2. 幼い																									
<input type="checkbox"/> 2. 父親	<input type="checkbox"/> 3. 要介護（介護が必要）	<input type="checkbox"/> 4. 認知症																									
<input type="checkbox"/> 3. 祖母	<input type="checkbox"/> 5. 身体障害	<input type="checkbox"/> 6. 知的障害																									
<input type="checkbox"/> 4. 祖父	<input type="checkbox"/> 8. 依存症	<input type="checkbox"/> 7. 精神疾患																									
<input type="checkbox"/> 5. きょうだい	<input type="checkbox"/> 9. 7,8以外の病気																										
<input type="checkbox"/> 6. その他（ ）	<input type="checkbox"/> 10. 保護者が日本語を話せないなど																										
	<input type="checkbox"/> 11. その他（ ）																										
	<input type="checkbox"/> 12. わからない																										
	B) 子どもがしている「ケア」の内容（複数可） <table border="0"> <tr> <td><input type="checkbox"/> 1. 家事（食事の準備や掃除、洗濯など）</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 2. きょうだいの世話や保育所等への送迎など</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 3. 身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 4. 外出の付添い（買い物、散歩など）</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 5. 通院の付添い</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 6. 感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 7. 見守り</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 8. 通訳（日本語や手話など）</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 9. 金銭管理</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 10. 薬の管理</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 11. その他（ ）</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 12. わからない</td> </tr> </table>			<input type="checkbox"/> 1. 家事（食事の準備や掃除、洗濯など）	<input type="checkbox"/> 2. きょうだいの世話や保育所等への送迎など	<input type="checkbox"/> 3. 身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）	<input type="checkbox"/> 4. 外出の付添い（買い物、散歩など）	<input type="checkbox"/> 5. 通院の付添い	<input type="checkbox"/> 6. 感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	<input type="checkbox"/> 7. 見守り	<input type="checkbox"/> 8. 通訳（日本語や手話など）	<input type="checkbox"/> 9. 金銭管理	<input type="checkbox"/> 10. 薬の管理	<input type="checkbox"/> 11. その他（ ）	<input type="checkbox"/> 12. わからない												
<input type="checkbox"/> 1. 家事（食事の準備や掃除、洗濯など）																											
<input type="checkbox"/> 2. きょうだいの世話や保育所等への送迎など																											
<input type="checkbox"/> 3. 身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）																											
<input type="checkbox"/> 4. 外出の付添い（買い物、散歩など）																											
<input type="checkbox"/> 5. 通院の付添い																											
<input type="checkbox"/> 6. 感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）																											
<input type="checkbox"/> 7. 見守り																											
<input type="checkbox"/> 8. 通訳（日本語や手話など）																											
<input type="checkbox"/> 9. 金銭管理																											
<input type="checkbox"/> 10. 薬の管理																											
<input type="checkbox"/> 11. その他（ ）																											
<input type="checkbox"/> 12. わからない																											
ケアをすることになった理由（該当する全てに○）	<input type="checkbox"/> 1. 親の病気・障害・精神疾患・入院のため <input type="checkbox"/> 2. ひとり親家庭であるため <input type="checkbox"/> 3. 親が仕事で、家族のケアに十分に携われないため <input type="checkbox"/> 4. 祖父母の病気や加齢、入院のため <input type="checkbox"/> 5. 年下のきょうだいがいるため <input type="checkbox"/> 6. きょうだいに障害があるため <input type="checkbox"/> 7. 親が家事をしないため <input type="checkbox"/> 8. 親にとって日本語が第一言語ではないため <input type="checkbox"/> 9. 福祉などのサービスにつながっていないため <input type="checkbox"/> 10. 子どもが自発的に行った <input type="checkbox"/> 11. 他にする人がいないため <input type="checkbox"/> 12. 不明 <input type="checkbox"/> 13. その他（ ）																										
具体的な状況と、関係している機関・団体																											

個人票アンケートの質問項目は以上です。

**学校向け調査票**

**家族のケアを担っているヤングケアラー実態調査**

(記入は任意です。今後の支援につなげるため差し支えなければご記入ください。)

任意	学校名	
	電話番号	
	記入担当者	

◆貴校の所在市町村を教えてください。

所在市町村

◆貴校の学校区分を教えてください(※記入必須・いずれか1つに○)

1. 小学校                       2. 中学校                       3. 特別支援学校  
 4. 高等学校                       全日制                       定時制又は通信制  
(「4. 高等学校」の場合選択)

◆貴校におけるヤングケアラーの状況についてお尋ねします

問1> 別添資料のヤングケアラーの図を見てお答えください。

現在、貴校に、ヤングケアラーと思われる、もしくは同様のものとして捉えられる(可能性も含めて)子どもはいますか?(あてはまる番号1つに○)

1. いる                                      → 問2へ(また、個人票アンケートにもご回答ください)  
 2. いない                                      → 問4へ  
 3. わからない                                      → 問4へ

問2> 問1で「1・いる」と回答された方にお尋ねします。貴校にヤングケアラーと思われる児童生徒は何人いますか

(概数でも結構です。令和4年10月1日現在の数でお答えください)。

人                      (半角数字で入力してください)

問3> 問1で「1・いる」とご回答いただいた学校にお尋ねします。

貴校で把握、されているヤングケアラーと思われる児童生徒の、ケアの状況やケアを必要とする人の状況、支援の関わり等について教えてください。

なお、本調査にあたって、改めて当該児童生徒へ聴き取りをすることはお控えください。これまでに学校が把握している情報をもとに記載してください。

※回答は、別アンケートの個人票アンケートに回答してください。

※複数のヤングケアラーがいる場合、複数の個人アンケートに回答してください。

問4> ヤングケアラーを支援するために、必要だと思ふことはどのようなことだと思いますか。(あてはまる番号全てに○)

1. 児童生徒自身がヤングケアラーについて知ること  
 2. 教職員がヤングケアラーについて知ること  
 3. 学校にヤングケアラーが何人いるか把握すること  
 4. SSWやSCなどの専門職の配置が充実すること  
 5. 児童生徒が教職員に相談しやすい関係を作ること  
 6. 校内でヤングケアラーの視点を持った情報共有を徹底すること  
 7. 学校にヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口があること  
 8. ヤングケアラーの支援について学校から相談できる機関があること  
 9. ヤングケアラーを支援するNPOなどの団体が増えること  
 10. 保健・福祉・医療など学校以外の専門機関との連携を進めること  
(具体的に: \_\_\_\_\_ )  
 11. 地域の中に、児童生徒本人が相談できる体制があること  
 12. その他 ( \_\_\_\_\_ )  
 13. 特になし

問5> ヤングケアラーの発見・支援の上で、学校では対応が難しいと思われることはどんなことですか。また、学校以外の機関に実施してほしい支援や連携上の課題等があれば教えてください。

問6>ヤングケアラーに関して、ご自由にご意見を記入してください。

#### ヒアリングへのご協力をお願い

今後、児童生徒のケアの様子や、必要と思われる外部機関との連携等について、学校へのヒアリングを検討しています。

ヒアリングは児童・生徒の個人情報に十分に配慮した上で実施します。このヒアリングにご協力いただける学校につきましては、以下に○をつけてください。

ヒアリングの実施の際には、別途ご連絡いたします。

1. ヒアリングに協力できる

#### 個別のケースに関する相談について

別紙の個人票末尾にチェックを入れていただいた場合は、群馬県児童福祉・青少年課の担当者から連絡をさせていただき、県や市町村の関係機関と連携して対応を検討し、支援等につなげたいと考えています。その際、個人情報の管理は徹底いたします。

#### 【連絡先】

群馬県生活こども部児童福祉・青少年課家庭福祉係

電話：027-226-2628 / FAX：027-223-6526

メール：jidosei@pref.gunma.lg.jp

【別紙個人票】		学校名 (任意)	<input type="text"/>	所在市町村	<input type="text"/>	
該当する児童生徒の性別		<input type="checkbox"/> 1. 男性	<input type="checkbox"/> 2. 女性	<input type="checkbox"/> 3. その他		
ケアラーと気づいたきっかけ・理由	<input type="checkbox"/> 1. 教員が気づいた	<input type="checkbox"/> 2. SSW、SCが気づいた	<input type="checkbox"/> 3. 本人からの相談			
	<input type="checkbox"/> 3. 本人からの相談	<input type="checkbox"/> 4. 保護者からの相談	<input type="checkbox"/> 5. その他 ( )			
該当する児童生徒の学校生活の状況 (該当する項目全てに○)	<input type="checkbox"/> 1. 学校を休みがち	<input type="checkbox"/> 2. 遅刻や早退が多い	<input type="checkbox"/> 3. 保健室で過ごしていることが多い			
	<input type="checkbox"/> 4. 精神的な不安定さがある	<input type="checkbox"/> 5. 身だしなみが整わない	<input type="checkbox"/> 6. 学力が低下している			
	<input type="checkbox"/> 7. 宿題や持ち物の忘れ物が多い	<input type="checkbox"/> 8. 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い	<input type="checkbox"/> 9. 学校に必要なものを用意してもらえない			
	<input type="checkbox"/> 10. 部活(習い事)ができない	<input type="checkbox"/> 11. 行事等の欠席が目立つ	<input type="checkbox"/> 12. 集金が遅れる・未払い			
	<input type="checkbox"/> 13. 学校生活での支障は感じない	<input type="checkbox"/> 14. その他 ( )				
	家族構成 (同居する全てに○)					
	<input type="checkbox"/> 1. 母親	<input type="checkbox"/> 2. 父親	<input type="checkbox"/> 3. 祖母	<input type="checkbox"/> 4. 祖父		
	<input type="checkbox"/> 5. きょうだい	<input type="checkbox"/> 6. その他 ( )				
	家庭でのケアの状況 (該当する全てに○)					
	①ケアの状況を把握していますか		<input type="checkbox"/> 1. はい	<input type="checkbox"/> 2. いいえ		
	②「はい」の場合、ケアの具体的な内容					
	A) ケアの対象者		B) ケアを必要としている人の状況			
	<input type="checkbox"/> 1. 母親	<input type="checkbox"/> 1. 高齢 (65歳以上)	<input type="checkbox"/> 2. 若い			
	<input type="checkbox"/> 2. 父親	<input type="checkbox"/> 3. 要介護 (介護が必要)	<input type="checkbox"/> 4. 認知症			
<input type="checkbox"/> 3. 祖母	<input type="checkbox"/> 5. 身体障害	<input type="checkbox"/> 6. 知的障害	<input type="checkbox"/> 7. 精神疾患			
<input type="checkbox"/> 4. 祖父	<input type="checkbox"/> 8. 依存症	<input type="checkbox"/> 9. 7,8以外の病気				
<input type="checkbox"/> 5. きょうだい	<input type="checkbox"/> 10. 保護者が日本語を話せないなど	<input type="checkbox"/> 11. その他 ( )				
<input type="checkbox"/> 6. その他 ( )	<input type="checkbox"/> 12. わからない					
C) 児童生徒がしている「ケア」の内容 (複数可)						
<input type="checkbox"/> 1. 家事 (食事の準備や掃除、洗濯など)						
<input type="checkbox"/> 2. きょうだいの世話や保育所等への送迎など						
<input type="checkbox"/> 3. 身体的な介護 (入浴やトイレのお世話など)						
<input type="checkbox"/> 4. 外出の付添い (買い物、散歩など)						
<input type="checkbox"/> 5. 通院の付添い						
<input type="checkbox"/> 6. 感情面のサポート (愚痴を聞く、話し相手になるなど)						
<input type="checkbox"/> 7. 見守り						
<input type="checkbox"/> 8. 通訳 (日本語や手話など)						
<input type="checkbox"/> 9. 金銭管理						
<input type="checkbox"/> 10. 薬の管理						
<input type="checkbox"/> 11. その他 ( )						
<input type="checkbox"/> 12. わからない						

ケアをすることになった理由（該当する全てに○）

- |                          |                           |
|--------------------------|---------------------------|
| <input type="checkbox"/> | 1. 親の病気・障害・精神疾患・入院のため     |
| <input type="checkbox"/> | 2. ひとり親家庭であるため            |
| <input type="checkbox"/> | 3. 親が仕事で、家族のケアに十分に携われないため |
| <input type="checkbox"/> | 4. 祖父母の病気や加齢、入院のため        |
| <input type="checkbox"/> | 5. 年下のきょうだいがいるため          |
| <input type="checkbox"/> | 6. きょうだいに障害があるため          |
| <input type="checkbox"/> | 7. 親が家事をしないため             |
| <input type="checkbox"/> | 8. 親にとって日本語が第一言語ではないため    |
| <input type="checkbox"/> | 9. 福祉などのサービスにつながらないため     |
| <input type="checkbox"/> | 10. 子どもが自発的に行った           |
| <input type="checkbox"/> | 11. 他にする人がいないため           |
| <input type="checkbox"/> | 12. 不明                    |
| <input type="checkbox"/> | 13. その他（ )                |

学校の行った支援、外部との連携・支援等の状況を記載してください。

--	--

※本ケースについて、何らかの支援が必要と考えている／対応に悩んでいる場合には○を付けてください。

1. 何らかの支援が必要と考えている／対応に悩んでいる  
 （上記が○で、学校名を記入いただいている場合担当課から連絡させていただきます。）

個人票の質問項目は以上です。

## 関係機関向け調査票

### 家族のケアを担っているヤングケアラー実態調査

【このアンケートに関するお問い合わせ先】

群馬県生活子ども部児童福祉・青少年課家庭福祉係

電話：027-226-2628 / FAX：027-223-6526

メール：jidosei@pref.gunma.lg.jp

#### 1. ご回答いただく機関の基本情報

【任意回答】機関名・ご記入者様の情報をご記入ください。

貴機関名		
ご記入者の情報	氏名	
	所属	
	電話	

【任意回答】所在市町村を選択してください。

所在市町村（選択）	
-----------	--

【必須回答】ご回答いただく機関の種類についてお尋ねします。（該当するものに○）

- |                          |               |                          |              |
|--------------------------|---------------|--------------------------|--------------|
| <input type="checkbox"/> | 1. 地域包括支援センター | <input type="checkbox"/> | 2. 居宅介護支援事業所 |
| <input type="checkbox"/> | 3. 相談支援事業所    | <input type="checkbox"/> | 4. 医療機関      |
| <input type="checkbox"/> | 5. その他        |                          |              |

#### 2. ヤングケアラーの実態についてお尋ねします。

※添付のヤングケアラーの図を参考にしてお答えください。

問1. 貴機関・窓口が担当されているご家庭や相談を受けた中で、添付の説明のように、本来大人が担うと想定されている家事や家族のケアを日常的に行っていると思われる子どもはいますか。（1つに○）

※今回のアンケートでは、「18歳までの児童」と「高校生で18歳に達した生徒」を対象とします。（詳細な状況を把握していない場合も「可能性がある」場合は「1. いる」に含めてください。）

- |                          |          |        |
|--------------------------|----------|--------|
| <input type="checkbox"/> | 1. いる    | →問2へ進む |
| <input type="checkbox"/> | 2. いない   | →問5へ進む |
| <input type="checkbox"/> | 3. わからない | →問5へ進む |

問1で「1. いる」と回答された機関にお尋ねします。

問2. 貴機関・窓口で把握しているヤングケアラーと思われる子どもが、家族に対して行っているケアの内容は、次のうちどれですか。（複数回答可）

- |                          |                              |
|--------------------------|------------------------------|
| <input type="checkbox"/> | 1. 家事（食事の準備や掃除、洗濯など）         |
| <input type="checkbox"/> | 2. きょうだいの世話や保育所等への送迎など       |
| <input type="checkbox"/> | 3. 身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）      |
| <input type="checkbox"/> | 4. 外出の付添い（買い物、散歩など）          |
| <input type="checkbox"/> | 5. 通院の付添い                    |
| <input type="checkbox"/> | 6. 感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど） |
| <input type="checkbox"/> | 7. 見守り                       |
| <input type="checkbox"/> | 8. 通訳（日本語や手話など）              |
| <input type="checkbox"/> | 9. 金銭管理                      |
| <input type="checkbox"/> | 10. 薬の管理                     |
| <input type="checkbox"/> | 11. その他                      |
| <input type="checkbox"/> | 12. わからない                    |

問1で「1.いる」と回答された機関にお尋ねします。

**問3. 貴機関・窓口の担当する家庭や相談の中で、ヤングケアラーもしくは同様のものとして捉えられる子どもは何人いますか。(数値入力)**

人

※令和4年10月1日現在の人数でお答えください。

問1で「1.いる」と回答された機関をお願いします。

**問4. 実際に担当する地域や家庭等で把握しているヤングケアラーの事例で、現在、対応されているケースについて、その具体的な内容について教えてください。(事例ごとに別の「個人票アンケート」にもご回答ください。)**

※「個人票アンケート」に回答をお願いします。複数の該当がある場合は、複数の事例をご報告ください。

ここからは、全ての機関にお尋ねします。

**問5. 貴機関が担当する地区や家庭等に、ヤングケアラーと思われる子どもがいることを知った場合、支援をする際の課題として考えられることは何ですか。(複数回答可)**

- 1. 子ども自身がやりがいを感じていたり、自身の状況を問題と認識しておらず、支援を求めない
- 2. 家族や周囲の大人にヤングケアラーという認識がない
- 3. 保護者が子どもへの支援に同意しない
- 4. 協議会の関係機関・団体においてヤングケアラーに関する知識が不足している
- 5. 学校など関係機関との情報共有などネットワーク構築が不十分
- 6. 福祉分野や教育分野など複数の機関にまたがる支援が必要となるが、そうした支援のコーディネートができる人材や機関がない
- 7. 既存の公的サービスやインフォーマルサービスでは、利用できるものがなく、具体的な支援方を検討しにくい
- 8. その他

全ての機関にお尋ねします。

**問6. ヤングケアラーの支援等について、すでに貴機関で実施していることや、今後の実施予定はありますか。あれば、記入してください。(文字入力)**

全ての機関にお尋ねします。

**問7. 今後、ヤングケアラーを広く支援するために、社会全体に期待することは何ですか。（複数回答可）**

- 1. ヤングケアラーという概念や言葉が社会で広く認知されるようになる
- 2. ケアを担っている子どもたち本人が自分の状況を認識して身を守れるよう、教育や相談が行われる
- 3. 子どもの家族が「ヤングケアラー」という認識を持つようになる
- 4. 関係者がヤングケアラーに気づきやすくなるような体制が整備される
- 5. ケアを担っている子どもたちが相談しやすい環境ができる
- 6. ケアを担っている子どもとその家族が適切なサービスを受けられるようになる
- 7. ヤングケアラーの実態が明らかになる
- 8. ヤングケアラーへの支援を行える専門職が育成される
- 9. 福祉と教育が連携した支援体制が整備される
- 10. 保健・福祉・医療の連携した支援体制が整備される
- 11. 福祉と外国人対応課が連携した支援体制が整備される
- 12. ヤングケアラーを支援する団体が増える
- 13. ヤングケアラー同士が集まり情報共有などできる場が増える
- 14. その他

全ての機関にお尋ねします。

**問8. ヤングケアラーの発見や支援をしていく上で、貴機関ができることにはどんなことがあると思いますか。（文字入力）**

全ての機関にお尋ねします。

**問9. ヤングケアラー支援に関するご意見など、ご自由に記入してください。（文字入力）**

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

**【連絡先】**

群馬県生活こども部児童福祉・青少年課家庭福祉係

電話：027-226-2628 / FAX：027-223-6526

メール：jidosei@pref.gunma.lg.jp



【個人票アンケート】 ※問1で「1.いる」と回答された機関のみ回答。

機関名（任意）				所在市町村				
該当する子どもの性別	<input type="checkbox"/>	1. 男性	<input type="checkbox"/>	2. 女性	<input type="checkbox"/>	3. その他		
現在の学年・年齢	<input type="checkbox"/>	1. 就学前	<input type="checkbox"/>	2. 小学1～3年	<input type="checkbox"/>	3. 小学4～6年	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/>	5. 高校生	<input type="checkbox"/>	6. 所属無し（15～17歳）	<input type="checkbox"/>	7. 不明		
	<input type="checkbox"/>	8. その他（						）
家族構成（同居する全てに○）	<input type="checkbox"/>	1. 母親	<input type="checkbox"/>	2. 父親	<input type="checkbox"/>	3. 祖母	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/>	5. きょうだい	<input type="checkbox"/>	6. その他（				）
ヤングケアラーだと把握した経緯								
家庭でのケアの状況（該当する全てに○）	A) ケアの対象者			B) ケアを必要としている人の状況				
	<input type="checkbox"/>	1. 母親	<input type="checkbox"/>	1. 高齢（65歳以上）	<input type="checkbox"/>	2. 若い		
<input type="checkbox"/>	2. 父親	<input type="checkbox"/>	3. 要介護（介護が必要）	<input type="checkbox"/>	4. 認知症			
<input type="checkbox"/>	3. 祖母	<input type="checkbox"/>	5. 身体障害	<input type="checkbox"/>	6. 知的障害	<input type="checkbox"/>	7. 精神疾患	
<input type="checkbox"/>	4. 祖父	<input type="checkbox"/>	8. 依存症	<input type="checkbox"/>	9. 7,8以外の病気			
<input type="checkbox"/>	5. きょうだい	<input type="checkbox"/>	10. 保護者が日本語を話せないなど					
<input type="checkbox"/>	6. その他（	<input type="checkbox"/>	11. その他（					）
<input type="checkbox"/>	（							）
	B) 子どもがしている「ケア」の内容（複数可）							
<input type="checkbox"/>	1. 家事（食事の準備や掃除、洗濯など）							
<input type="checkbox"/>	2. きょうだいの世話や保育所等への送迎など							
<input type="checkbox"/>	3. 身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）							
<input type="checkbox"/>	4. 外出の付添い（買い物、散歩など）							
<input type="checkbox"/>	5. 通院の付添い							
<input type="checkbox"/>	6. 感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）							
<input type="checkbox"/>	7. 見守り							
<input type="checkbox"/>	8. 通訳（日本語や手話など）							
<input type="checkbox"/>	9. 金銭管理							
<input type="checkbox"/>	10. 薬の管理							
<input type="checkbox"/>	11. その他（							）
<input type="checkbox"/>	12. わからない							
ケアをすることになった理由（該当する全てに○）	<input type="checkbox"/>	1. 親の病気・障害・精神疾患・入院のため						
	<input type="checkbox"/>	2. ひとり親家庭であるため						
	<input type="checkbox"/>	3. 親が仕事で、家族のケアに十分に携われないため						
	<input type="checkbox"/>	4. 祖父母の病気や加齢、入院のため						
	<input type="checkbox"/>	5. 年下のきょうだいがいるため						
	<input type="checkbox"/>	6. きょうだいに障害があるため	<input type="checkbox"/>	7. 親が家事をしないため				
	<input type="checkbox"/>	8. 親にとって日本語が第一言語ではないため						
	<input type="checkbox"/>	9. 福祉などのサービスにつながないため						
	<input type="checkbox"/>	10. 子どもが自発的に行った	<input type="checkbox"/>	11. 他にする人がいないため				
	<input type="checkbox"/>	12. 不明						
	<input type="checkbox"/>	13. その他（						）
	具体的な状況と、関係している機関・団体							

個人票の質問項目は以上です。

## ヤングケアラーとは

～調査票に回答する前にお読みください～

- この調査は、大人に代わって家族の介護や家事などのケア（世話）を担う子どもに関するものです。
- 障害や病気のある家族など、家庭にケアを必要とする人がいるために、「本来大人が担うと想定されているような家事や家族の世話などを日常的に行っていることにより、子ども自身がやりたいことができないなど、子ども自身の権利が守られていないと思われる子ども（児童・生徒）」のことを「ヤングケアラー」と言います。
- 一般的にヤングケアラーは18歳未満とされますが、この調査では、高校生で18歳に達した生徒を含みます。
- こうした子どもが担っているケアには、「家事全般の援助」「情緒的サポート」「排泄・入浴等の介助」「育児」「外国語や手話の通訳」などがあります。
- 以下の図は、ヤングケアラーのイメージです。目安ですので、類似している場合は「ヤングケアラー」として、今回の調査にご回答ください。

<ヤングケアラーはこんな子どもたちです（イメージ）>



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている



家族に代わり、幼い子どもたちの世話をしている



障がいや病気のある子どもたちの世話をしている



目を離せない家族の見守りや声かけなどの援助をしている



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている



アルコール・薬物・ギャンブル問題を怠る家族に対応している



がん・糖尿病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている



障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

## 回答前のお願いとご注意

○本調査は、これまでにご自身が把握している情報をもとに、可能な範囲でご記入ください。本調査にあたって、改めて当該家庭や児童生徒等に取り組みをする必要はありません。

## 【この調査に関する問合せ・連絡先】

群馬県 生活子ども部 児童福祉・青少年課 家庭福祉係 (担当: 滝澤・生方)  
電話 027-226-2628 / FAX 027-223-6526

## ご回答いただく方の活動地域

お住まいの市町村	
所属している地区民児協名 *市部にお住まいの方のみ	

## ヤングケアラーの実態についてお尋ねします

**問1** > 前ページの図を見てご回答ください。あなたが担当されている地域の中で、図の定義のように、本来大人が担うと想定されている家事や家族のケアを日常的に行っていると思われる子どもがいますか？

★今回のアンケートでは、18歳未満の児童と18歳に達した高校生を対象として回答願います。年齢がわからない場合でも、該当すると感じた場合は「いる」に含めてください。(また、状況の詳細を把握していない場合でも、「可能性がある」場合は「いる」に含めてください。)

- |  |
|--|
| <input type="checkbox"/> 1・いる → 「問2」へお進みください。(★最後の別添個人票にもご記入ください)<br><input type="checkbox"/> 2・いない → 「問5」へお進みください。<br><input type="checkbox"/> 3・わからない → 「問5」へお進みください。<br>(※「2・いない」「3・わからない」を選択された方も問5以降の質問にお答え下さい) |
|--|

**問5** > あなたの担当する地区に、ヤングケアラーと思われる子どもがいることを知った場合、支援をする際の課題として考えられることは何ですか。(あてはまるもの全てに○)

- 1・ 子ども自身がやりがいを感じていたり、自身の状況を問題と認識しておらず、支援を求めない
- 2・ 家族や周囲の大人に、ヤングケアラーという認識がない
- 3・ 保護者が子どもへの支援に同意しない
- 4・ 専門職や関係機関・団体に、ヤングケアラーに関する認識や知識が不足している
- 5・ 学校など関係機関との情報共有などネットワーク構築が不十分
- 6・ 福祉分野や教育分野など複数の分野にまたがる支援が必要となるが、そうした支援のコーディネートができる人材や機関がない
- 7・ 既存の公的サービスやインフォーマルサービスでは、利用できるものがなく、具体的な支援方策を検討しにくい
- 8・ その他  
( )

**問6** > ヤングケアラーの支援等について、すでにあなたの担当地域で実施していることや、今後の実施予定などはありますか。あれば、教えてください。

**問7** > 今後、ヤングケアラーを広く支援するために、社会全体に期待することは何ですか（あてはまるもの全てに○）。

- 1・ヤングケアラーが社会で広く認知されるようになる
- 2・ケアを担っている子どもたち本人が自分の状況を認識して身を守れるよう、教育や相談が行われる
- 3・子どもの家族がヤングケアラーという認識を持つようになること
- 4・専門職や関係者がヤングケアラーに気づきやすくなるような研修体制が整備されること
- 5・ケアを担っている子どもたちが相談しやすい環境ができる
- 6・ケアを担っている子どもとその家族が適切なサービスを受けられるようになる
- 7・ヤングケアラーの実数や実態が明らかになる
- 8・支援する専門職が育成される
- 9・福祉と教育が連携した支援体制が整備される
- 10・保健・福祉・医療が連携した支援体制が整備される
- 11・福祉と外国人対応課が連携した支援体制が整備される
- 12・ヤングケアラーを支援する団体が増える
- 13・ヤングケアラーが集まり情報共有などをできる場が増える
- 14・その他（）

**問8** > ヤングケアラーの発見や支援をしていく上で、民生委員・児童委員ができることにはどんなことがあると思いますか。

**問9** > ヤングケアラーに関するご意見など、ご自由にお書きください。

○調査は以上です。ご協力ありがとうございました。ヤングケアラーを把握していて、個人票にご記入いただける場合は、この後の個人票にご記入ください。

【個人票アンケート】 ※問1で「1.いる」と回答された方のみ回答。

記入者お名前(任意)		活動市町村	
該当する子どもの性別	<input type="checkbox"/> 1. 男性	<input type="checkbox"/> 2. 女性	<input type="checkbox"/> 3. その他
現在の学年・年齢	<input type="checkbox"/> 1. 就学前	<input type="checkbox"/> 2. 小学1~3年	<input type="checkbox"/> 3. 小学4~6年 <input type="checkbox"/> 4. 中学生
	<input type="checkbox"/> 5. 高校生	<input type="checkbox"/> 6. 所属無し(15~17歳)	<input type="checkbox"/> 7. 不明
	<input type="checkbox"/> 8. その他 ( )		
家族構成(同居する全てに○)	<input type="checkbox"/> 1. 母親	<input type="checkbox"/> 2. 父親	<input type="checkbox"/> 3. 祖母 <input type="checkbox"/> 4. 祖父
	<input type="checkbox"/> 5. きょうだい	<input type="checkbox"/> 6. その他 ( )	
ヤングケアラーだと把握した経緯			
家庭でのケアの状況(該当する全てに○)	A) ケアの対象者		B) ケアを必要としている人の状況
	<input type="checkbox"/> 1. 母親	<input type="checkbox"/> 2. 父親	<input type="checkbox"/> 3. 祖母
	<input type="checkbox"/> 4. 祖父	<input type="checkbox"/> 5. きょうだい	<input type="checkbox"/> 6. その他 ( )
	( )		<input type="checkbox"/> 1. 高齢(65歳以上)
			<input type="checkbox"/> 2. 若い
			<input type="checkbox"/> 3. 要介護(介護が必要)
			<input type="checkbox"/> 4. 認知症
			<input type="checkbox"/> 5. 身体障害
			<input type="checkbox"/> 6. 知的障害
			<input type="checkbox"/> 7. 精神疾患
			<input type="checkbox"/> 8. 依存症
			<input type="checkbox"/> 9. 7,8以外の病気
			<input type="checkbox"/> 10. 保護者が日本語を話せないなど
			<input type="checkbox"/> 11. その他 ( )
			<input type="checkbox"/> 12. わからない
	B) 子どもがしている「ケア」の内容(複数可)		
	<input type="checkbox"/> 1. 家事(食事の準備や掃除、洗濯など)		
	<input type="checkbox"/> 2. きょうだいの世話や保育所等への送迎など		
	<input type="checkbox"/> 3. 身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)		
	<input type="checkbox"/> 4. 外出の付添い(買い物、散歩など)		
	<input type="checkbox"/> 5. 通院の付添い		
	<input type="checkbox"/> 6. 感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)		
	<input type="checkbox"/> 7. 見守り		
	<input type="checkbox"/> 8. 通訳(日本語や手話など)		
	<input type="checkbox"/> 9. 金銭管理		
	<input type="checkbox"/> 10. 薬の管理		
	<input type="checkbox"/> 11. その他 ( )		
	<input type="checkbox"/> 12. わからない		
ケアをすることになった理由(該当する全てに○)	<input type="checkbox"/> 1. 親の病気・障害・精神疾患・入院のため		
	<input type="checkbox"/> 2. ひとり親家庭であるため		
	<input type="checkbox"/> 3. 親が仕事で、家族のケアに十分に携われないため		
	<input type="checkbox"/> 4. 祖父母の病気や加齢、入院のため		
	<input type="checkbox"/> 5. 年下のきょうだいがいるため		
	<input type="checkbox"/> 6. きょうだいに障害があるため		
	<input type="checkbox"/> 7. 親が家事をしないため		
	<input type="checkbox"/> 8. 親にとって日本語が第一言語ではないため		
	<input type="checkbox"/> 9. 福祉などのサービスにつながらないため		
	<input type="checkbox"/> 10. 子どもが自発的に行った		
	<input type="checkbox"/> 11. 他にする人がいないため		
	<input type="checkbox"/> 12. 不明		
	<input type="checkbox"/> 13. その他 ( )		
具体的な状況と、関係している機関・団体			

個人票の質問項目は以上です。



群馬県  
ヤングケアラー実態調査  
調査結果報告書

発行日 令和5年3月

発行 群馬県生活こども部 児童福祉・青少年課 家庭福祉係

〒371-8570 前橋市大手町 1-1-1

電話：(027)226-2628 FAX：(027)223-6526

URL <https://www.pref.gunma.jp/>